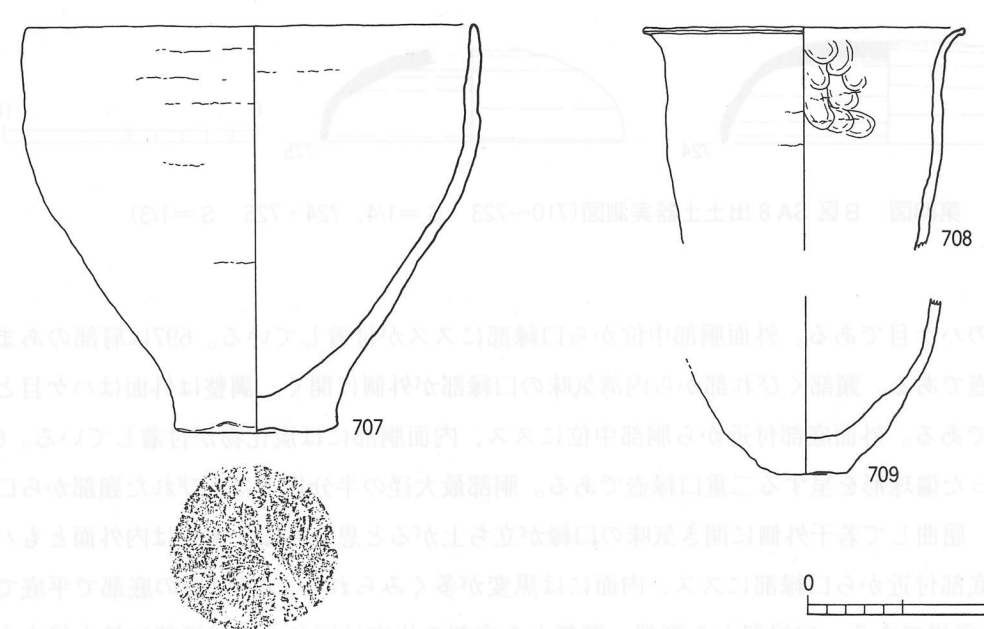
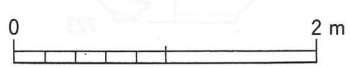
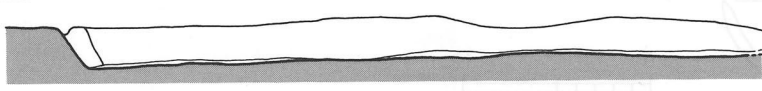
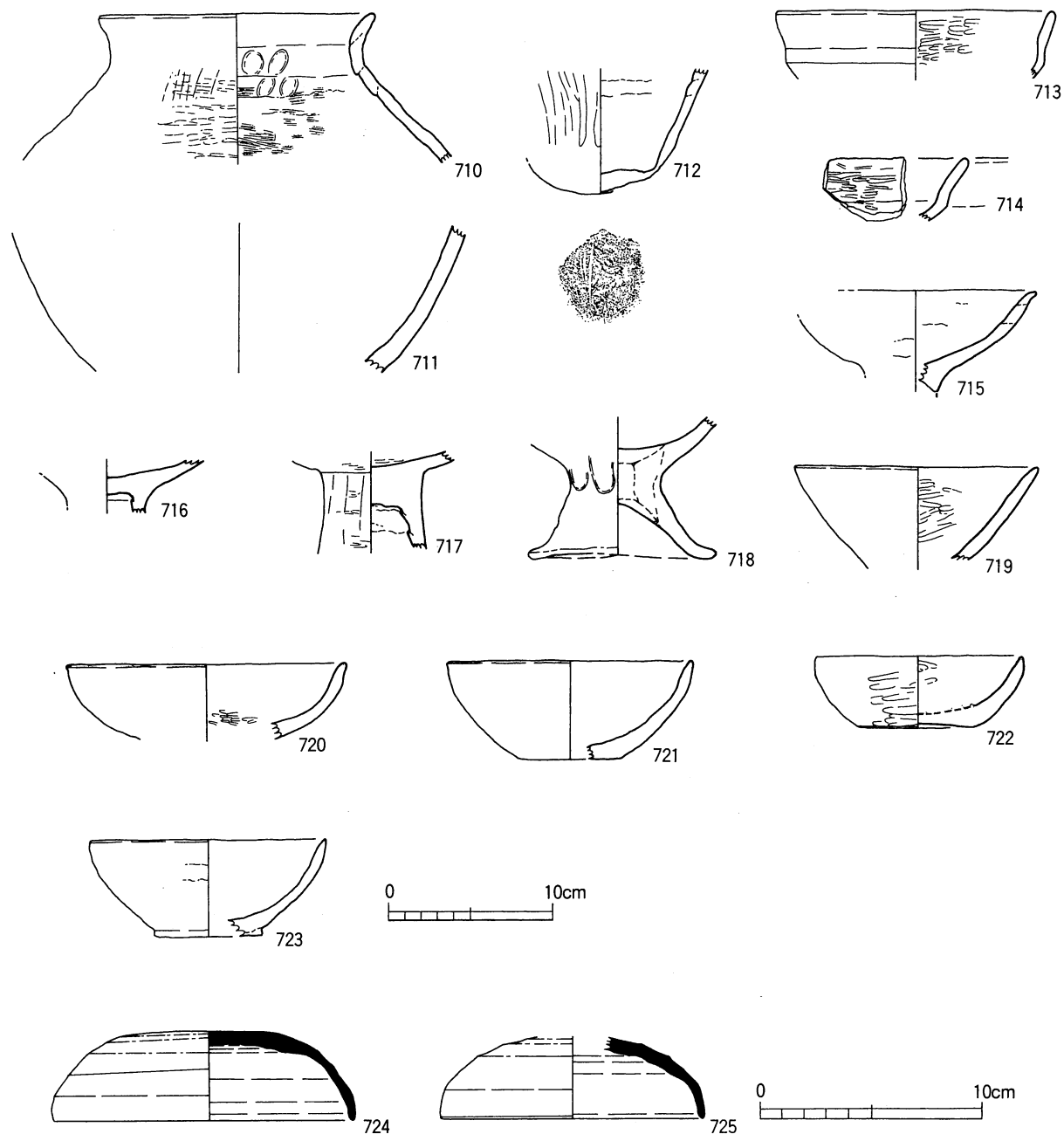


10.500m



第87図 B区 SA 8 実測図 (S=1/50) 及び出土土器実測図 (S=1/4)



第88図 B区 SA 8 出土土器実測図(710~723 S=1/4、724・725 S=1/3)

横・斜方向のハケ目である。外面胴部中位から口縁部にススが付着している。697は肩部のあまり張らない丸底の壺である。頸部くびれ部から内湾気味の口縁部が外側に開く。調整は外面はハケ目とナデ、内面はナデである。外面底部付近から胴部中位にスス、内面胴部には炭化物が付着している。698は胴部中位の張った偏球形を呈する二重口縁壺である。胴部最大径の半分以下にくびれた頸部から口辺部が外側に開き、屈曲して若干外側に開き気味の口縁が立ち上がると思われる。調整は内外面ともハケ目である。外面底部付近から口縁部にスス、内面には黒変が多くみられる。699は壺の底部で平底である。700は小型丸底甗である。口縁部から頸部、頸部から底部の比率は同じで、口縁部に最大径をもつ。底部は尖底である。調整は内外面ともナデで、外面口縁部にはススが付着している。701は高坏の坏部で

ある。坏底部と口縁部との間に明瞭な稜をもち、口縁部は外方にまっすぐのびる。調整は内外面ともミガキで、外面坏底部屈曲部上にはススが付着している。702は内湾する体部をもつ坏である。調整は内外面ともナデである。703は小坏の底部か。

SA 6 (第86図)

SA 6は、Va"層上位で検出した。B区の北西隅に位置し、南に位置するSA 3と約5m離れている。住居跡西側の1/2以上は、調査区外のために平面形は不明だが、検出した部分では南北に $4m + \alpha$ 、東西に $3m + \alpha$ 、検出面からの床面までの深さは約15~25cmを測り、他の住居跡と同様、隅丸方形になると思われる。住居跡西側床面では、被熱を受け赤化した焼土を、南西側床面では住居跡に伴うであろう柱穴1本を検出している。なお、調査区外に近い部分は、木根により破壊されている。埋土は5層に分かれ、レンズ状に堆積している。

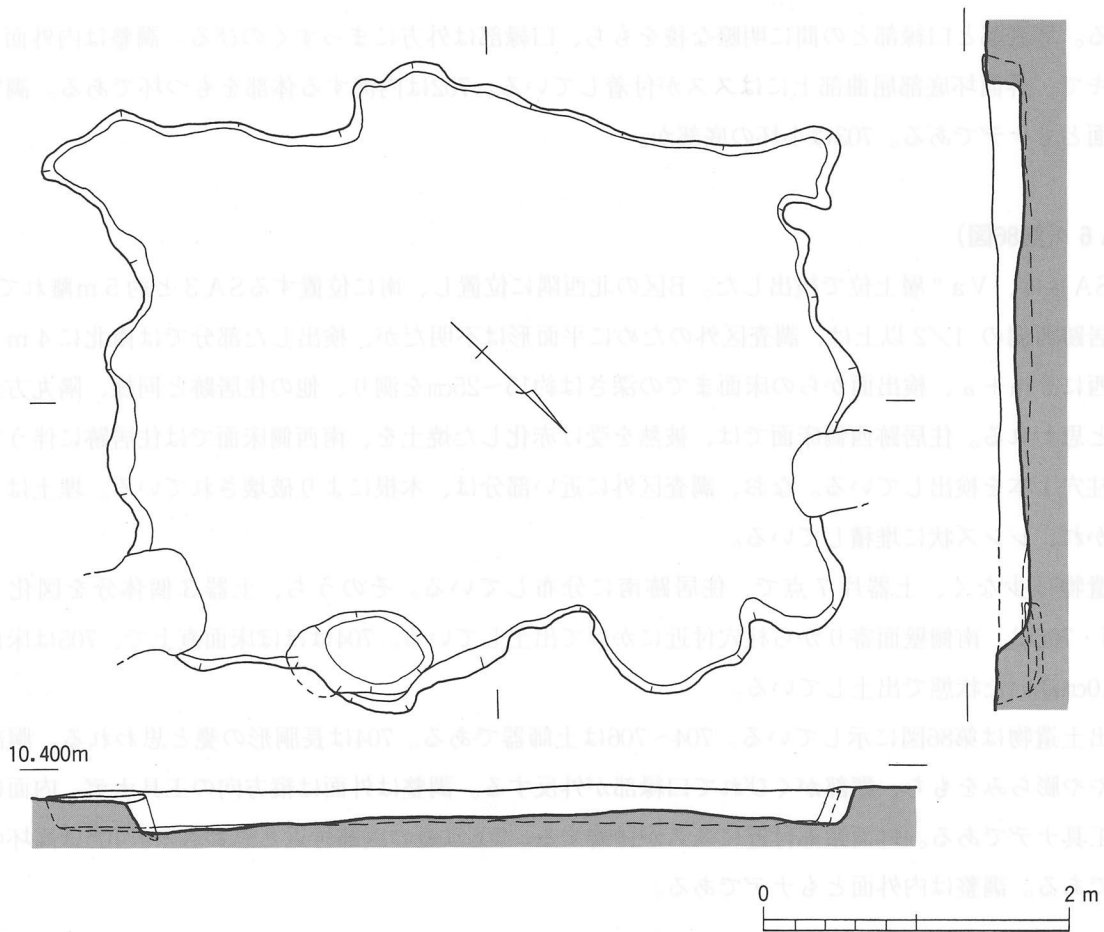
遺物は少なく、土器片7点で、住居跡南に分布している。そのうち、土器3個体分を図化した。704・705は、南側壁面寄りから柱穴付近にかけて出土している。704はほぼ床面直上で、705は床面より約10cm浮いた状態で出土している。

出土遺物は第86図に示している。704~706は土師器である。704は長胴形の甕と思われる。胴部下半にやや膨らみをもち、頸部がくびれて口縁部が外反する。調整は外面は縦方向の工具ナデ、内面はナデと工具ナデである。外面頸部付近にススが付着する。705は壺の底部付近と思われる。706は高坏の脚柱部である。調整は内外面ともナデである。

SA 8 (第87図)

SA 8はB区中央の第Ⅲ層面で検出した。北側壁面は道路によって削平されていたため残存していないが、北東-南西に約5m、北北西-南南東に $4.6m + \alpha$ の方形プランを呈し、検出面からの深さ約20~30cm、床面積 $20m^2 + \alpha$ を測る。主軸はN-31°-Wにあり、主柱穴は確認されていない。埋土は上層から黒褐色砂質土、暗褐色砂質土、にぶい黄褐色砂質土の三層がレンズ状に堆積している。住居の時期は、主軸方向や出土遺物からみてカマドを持つSA 1と同時期に存在していたことが推測される。遺物は縄文土器、弥生土器、土師器や須恵器の他、磨石、凹石、磨製石斧、石錘、スクレイパー、礫器、剥片石器などが多数出土しているが、住居の推定時期以外の遺物については流れ込みと捉え、石器についても時期が確定できないことから別に記載する。

出土遺物は第87・88図に示している。707~709は甕である。707は口縁部と胴部上位に最大径を持ち底部へとすぼまる。口縁部はやや内湾し、底部は平底で木の葉圧痕が残る。調整は内外面ともナデである。外面胴部下半にススが付着する。708と709は同一個体で、長胴形を呈するものと思われる。筒状の胴部で口縁部は外反し、底部は平底である。調整は内外面ともナデである。外面胴部下半にススが付着する。710~712は壺である。710と711は同一個体か？肩部のやや張った短頸壺で、口縁部は外反する。調整は外面は工具ナデとミガキ、内面は工具ナデである。外面肩部から口縁部にススが付着している。712は丸底気味の長胴形壺の底部と思われる。調整は外面は縦方向の工具ミガキ、内面はナデである。外面胴部にはススが付着している。713~719は高坏である。713は坏部で、坏底部と口縁部との間に明瞭な稜をもち、口縁部はやや上方に立ち上がり、口唇部は丸く仕上げている。調整は外面はナデ、内面



第89図 B区 SA 9 実測図 (S=1/50)

は横ミガキである。714は坏部で、坏底部と口縁部との間にやや稜をもつ。口縁部は外側に開き、口唇部は丸く仕上げている。調整は内面は横ミガキ、外面は風化が著しく不明である。715は坏底部と口縁部との間に稜をもたない坏部で、口唇部が外側に反る。調整は外面は工具ナデとナデ、内面はナデである。716は坏底部で、内外面ともナデである。717は坏底部から脚柱部である。円柱状の脚柱で、坏部は内外面ともミガキ、脚柱部は外面は縦方向のヘラミガキ、内面はヘラナデ調整である。718は坏底部から脚部である。坏部は稜をもたない椀状を呈すると思われる。脚部は短い裾広がり「ハ」字状である。調整は内外面ともナデである。719は漏斗状を呈した坏部と思われる。調整は内面は横・斜方向のミガキ、外面は風化の為不明である。720~723は坏である。720は体部に稜をもたない坏で、口唇部が若干外反する。調整は外面はナデ、内面はナデとミガキである。721は平底の底部から直線的な体部が外側に立ち上がり、口縁部付近で湾曲して口縁部がのびる。調整は内外面ともナデで、外面口縁部付近にはススが付着している。722は上げ底気味の底部から内湾気味の短い体部が立ち上がる。調整は内外面とも横ミガキで、外面体部から口縁部にはススが付着する。723は円盤状の高台をもち、口縁部下に膨らみをもった体部が立ち上がる。調整は内外面ともナデで、体部中位にはススが付着する。724と725は須恵器である。724は坏蓋で焼成不良のためか土師質の胎土である。口径13.5cm、器高4.01cmで、内外面

に一部朱色が付着している。725は坏蓋で、口径が11.8cmである。

SA 9 (第89図)

SA 9はB区東側中央寄りの第IV層面で検出している。長軸約5.2m、短軸約4.1mの壁面凹凸の激しい長方形プランを呈する。検出面からの深さ15~20cm、床面積約15.8m²を測り、主柱穴は確認されていない。東側コーナー付近に土坑状の小さな落ち込みがあるが、住居に伴うものであるかは不明である。壁面の凹凸は砂地のため壊れやすかったことが考えられるが、埋土は炭化物粒を多く含む黒褐色砂質土の単一層である。主軸はN-43°-Wで、遺物は土師器小片や石鏃、使用痕剥片、剥片などが十数点出土している。

SA12 (第90図)

SA12はB区東側、SA 9の南側の第IV層面で検出している。長軸約3.05m、短軸約2.8mの台形プランを呈する。検出面からの深さは5~10cm程と浅く、床面積は約6.6m²を測る。主柱穴は確認されていない。西側壁面は後世の柱穴状遺構に切られている。埋土は暗褐色砂質土の単一層である。主軸はN-36°-WでSA 1とほぼ同じであり同時期に存在していた可能性が考えられる。土師器片や石錘、使用痕剥片などの遺物が五十数点出土しているが、住居の推定時期に伴わないものや時期不明のものについては別に記載する。

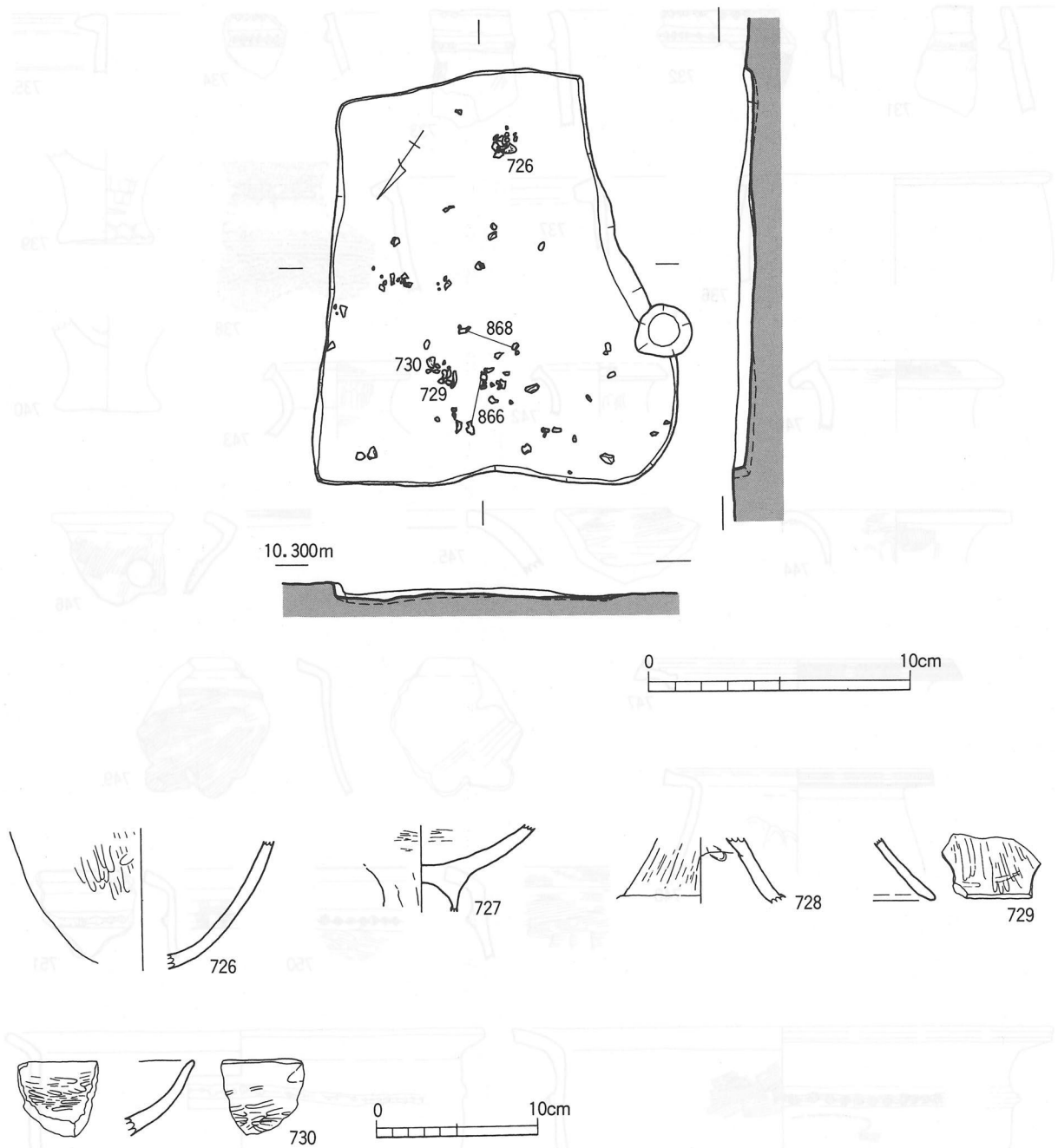
出土遺物は第90図に示している。726~730は土師器である。726は丸底を呈する壺の胴部から底部付近と思われる。調整は外面は縦ミガキ、内面は丁寧なナデである。727は高坏の坏底部である。調整は坏部は内外面とも横ミガキ、脚柱部は外面は縦方向の工具ナデである。728は高坏の脚柱部である。短く裾部の広がる「ハ」字状を呈すると思われる。調整は外面は縦方向のケズリ、内面はナデと工具ナデである。729は高坏の裾部である。調整は外面は縦・横方向のミガキ、内面は風化の為不明である。730は坏で口縁部が外反する。調整は内外面とも横ミガキである

4. 弥生~古墳時代の包含層出土の遺物

弥生から古墳時代の遺物包含層は主にB区砂質土の第II層~第III層上部にあたり、A区のシルト質地ではこの時期の遺物はわずかに出土しているだけである。ここでは遺構外出土及び遺構内出土で遺構の時期に相当しない土器について取り上げている。

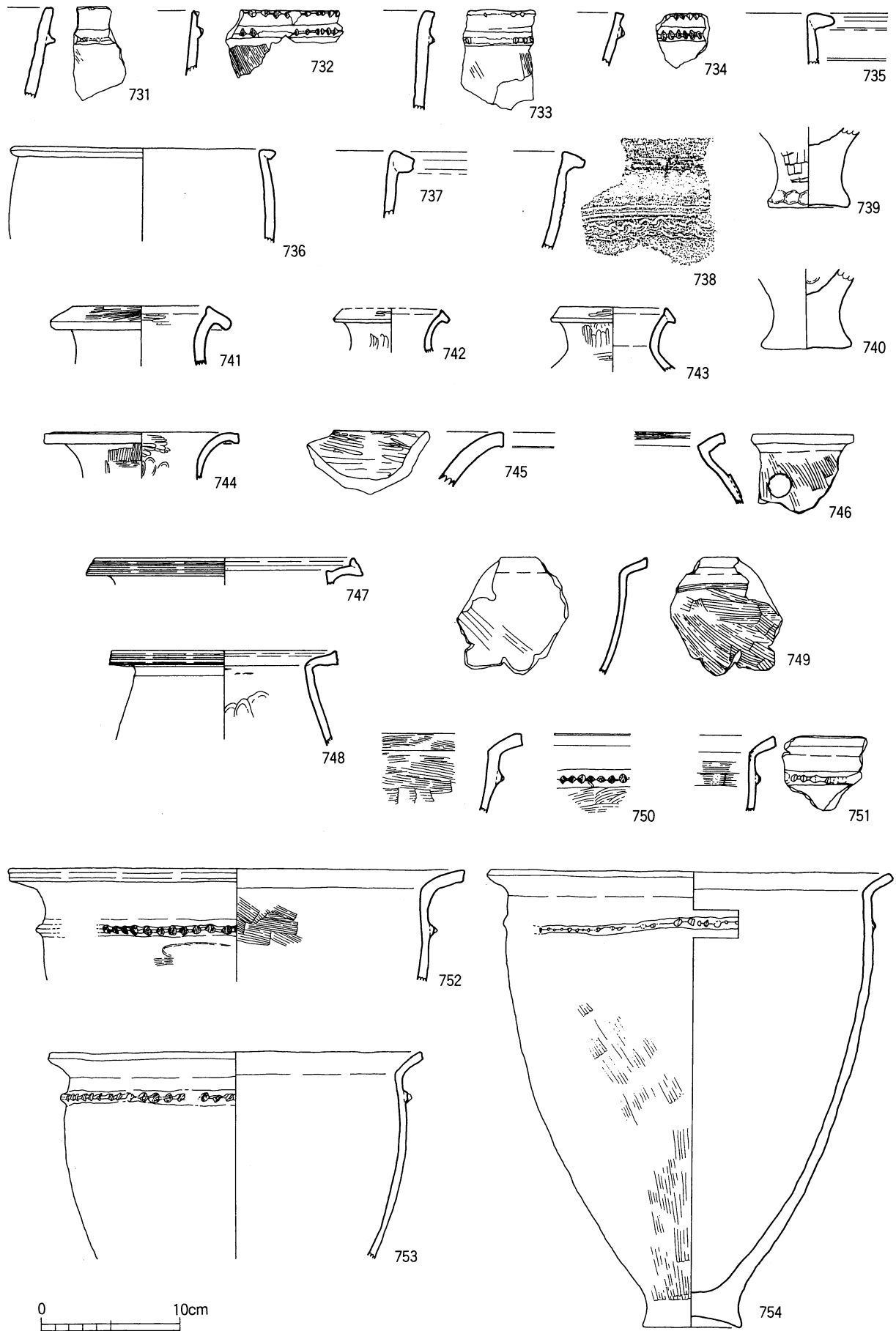
遺物は第91~94・101図に示している。731~787は弥生土器である。731~734は直口する口縁部に一条の貼り付け刻目突帯と口唇部外面に刻目を持つ下城式の甕である。それぞれ外面はハケ目調整である。735~738は口縁部に突帯を貼り付けて口縁を形成する甕である。735は断面三角形の突帯を貼り付けている。胴部に一条の沈線が巡ると思われる。調整は内外面ともナデである。736は小さな断面三角形の突帯を貼り付け、丸味のある胴部を持つ。調整は内外面ともナデである。737は断面台形の突帯を貼り付けている。突帯端部はナデによる凹ができています。調整は内外面ともナデである。738は断面長方形の突帯を貼り付けている。底部へとすぼまると思われる胴部上位に、横方向と波状の櫛描文が巡る。調整は内外面ともナデである。739と740は脚台付甕の脚台部である。中実で裾部が広がる。741~746は壺である。741と742は頸部が直立気味に上方へのび、口縁部端部を上下に拡張するものである。741は口

縁部にハケ状工具によるヨコナデがみられ、調整は外面はナデ、内面はナデと横ミガキである。742の調整は外面は横・縦ミガキ、内面はナデである。743は口頸部が「く」字状に外反して端部を上下に拡張する。調整は外面は横・縦ミガキとナデ、内面はナデで、外面には丹が施されているか？744直立すると思われる頸部から口縁部が大きく開き、口縁端部を上下にわずかに拡張する。調整は外面はナデとハケ目の後縦ミガキ、内面はナデと横ミガキで、内面にはススが付着する。745も口縁部が大きく開くもので、調整は外面がヨコナデと横ミガキ、内面は横・斜ミガキである。746は肩部に円形の浮文をもち、短い口頸部が大きく「く」字状に屈曲する。調整は外面はナデと斜ハケ目、内面は口縁部が横ハケ目と工具ナデである。外面肩部から頸部にはススが付着し、内面頸部には黒変がみられる。747～772は甕である。747～749は外来系の甕で、747と748は瀬戸内系の凹線文土器、749は北部九州系の土器である。747は胴部があまり張らずに、口縁部が「く」字状に強く外反するものと思われる。口縁部の断面形態は小さな三角形で直立する。口縁部には3条の凹線文、内面頸部屈曲部には強いナデによる拡張がある。調整は内外面ともヨコナデで、外面にはススが付着している。748は胴部があまり張らずに口縁部が「く」字状に強く外反するもので、頸部下には強いナデによる段が付く。口縁部は3条の凹線文を施し、端部はヨコナデにより拡張している。調整は外面はヨコナデ、内面はヨコナデとナデで、外面にはススが付着する。749は口頸部が「く」字状に外反し、胴部から底部がすぼまる器形を呈すると思われる。口縁端部はヨコナデによって上方に拡張している。調整は外面はナデと横・斜方向のハケ目、内面はナデと斜方向のハケ目の後ナデで、外面にはススが付着する。750～756は後期初頭に位置する中溝式の甕である。いずれも口頸部が「く」字状に外反し、頸部下に貼り付け刻目突帯をもつ。750～752は口縁端部がやや肥厚し、内面頸部屈曲部に明瞭な稜をもつものである。ヨコナデによって口唇部が凹んでいる。調整は750は内外面とも横・斜方向のハケ目で、751は外面はナデ、内面は横方向のハケ目の後ナデ、752は外面はナデ、内面はナデと横・斜方向のハケ目である。753・754・756は口縁端部が肥厚せず、内面頸部屈曲部にやや稜をもつものである。胴部から底部へとすぼまり、754は上げ底を呈する。調整は753は外面はナデ、内面は工具ナデ、754は外面は縦・斜方向のハケ目、ヨコナデ、丁寧なナデ、内面はナデと丁寧なナデで、756は外面はナデ、内面は工具ナデである。いずれも外面にはススが付着し、754と756の刻目突帯は他と比べ小さい。755は頸部屈曲が緩やかである。調整は外面はナデ、ヨコナデ、斜方向のハケ目、内面はヨコナデと横・斜方向のハケ目である。757と758は甕の口頸部である。757は口唇部にヨコナデによる凹みと頸部内面に明瞭な稜をもつ。内外面ともナデ調整である。758は口頸部が「く」字状に外反し、端部下はヨコナデによって拡張している。調整は内外面ともナデである。759～761は口頸部が「く」字状に外反し、胴部から底部へとすぼまる器形を呈する。いずれも内面頸部には明瞭な稜をもたず、口唇部はヨコナデによって凹んでいる。759はやや上げ底、760は平底である。調整は759は内外面とも工具ナデ、760と761は内外面ともハケ目がみられる。762は肥後系の甕である。胴部が張り、口頸部が「く」字状に開く。口唇部は丸く仕上げ、内面頸部に明瞭な稜をもつ。外面頸部下にはナデによる段が付いている。調整は外面は縦方向のハケ目、内面は横方向のハケ目と縦方向の工具ナデである。763～772は甕の底部である。763～767は上げ底である。763は裾端部を平らに仕上げ、くびれ部には指頭痕が多くみられる。764～766の裾端部はやや尖り気味で、767は丸味をもつ。768・769・772は平底である。768と769は底部に厚みがあり、特に769は中実で、脚台状を呈する。772はくびれをもたない。770は上げ底気味、771は平底であるが、丁寧な渦巻き状の指ナデによって中央が凹んで

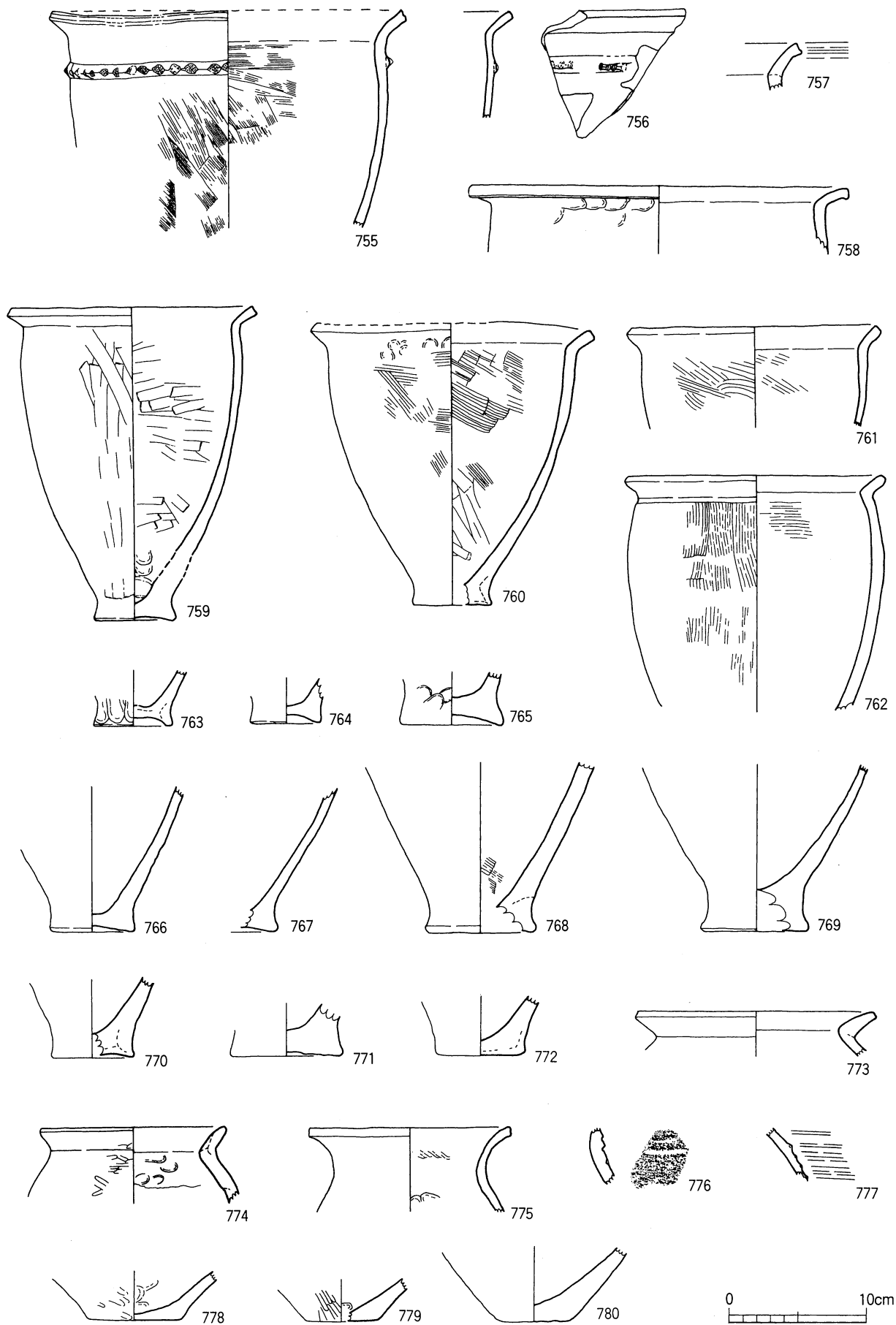


第90図 B区 SA12実測図(S=1/50)及び出土土器実測図(S=1/4)

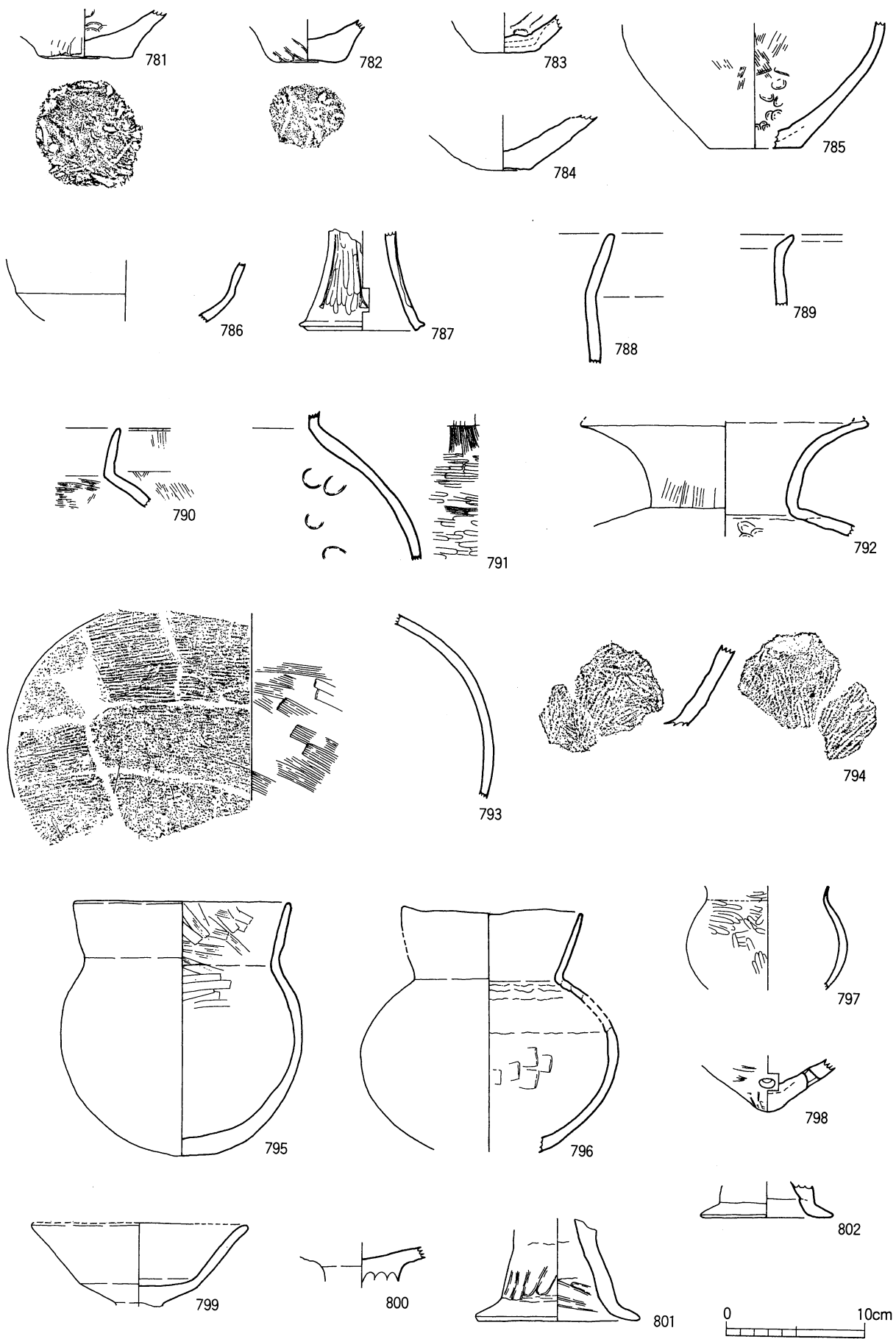
いる。773~785は壺である。773と774は頸部が「く」字状に外反する短頸壺である。773は外面はナデ、内面は丁寧なナデ調整でどちらにもススが付着する。774は肩部があまり張らないもので、外面はナデとミガキ、内面はナデ調整である。775は胴部が張らずに口頸部が緩やかに外反する。調整は外面は丁寧なナデ、内面は斜方向のミガキと丁寧なナデである。776は瀬戸内系の壺の頸部と思われる。2条の凹線文の下に連続刺突文が巡る。胎土が赤褐色でもろい。777は肩部で4条の断面三角形の突帯が巡る。



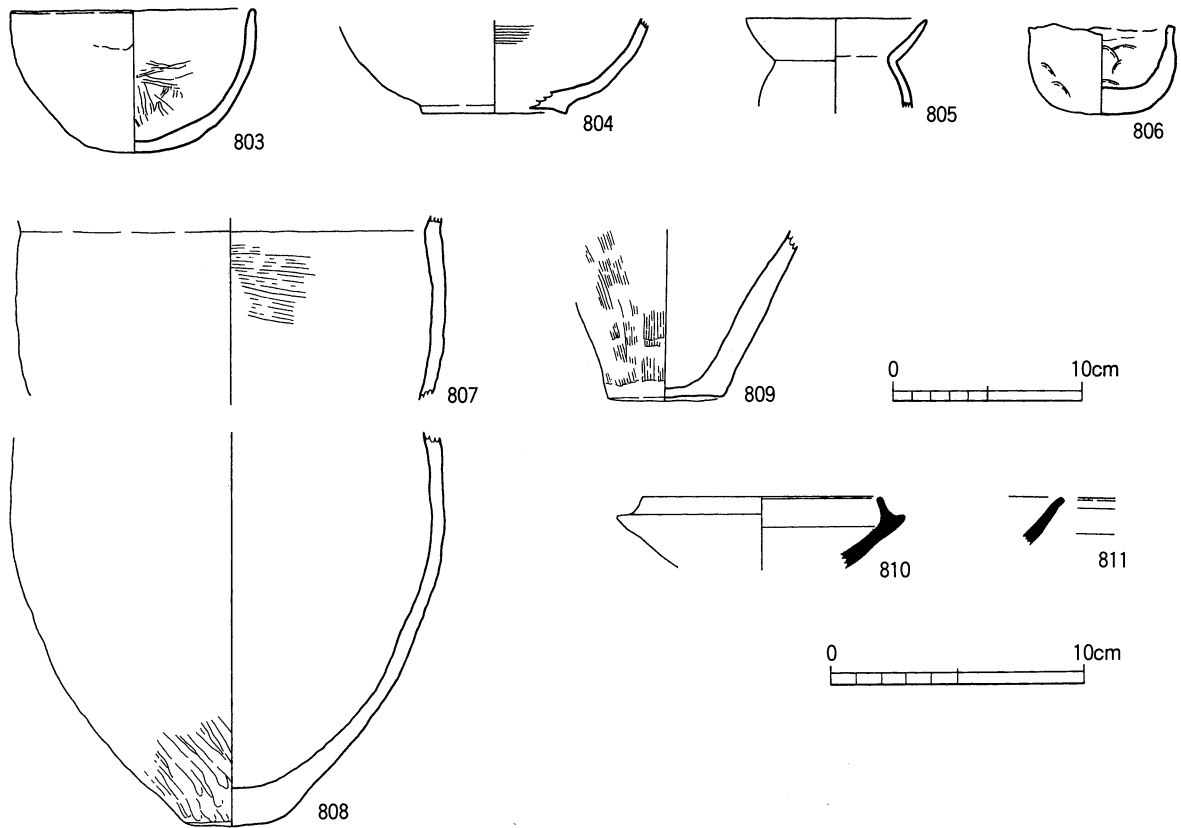
第91图 B区包含层出土土器实测图 (S=1/4)



第92图 B区包含层出土土器实测图 (S=1/4)



第93图 B区包含层出土土器实测图 (S=1/4)



第94図 B区包含層出土土器実測図 (803~809 S=1/4、810・811 S=1/3)

778~785は底部である。すべて平底を呈する。778は外面はミガキ調整でススが多く付着している。779は外面は斜方向のミガキ調整で丹が施されている。781と782は木の葉圧痕が残り、784にも葉脈痕と思われるものがみられる。785は内外面ともハケ目調整が施され、張った胴部にススが付着している。786と787は高坏である。786は坏部で、外面の坏底部と口縁部との間に明瞭な稜をもつ。調整は内外面ともナデである。787は脚部で瀬戸内系のものである。未貫通の三角形の透し穴があり、外面には丹が施されている。調整は外面は縦方向のミガキ、内面は粗いヨコナデである。

788~809は土師器である。788と789は甕である。788は胴部が張らずに口頸部が緩やかに外反する。調整は外面がヨコナデとナデ、内面はヨコナデと斜方向の工具ナデである。789は張らない胴部からくびれ部をもたずに口縁部が外反する。内面の口縁部と胴部の間には稜をもつ。790~794は壺である。790は肩部の張るもので、口頸部がやや直立する。調整は内外面ともハケ目である。791は肩部が張り、頸部が直立するものと思われる。調整は外面は縦方向のハケ目とハケ目の後横ミガキ、内面はナデである。792は肩部の張った長頸の二重口縁壺である。内外面ともハケ目調整である。793は肩部の張った偏球形を呈する。外面は横方向のハケ目、内面は斜方向のハケ目調整である。794は内外面ともハケ目調整のある底部付近である。795は甕である。球形の胴部に丸底を呈する。頸部がくびれて口縁部はやや直立気味にのびる。調整は外面は横・斜方向のハケ目の後ナデ、内面は横・斜方向の工具ナデである。外面胴部上位から口縁部にはススが付着している。796~798は壺である。796は肩部の張った丸底を呈すると思われる。頸部くびれ部からやや内湾気味の口頸部が立ち上がる。調整は内外面とも工具ナデで、

外面胴部下半にはススが帯状に付いている。797は小型土器である。球胴を呈し、調整は外面はミガキ、内面はナデである。798は尖底を呈し穿孔をもつ。799～802は高坏である。799は坏部で坏底部と口縁部との間に緩やかな稜をもつ。口縁部は若干外反し、口唇部は丸く仕上げている。800は坏底部である。801は脚部で、「ハ」字状の太い脚柱部と裾部との間に緩やかな稜をもち裾部が外に広がる。調整は内外面とも指ナデである。802は裾部である。801と類似するもので裾部が外に広がる。803と804は椀である。803は丸底で、調整は外面は指ナデと工具ナデ、内面はナデとミガキである。804は高台状の底部を呈し、調整は外面はナデ、内面はハケ状の工具による横方向のナデがみられる。805と806は小型土器の埴である。805は頸部にくびれをもち、内湾気味の口頸部が外方にのびる。内外面ともナデ調整である。806は椀状を呈する。内外面とも指ナデによる調整である。807～809は甕である。807と808は同一個体と思われる。砲弾状の器形を呈する。底部は小さな平底で、調整は外面はナデと底部付近にミガキ状の縦工具ナデ、内面はナデとハケ目である。外面胴部中位にススが付着する。809は平底の底部である。くびれをもたずに胴部へとびる。調整は外面は縦方向のハケ目、内面はナデである。

810と811は須恵器である。810は坏身で、推定口径は11.4cmである。811は坏の口縁部である。

844はA区出土の土器で、土師器甕の底部である。平底で、底部裾は開かず若干くびれて胴部が広がる。外面は縦方向のハケ目、内面はナデである。

5. 時期不明の遺構と遺物

(1) 溝状遺構 (SE)

SE 1 (第95図)

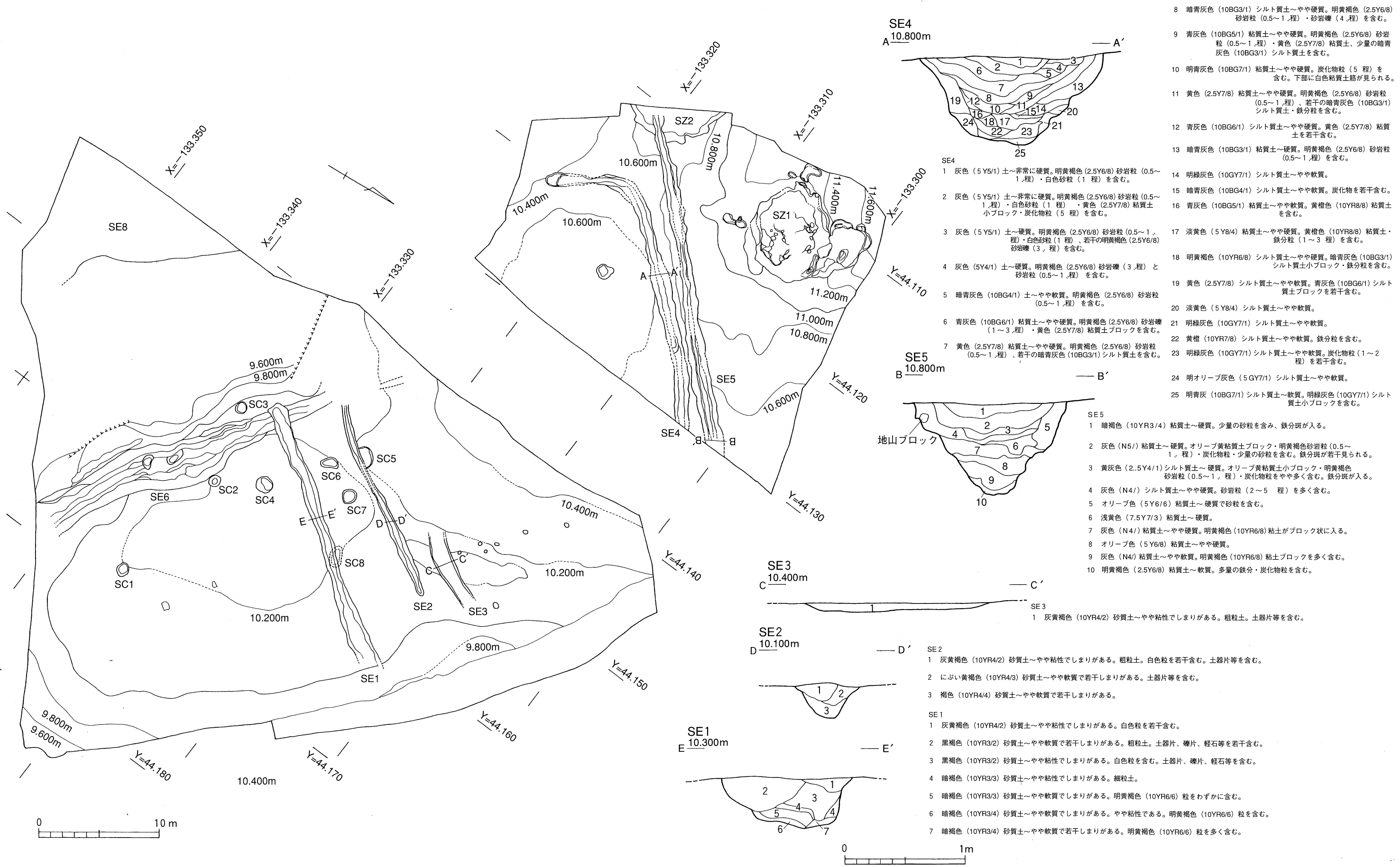
SE 1はB区の中央部を南西―北東方向に直線的に走行する。Ⅱ～Ⅲ層にかけて検出し、溝の長さ約24m、溝幅1～1.8m、検出面からの深さ0.37～0.45mを測る。溝の断面形は台形を呈し、南西―北東方向に向かって緩やかに傾斜する。北西部はSE 6を切っている。埋土は7層に分層でき、埋土状況より2回以上の作り替えが行われていると考えられる。遺物は860等の陶磁器類や縄文～古墳時代の土器や石器等が少量出土している。

SE 2 (第95図)

SE 2はB区の中央やや北寄り、SE 1より北に約5mのところを位置し、SE 1を併走するように南西―北東方向に直線的に走行する。Ⅱ～Ⅲ層にかけて検出し、溝の長さ約17m、溝幅0.2～0.35m、検出面からの深さは0.15～0.3mを測る。溝の断面形は台形を呈し、南西―北東方向に向かって緩やかに傾斜する。埋土は3層に分層できる。遺物は縄文～古墳時代の土器や石器等が少量出土している。

SE 3 (第95図)

SE 3はSE 2より北に約1.5mのところを位置し、SE 1・SE 2を併走するように南西―北東方向に直線的に走行する。Ⅱ～Ⅲ層にかけて検出し、溝の長さ約6.5m、溝幅1.2～1.5m、検出面からの深さは浅く0.06～0.15mを測る。溝の断面形は台形を呈し、南西―北東方向に向かって緩やかに傾斜する。埋土は1層で灰黄褐色砂質土が堆積し、他の2条(SE 1・SE 2)の埋土と同質の印象を受ける。遺物は縄文～古墳時代の土器や石器等が少量出土している。



第95図 A・B区時期不明の遺構分布図 (S=1/300) 及びSE1~5土層断面実測図 (S=1/30)

SE 4 (第95図)

SE 4はA区南寄りに位置し、南東方向から北西方向に7mほど延び、そこから湾曲して北東方向に直線的に走行する。Va層で検出し、溝の長さ約27m、溝幅0.5~1.5m、検出面からの深さは0.14~0.62mを測る。溝の断面形は台形を呈し、北東方向に向かって緩やかに傾斜する。埋土は25層に分層でき自然堆積の様相を呈する。遺物は図化していないが、近世の陶磁器片が数点出土している。

SE 5 (第95図)

SE 5はA区中央付近、SE 4に隣接し、南西-北東方向に向かって直線的に走行する。II~V層で検出し、溝の長さ約28m、溝幅0.5~1.7m、検出面からの深さは0.25~0.7mを測り、北東方向に向かって緩やかに傾斜する。南西端はSZ 2と隣接するが、土層断面においても明瞭な切り合いは確認できず、遺構に伴うものであるか、SZ 2より新しいものであるかは不明である。溝の断面形はV字形~台形を呈し、中程に段をもつものもみられる。埋土は10層に分層でき、自然堆積の様相を呈する。なお、SE 5上層の埋土(1・2・3)とSZ 1埋土(1)とが類似する。遺物は数点出土しているが小片のため不明である。

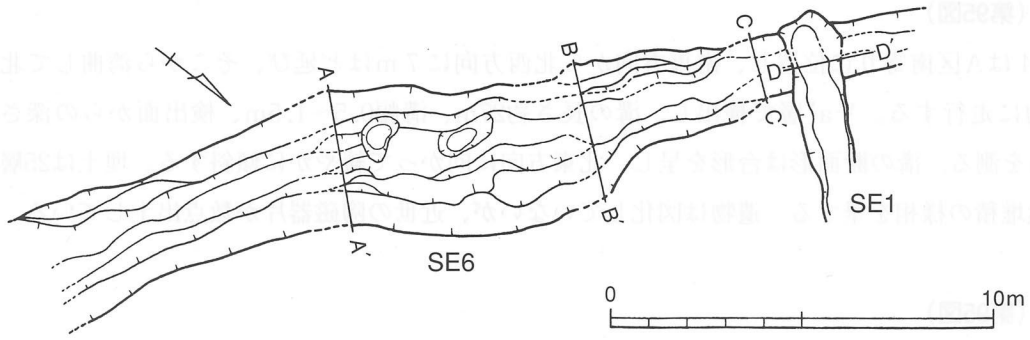
SE 6 (第96・97図)

SE 6は、B区の中央よりやや南西寄りを、北西-南東方向に走行する。基本層序第Ⅲ層上面で検出し、溝の長さ約25m、溝幅1.5~3.8m、検出面からの深さ0.5~0.9mを測る。溝の断面形態は、砂地で崩れやすいため一定ではないが、南東側(断面A-A')が壁面が緩傾斜する断面三角形、中程(断面B-B')が壁面が緩傾斜する断面台形、北西側(断面C-C')は逆かまぼこ状を呈する。溝の両端はそれぞれ更に延び、北西端は古墳時代の竪穴住居跡(SA 1)を横切る。また、北西部は、近世の溝であるSE 1に切られている。

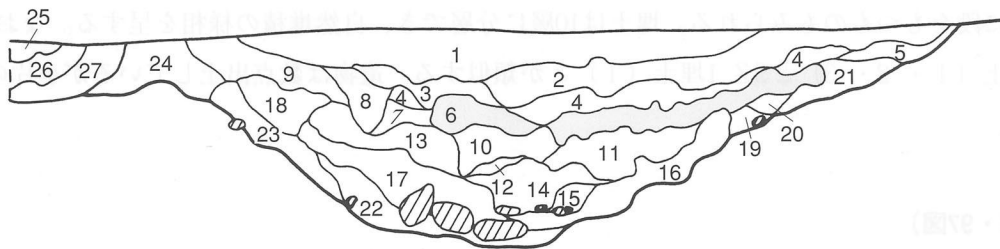
埋土は、黒褐色砂質土と暗褐色砂質土の連続で、埋土中に明黄褐色粒を多量に含む層(断面A-A'の第6層と断面B-B'の第4層)が確認できる。テフラ分析の結果、1471年に噴出したとされる桜島起源の文明軽石(通称:白ボラ)に由来するものであった。遺構の切り合いやテフラ分析の結果から構築年代は1471年を遡ると考えられるが、このテフラの時期に相当する遺物は出土しておらず、縄文時代や弥生~古墳時代の土器や石器、集石遺構のものと思われる焼石等が多く混在している。ここで記述する遺物は弥生~古墳時代の土器を中心とし、縄文土器や石器については別に記載する。

出土遺物は第98・99図に示している。812~815は弥生土器である。812は下城式の甕である。口唇部外面に小さな刻目、その下に断面三角形の突帯を貼り付け、小さな刻目を施している。内外面ともナデである。813は甕の口縁部である。口縁部外面に断面長方形の突帯を貼り付けて口縁部を形成する。内外面ともナデで、突帯上面はナデによる凹みがみられる。814は壺の口縁部である。頸部くびれ部から口縁部が外に大きく開く器形を呈する。口縁部外面に突帯を貼り付けて口縁部を形成していると思われる。外面は縦ミガキとナデ、内面はナデである。815は高坏の坏部である。坏底部と口縁部との間に明瞭な稜をもち、口縁部が大きく開く。口縁端部は平らに仕上げている。内外面とも丁寧なミガキ仕上げである。

816~838は土師器である。816~824は甕である。816は丸味のある小さい平底からくびれをもたずに



A 10.200m

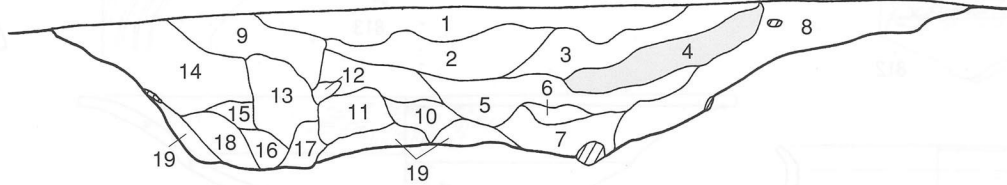


- | | |
|--|--|
| <p>1 黒褐色 (7.5YR3/1) 砂質土～セクションB-B'の第1層と同じ。やや軟質で粘性あり。粗粒土で白色粒 (1～2mm程)・ガラス質粒を含む。土器片を少量含む。</p> <p>2 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質土～セクションB-B'の第9層と同じ。ややしまりあり。明黄褐色 (2.5Y6/6) 粒を少量含む。</p> <p>3 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質土～軟質。明黄褐色 (2.5Y6/6) 粒を少量含む。</p> <p>4 黒褐色 (7.5YR3/1) 砂質土～セクションB-B'の第2層と同じ。しまりあり。第1層より粗粒土で明黄褐色 (2.5Y6/6) 粒をやや多く、白色粒 (2mm程)とガラス質粒を若干含む。</p> <p>5 暗褐色 (7.5YR3/3) 砂質土～ややしまりあり。明黄褐色 (2.5Y6/6) 粒を少量含む。</p> <p>6 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/1) 砂質土～セクションB-B'の第4層と同じ。軟質。明黄褐色 (2.5Y6/6) 粒を少量含む。</p> <p>7 黒褐色 (7.5YR3/1) 砂質土～やや軟質。明黄褐色 (2.5Y6/6) 粒を多量含む。</p> <p>8 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土～ややしまりあり。細粒土で暗灰黄 (2.5Y4/2) 粘質土が混在し、若干粘性をもつ。</p> <p>9 黒褐色 (10YR3/1) 砂質土～ややしまりあり。粗粒土で黄色・白色の粒 (1mm程)を若干含む。</p> <p>10 やや明るい黒褐色 (10YR2/2) 砂質土～しまりあり。粘性が若干あり明黄褐色 (2.5Y6/6) 粒 (1～3mm程)をやや多く含む。</p> <p>11 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土～しまりあり。細粒土で若干粘性あり。円礫 (5cm程)が混在する。</p> <p>12 やや明るい黒褐色 (10YR2/2) 砂質土～軟質。明黄褐色 (2.5Y6/6) 粒を若干含む。</p> <p>13 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土～やや軟質。暗灰黄 (2.5Y4/2) 粘質土・明黄褐色 (2.5Y6/6) を若干含む。</p> <p>14 やや明るい黒褐色 (10YR2/2) 砂質土～軟質で若干粘性あり。小石 (0.1～1cm程)をやや多く、植物遺体を若干含む。</p> <p>15 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土～やや軟質で若干粘性あり。黄色粒を若干含み、下部に土器片が角礫が見られる。</p> <p>16 黒褐色 (10YR3/1) 砂質土+暗褐色 (10YR3/3) 砂質土～細粒土でしまりがある。</p> <p>17 黒褐色 (10YR2/3) 砂質土～しまりあり。細粒土で若干粘性あり。土器小片 (1cm程)を若干含む。</p> | <p>18 黒褐色 (10YR3/1) 砂質土～しまりあり。細粒土でやや粘性あり。</p> <p>19 黒褐色 (7.5YR3/1) 砂質土～ややしまりあり。明黄褐色 (2.5Y6/6) 粒・土器を若干含む。</p> <p>20 暗褐色 (7.5YR3/4) 砂質土～ややしまりあり。明黄褐色 (2.5Y6/6) 粒を少量含む。</p> <p>21 暗褐色 (7.5YR3/3) 砂質土～ややしまりあり。明黄褐色 (2.5Y6/6) 粒を若干含む。</p> <p>22 黒褐色 (10YR2/3) 砂質土～しまりあり。粗粒土で土器小片 (1cm程)・円礫を含む。</p> <p>23 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土～しまりあり。細粒土で白色粒を若干含む。</p> <p>24 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土～粗粒土でしまりがある。</p> <p>25 やや明るいオリーブ褐色 (2.5Y4/6) 粘質土～硬質で鉄分が斑点状に入る。土器小片を含む。</p> <p>26 暗オリーブ (5Y4/3) 砂質土～しまりあり。細粒土でやや粘性あり。軽石含む。</p> <p>27 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土～やや粘性あり。炭化物を少量含む。</p> |
|--|--|

第96図 B区SE6平面図 (S=1/200) 及び土層断面実測図 (S=1/30)

B 10.400m

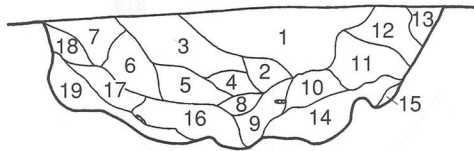
— B'



- | | |
|--|---|
| <p>1 黒褐色 (7.5YR3/1) 砂質土～やや軟質で粘性あり。粗粒土で白色粒 (1～2mm程)・ガラス質粒を含む。土器片を少量含む。</p> <p>2 黒褐色 (7.5YR3/1) 砂質土～しまりあり。第1層より粗粒土で明黄褐色 (2.5Y6/6) 粒をやや多く、白色粒 (2mm程) とガラス質粒を若干含む。</p> <p>3 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質土～ややしまりあり。明黄褐色 (2.5Y6/6) 粒・小石 (1cm程)・土器片 (1cm程) を少量含む。</p> <p>4 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質土～軟質。明黄褐色 (2.5Y6/6) 粒を多量含む。</p> <p>5 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質土～しまりあり。細粒土で明黄褐色 (2.5Y6/6) 粒・小石粒 (5mm程) を少量含む。</p> <p>6 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質土～しまりあり。細粒土でガラス質粒を少量含む。小石粒 (5mm程) が下部に少量堆積する。</p> <p>7 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質土～しまりあり。粗粒土で、小石粒 (0.5～1cm程) を多く含む。</p> <p>8 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土～しまりあり。細粒土で明黄褐色 (2.5Y6/6) 粒・ガラス質粒・土器片を少量含む。</p> <p>9 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質土～ややしまりあり。明黄褐色 (2.5Y6/6) 粒を少量含む。</p> <p>10 黒色 (10YR2/1) 砂質土～粗粒土でガラス質粒・小石粒 (0.5～1cm程)・土器片 (1cm程) を少量含む。</p> | <p>11 黒褐色 (10YR3/1) 砂質土～しまりあり。細粒土でガラス質粒を少量含む。</p> <p>12 黒褐色 (10YR3/1) 砂質土～軟質細粒土。</p> <p>13 黒褐色 (10YR3/1) 砂質土～やや軟質。細粒土で小石粒 (0.5～2cm程) を多量に含む。</p> <p>14 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土～しまりあり。細粒土で明黄褐色 (2.5Y6/6) 粒・ガラス質粒・土器片を若干含む。</p> <p>15 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土～しまりあり。粗粒土でガラス質粒を少量含む。</p> <p>16 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土～粗粒土でにぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土を若干含む。下部に小石 (2cm程) が堆積する。</p> <p>17 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土～非常にしまりが強い。細粒土でにぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土・白色粒 (1mm程) を若干含む。</p> <p>18 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土～しまりあり。粗粒土でガラス質粒を少量とにぶい黄褐色土 (10YR4/3) 砂質土をブロック状に若干含む。</p> <p>19 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土～ややしまりあり。粗粒土でにぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土を含む。土器片 (1cm程)・円礫 (3cm程) が混在する。</p> |
|--|---|

C 10.300m

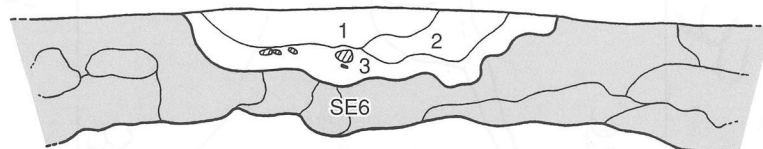
— C'



- | | |
|---|--|
| <p>1 黒褐色 (7.5YR3/2) 砂質土～やや軟質で若干粘性あり。粗粒土で明黄褐色 (2.5Y7/6) 粒 (1～5mm程) をやや多く含む。</p> <p>2 黒褐色 (7.5YR3/2) 砂質土～軟質。細粒土で小石 (0.5～1cm程) を多量に含む。</p> <p>3 黒褐色 (7.5YR3/2) 砂質土～ややしまりがある。細粒土で明黄褐色 (2.5Y7/6) 粒 (1～2mm程)・白色粒 (1mm程) を少量含む。</p> <p>4 黒褐色 (7.5YR3/2) 砂質土～しまりあり。白色粒を若干含む。</p> <p>5 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土～ややしまりがあり、若干粘性あり。明黄褐色 (2.5Y7/6) 粒 (1～5mm程) を若干含む。</p> <p>6 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土～やや軟質。粗粒土で明黄褐色 (2.5Y7/6) 粒 (1～2mm程) をやや多く含む。</p> <p>7 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土～しまりあり。細粒土で明黄褐色 (2.5Y7/6) 粒 (1～2mm程) を若干含む。</p> <p>8 黒褐色 (10YR3/3) 砂質土～やや軟質。若干粘性があり、明黄褐色 (2.5Y7/6) 粒 (1～5mm程) を若干含む。</p> <p>9 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土～しまりあり。やや粘性があり、明黄褐色 (2.5Y7/6) 粒 (5mm程)・土器片を若干含む。</p> <p>10 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土～第5層とほぼ同一であるが、第5層より若干しまりがある。</p> | <p>11 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土～しまりあり。粗粒土で砂岩粒 (1～3mm程) を多量に含む。</p> <p>12 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土～しまりあり。粗粒土で砂岩粒 (0.5～1cm程) を若干含む。</p> <p>13 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土～やや軟質。細粒土で砂岩粒 (0.5～1cm程) を若干含む。</p> <p>14 黒褐色 (7.5YR3/2) 砂質土～しまりあり。やや粘性があり小石粒 (0.5～1.5cm程) を若干含む。</p> <p>15 暗褐色 (7.5YR3/3) 砂質土～細粒土で若干粘性あり。</p> <p>16 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土～しまりあり。細粒土で若干粘性がある。明黄褐色 (2.5Y7/6粒) (1～5mm程) をやや多く含む。</p> <p>17 黒褐色 (10YR2/3) 砂質土～やや軟質。粗粒土で白色粒を若干含む。</p> <p>18 黒褐色 (7.5YR2/2) 砂質土～やや軟質。やや粗粒土で白色粒を若干含む。</p> <p>19 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土～しまりあり。明黄褐色 (2.5Y7/6) 粒 (3mm程) を少量含む。</p> |
|---|--|

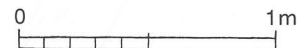
C 10.300m

— C'

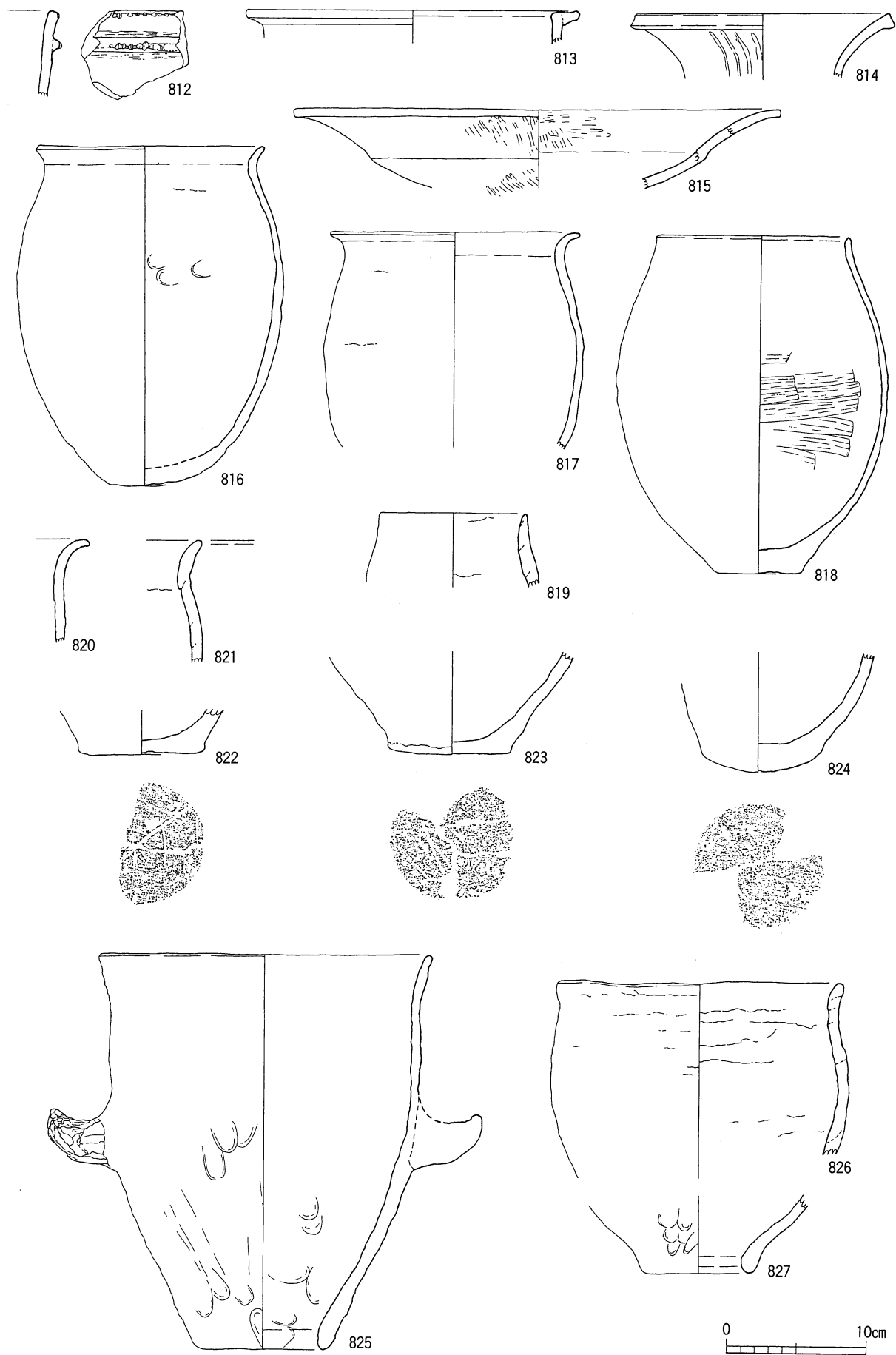


- | |
|---|
| <p>1 ややにぶい灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土～しまりあり。やや粘性があり、黄色粒・白色粒・土器片を若干含む。</p> <p>2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土～しまりあり。粘性があり白色粒をやや多く含む。</p> <p>3 黒褐色 (10YR3/1) 砂質土～ややしまりあり。やや粘性がある。焼け石が多く混在する。</p> |
|---|

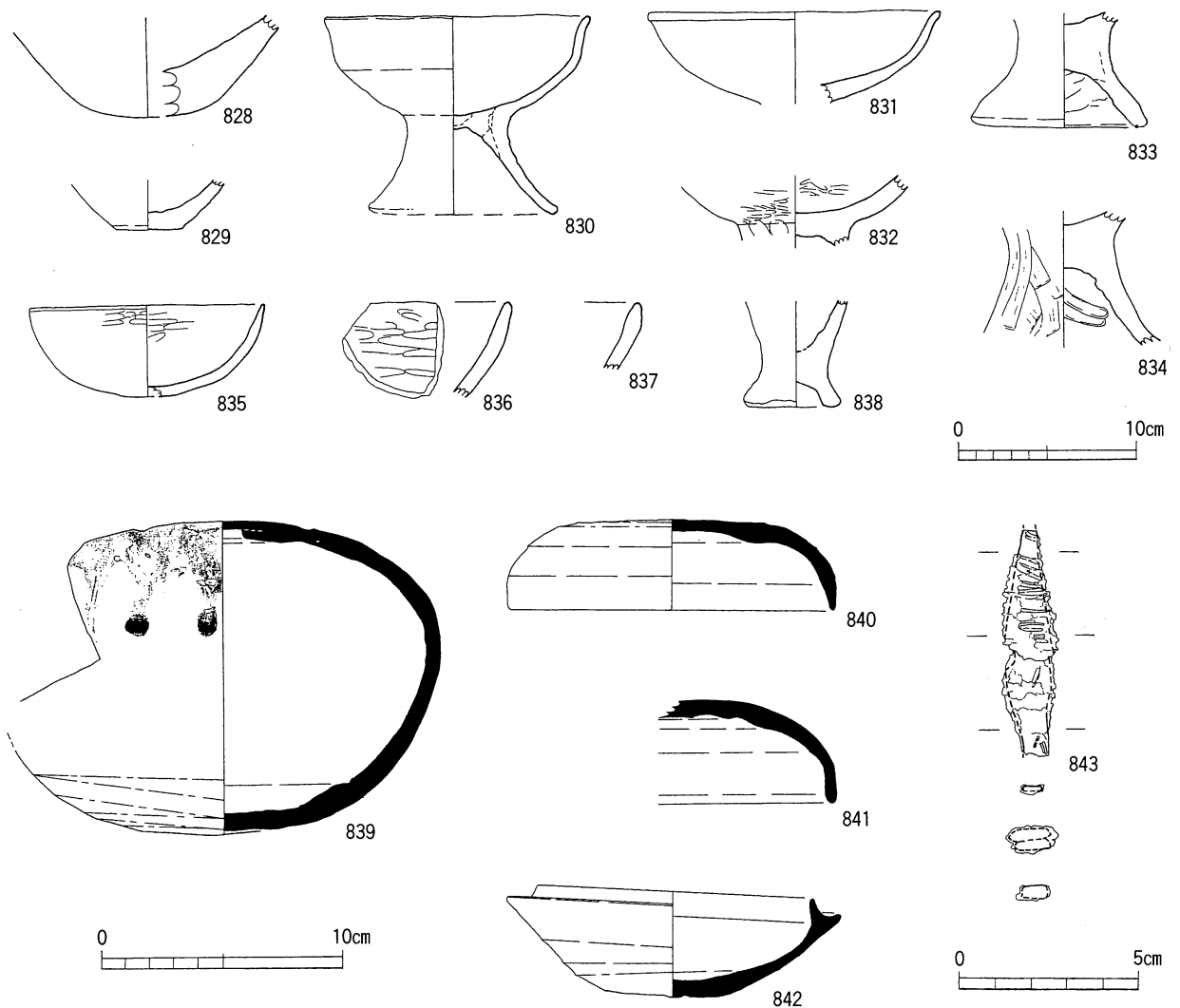
* SE6より粘性が強い。



第97図 B区SE6 (B-B'・C-C') 及びSE1 (D-D') 土層断面実測図 (S=1/30)

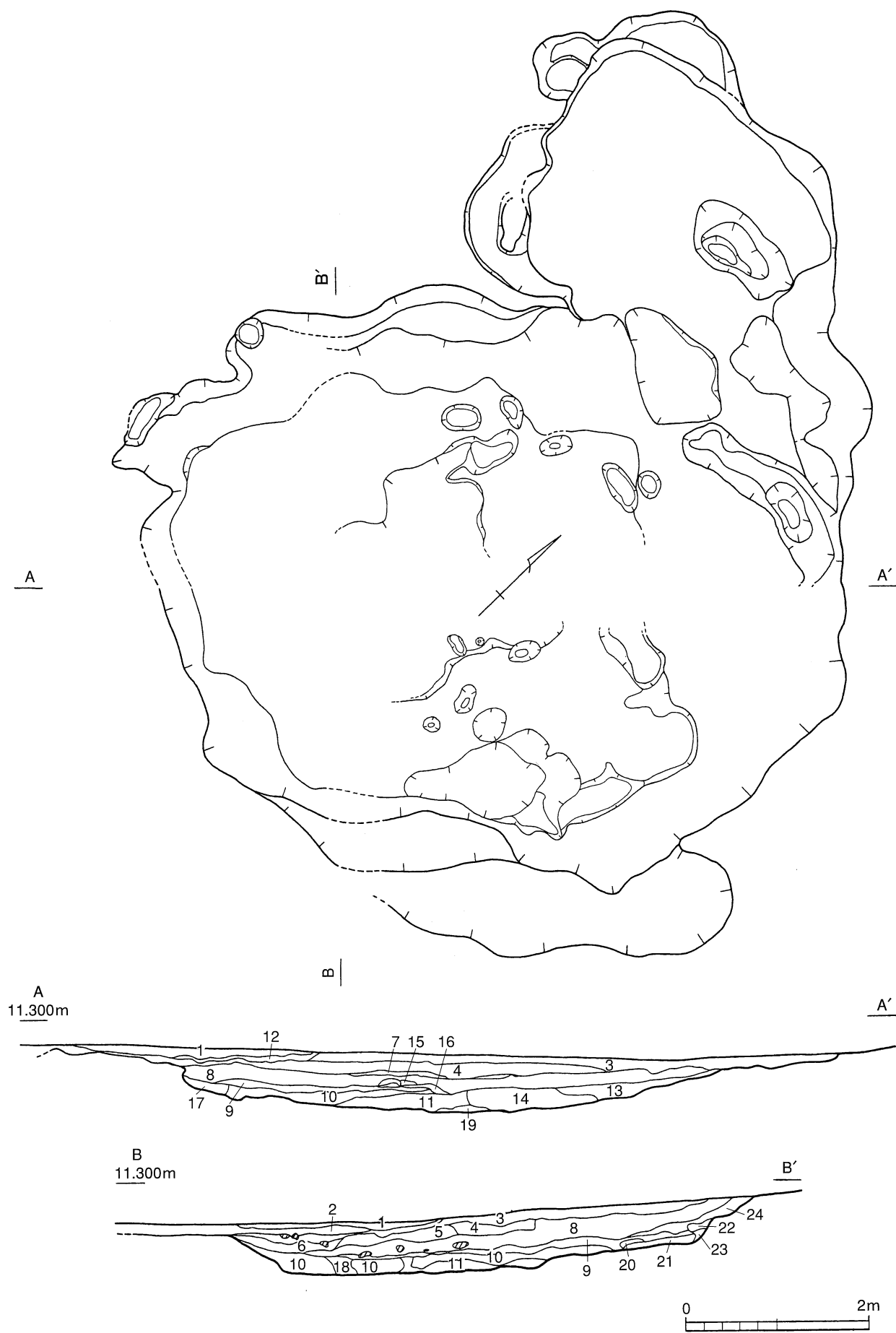


第98图 B区 SE 6 出土土器实测图 (S=1/4)

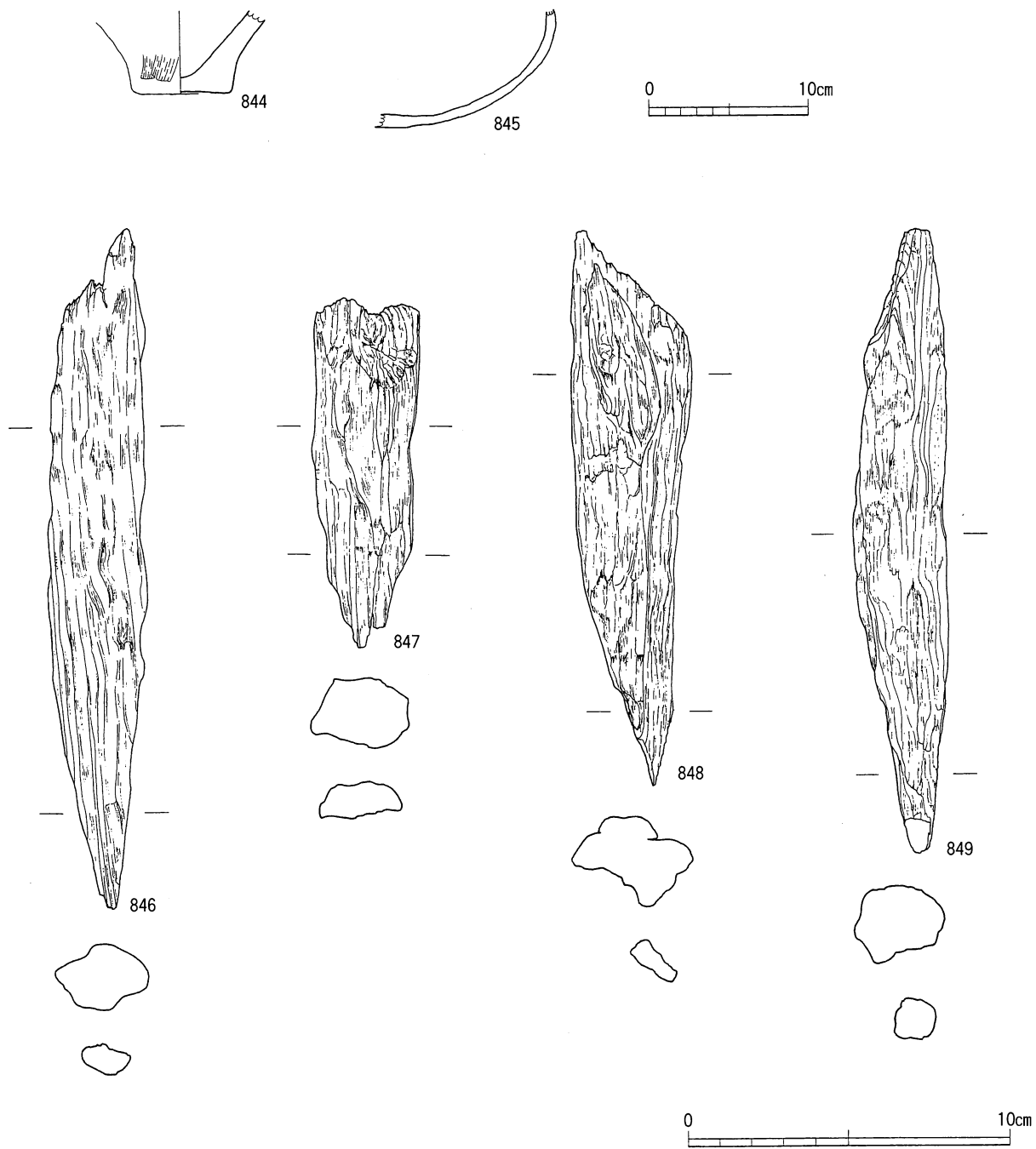


第99図 B区 SE 6 出土遺物実測図 (828~838 S=1/4、839~842 S=1/3、843 S=1/2)

長い胴部が内湾しながらのびる。頸部がくびれて短い口縁部が外に開く。胴部中位程に最大径をもつ。外面には縦方向の工具ナデ、内面はナデで指頭痕が残る。外面の胴部下位から口縁部にはススが付着する。817も長胴の甕と思われる。内湾する胴部がのび、頸部にくびれをもって短い口縁部が外に大きく開く。外面には縦方向の工具ナデ、内面には横・斜方向の工具ナデが見られる。外面には全体にススが付着する。818は長胴の甕で、小さな平底を呈する。胴部中位にやや膨らみをもって内湾する胴部がのび、頸部にくびれをもたずに口縁部が直口する。外面は縦方向の工具ナデ、内面は横方向の工具ナデで、外面胴部中位から下位にススが付着している。819は内湾する胴部から頸部にくびれをもたずに口縁部が直口する。内外面ともナデで、内面には粘土の継目が残る。820は直線的にのびる胴部から頸部にくびれをもたずに口縁部が外に大きく開く。内外面ともナデ仕上げで、外面胴部にはススが若干付着する。821はあまり胴部が張らずに、若干頸部にくびれをもった甕である。外面は斜方向の工具ナデで、内面はナデで粘土の継目が残る。822~824は底部である。822は平底で裾に若干のくびれをもつ。底に葉脈痕が残る。823は平底で裾にくびれをもたずに直線的に胴部が立ち上がる。内外面とも工具ナデで、底には葉脈痕が残る。824は丸底気味で、底部に若干の厚みをもつ。砲弾型の器形を呈する甕の底部か。



第100图 A区1号竖穴状遺構 (SZ1) 実測図 (S=1/60)



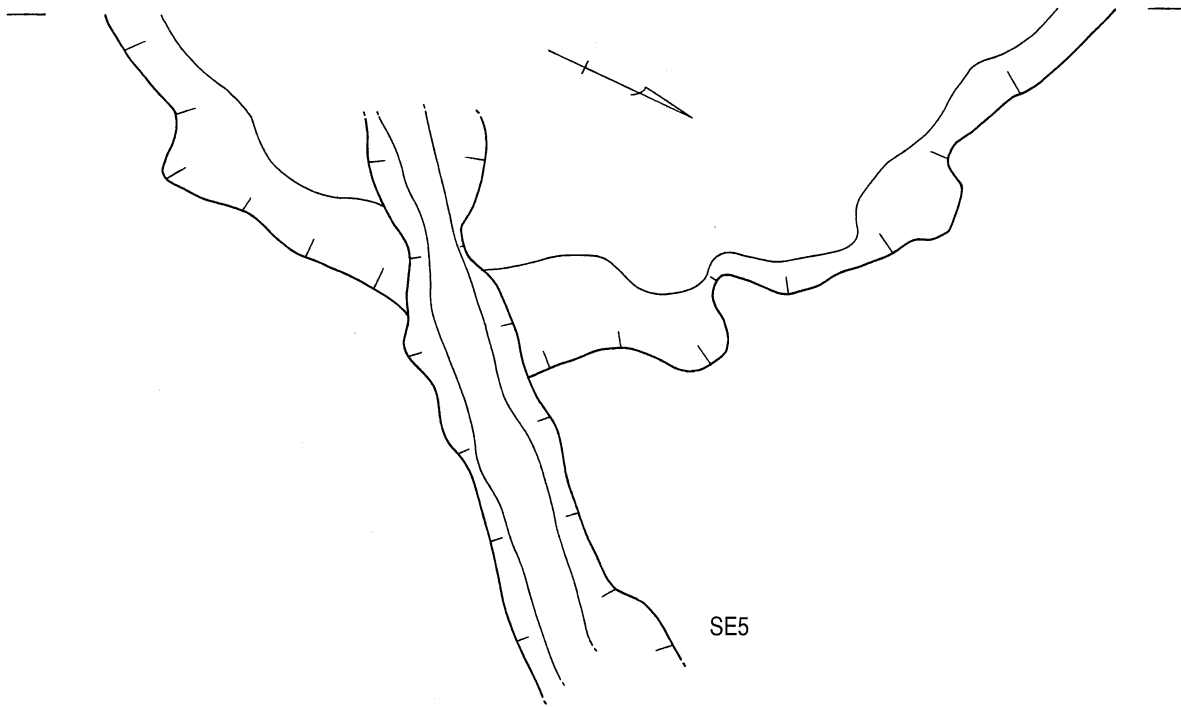
第101図 A区包含層出土土器(844 S=1/4)及びSZ1出土遺物実測図(845 S=1/4、846~849 S=1/2)

A区 SZ1土層注記

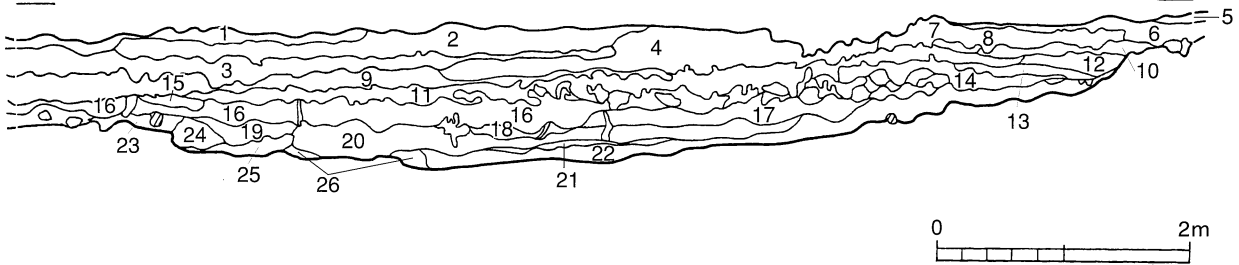
- 1 黒褐色(10Y R3/1)シルト質土
- 2 青黒色(10B G1.7/1)シルト質土
- 3 黒褐色(10Y R3/1)シルト質土
- 4 緑黒色(10G 2/1)シルト質土
- 5 青黒色(5B G2/1)シルト質土
- 6 黄灰色(2.5Y 4/1)粘質土
- 7 灰オリーブ色(5Y 5/2)シルト質土混
緑黒色(5G 2/1)シルト質土
- 8 灰色(10Y 4/1)粘質土
- 9 青黒色(10B G1.7/1)粘質土
- 10 青灰色(10B G6/1)粘質土

- 11 黄色(2.5Y 7/8)粘質土混
明青灰色(10B G7/1)粘質土
- 12 黒褐色(10Y R3/1)シルト質土
- 13 オリーブ黄色(5Y 6/4)粘質土
- 14 黄色(2.5Y 7/8)粘質土混
明青灰色(10B G7/1)粘質土混
青灰色(10B G5/1)粘質土
- 15 暗青灰色(10B G3/1)粘質土
- 16 青灰色(10B G5/1)粘質土
- 17 緑灰色(10G Y6/1)粘質土
- 18 明緑灰色(10G Y7/1)粘質土
- 19 青灰色(10B G5/1)粘質土

- 20 緑灰色(10G Y5/1)粘質土
- 21 ややにぶい明緑灰色(10G Y8/1)粘質土
- 22 明緑灰色(10G Y7/1)粘質土
- 23 明緑灰色(10G Y8/1)粘質土
- 24 緑灰色(10G Y5/1)粘質土



11.300m



- | | |
|--|--|
| <p>1 客土</p> <p>2 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 土～硬質。やや粘性があり、明褐色 (7.5YR5/8) 砂粒・白色粒・炭化物粒を若干含む。鉄分斑が多く入る。</p> <p>3 灰色 (10YR4/1) 土～硬質。やや粘性があり、明褐色 (7.5YR5/8) 砂粒・炭化物粒を少量、白色粒をやや多く含む。鉄分斑が入る。</p> <p>4 暗緑灰色 (10GY4/1) 土～硬質。多量の白色粒、少量の黄褐色 (10YR5/6) 粒、若干の鉄分・炭化物粒を含む。</p> <p>5 暗緑灰色 (7.5GY4/1) 土～硬質。やや粘性があり、黄褐色 (10YR5/8) 砂岩 (1 cm程) を含む。</p> <p>6 青黒色 (5 BG2/1) 粘質土～硬質。多量の黄褐色 (10YR5/8) 砂岩 (1～2 cm程)、若干の白色粒 (1～2 mm程) を含む。鉄分斑が入る。</p> <p>7 暗緑灰色 (10G4/1) 粘質土～硬質。明褐色 (7.5YR5/8) 砂粒 (1～5 mm程)、若干の白色粒を含む。</p> <p>8 明褐色 (7.5Y5/8) 粘質土～やや硬質。青灰色 (5 B6/1) 粘質土・鉄分粒・炭化物粒を若干含む。</p> <p>9 灰色 (10YR4/1) 粘質土～やや軟質。白色粒・炭化物粒・鉄分斑を若干含む。</p> <p>10 明褐色 (7.5Y5/8) 粘質土～やや硬質。青灰色 (5 B6/1) 粘質土・鉄分粒・炭化物粒・オリーブ砂岩礫を若干含む。</p> <p>11 明褐色 (7.5YR5/8) 粘質土～やや硬質。暗灰色 (N3/) 粘質土ブロックを若干含む。鉄分斑が多く入る。</p> <p>12 青灰色 (5 B6/1) シルト質土～やや軟質。オリーブ砂岩 (1～3 cm程) を多く含む。</p> <p>13 明褐色 (7.5YR5/8) 粘質土～やや軟質。黄褐色 (10YR5/6) 砂岩粒とオリーブ色 (5Y5/6) 砂岩を若干含む。鉄分斑が多く入る。</p> | <p>14 明緑灰色 (10GY7/1) 粘質土～硬質。灰白色岩礫 (1 cm程) を多量に含む。鉄分筋が入る。</p> <p>15 暗緑灰色 (5 G3/1) 粘質土～やや軟質。明褐色 (7.5YR5/8) 砂粒・オリーブ灰色 (5 GY6/1) 砂粒を若干含む。鉄分筋が見られる。</p> <p>16 暗灰色 (N3/) 粘質土～軟質。若干の白色粒土粒 (1 mm程)、多量の明黄褐色 (10YR6/8) 粘土粒 (0.5～2 mm程) を含む。鉄分筋が若干入る。</p> <p>17 青黒色 (5 B2/1) 粘質土～非常に軟質。オリーブ色 (5 Y5/6) 粘土粒 (0.5～1 cm程) を多量に含む。</p> <p>18 青黒色 (10BG2/1) 粘質土～硬質。オリーブ色 (5 Y5/6) 粘土粒・鉄分粒を若干含む。</p> <p>19 暗緑灰色 (10G3/1) 粘質土～やや軟質。黄褐色 (10YR5/6) 粘土粒 (1 cm程)・鉄分を若干含む。</p> <p>20 青黒色 (5 BG2/1) 粘質土～非常に軟質。若干の白色粘土粒 (1 mm程)、植物遺体を含む。</p> <p>21 青黒色 (5 BG2/1) 粘質土～非常に軟質。植物遺体を含む。</p> <p>22 暗青灰色 (5 B4/1) 粘質土～非常に軟質。青灰色 (5 B6/1) 粘質土ブロックを若干含む。</p> <p>23 明黄褐色 (2.5Y7/6) シルト質土～しまりあり。多量に鉄分を含む。</p> <p>24 黄褐色 (10YR7/8) 粘質土～しまりあり。若干の白色砂岩粒 (1～5 mm程)、オリーブ色 (5Y5/6) 粘土粒 (1 mm程) を含む。</p> <p>25 緑灰色 (10G6/1) 粘質土～軟質。多量の黄褐色 (10YR5/6) 粘土、若干の植物遺体を含む。</p> <p>26 緑灰色 (5 G6/1) 粘質土～軟質。炭化物粒を少量含む。</p> |
|--|--|

第102図 A区2号竪穴状遺構 (SZ2) 実測図 (S=1/60)

底には工具の圧痕が残る。外面は工具ナデとナデ、内面はナデである。825～827は甑である。825は底部に大きな一孔をもち、胴部はやや開き気味に立ち上がり、胴部上位で直行して口縁部はやや外反する。胴部中位程に把手が付く。内外面とも指ナデで、指頭痕が多く残る。826と827は同一個体と思われる。底部に大きな一孔をもち、丸味をもった胴部が立ち上がり、ややくびれて口縁部は外反する。内外面ともナデで粘土の継目が著しく残る。828は壺の底部である。厚みのある平底を呈する。829は小型土器の壺の底部と思われる。平底を呈する。830～834は高坏である。830は、坏部は坏底部と口縁部との間に明瞭な稜をもたずに立ち上がり、口縁端部は外反する。脚部は短く、脚柱部と裾部との間に稜をもたずに「ハの字」状に開く。内外面ともナデである。831は坏部である。坏底部と口縁部との間に稜をもたず碗状を呈して口縁端部は外反する。内外面とも風化しているが、外面はナデ、内面はミガキがみられる。832は坏底部である。碗状を呈する坏部になると思われる。内外面ともミガキである。833は短く、「ハの字」状に開く脚部であるが、裾部が若干膨らむ。834は脚柱部で、「ハの字」状に開く脚柱部から若干の稜をもって裾部が広がる器形を呈すると思われる。外面は工具ナデ、内面は粗い工具ナデと指ナデである。835は内外面とも丹塗りが施された碗である。内外面とも横ミガキである。836と837は鉢の口縁部か？836は外面はナデ、内面は丁寧な横ミガキである。837は内外面ともナデである。838は脚付き坏か？

839～842は須恵器である。839は平瓶か壺か？器種の決め手となる部位の欠損で特定は出来ないが、次のような状況が確認できる。天井部はふさがると思われ、外面にはオリーブ灰色の自然釉が上部に付着し垂れている。しかし天井部がふさがっているにも拘らず内面の底部にも自然釉の付着がみられる。外面底部はヘラ削り、その他の内外面はヨコナデである。840と841は坏蓋である。どちらも天井部と体部との境に稜をもたず、天井部外面はヘラ削り後ナデ、その他の内外面はナデである。840は焼成不良である。842は坏身である。たちあがり部は短く、端部はやや鋭い。受部は上方を向き、端部はやや鋭くおさめている。底部外面はヘラ削り、その他の内外面は丁寧なナデが施される。

843は鉄器である。2個体の鉄鏃が重なっているものと思われる。

(2) 竪穴状遺構 (SZ)

A区西側に2基 (SZ 1・2) 検出された。北西—南東の緩傾斜に立地し、泥炭層を覆土とする溜井状の遺構である。遺構の詳細については後述するが、遺構埋土における放射性炭素年代測定、テフラ分析、花粉分析、植物珪酸体分析の結果からは次のことが推定されている。

遺構底部付近の泥炭層において放射性炭素年代測定及びテフラ分析を行った。年代測定においてはAD895年頃の結果が出ている。また、テフラ分析では1471年に降下したとされる桜島起源の文明軽石が確認され、遺構構築年代は1471年を遡る結果が出ている。

花粉分析や植物珪酸体分析の結果からみる遺構の特徴とその周辺の環境については次のとおりである。遺構内にはイネ科、カヤツリグサ科、ガマ属—ミクリ属、オモダカ属、ギシギシ属などの水湿地植物が生育していた。遺構周辺はヨモギ属とススキ属やチガヤ属などのイネ科が優占することから、ヨモギ属の好むやや乾燥した畑地や集落などの環境と水田とが分布し、また、周辺にはシイ類、カシ類の照葉樹を主に二葉松類が疎林か遠方で森林として分布していたことが推定される。

SZ 1 (第100図)

SZ 1はA区北西部の緩傾斜地に位置する。明黄褐色粘質土(第Va")層上面で検出した不定形の竪穴状遺構である。遺構北側の突出部は浅い窪みで、本体は南側の長軸約8.4m、短軸約6.5m、検出面からの深さ約0.6mの不定円形プランの落ち込みである。覆土は上層から黒褐色シルト質土、青黒色シルト質土、灰色粘質土、青灰色粘質土がレンズ状に堆積し、底部は青黒色の泥炭層状になっている。また、埋土中には植物遺体や鉄分粒(筋)が多くみられ、遺構の中は湿地状態にあったことが推測される。遺構の性格については不明であるが、傾斜地に位置することから上方から流れてくる雨水などを貯える機能を持つことが考えられる。しかし、遺構につながる水の取り入れや引き出しをする遺構などは確認されていない。

遺構の築造年代は平安時代から中世の時期が考えられるが、それに伴う遺物は出土していない。遺物は古墳時代のものと思われる土師器片や時期不明の磨石、スクレイパー、台石などの石器、木杭状の加工材?等が出土している。

出土遺物は第101図に示している。845は土師器で肩の張った壺の底部付近か。846~849は木杭状の加工材と思われる。材質はいずれも二葉松類である。

SZ 2 (第102図)

SZ 2はA区の西壁際に位置する。明黄褐色粘質土(第Va")層上面で検出し、調査区の関係上遺構半分の調査となった。調査した範囲で長軸約8m、検出面からの深さ約0.3mを測り、SZ 1と同じく不定円形プランを呈するものと思われる。覆土もSZ 1と同じ植物遺体と鉄分粒を多く含むシルト質土や粘質土で、遺構底部には泥炭層がある。遺構の東側はSE 5と切り合っているが、遺構に伴うものであるか、SZ 2より新しいものであるかは不明である。土層断面においても明瞭な切り合いは確認できない。

(3) 土坑(SC)

土坑はB区で8基確認されている。

SC 1 (第103図)

SC 1は、B区の西側に位置する。長軸約1.2m、短軸約1.1m、検出面からの深さ約20cmの不定円形プランを呈する。検出面は第IV層の明黄褐色砂質土で、黒褐色砂質土が埋土として堆積している。埋土中からは縄文土器や石器、土師器小片、焼け石等が出土しているが、流れ込みの可能性が強く、時期不明である。

SC 2 (第103図)

SC 2は、B区のほぼ中央部、北西-南東に走るSE 6の北側に位置する。長軸約1.14m、短軸約0.9m、検出面からの深さ約20cmの楕円形プランを呈する。検出面は第IV層の明黄褐色砂質土で、埋土は黒褐色砂質土である。出土遺物はなく、時期不明である。

SC 3 (第103図)

SC 3は、B区のSE 6を挟んでSC 2と対岸に位置する。長軸約1.05m、短軸約1 m、検出面からの深さ約10cmの不定円形プランを呈する。この土坑は縄文時代の集石遺構(SI 3)を壊して作られているため、埋土中から10~15cm程の赤化した礫が多く出土している。遺構検出面は第IV層の明黄褐色砂質土で、埋土は黒褐色砂質土である。出土土器が無いため時期は不明である。

SC 4 (第103図)

SC 4はB区中央部、第IV層の明黄褐色砂質土面で検出している。長軸約1.5m、短軸約1.32m、検出面からの深さ約27cmの不定円形プランを呈する。埋土は黒褐色砂質土で、埋土中からは赤化した礫数点と弥生や土師器の土器小片が数点出土しているが、流れ込みの可能性が高く、時期決定はできない。

出土遺物は第103図に示している。850は弥生土器の甕の口縁部である。口縁端部外面に断面三角形の突帯を貼り付けて口縁部を形成している。内外面ともナデ仕上げである。851は土師器甕の胴部である。直線的な胴部から口縁部が大きく外反する器形を呈する。内外面ともナデ仕上げで、粘土の継目が器面に残る。

SC 5 (第104図)

SC 5はB区の中央北側付近に位置し、北側の一部をSE 2に切られたかたちでII層下位で確認している。直径1.9mの円形プランを呈するものと思われる。検出面から床面までの深さは約24cmを測り、底面積2.2m²である。なおSC 5からSC 7にかけてはSA 2上に構築されている。遺構全体に被熱を受け、赤化している。埋土は3層に分かれ、下の2層中に約0.5m~3 mの大きさの軽石・小石を含み、特に中位に集中し、赤化が著しい。軽石の中には、自然釉が付着するものもみられる。遺物うち土器については底面直下で土器片が出土しているが、その大半は、その下に構築されているSA 2の遺物と接合している。

その中で出土遺物を第103図に示している。852は土師器の高坏の坏部である。坏底部と口縁部の間に明瞭な稜をもつ。内外面ともナデ仕上げである。

SC 6 (第104図)

SC 6はSC 5より南に1.5mに位置し、II層下位で検出している。SC 5同様、被熱を受け、赤化している。長径1.3m×短径1.15mの楕円形プランを呈する。検出面からの床面までの深さは約24cmを測り、底面積0.6m²である。埋土はSC 5同様の埋土をもつ。遺物のうち土器については底面直下で土器片が出土しているが、その大半はSA 2の遺物と接合している。

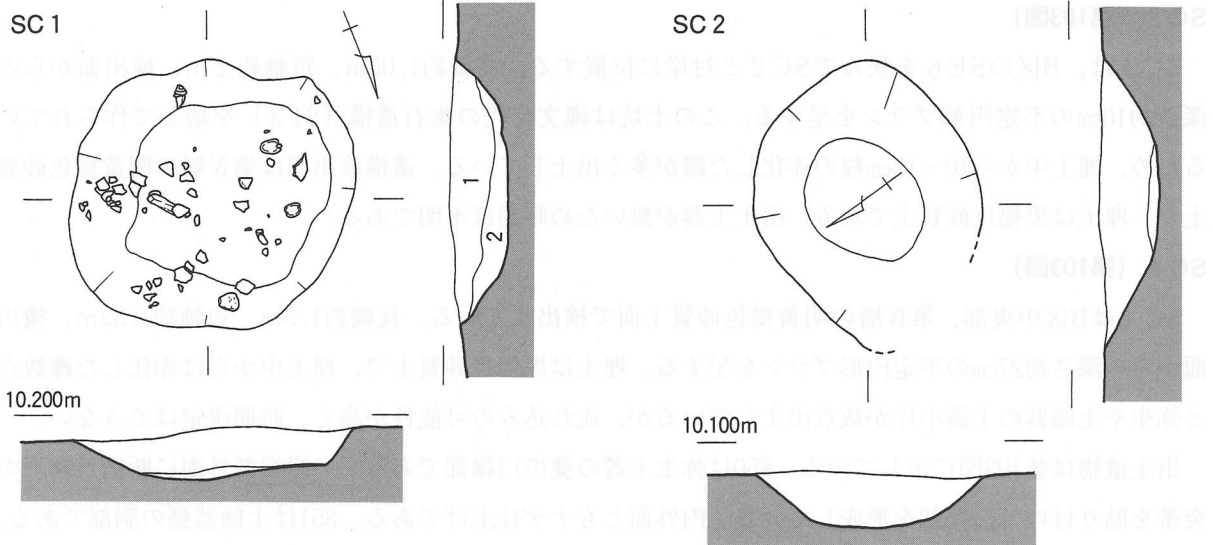
その中で出土遺物は第103図に示している。853~855は土師器である。853は甕の頸部から胴部で、口縁部に最大径をもつ器形を呈すると思われる。854は上げ底を呈する甕の底部である。外面には工具による縦ナデ仕上げがみられる。855は高坏の坏底部~脚部である。内外面ともナデ仕上げである。

SC 7 (第104図)

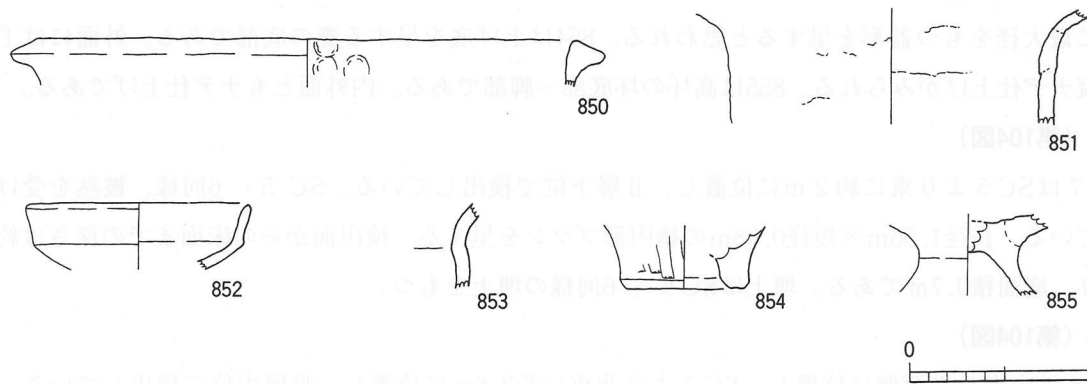
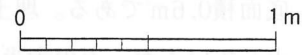
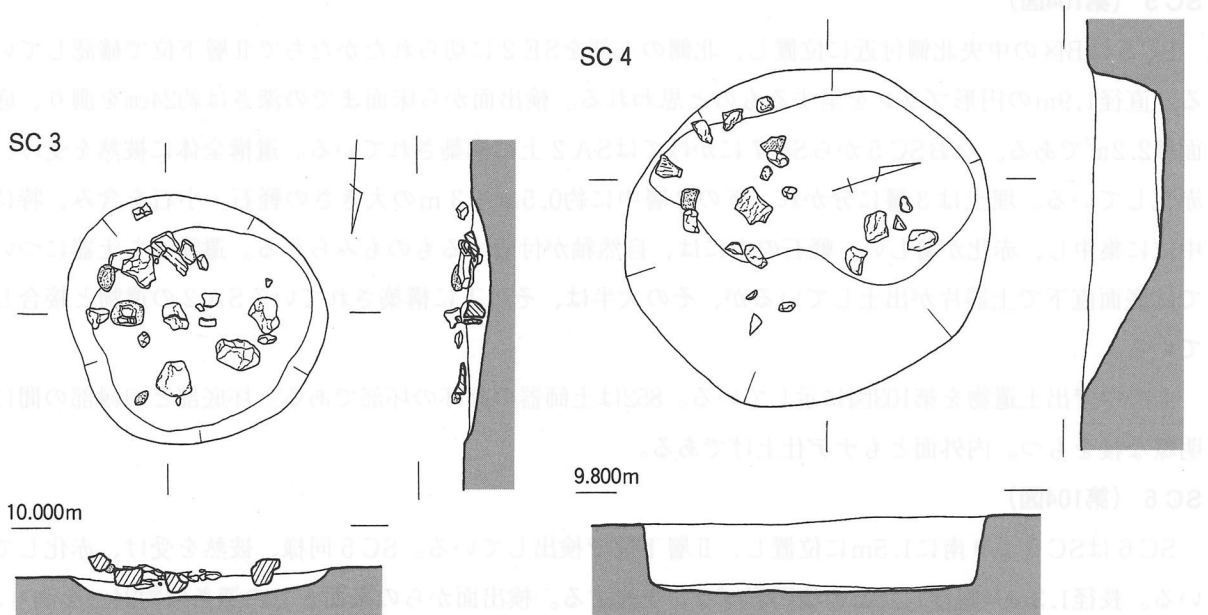
SC 7はSC 5より東に約2 mに位置し、II層下位で検出している。SC 5・6同様、被熱を受け、赤化している。長径1.56m×短径0.88mの楕円形プランを呈する。検出面からの床面までの深さは約20cmを測り、底面積0.7m²である。埋土はSC 5・6同様の埋土をもつ。

SC 8 (第104図)

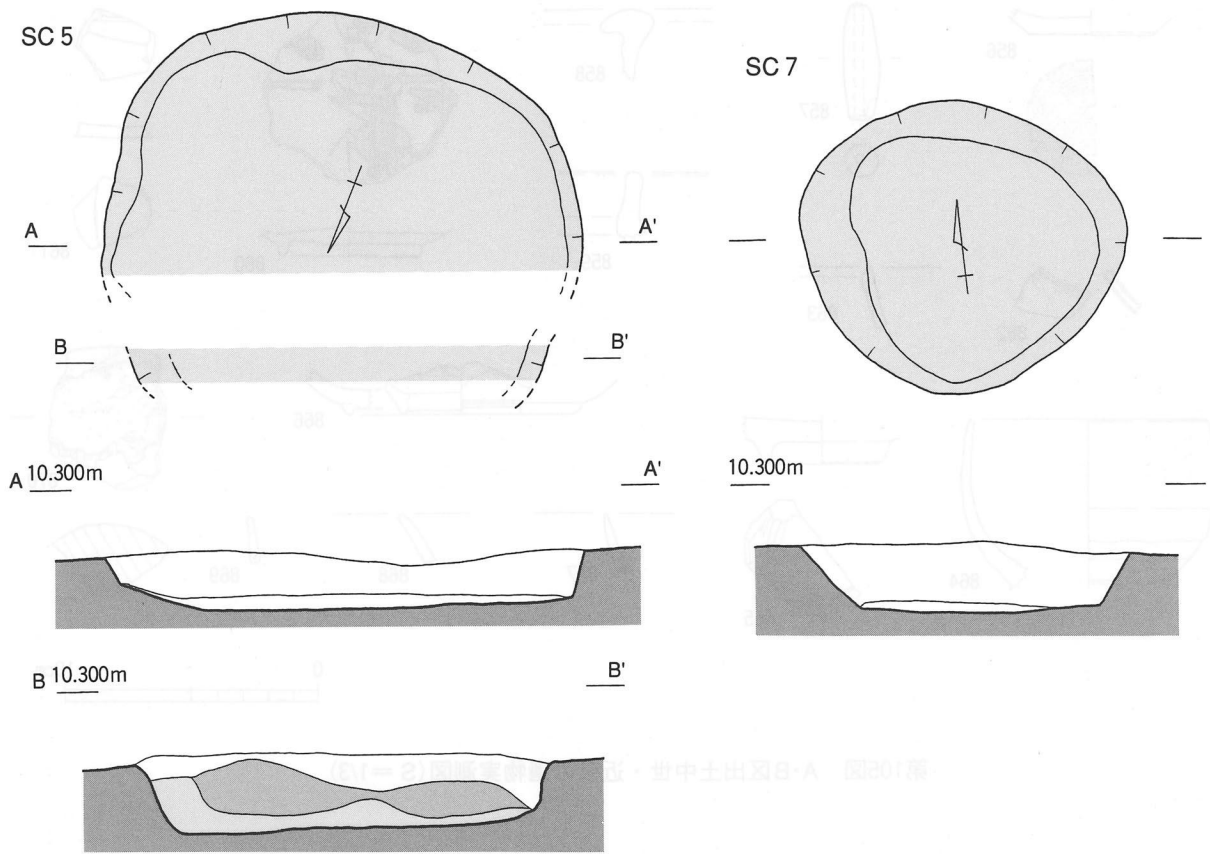
SC 8は中央やや西側に位置し、SC 7より北東に約3.6mに位置し、III層中位で検出している。長径



- 1 黒褐色 (7.5YR3/1) 砂質土～しまりあり。粗粒土でガラス粒 (1mm程) を多量に含む。
- 2 黒褐色 (7.5YR3/2) 砂質土～細粒土でしまりあり。



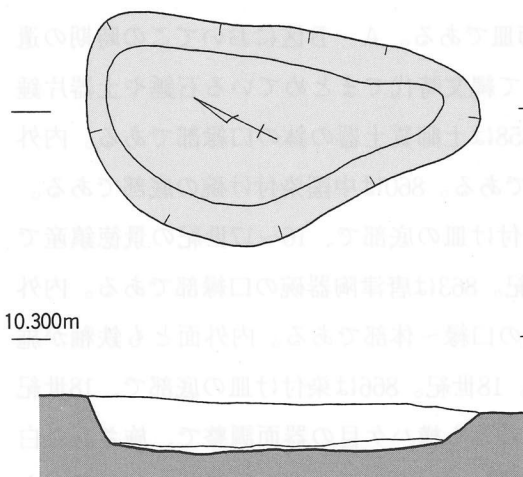
第103図 B区SC1～4実測図(S=1/30)及びSC4～6出土遺物実測図(S=1/4)



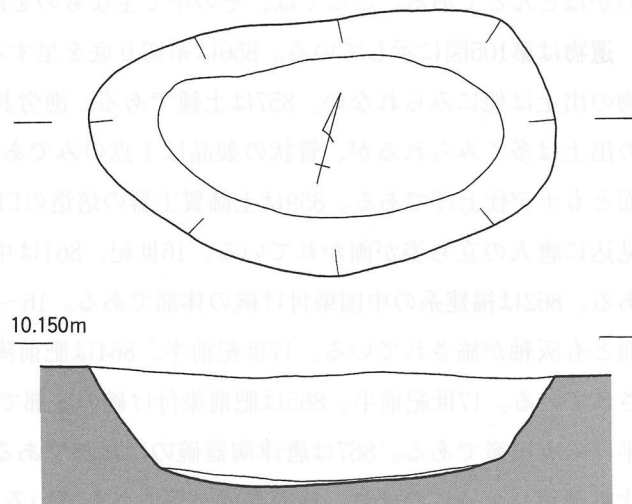
SC 5

- 1 黒色(7.5YR2/1)砂質土～やや軟質で若干しまりがある。小石、炭化物粒等を含む。
- 2 赤褐色(5YR4/6)砂質土～やや軟質。火を受け赤変している。軽石(0.5mm～3cm)や小石を多量に含む。
- 3 極暗赤褐色(5YR2/4)砂質土～やや軟質。やや赤変している。軽石や小石を若干含む。

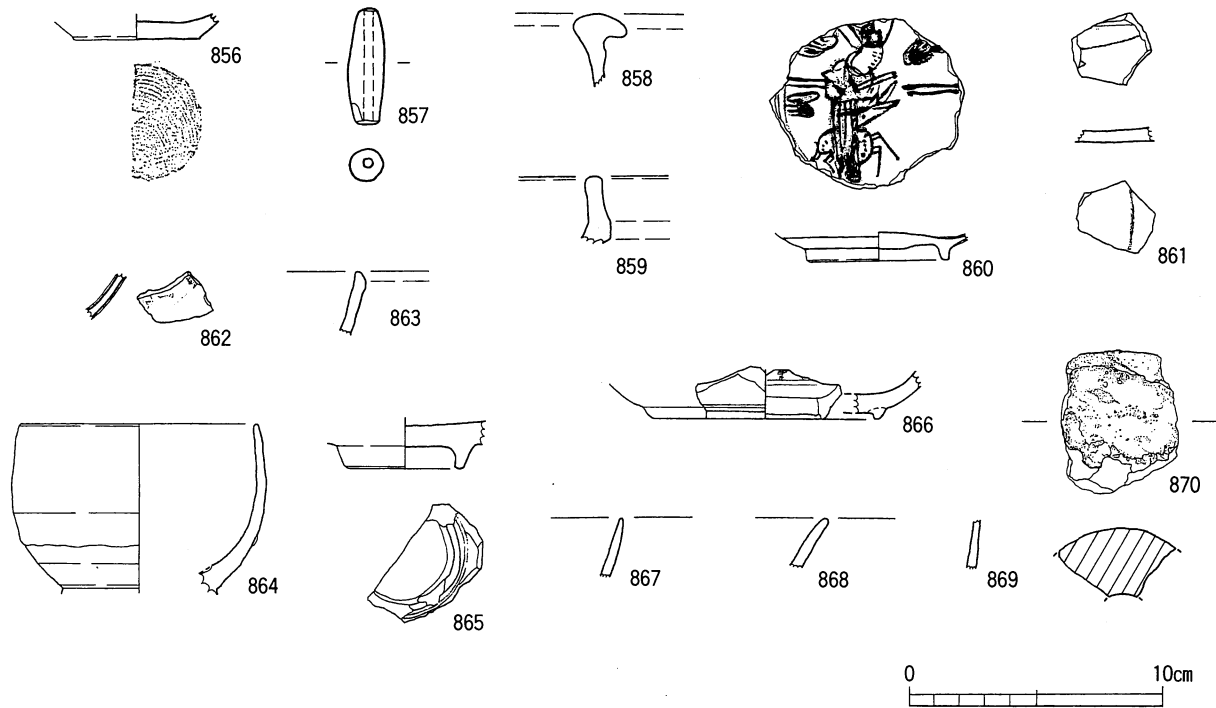
SC 6



SC 8



第104図 B区 SC 5～8 実測図(S=1/30)



第105図 A・B区出土中世・近世の遺物実測図(S=1/3)

1.88m×短径1mの楕円形プランを呈する。検出面からの床面までの深さは約44cmを測り、底面積0.7㎡である。埋土は一層でやや粘質のある暗褐色砂質土が堆積している。遺物等は出土していない。

6. 中・近世の出土遺物

A・B区において中・近世以降の遺構と推定されるものはSE1～4・6である。この時期の出土遺物は少なく、SE1やSE4から数点の陶磁器片が出土し、その他の遺物は、表採もしくは攪乱内のものがほとんどである。ここでは、その中で主なものを記述する。

遺物は第105図に示している。856は糸切り底を呈する土師皿である。A・B区においてこの時期の遺物の出土は他にみられない。857は土錘である。漁労具として縄文時代でまとめている石錘や土器片錘の出土は多くみられるが、管状の製品は1点のみである。858は土師質土器の鉢の口縁部である。内外面ともナデ仕上げである。859は土師質土器の焙烙の口縁部である。860は中国染付け碗の底部である。見込に唐人の立ち姿が画かれている。16世紀。861は中国染付け皿の底部で、16～17世紀の景德鎮産である。862は福建系の中国染付け碗の体部である。16～17世紀。863は唐津陶器碗の口縁部である。内外面とも灰釉が施されている。17世紀前半。864は肥前陶器碗の口縁～体部である。内外面とも鉄釉が施されている。17世紀前半。865は肥前染付け碗の底部である。18世紀。866は染付け皿の底部で、18世紀半ばの有田産である。867は唐津陶器碗の口縁部である。内外とも横ハケ目の器面調整で、施された白化粧釉がハケ目にたまり、横縞模様が形成されている。18世紀。868は小代窯産の陶器碗の口縁部である。18～19世紀。869は白薩摩の生地で作られた陶器碗の体部である。17～18世紀。870は土製のフイゴの羽口である。復元すると径が約6.5cm程になると思われ、外面にはガラス質の自然釉が付着している。

7. 石器

A・B区で出土した石器は総数2,491点である。このうち152点については、実測図と観察表で記載した。出土石器の器種ごとの内訳は石鏃36点、局部磨製石鏃6点、尖頭器3点、石匙9点、石錐3点、スクレイパー126点、楔形石器4点、二次加工剥片83点、使用痕剥片253点、剥片980点、碎片183点、石核22点、礫器18点、打製石斧5点、磨製石斧22点、磨石66点、敲石21点、凹石179点、砥石63点、有溝砥石2点、石皿10点、台石62点、石錘310点、異形石器1点、石棒2点、管玉1点、勾玉3点、軽石製品26点である。大半は縄文時代に属するものと思われるが、前述したとおり、弥生時代以降の遺構内出土のものも多く、磨石・敲石・凹石等のように礫石器の一部は継続的に存続するものもみられ、時期を特定できないものもある。このことから、一括して説明していきたい。

打製石鏃（第106図871～881）

打製石鏃はA・B区合わせて36点（そのうちA区は1点）出土しており、そのうち11点を図化した。利用石材は頁岩が16点と多く、次に黒曜石が7点（そのうち姫島産1点、桑ノ木津留産1点）、チャート7点、砂岩5点、珪岩1点である。そのうち他の時期の遺構内に流れ込んだものは、12点である。

打製石鏃は平面形態によって、正三角形（Ⅰ類）と二等辺三角形（Ⅱ類）に分けられ、基部形態より平基のもの(a)、凹基で抉りの浅いもの(b)、凹基でい抉りの深いもの(c)に細分できる。なお、抉りの浅い・深いについては、便宜上、最大長に対して抉りの深さが1/3以上を深いものとした。またⅠaについては出土していない。

Ⅰb類（871・872）は、B区で3点出土し、そのうち2点図化した。利用石材は頁岩2点、姫島産黒曜石1点である。3点とも側縁部は直線的であるが、弧状（871）や浅いU字状（872）の抉りを作り出す。脚部は、先端を尖らすもの（871）や丸みをつけるように作り出すもの（872）がみられる。

Ⅰc類（873）は、B区で2点出土し、そのうち1点図化した。利用石材は頁岩1点、珪岩1点である。873は側縁部がやや外湾し、抉りはV字状を呈する。脚部は若干角張るように作り出している。もう1点も似た形状を呈するが、抉りをU字状に作り出している。

Ⅱa類（874）は、B区で7点出土し、そのうち1点図化した。利用石材はチャート5点、頁岩2点である。欠損品が多く、完形なものは2点のみである。874のように縁周に加工を施すものと全面に加工がおよぶものがみられる。側縁部は、874のように外湾するものや直線的なもの等がみられる。

Ⅱb類（875～879）は、A（879）・B区合わせて17点と最も多く、そのうち5点図化した。利用石材は頁岩6点、黒曜石6点（そのうち桑ノ木津留産1点）、チャート1点、砂岩4点である。加工は縁周に施すもの（876・877）と全面におよぶもの（875・878・879）がみられる。側縁部は、直線的に作り出すもの（876～878）や外湾するもの（875・879）がみられる。ただし、側縁部の作り出しが左右対称をなさないものも多い。また878のように側縁部が鋸歯状を呈するものもみられる。抉りは弧状（875・876）やU字状（877・878）に作り出すものが多くみられ、他にV字状（879）に作り出すものも少量みられる。脚部は先端が尖らすもの（876・879）や角張るもの（877・878）、丸みをつけるものがみられる。中には、876のように脚の長さが対称でないものもみられる。

Ⅱc類（880・881）は、B区で2点出土し、すべて図化した。利用石材は黒曜石1点、頁岩1点である。880は、側縁部が内湾し、脚部は丸みを帯び、抉りはU字形を呈する。881は、側縁をやや外湾させ、

脚部はやや角張り、挟りはU字形を呈する。

その他に欠損により平面形態もしくは基部形態、またはその両方が不明なものが4点出土している。利用石材は頁岩3点、チャート1点である。そのうちⅡ類に当てはまるものが1点、a類に当てはまるものが1点である。また、未製品が1点（頁岩）出土している。

局部磨製石鏃（第106図882～884）

局部磨製石鏃は6点出土しており、そのうち3点図化した。利用石材は頁岩5点、砂岩1点である。分類方法は、打製石鏃の分類に準じた。なお、平面形態がⅠ類のものや基部形態がc類のものはみられない。

Ⅱa類（882）は頁岩製で1点出土し、図化を行った。側縁部は直線的に作り出し、片面中央が研磨が施されている。

Ⅱb類（883・884）は5点出土し、そのうち2点図化している。利用石材は、頁岩4点、砂岩1点である。側縁部は直線的に作り出すものや外湾させるもの（883・884）がみられ、両面中央（883・884）や片面中央に研磨が施されるものがみられる。また中には欠損品に再加工を施し、研磨しているものもみられる。

尖頭状石器（第106図885～887）

尖頭状石器は3点（A区1点、B区2点）出土しており、すべて図化した。利用されている石材は、頁岩（885）、黒曜石（886）、流紋岩（887）である。平基の石鏃に似るが、断面が石鏃と比べ分厚く、重量も石鏃の約2倍以上の重さがある。背面は全面（885・886）もしくは側縁および先端（887）に加工が施されるが、腹面はすべて側縁および先端部にのみ加工がみられる。なお、887は先端部が欠損しているため石錐の可能性もある。

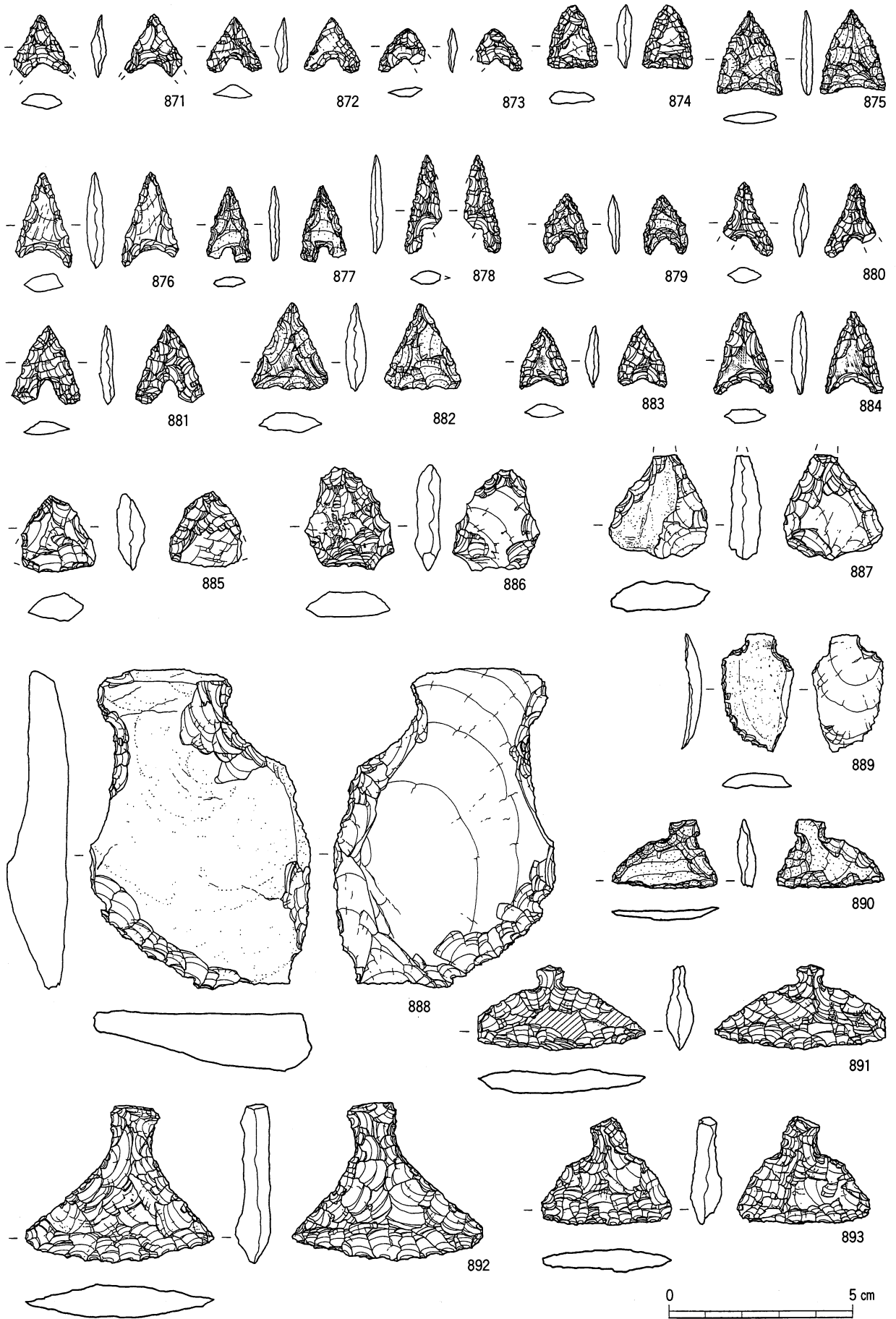
石匙（第106図888～893）

石匙は9点出土しており、そのうち6点図化した。1点のみA区出土で、他はB区出土である。利用石材は、頁岩2点、チャート2点、石英2点、黒曜石1点、砂岩1点、珪岩1点である。

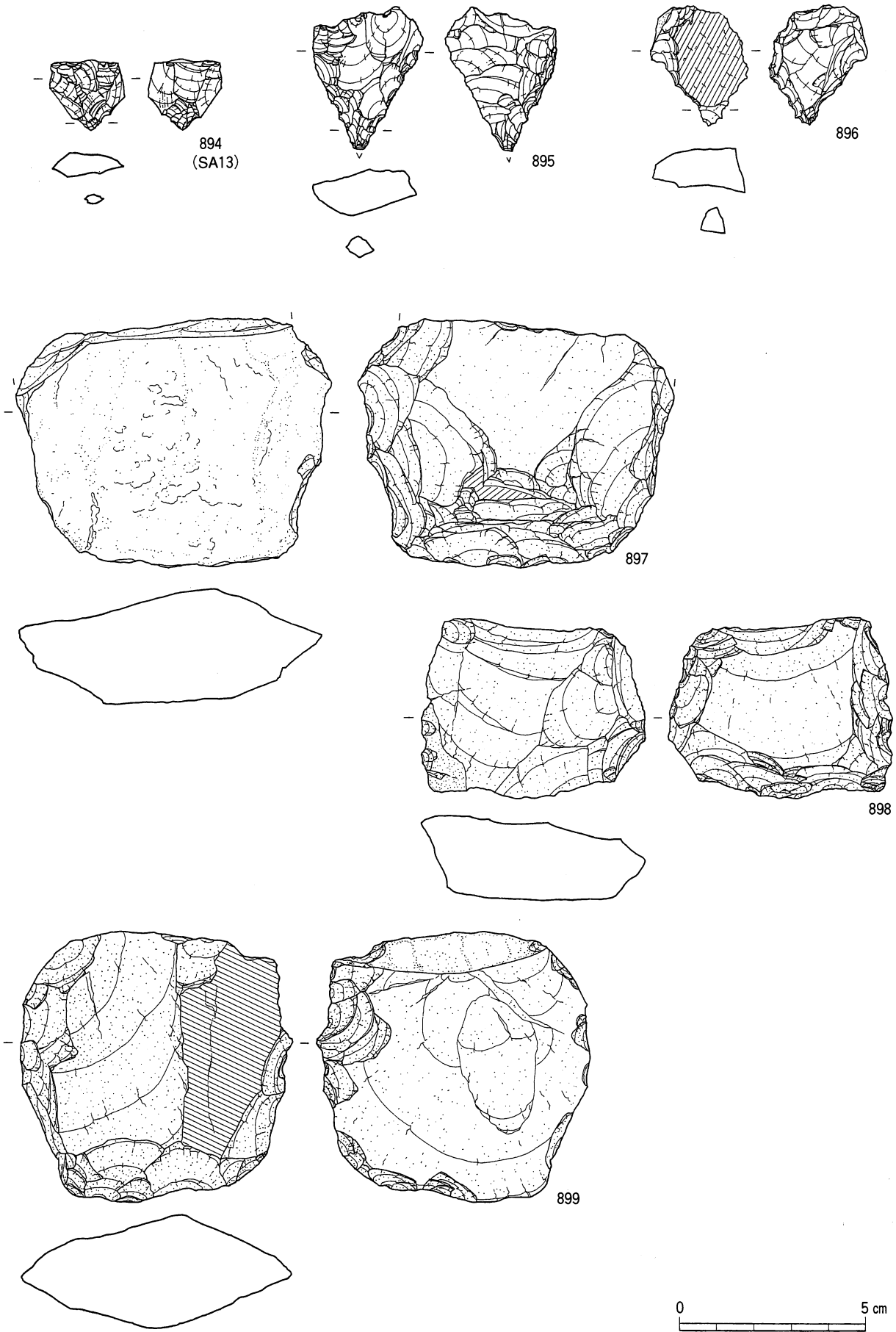
形態によって、縦型（Ⅰ類）と横（Ⅱ類）に分けられる。

Ⅰ類（888・889）は、B区で2点出土していて、すべて図化した。利用石材は頁岩（888）と砂岩（889）である。両方とも自然面を残し、888は素材の横長の剥片の打面を横位に置き、一端を両面から挟入状に加工を施し、つまみ部を作り出している。左下側縁は両面より加工を施して刃部を作り出しているのに対し、右側縁は主に背面より加工を行っているが、打面部分が分厚く刃部を作り出せていない。889は薄い縦長の剥片を素材として、両面からの加工により打面を除去し、つまみ部を作り出す。また左側縁部には腹面より加工を施して刃部を作り出している。

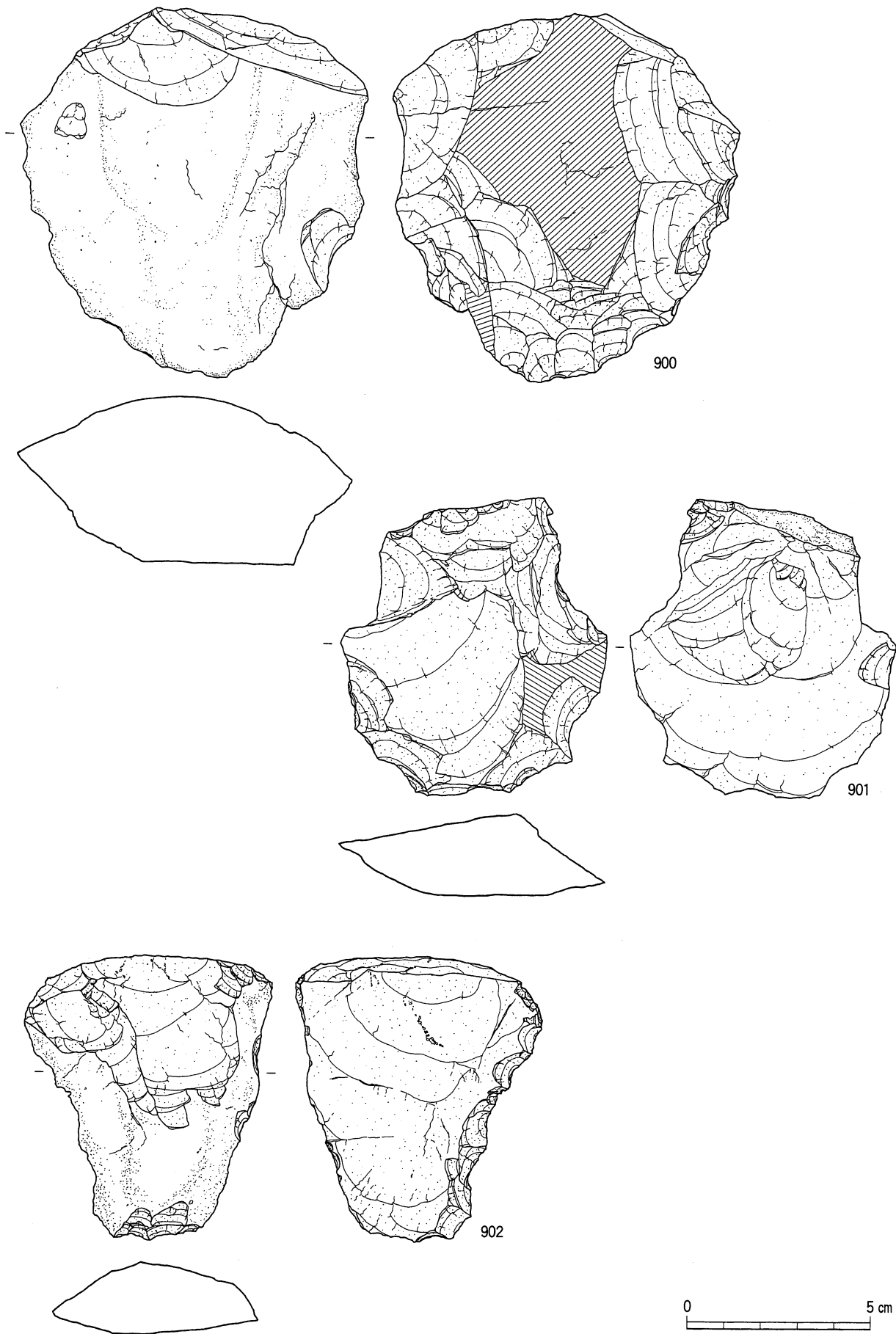
Ⅱ類（890～893）は、A・B区合わせて7点出土し、4点図化した。利用石材は頁岩1点、チャート2点、石英2点、黒曜石1点、珪岩1点である。いずれも一端に両面から挟入状に加工を施し、つまみ部を作り出している。890は両面とも縁辺のみ加工を施し、台形状の形状を作り出す。つまみ部は一方に偏る。891～893は両面とも全面に加工が及び、つまみ部を中央に設け、左右対称形なるように刃部を



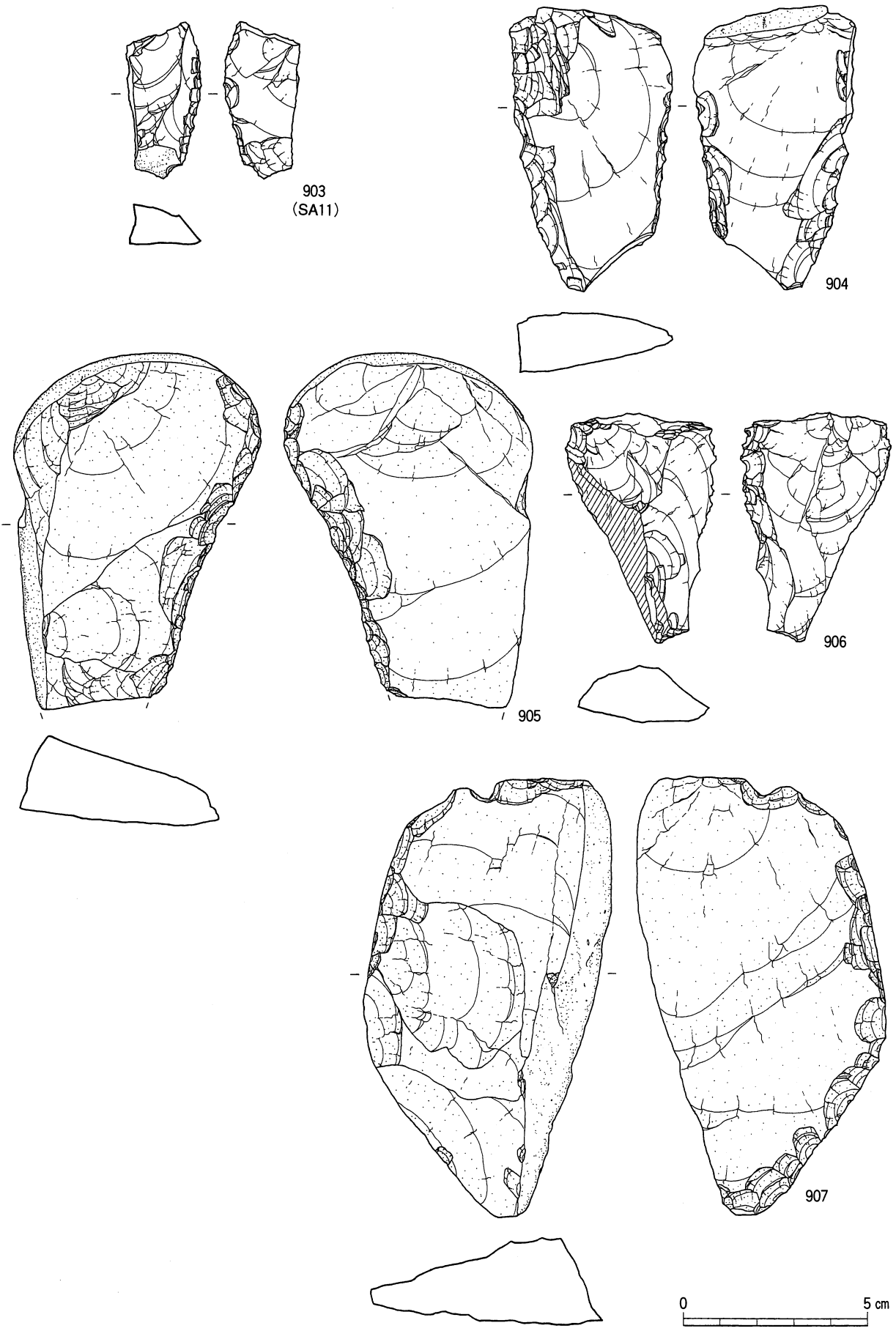
第106图 石器实测图(1) (S=2/3)



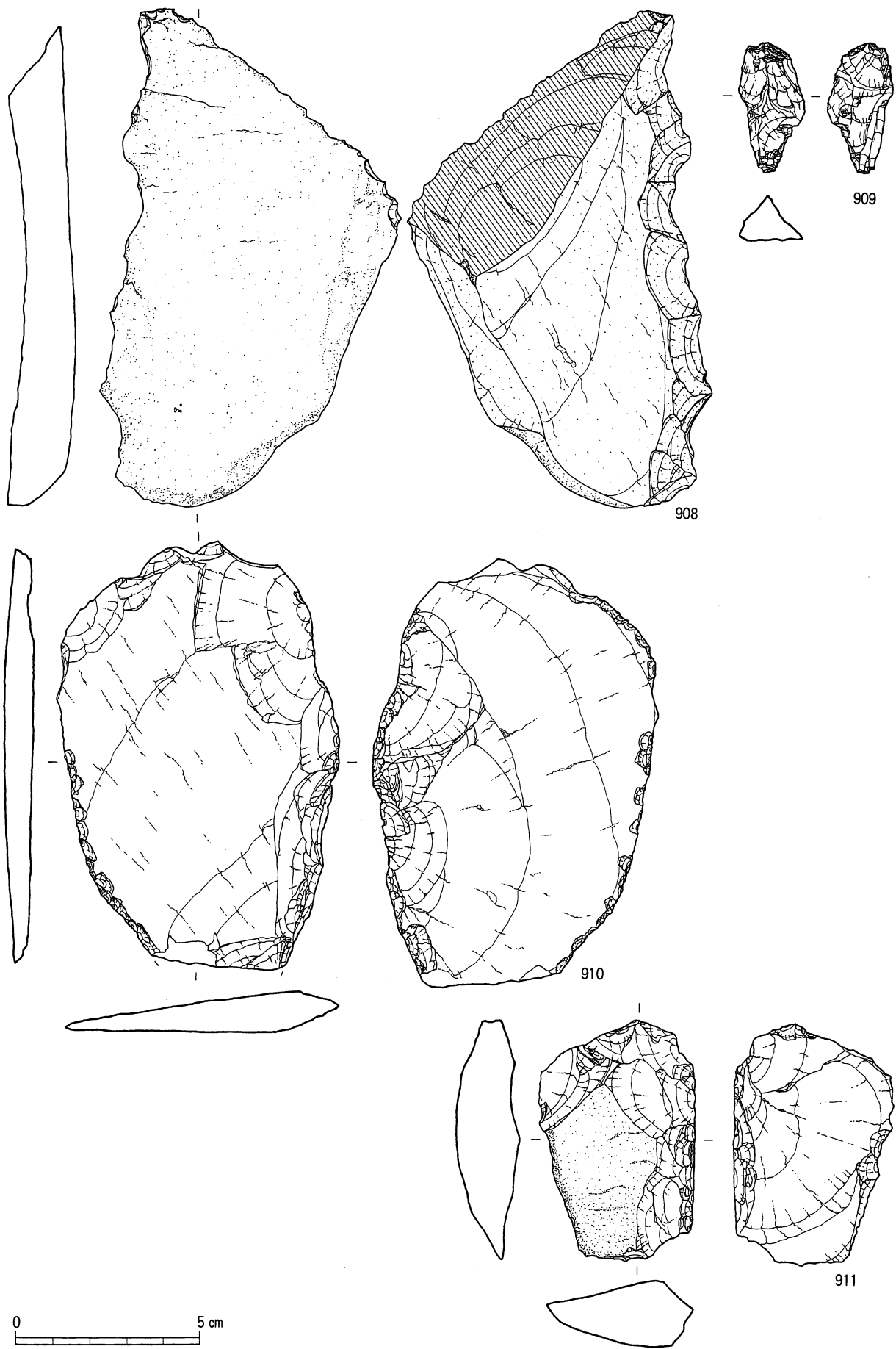
第107图 石器实测图(2) (S=2/3)



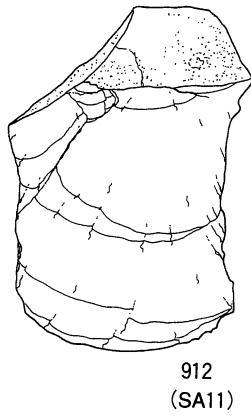
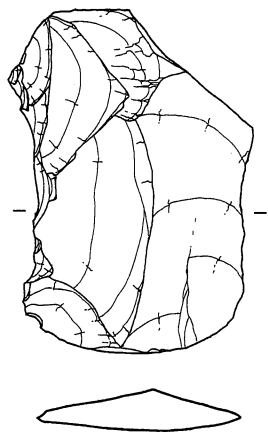
第108図 石器実測図(3) (S=2/3)



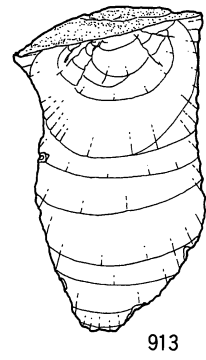
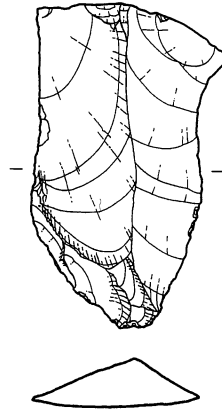
第109图 石器实测图(4) (S=2/3)



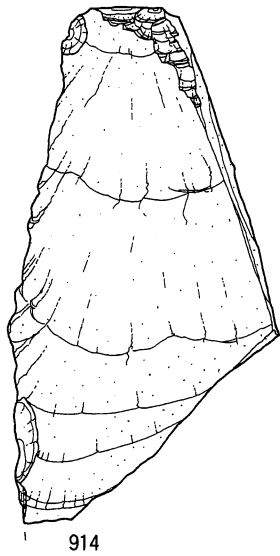
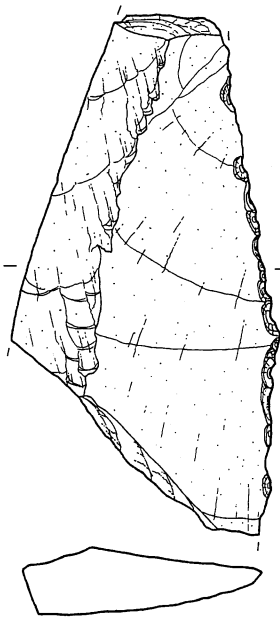
第110图 石器实测图(5) (S=2/3)



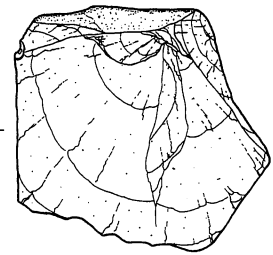
912
(SA11)



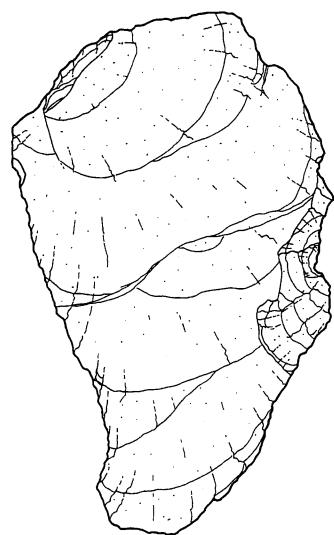
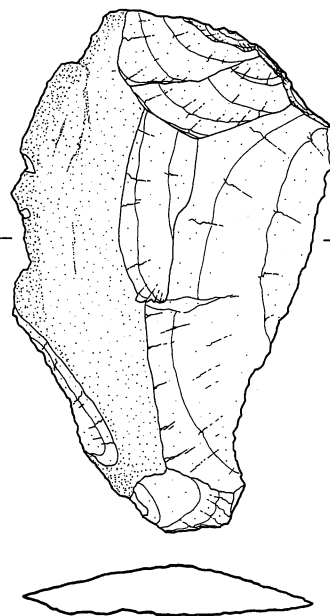
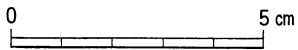
913



914

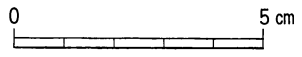
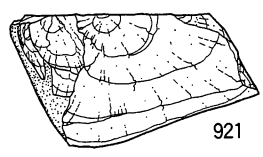
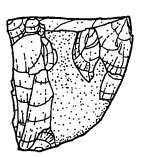
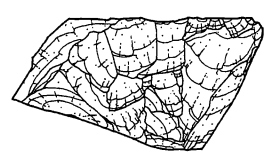
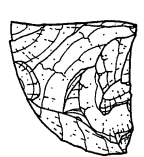
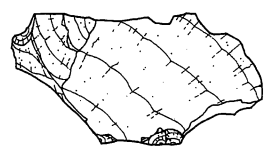
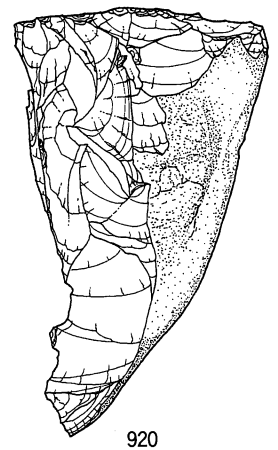
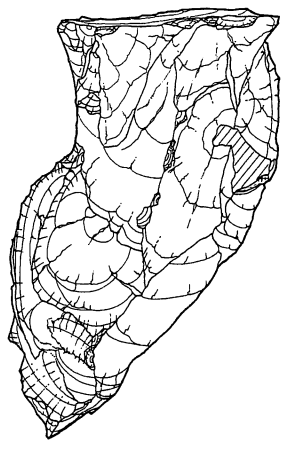
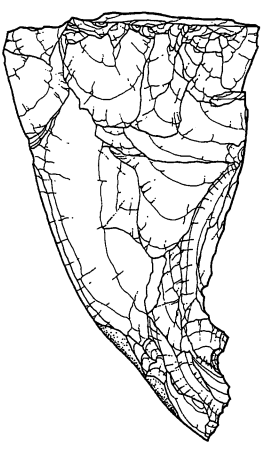
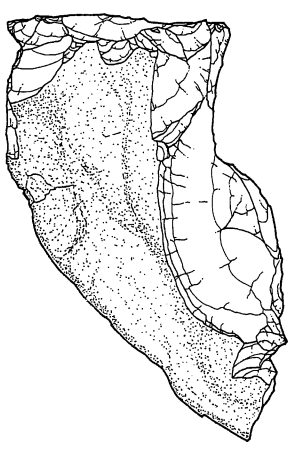
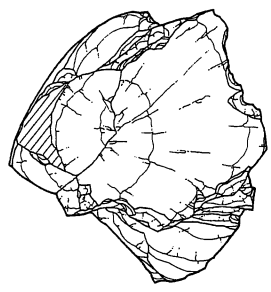
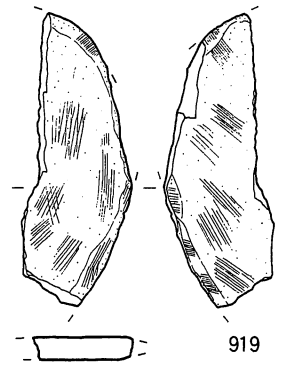
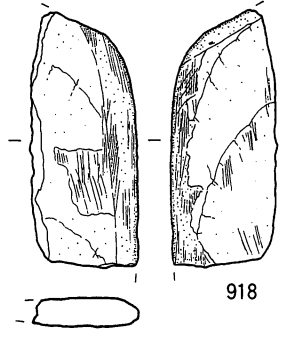
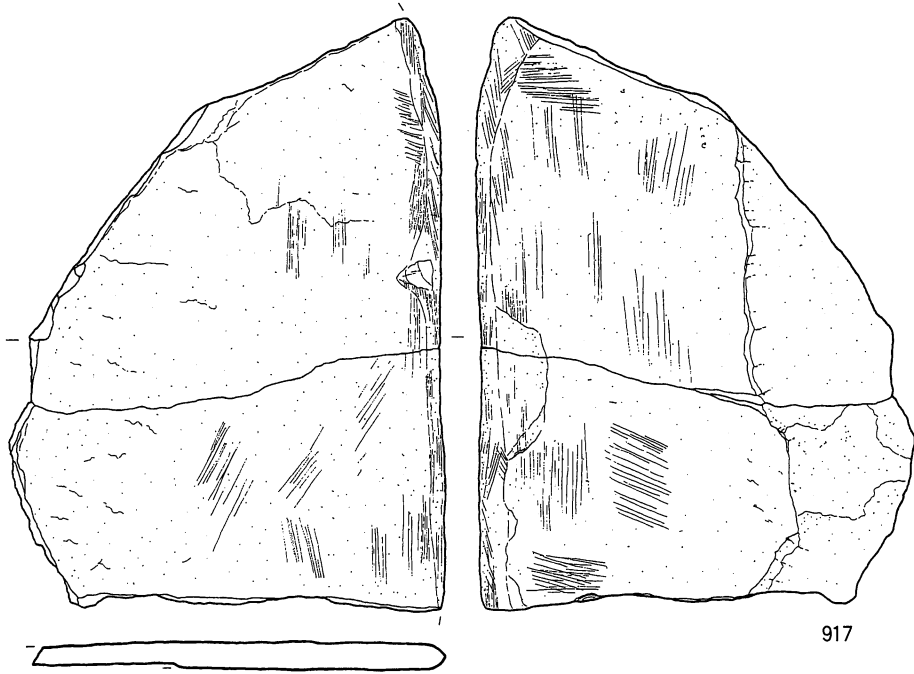


915

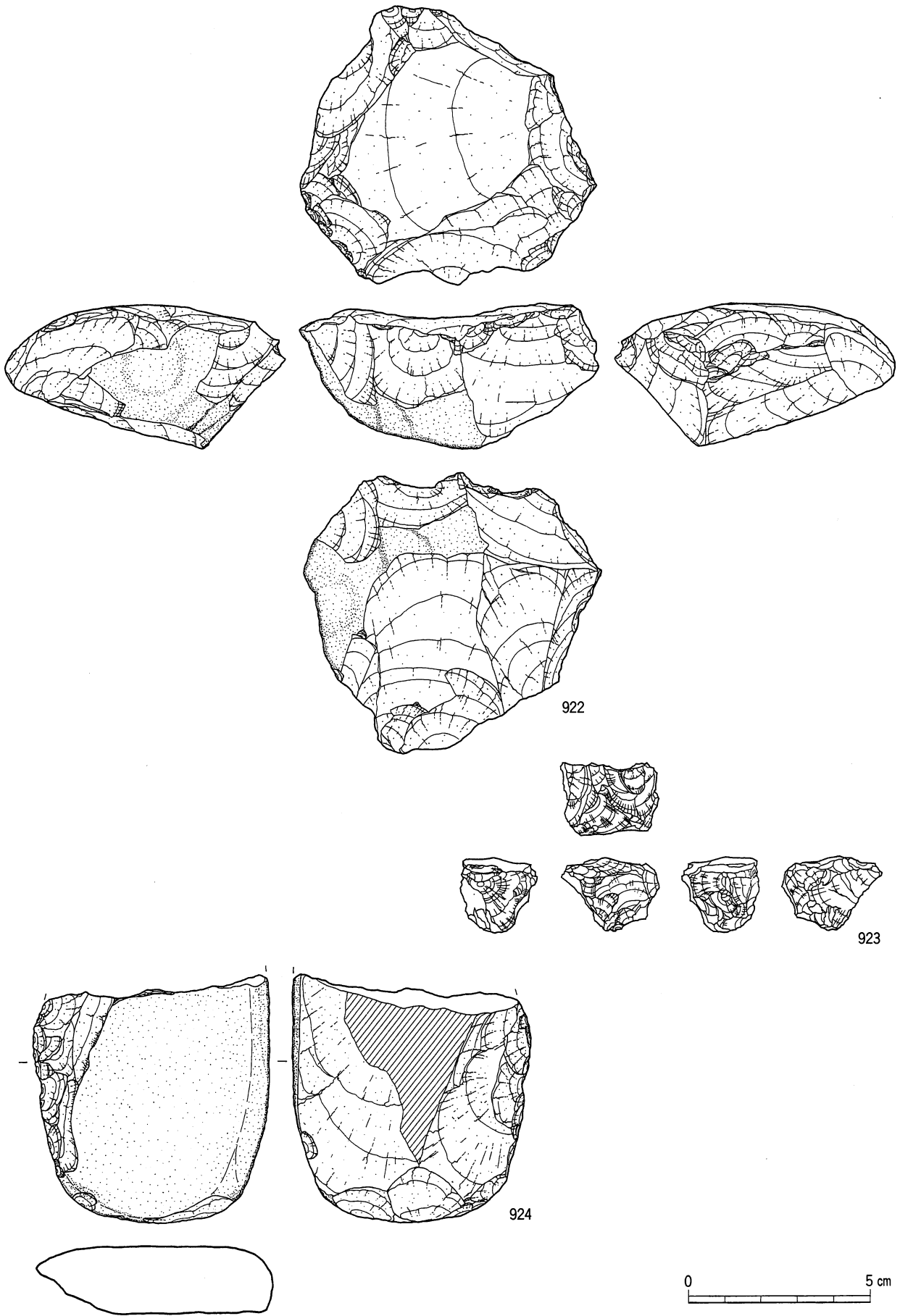


916

第111图 石器实测图(6) (S=2/3)



第112图 石器实测图(7) (S=2/3)



第113图 石器实测图(8) (S=2/3)

作り出している。なお、両面から全面加工を施すものの中には、つまみ部が一方に偏るものもみられる。

石錐（第107図894～896）

石錐は3点出土しており、すべて図化した。894・895は幅広の剥片を素材とし、両面より入念に加工を施し錐部を作り出す。どちらも先端稜線は磨耗している。896は分厚い剥片の打面を横位に置き背面より側縁を急角度の加工を行い、一端を尖らしている。

スクレイパー（第107図897～第110図908）

スクレイパーはA・B区合わせて126点出土しており、そのうち12点図化した。なお、A区出土のものは5点である。利用石材は、砂岩104点、頁岩13点、流紋岩3点、凝灰岩3点（そのうち2点が尾鈴酸性岩）、チャート1点、石英1点、珪岩1点である。平面形態によって、（Ⅰ類）と（Ⅱ類）に分けられる。

Ⅰ類（897～901）は、主に厚みのある剥片を用いて、縁周に加工を施し、弧状の刃部を形成するもので、A・B区合わせて62点（A区出土は3点）出土している。そのうち5点図化した。利用石材は、砂岩50点、頁岩6点、凝灰岩3点（そのうち2点が尾鈴酸性岩）、流紋岩2点、石英1点である。

主に背面に自然面を残すもの（897・898・900）や打面に自然面を残すもの（899・901）がみられ、背面に自然面を残すものの大半は、背面からの加工を施す傾向がみられる。901は打面近くの両側縁に抉入状の加工を施し、基部を作り出している。また図化いないがチャートや石英、珪岩製といったものは小形のものが多く、中には加工が全周するものもみられる。

Ⅱ類（897～901・903～907）は、主に縦長の剥片を素材とし、側縁に直線または弧状の加工を施し刃部を形成するもので、A・B区合わせて59点（A区出土は2点）出土している。そのうち5点図化した。利用石材は、砂岩49点、頁岩7点、流紋岩1点、チャート1点、珪岩1点である。

主に1側縁に刃部を作り出すものが多くみられるが、904のように2側縁に刃部を作り出すものもみられる。905は赤化し、両面とも風化した剥離面をもつ縦長の剥片を素材にして右側縁に両面より入念に加工を施し刃部を作り出している。

Ⅲ類（902・908）は、剥片の側縁に主に背面から加工を施し、鋸歯状の刃部を形成するもので、B区で5点出土している。そのうち2点図化した。利用石材は、すべて砂岩である。

楔形石器（第110図909）

楔形石器はB区で4点出土し、そのうち1点を図化した。利用石材はチャート3点、黒曜石1点である。909は断面が紡錘形をなし、両面とも上下の剥離がみられる。特に背面上下端は階段状の剥離がみられる。

二次加工剥片（第110図910・911）

二次加工剥片はA・B区合わせて83点出土しており、そのうち2点図化した。利用石材は、砂岩59点、頁岩14点、黒曜石4点、チャート3点、石英2点、凝灰岩（尾鈴酸性岩）1点である。その中でも図化した910・912については横長の剥片を素材とし、主に打面部を両面からの加工により除去し、対面する側縁は加工されずにそのまま刃部として利用し、使用痕と思われる微細な剥離痕がみられる。

使用痕剥片（第111図912～916）

使用痕剥片はA・B区合わせて253点出土しており、そのうち5点図化した。なお、A区では11点出土している。利用石材は砂岩216点（A区11点）と多く85.8%を占める。その他に頁岩15点、黒曜石8点（桑ノ木津留産2点、日東系産3点）、チャート8点、凝灰岩（尾鈴酸性岩）3点、石英1点、流紋岩1点、安山岩1点である。その中で図化した912は両側縁に微細な剥離痕が認められる。また913・915は下縁に、914・916は右側縁に微細な剥離痕がみられ、そのうち916の右側縁は部分的に磨耗している。

剥片・碎片

剥片はA・B区合わせて980点出土し、そのうちA区で14点出土している。利用石材は砂岩801点（A区9点）と圧倒的に多く81.7%を占める。その他数量の多い順から黒曜石67点（日東系14点、姫島産6点のうちA区1点、桑ノ木津留産5点）、頁岩53点（A区2点）、チャート34点（A区2点）、凝灰岩（尾鈴酸性岩）16点、石英4点、珪岩4点、流紋岩1点、粘板岩1点である。また傾向として、砂岩など比較的容易に手に入れやすい石材のものは大形のものが多く、チャートや黒曜石などは小形のものが多。形状は、不定形なものが多くみられる。

碎片はB区で193点出土している。黒曜石82点（うち桑ノ木津留産11点、日東系産6点、姫島産3点）、砂岩41点、チャート32点、頁岩30点、石英3点、珪岩2点、粘板岩2点である。

磨製石器（第112図917～919）

磨製石器はB区で8点出土しており、そのうち3点図化した。利用石材は砂岩6点、頁岩2点である。916・917は薄い板状の剥片を素材の両面に研磨が施され、特に側縁は両面から研磨を施し、刃部を作り出している。欠損しているため形態は不明。919も欠損しているため形態は不明だが、側縁を研磨によって面取りされている。なお917・918は、草野貝塚でも類似する資料（板状磨製石器）が確認されている。

石核（第112図920～923）

石核はB区で22点出土しており、そのうちの4点図化した。利用石材は黒曜石10点（うち桑ノ木津留産2点、日東系産2点、姫島産2点）、砂岩7点、チャート3点、珪岩1点である。約1/3が他の時代の遺構に流れ込んでいる。920は自然面を残す分割礫を素材としている。打面を固定し、やや縦長および寸詰まりの剥片を剥離している。921は小形の縦長剥片を剥離した残核である。表面にみられる剥離面は打面再生あるいは作業面再生に伴う可能性がある。922は大形の剥片を素材としている。剥片順序に規則性は看取されないが、結果として球心状の剥離面を残している。923は打面を頻繁に転位させ剥片を剥離した最終形態がサイコロ状を呈する残核である。

礫器（第113図924）

礫器はA・B区で18点（うちA区で1点）出土しており、そのうちの1点図化した。利用石材はすべて砂岩である。礫器の半分以上がSE6に流れ込んでいた。主に礫の長軸状の一端に片面もしくは両面に加工を施し、刃部を作り出しているが、図化した924については左側縁を両面から、下端を主に背面

から加工を施し刃部を作り出す。図化しきれていないが下端の刃部は刃が潰れ、著しく磨耗している。

打製石斧（第114図925）

打製石斧はB区で5点出土し、そのうち2点図化した。利用石材は砂岩3点、凝灰岩（尾鈴酸性岩）2点である。925は両側縁中央よりやや上部に緩やかな抉りを作り出す、いわゆる分胴形石斧で、その側縁には装着痕と思われる磨耗痕がみられる。全体的に剥離が粗雑でややいびつ、刃縁が斜めになり偏刃を呈している。全体的に風化が激しい。926は刃部付近が最大幅になり、頭部に向かってやや細くなるもので撥形石斧の一種に含まれるものであろうか。凝灰岩（尾鈴酸性岩）製で、この種の石材は磨石等によく使用されるもので転用されたものであろう。自然面を残した横長剥片を素材にして腹面を中心に加工を加えたのち、両側縁に加工を施す。刃部は背面にはほとんど手を加えず、腹面に加工を加え刃部を形成する。背面には部分的に研磨痕が認められるが、転用前のものと考えられる。

磨製石斧（第114図～第115図936）

磨製石斧はA・B区で22点（うちA区で2点）出土しており、そのうち10点図化した。利用石材はすべて砂岩である。約半数が古墳時代の住居（SA 1・2・3・8）等に流れ込んでいる。概ね縄文時代の所産であろうが、弥生時代のものも含まれている可能性がある。大半が欠損品で、完形品は3点のみである。

I類（927・928・930・934）は比較的扁平で側縁に稜を有し、全体形が長方形や台形状を呈するものでB区で7点出土し、そのうち4点図化した。927・930は小型のものでどちらも両刃である。そのうち927の側縁には敲打による整形がみられる。934は刃部が一部欠損した後、再研磨を施したために偏刃を呈する。

II類（932）は比較的厚みがあり、断面形が楕円形を呈するものでA・B区で6点（うちA区で2点）出土し、そのうち1点図化した。932は頭部に再加工を施し刃部（片刃状）を形成するもので、もともとは刃部付近が最大幅になり、基部に向かって狭くなる台形状の形態と考えられ、敲打による整形の後、研磨を施す。また図化していないが、頭部のみ残存しているものの中には頭端が尖るものもみられる。

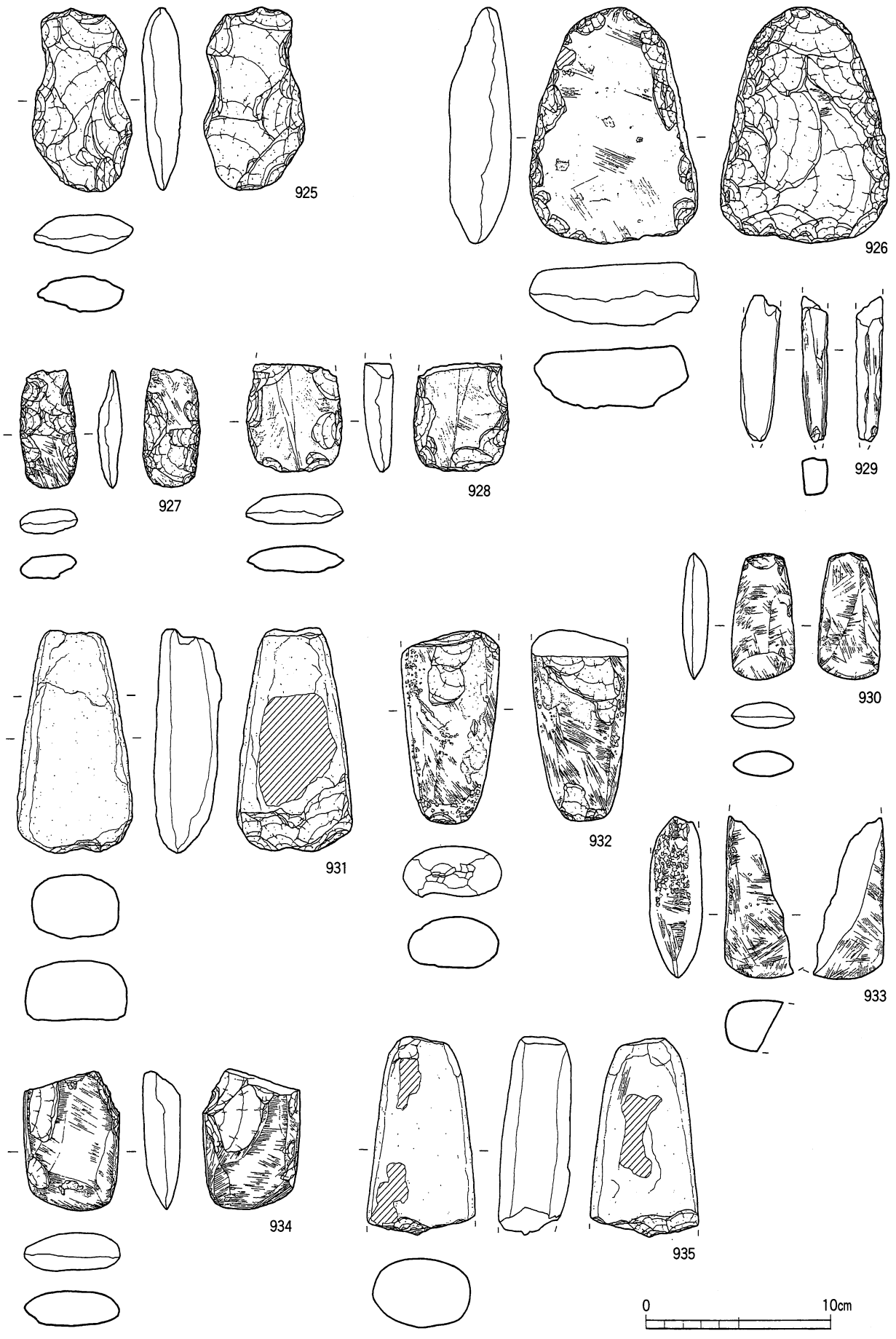
III類（931・933・935・936）は定角式磨製石斧の一種と考えられる一群で、刃部付近が最大幅になり、基部に向かって狭くなる台形状を呈する。また厚みがあり断面が隅丸長方形になる。側縁は研磨等によって幅のある面を作り出す。6点出土し、そのうち4点図化した。931・935・936は風化が著しく、刃部を欠損している。そのうち935は頭部に近付くにつれて稜が不明瞭になる。933は唯一、刃部確認出来るもので両刃を呈する。側面は敲打による整形を行った後、研磨を施している。特に刃部付近は丁寧に研磨されている。

IV類（929）は側面幅が表裏面幅よりも厚くなり、断面が長方形になるもので、B区で1点出土している。刃部は両刃で鑿としての用途が考えられる。

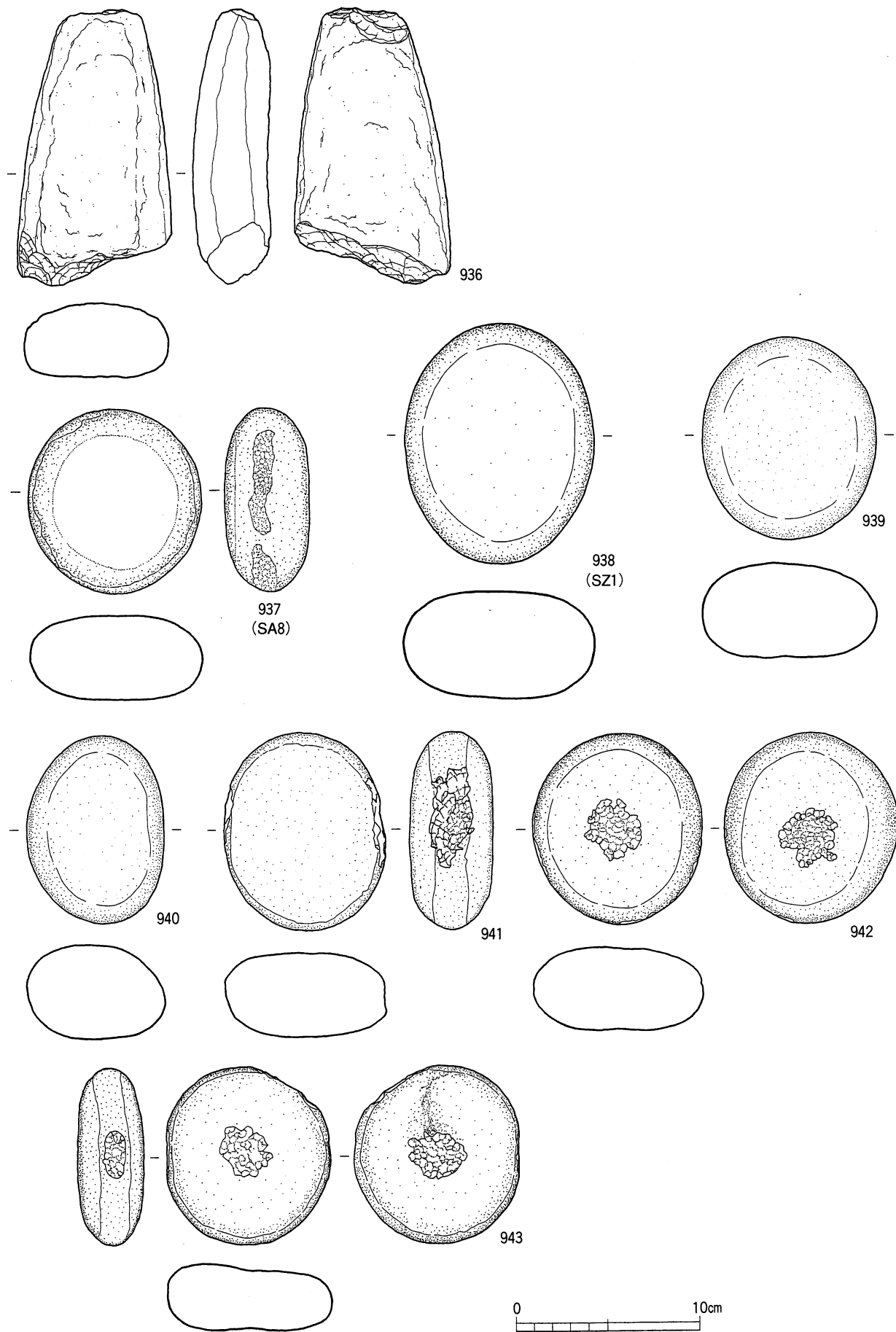
その他に上記の分類に当てはまらないものや欠損品で形態不明のものが2点出土している。

磨石（第115図937～943）

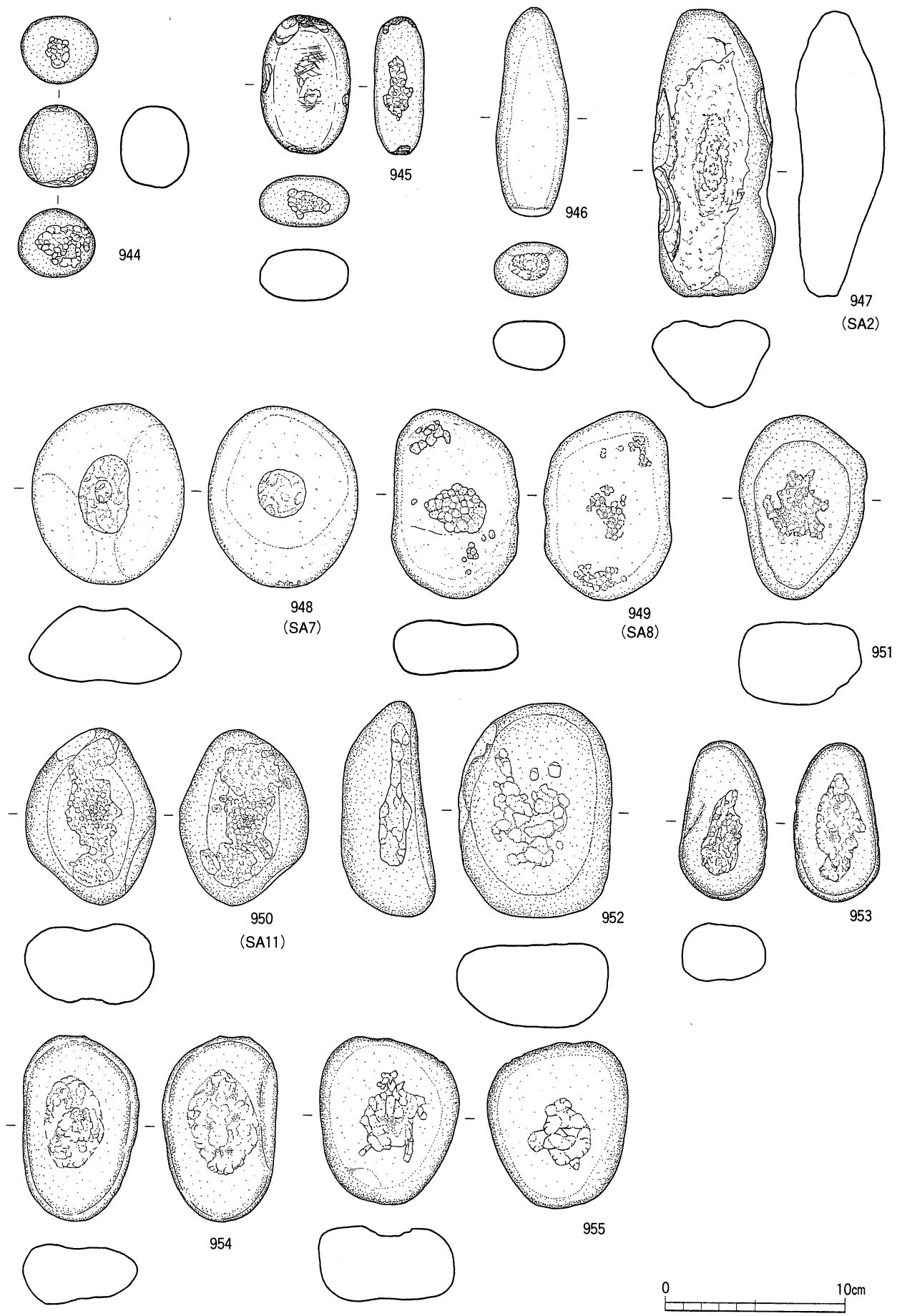
磨石はA・B区で66点（うちA区で8点出土）出土しており、そのうち7点図化した。利用石材は、



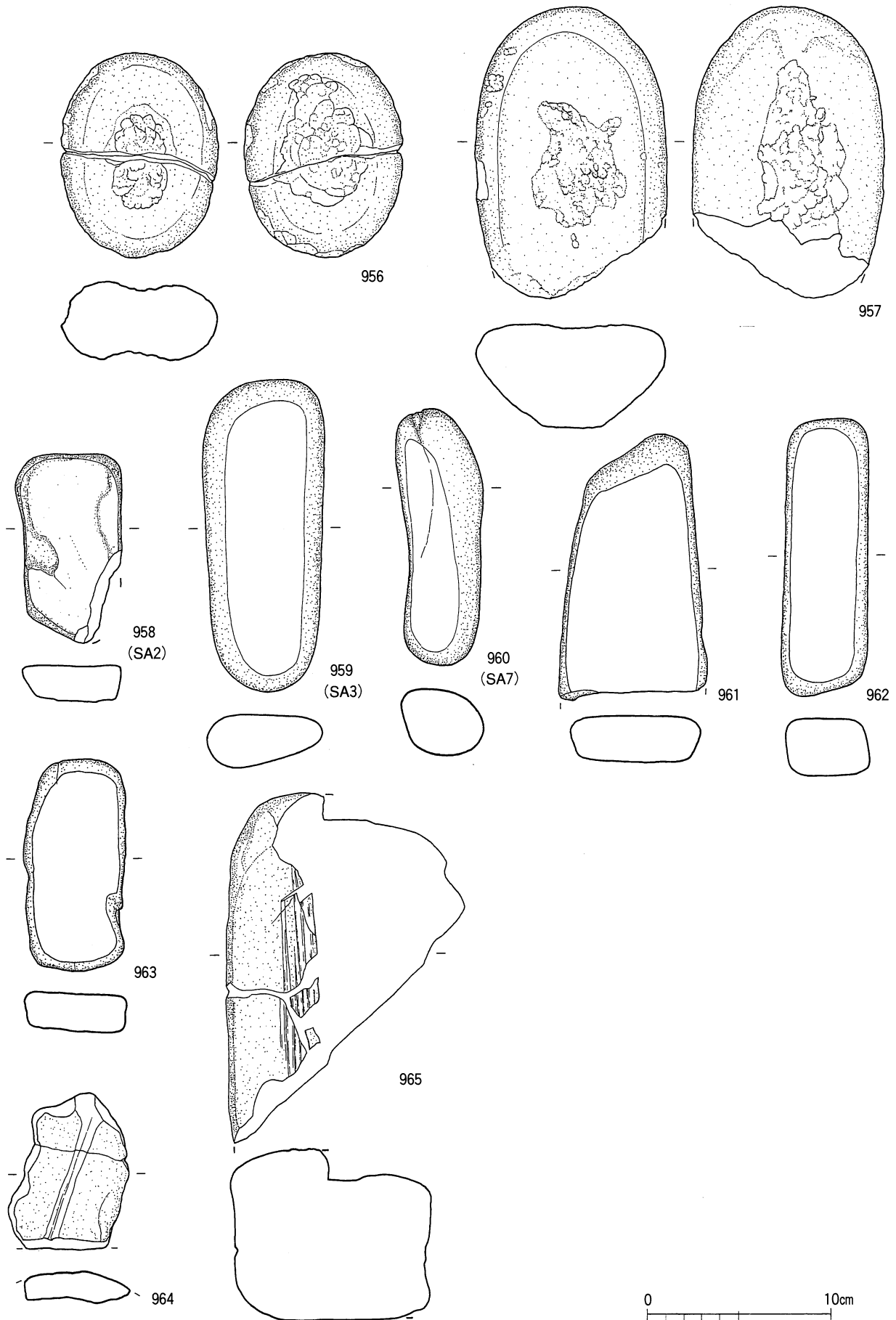
第114图 石器实测图(9) (S=1/3)



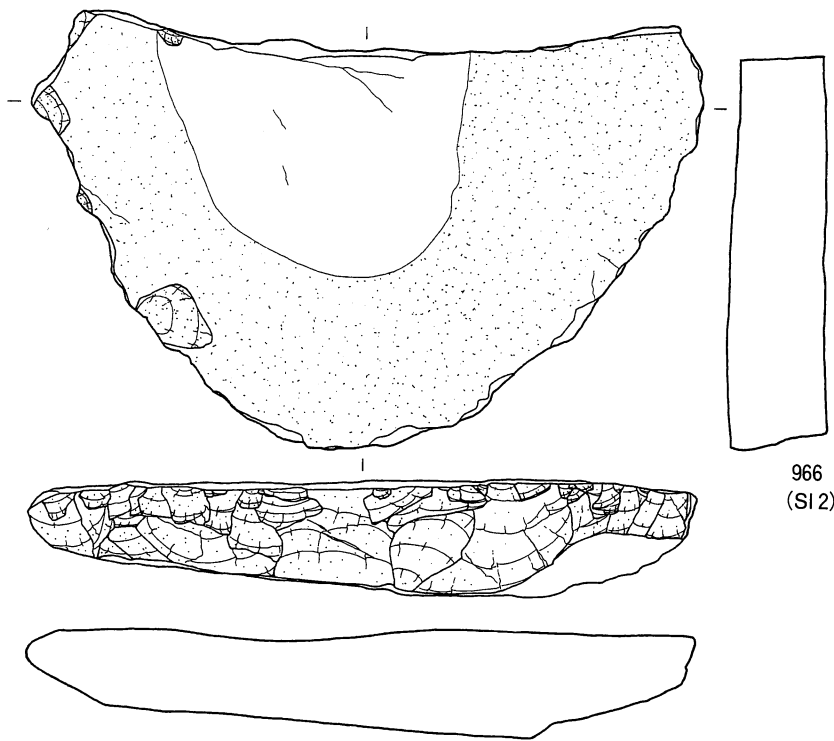
第115図 石器実測図(10) (S=1/3)



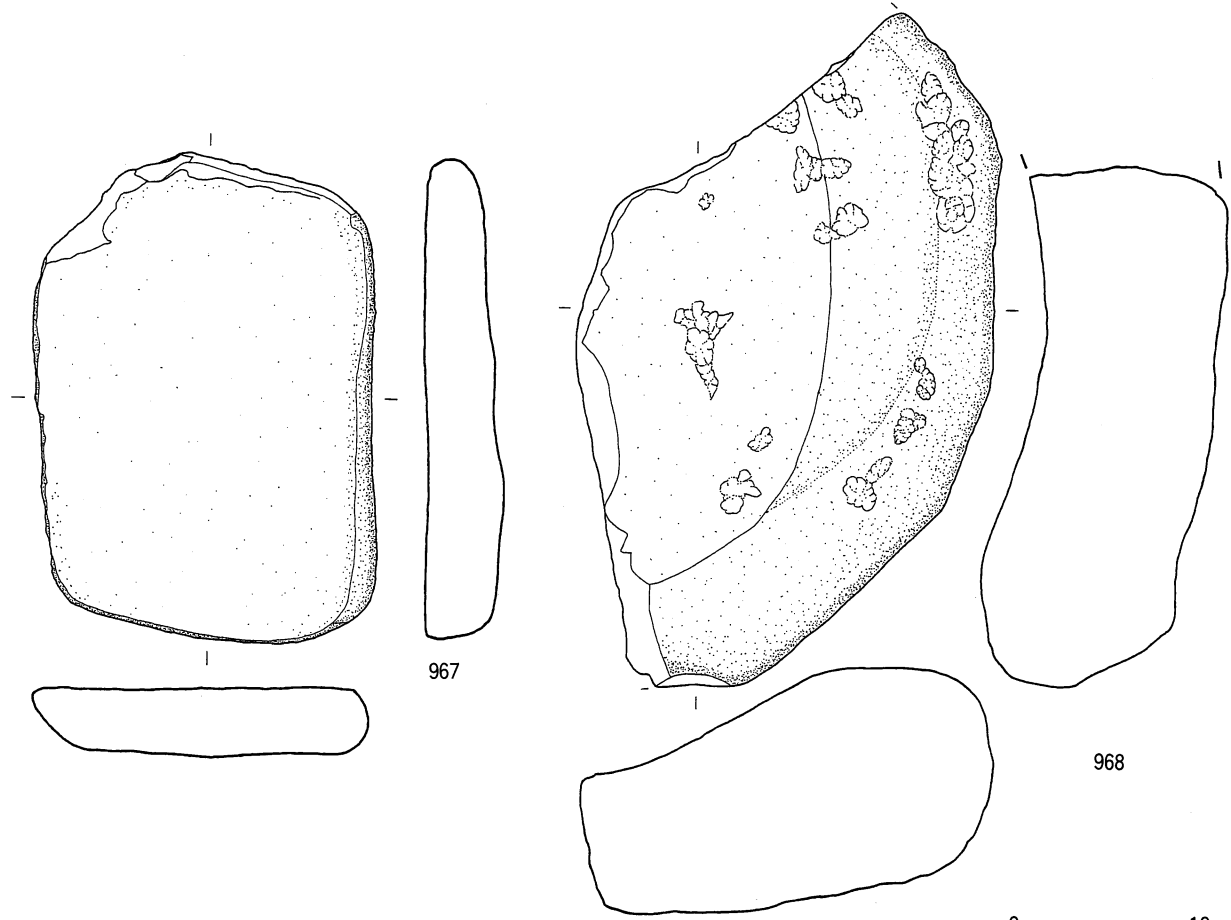
第116図 石器実測図(11) (S=1/3)



第117图 石器实测图(12) (S=1/3)

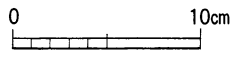


966
(S12)

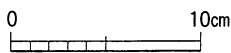
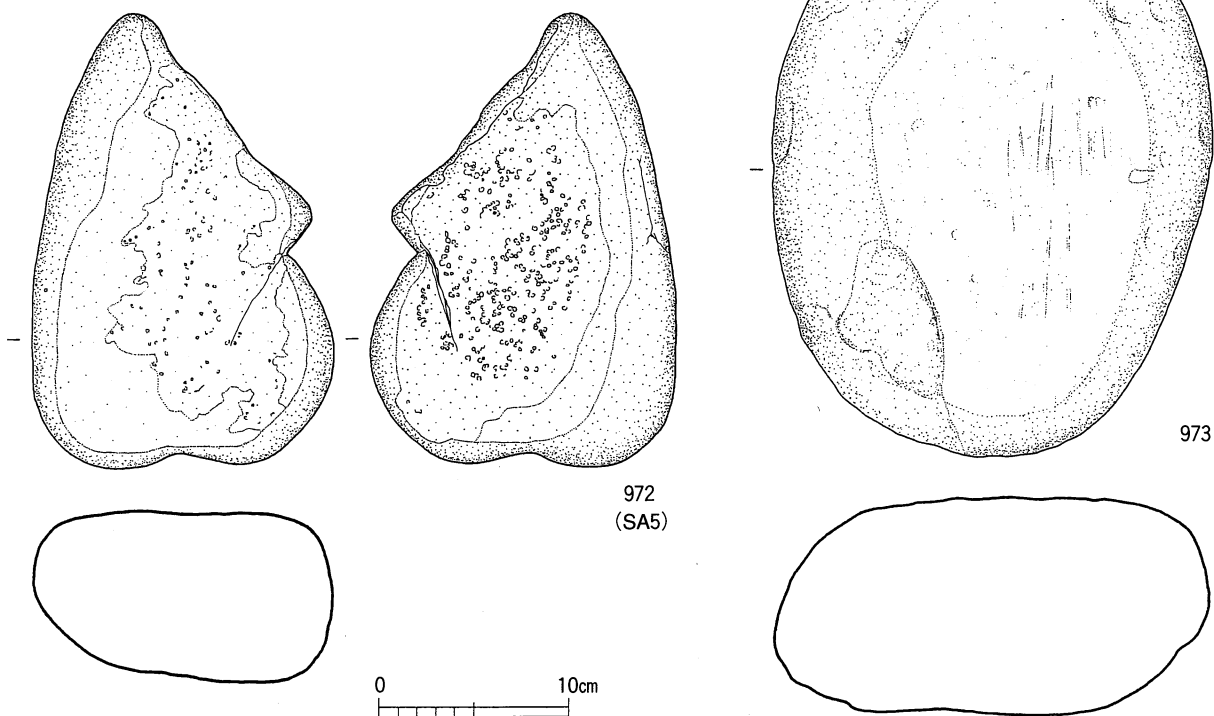
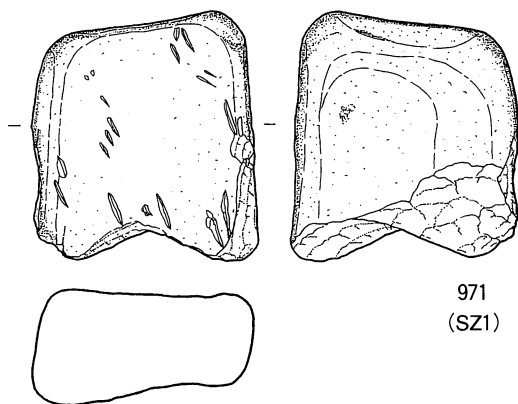
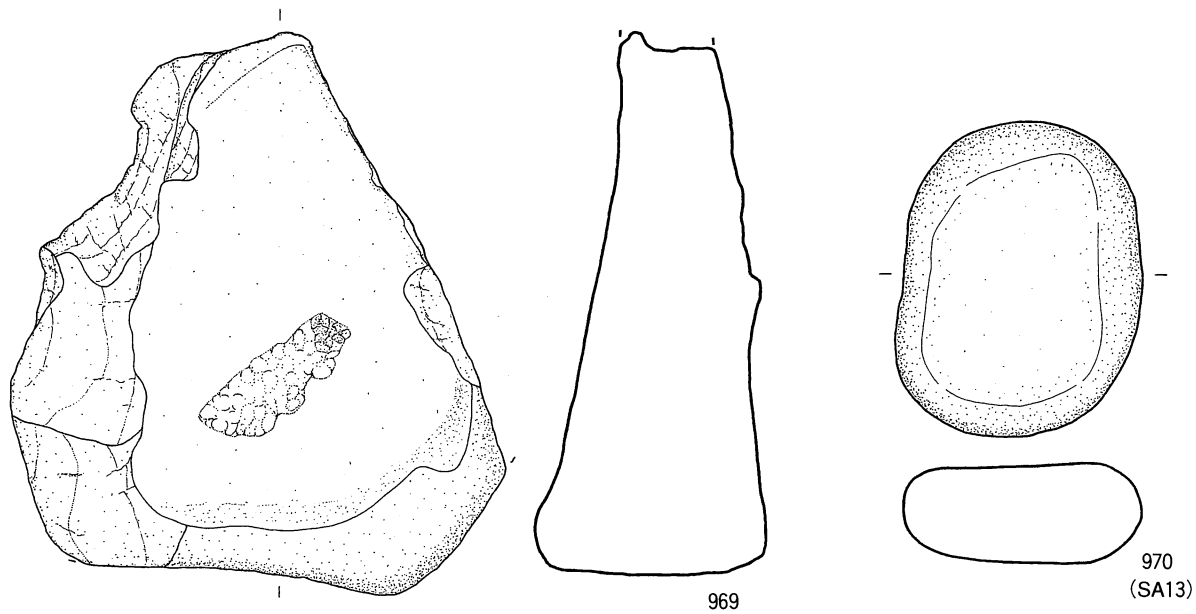


967

968



第118図 石器実測図(13) (S=1/4)



第119图 石器实测图(14) (S=1/4)

砂岩46点、凝灰岩18点（そのうち尾鈴酸性岩13点）、頁岩2点である。平面形態により円形（Ⅰ類）・楕円形（Ⅱ類）・その他（Ⅲ類）に分類できる。なお、欠損品で形態不明のものが8点である。

Ⅰ類（937・942・943）は、4点出土している。そのうち3点図化した。いずれも表裏両面に磨痕が観察される。また942・943のように両面中央に敲打痕により凹みが観察されるものや937・943のように側縁の一部に、942のように縁周に敲打痕がみられるものがある。

Ⅱ類（938～941）は最も多く、50点出土している。そのうち4点図化した。Ⅰ類同様、両面に磨痕が観察されるものが28点（938～941）、片面のみ磨痕が観察されるものが22点である。片面のみ磨痕が観察されるもののうち8点については、縁周や側縁の一部（941）・片面に敲打痕が観察される。

Ⅲ類は2点で、方形・棒状のものが1点ずつ出土している。図化していないが、どちらも片面に磨痕が観察されている。

敲石（第116図944～946）

敲石はB区で21点出土しており、そのうち3点図化した。利用石材はすべて砂岩である。平面形態により球形（Ⅰ類）、楕円形（Ⅱ類）、長楕円形・棒状（Ⅲ類）に分類した。

Ⅰ類（944）は1点のみの出土で、上下両端に敲打痕が観察される。

Ⅱ類（945）は11点出土している。上下両端や下端・片面に敲打痕が観察されるものが3点ずつみられ、他に下端や縁周、片面、両面と側縁、上下両端と1側縁（945）に敲打痕が観察されるものがある。なお、945の片面には磨痕がみられる。

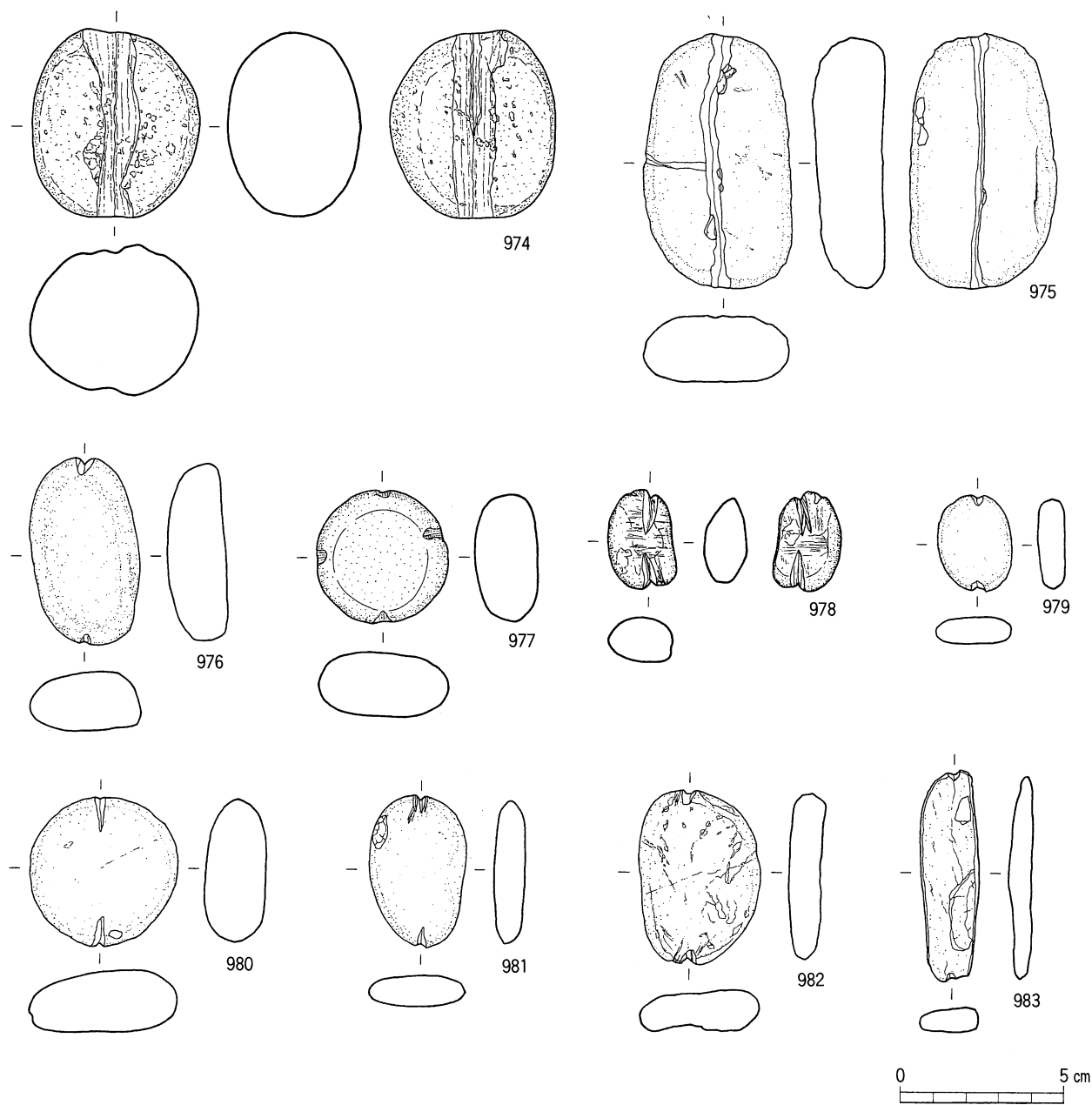
Ⅲ類（946）は9点出土している。946のように下端に敲打痕が観察されるもの（3点）や上下両端（1点）、上下両端と片面（1点）もしくは両面（1点）、下端と両面（2点）、両面（1点）に敲打痕が観察されるものがある。

凹石（第116図947～第117図957）

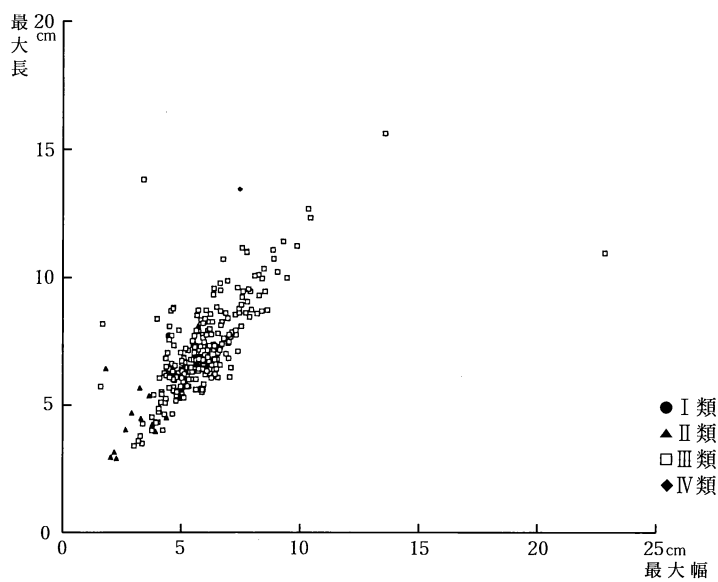
凹石はA・B区合わせて179点出土しており、そのうち11点を図化した。なお、A区は1点である。利用石材は、すべて砂岩である。平面形態により、円形（Ⅰ類）と楕円形（Ⅱ類）、長楕円形・棒状形（Ⅲ類）、方形（Ⅳ類）、不整形（Ⅴ類）に分類出来、Ⅰ類は7点、Ⅱ類123点（948・951～957）、Ⅲ類16点（947）、Ⅳ類12点、Ⅴ類21点（949・950）である。敲打痕による凹みは表裏両面中央に付けられる例が多くみられ、全体の約2/3を占める。また952・956のように側面や縁周に敲打痕がみられるものもわずかにある。947や950・953・957の裏面は頻繁に利用されたためか、溝状を呈するものもみられる。

砥石（第117図958～963）

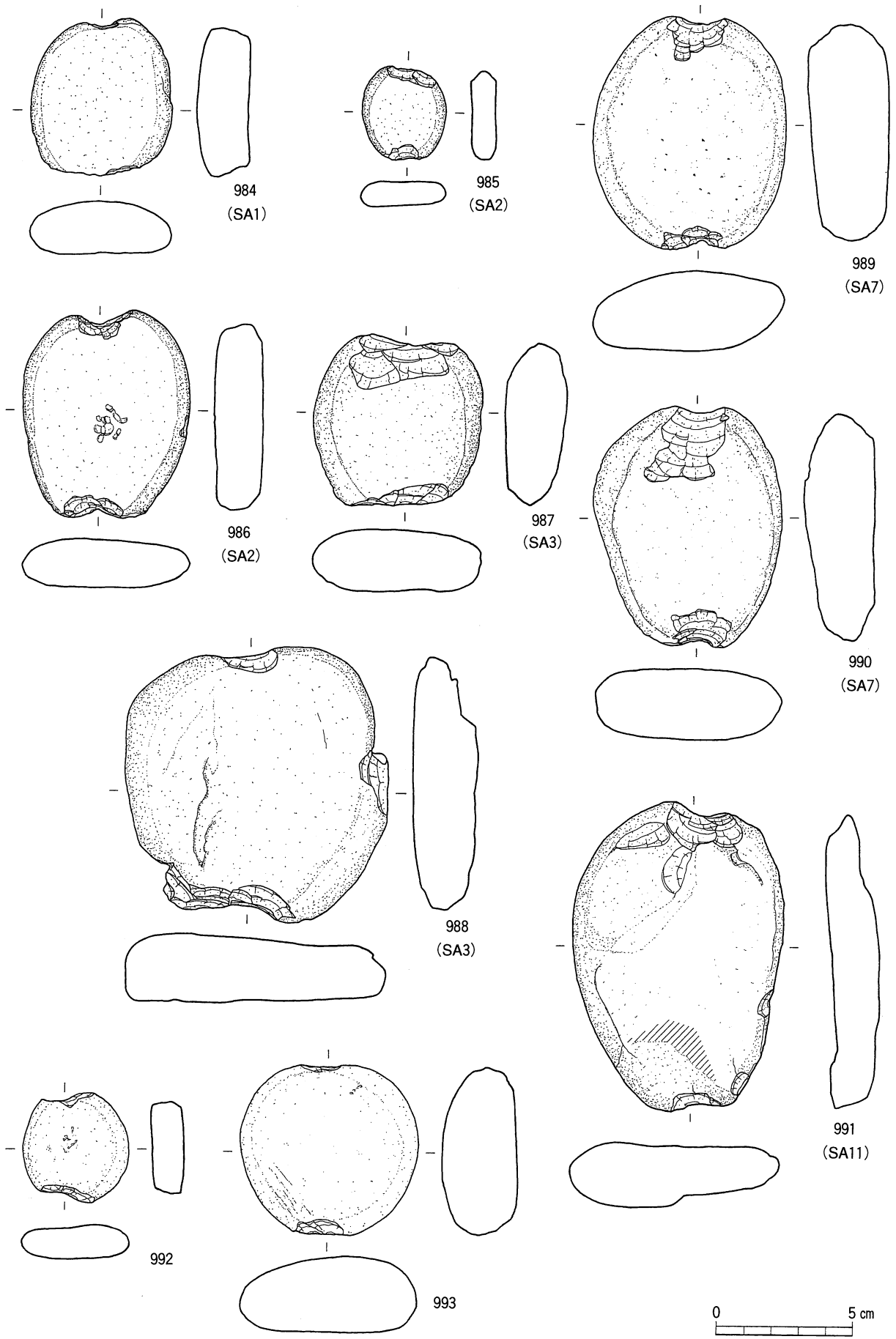
砥石はB区で63点出土しており、そのうち5点を図化した。利用石材はすべて砂岩である。平面形態により、長楕円形・棒状形（Ⅰ類）と長方形（Ⅱ類）に分類出来、Ⅰ類が56点（959・960）、Ⅱ類7点（958・961～963）、欠損のため形態が不明のものが1点である。大半が扁平な礫を利用しているが、960や962のように厚みのある礫を利用する例もみられ、平坦な面を研ぎ面としている。表裏両面とも使用している例が多く、中には使用頻度が多いためか中央部分が湾曲している例もみられる。



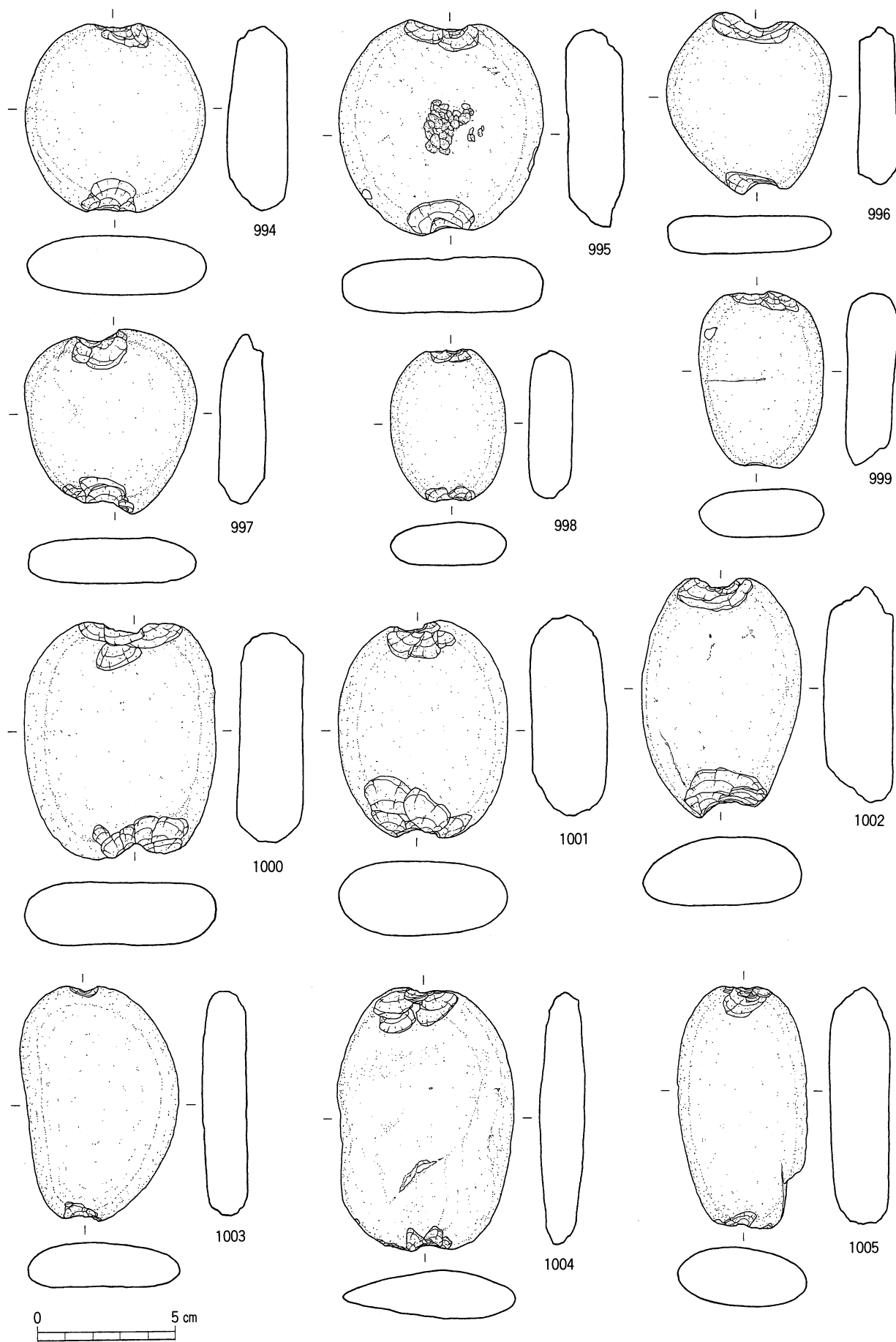
第120図 石器実測図(15) (S=1/2)



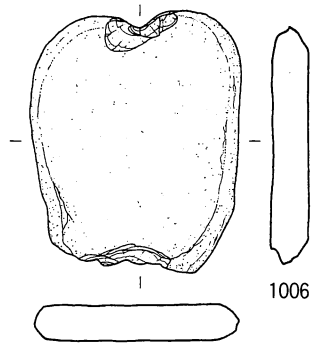
第3グラフ 石錘 長・幅比分布



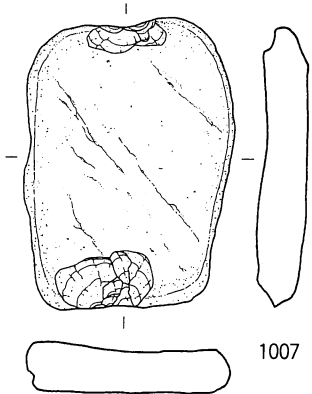
第121图 石器实测图(16) (S=1/2)



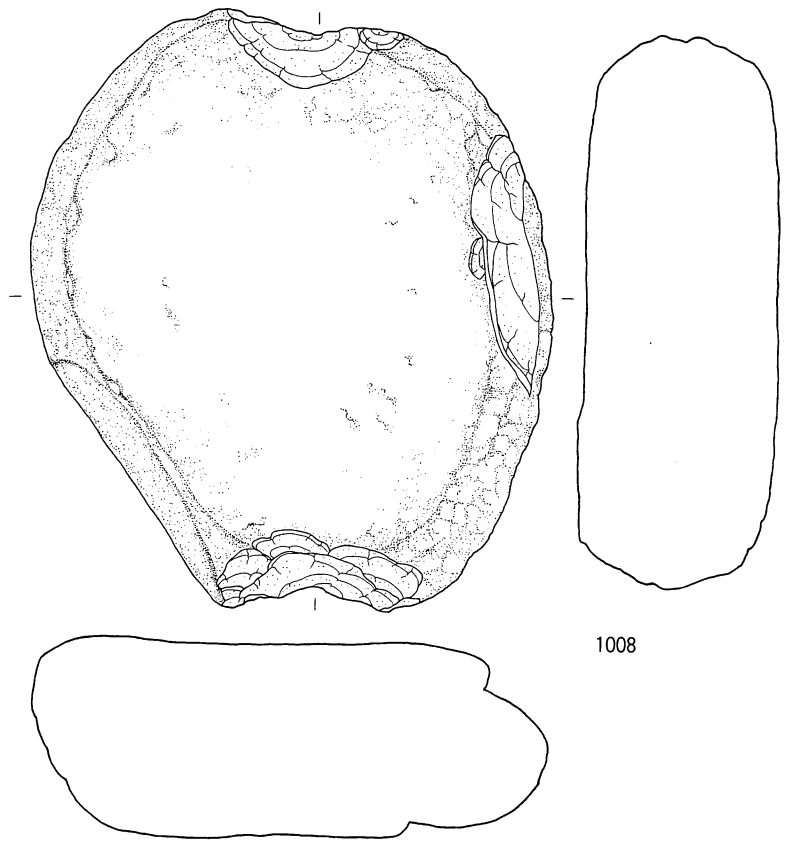
第122图 石器实测图(17) (S=1/2)



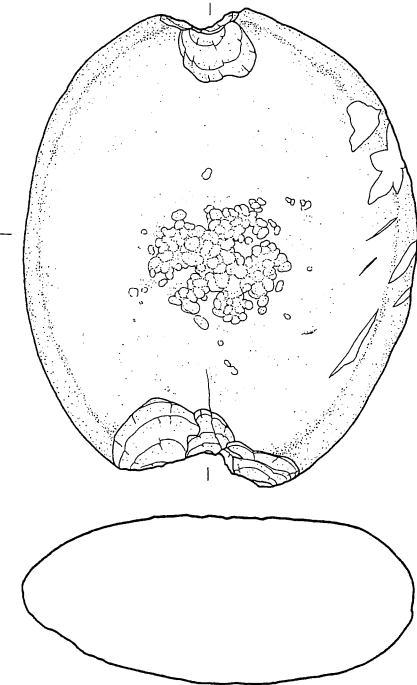
1006



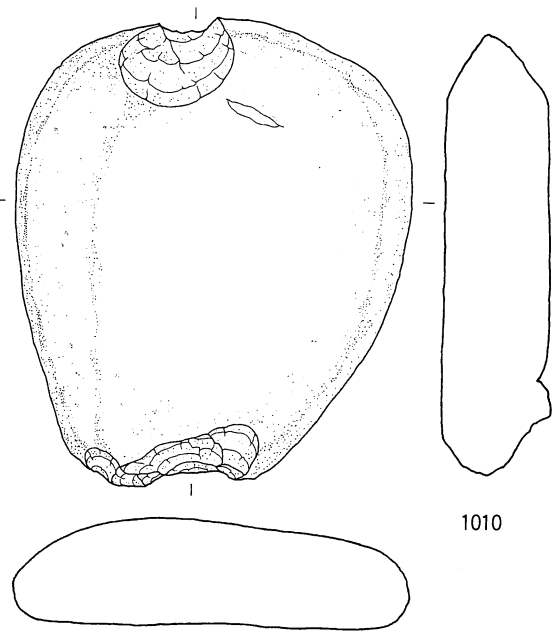
1007



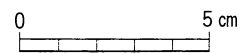
1008



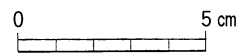
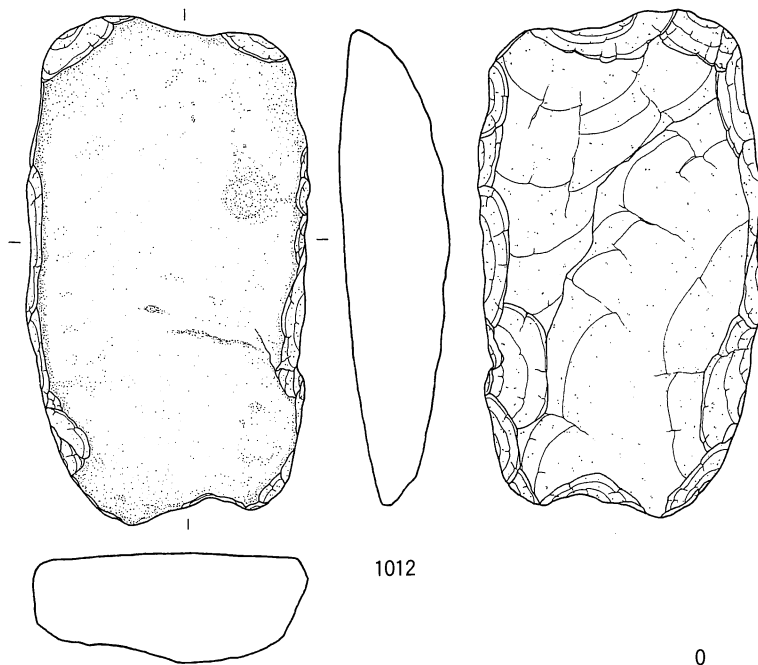
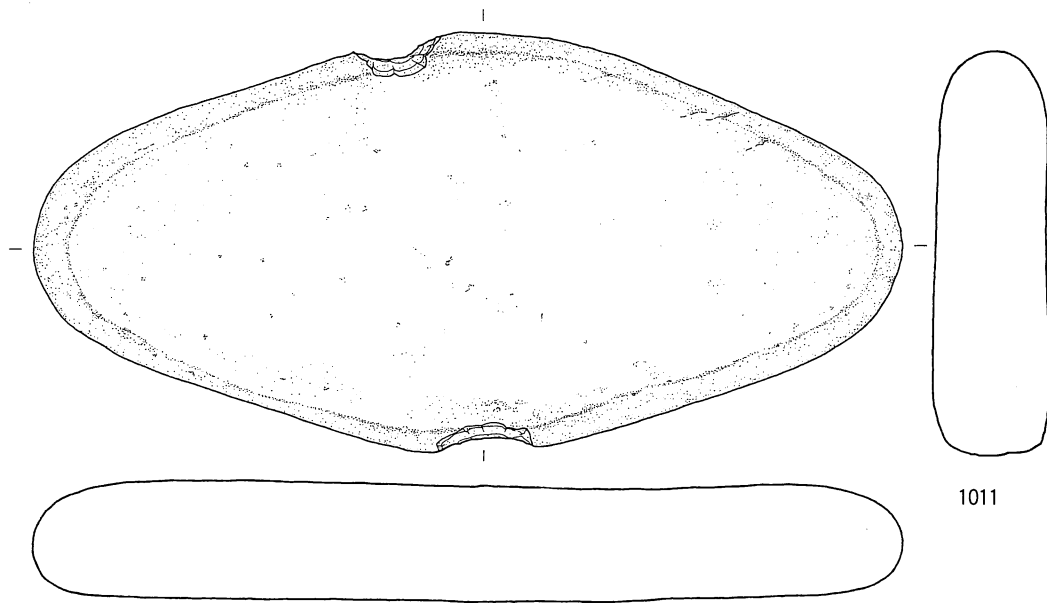
1009



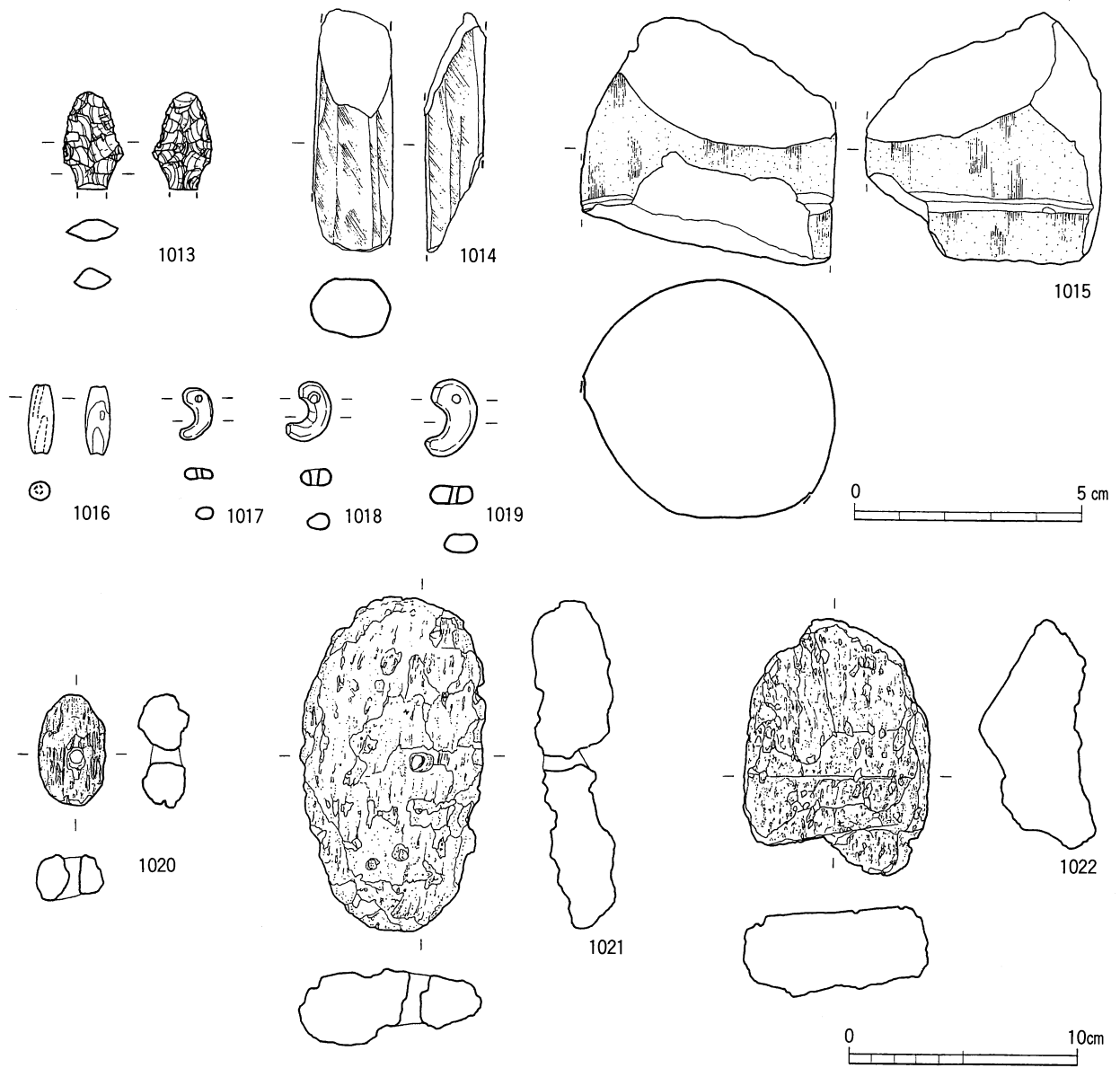
1010



第123図 石器実測図(18) (S = 1/2)



第124図 石器実測図(19) (S=1/2)



第125図 石器実測図(20) (1013~1019は S = 2/3、1020~1022は S = 1/3)

有溝砥石 (第117図964・965)

有溝砥石はB区で2点出土し、すべて図化した。利用石材はどちらも砂岩である。いずれも欠損しているが、深さ0.5mm～1.5mm、断面がV字形またはU字形の溝を有する。

石皿 (第118図～第119図969・971)

石皿はA・B区あわせて10点(A区1点)出土しており、そのうちの5点図化した。利用石材はすべて砂岩である。966・968・969・971は中央部を凹ませ皿部を作り出している。そのうち968・969は皿部を深く凹ませ縁部に稜を有し、皿部や縁部に敲打痕がみられる。966はSI3出土で側縁部分を主に表面より剥離を行っている。969は皿部を凹ませず、平らになるように形成している。

台石 (第119図970・972・973)

台石はA・B区あわせて62点(うちA区1点)出土しており、そのうち3点図化した。利用石材は砂岩61点(うちA区1点)、凝灰岩(尾鈴酸性岩)1点である。基本的に素材の礫を加工せずそのまま使用しているものを台石としている。972は不定形の礫を利用し、両面の平坦面に敲打痕がみられる。973は表面に敲打痕や溝を有する。

石錘 (第120図～第124図・第3グラフ)

石錘は310点出土しており、そのうち39点を図化した。利用石材は、砂岩が300点と総出土量の96.8%を占め、その他に頁岩6点、凝灰岩4点である。

これらの資料は、加工方法によって、「有溝石錘」、「切目石錘」、「礫石錘」等と呼ばれ、主に漁撈用錘とされてきた。本遺跡でもそれらをもとに4類に分類した。なお、石錘については、存続期間も長く時期が特定出来ないため、遺構出土のものには図に明記している。

I類(974・975)は、円礫もしくは扁平な礫の長軸に擦切りによって溝を巡らし、紐掛け部を作り出すもので「有溝石錘」と呼ばれ、B区で2点出土している。利用石材は、どちらも砂岩である。

II類(977～983)は、主に扁平な礫を利用し、その長軸もしくは短軸の両端に擦切りにより切り込みを入れ、紐掛け部を作り出すもので「切目石錘」と呼ばれ、B区で13点出土している。そのうち8点図化した。利用石材は、砂岩8点、頁岩5点である。ほとんどが長軸両端に切目を入れたものだが、中には977のように4ヶ所に切目を入れたものもみられる。また、981のように上部端に2ヶ所切目を入れたものもみられる。978には、表裏面に磨きがみられ、裏面上部端の切目は軸を変えず二股になっている。

III類(984～1011)は、主に扁平な礫の長軸もしくは短軸の両端を数度の打撃による剥離を行い、抉りを作り出し、その部分を紐掛け部にしたもので「礫石錘」と呼ばれるものである。A・B区で294点出土していて総出土量の94.8%を占め、そのうち23点図化した。なお、完形品は246点である。利用石材は、砂岩289点、凝灰岩4点、頁岩1点である。ほとんどが長軸両端に抉りを入れたものだが、長短軸両端に4ヶ所抉りを入れたものもみられる。また、988・995・1009は表面に敲打痕を残すもので他に4点見られる。中には、1008・1011のように1kgを超えるものもみられる。そのうち1011は唯一、短軸方向に抉りを入れたものである。

IV類(1012)は、縁周を表裏面より打撃による剥離で整形し、上下部は表面より剥離することで抉り

を作り出し、その部分を紐掛け部にしたもので、B区で1点のみ出土している。利用石材は砂岩である。

そのうちⅠ類～Ⅲ類の平均値はⅠ類が最大長6.65cm・最大幅4.75cm・最大厚3.35cm・重量128g、Ⅱ類が最大長4.63cm・最大幅3.25cm・最大厚1.35cm・重量34.07g、Ⅲ類が最大長7.2cm・最大幅5.995cm・最大厚2.01cm・重量134.26gを測る。またⅡ類は最大長が2.9cm～5.65cm、重量が5.8g～47.2gに集中するのに対し、Ⅲ類は最大長が3.05cm～11.09cm、重量が13g～486.2gに集中し、ばらつきが認められる。

異形石器（第125図1013）

異形石器は、黒曜石製で1点のみの出土である。下半分は欠損しているが、中央でくびれ両端の側縁が外湾する独鈷状の形状になるであろう。

石棒（第125図1014～1015）

石棒は2点出土、利用石材は、頁岩（1014）や砂岩（1015）の石材を利用している。ともに両端は欠損しているが、器面を研磨によって仕上げている。1014は長径1.8cm・短径1.25cmの楕円形を呈し、研磨によって整形されており面取り線が確認出来る。1015は断面形が復元径約5.5cmの円形を呈し、約2mm～4mmの断面V字形の溝が横位に一条巡る。

管玉（第125図1016）

管玉は、翡翠製で1点のみの出土である。若干、両端より中が膨らむ形状を呈している。両端より穿孔を施すが、逸れて貫通していない。

勾玉（第125図1017～1019）

勾玉は、3点出土で利用石材は、すべて蛇紋岩である。いずれも半円状に湾曲する形状で、頭部に片面から穿孔が施されている。

軽石製品（第125図1020～1022）

軽石製品は、A・B区合わせて26点出土している。加工方法により2類に分類出来る。

Ⅰ類（1020・1021）は、穿孔が施されるもので6点出土している。大半が楕円形を呈し、中央付近に1ヶ所ないし2ヶ所施される。大きさは、さまざまである。大半が風化しているが、1020のように両面・縁周を整形したものもみられる。用途としては、漁撈用の浮子等が想定出来る。

Ⅱ類は、加工痕の残るもので18点出土している。

第2節 D区の調査

1. 調査の概要

遺跡の南側で北東向きに斜面をもつ低位丘陵地裾部に広がる低地をD区とし、約1,683m²について調査を行った。標高は約8.5～8.75mである。調査前は水田として利用されており、まず、重機で調査区の北東側半分の水田層の除去を行い、南西側半分には確認トレンチを入れた。北東側は砂質土地帯が広がり、南西側の確認トレンチ部分には黒色シルト質土が堆積する溝状の落ち込みがあることが予想された。残り半分の水田層を重機で除去すると北西から南東方向にのびる丘陵地裾に沿って幅12～13mの帯状の黒色シルト質土地帯(SE8)が確認された。北東側の砂質土地帯では水田層除去後の第Vb層(明黄褐色砂質土)で遺構検出を行い、自然流路と思われる溝状遺構(SE7)を1条検出した。第Vb層は無遺物層で、30cm程掘り下げると円礫層となるため、第Vb層上面のみの調査となった。しかし、SE7からは縄文から古代までの遺物が出土しているため、以前は砂地に微高地が存在し、生活面があったことが推測される。SE8については、遺物の出土があり、人為的な遺構であるとしていたため人力による掘り上げを予定していたが、時間的な問題と途中自然地形の谷(流路)である可能性が高くなったため一部人力、それ以外を重機によって掘り上げを行った。

検出された遺構は自然流路と思われるSE7とSE8で、遺物は古代の土器を中心に縄文時代晩期の土器、弥生土器、古墳時代の土器、磨製石斧、磨石、敲石、石錘、凹石などの石器、勾玉、木製品が出土している。

2. 遺構と遺物

(1) 溝状遺構(SE)

SE7(第126図)

SE7は、地形に沿って形成された自然流路である。D区北東側の明黄褐色砂質土(第Vb層)上面で検出し、地形的に高くなっている土層断面C-C'付近を中心に北北西方向に約20m、南東方向に約8m程延びている。北端は自然地形の谷もしくは自然流路であるSE8に流れ込み、南東側は更に延びるものと思われる。検出面からの深さは5～30cm程で、途切れる箇所も見られる。埋土を取り除くと10cm程の円礫層が現れる。遺構の上層に堆積する黒褐色土砂質土中には縄文土器や古墳時代～古代の遺物が含まれ、特にSE8付近には遺物の集中がみられた。

出土遺物は第128図に示している。1023～1026は縄文晩期の土器である。1023は深鉢で、口縁部外面に突帯を貼り付け、外面は粗いナデ、内面はナデ仕上げがされている。1024と1025は浅鉢で、口縁部外面には口唇部形成時に作られた一条の細沈線がみられる。内外面とも横ミガキ仕上げである。1026は深鉢の底部である。平底を呈し、外面は条痕の後ナデ、内面は粗いナデ調整である。

1027～1036は古墳時代の土師器である。1027～1030は甕である。1027は頸部に若干のくびれをもち、胴部があまり張らない器形を呈すると思われる。くびれ部には刻目突帯が張り付けられ、刻目内には布目圧痕が残る。口縁部は直口する。内外面ともナデである。1028は胴部で、斜ハケ目の後ナデ仕上げがされている。1029は底部付近で、外面にタタキ、内面にはハケ目仕上げがみられる。1030は底部で、平底を呈すると思われる。内外面ともナデである。1031～1034は壺である。1031は頸部くびれ部に貼り付け刻目突帯をもつ。内外面ともナデ仕上げである。1032～1034は底部である。1032は平底でやや厚みを

もつものと思われる。1033・1034は平底を呈する。1035・1036は高坏の脚部である。1035は円柱状の脚柱部に開いた裾部をもつものと思われるが、脚柱部と裾部の間には稜はもたない。1036は裾部で、脚柱部と裾部の間に明瞭な稜がみられ大きく開く。

1037～1040は古代の遺物である。1037は土師器で甕の口縁部と思われる。口縁部外面に粘土を貼り付け、丸みをもった口縁部を形成している。1038は須恵器甕の胴部である。外面に平行タタキ、内面に同心円の当て具痕がみられる。1039・1040は布痕土器である。

1041は砂岩製の両端打ち欠き石錘である。1042は砂岩製の磨石で、全面に擦痕、両面中心部と全側面に敲打痕が見られる。

SE 8 (第126図)

SE 8は、D区南西側の粘質土湿地帯で検出された溝状の谷である。当初、人工的なものであるとしていたが、結果としては南西側の低丘陵地に沿った自然谷で、自然流路であったことも考えらる。今回の調査では北西から東に湾曲して南に向かって流れる約65mを確認した。それぞれの両端は更に延びるものと思われ、北西側の一部はB区南西側に確認されている。完掘後の上端幅は約8～16mで、検出面からの深さは浅い所で約0.8m、深い所で約2.2mを測る。谷は宮崎層群（軟質砂岩）で形成されている。土層断面で埋土を観察すると、底部付近は土砂等が一気に堆積した部分も見られるが、ほぼレンズ状堆積を成している。遺物を含む層は大きく二層で、溝壁面部の黒色砂質土（第53・54・57～59・62～65層）、上層部の粘質土（第8～14・16層）である。上層部の粘質土は鉄分や植物遺体を多く含むという水田層の特徴をもち、イネの植物珪酸体が検出されていることから、谷上部の堆積当時には周辺で稲作が行われていたと思われる。遺物は縄文晩期から古代のものが出土しており、その中でも古代の遺物が占める割合が高い。溝壁面上にその集中が見られることから、平安時代頃までは谷地形を残しており、その後時間をかけて埋没したと思われる。埋土中層には文明軽石（15C後半）、下層には高原スコリアが混在している。

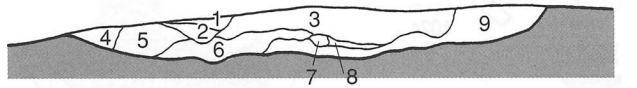
出土遺物は第130～139図に示している。1043～1046は縄文晩期の土器である。1043～1045は口縁部外面に貼り付け突帯をもつ深鉢である。いずれも内外面はナデ仕上げである。1046は浅鉢の口縁部から胴部である。口縁部外面には細沈線、内面には浅い沈線がある。内外面とも横ミガキの後ナデ仕上げがされている。

1047～1099は古墳時代の土器である。1047～1063は甕である。1047と1048は同一個体と思われるが、口縁部に最大径をもち、平底で胴部中位が張り、頸部に緩やかな屈曲をもって口縁部が開く。口唇部は細く仕上げられている。内外面ともナデと工具ナデである。1049は胴部中位に最大径を持ち、頸部が「く」字に屈曲して口縁部が開く。口唇部は平らに仕上げられている。口縁部内外面はヨコナデ、内面頸部付近には著しい指頭痕がみられる。1050は胴部中位程に最大径をもつ。頸部にやや屈曲をもって口縁部はやや外に開く。口唇部は丸く仕上げている。胴部内面はヨコナデと斜ハケ目、外面はヨコナデとナデである。1051は3個体を図上復元したものである。丸底で胴部上位程に最大径をもち、頸部が緩やかにくびれて口縁部はやや外に開く。口唇部は平らに仕上げられ、外面は斜ハケ目、内面は斜工具ナデがみられる。1052は胴部上位に最大径をもつ器形を呈すると思われる。頸部にやや屈曲をもち、口縁部はやや外に開く。口唇部は細く仕上げられ、外面に粘土の継目が残る。1053は口縁部と胴部の最大径がほぼ同じで、頸部に若干のくびれをもつものと思われる。口唇部は平らに仕上げられ、内面には粘土の



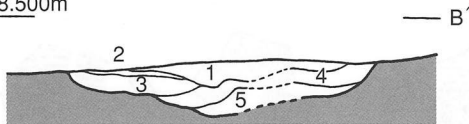
第126図 D区遺構分布図(S=1/200)

A 8.500m



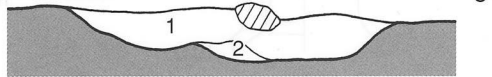
- | | |
|--|---|
| 1 灰オリーブ色 (5 Y5/2) 砂質土～やや軟質。橙色粒 (3～4mm) を多量含む。 | 6 黒褐色 (10YR2/3) 砂質土～しまりなし。橙色粒 (1mm程) をわずかに含む。 |
| 2 褐灰色 (10YR4/1) 砂利層～小石粒を少量含む。橙色粒 (1mm程) を若干含む。 | 7 黄褐色 (2.5YR5/4) 砂質土～しまりなし。橙色粒をわずかに含む。 |
| 3 灰オリーブ色 (5 Y5/2) 砂質土～しまりあり。橙色粒 (3～4mm) を多量含む。 | 8 黄褐色 (2.5YR5/4) 砂利層～小石 (一部鉄分付着) を含む。 |
| 4 褐色 (10YR4/4) 砂質土～ややしまりあり。橙色粒 (1mm程) を若干含む。 | 9 褐色 (7.5YR4/6) 砂質土～ややしまりあり。多量の褐色粒・少量の灰色粒を含む。 |
| 5 褐灰色 (10YR4/1) 砂利層～しまりなし。小石粒・少量の土器片を含む。 | |

B 8.500m



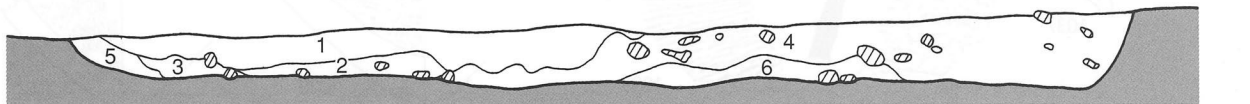
- | |
|---|
| 1 黒褐色 (7.5Y3/2) 砂質土～ややしまりあり。橙色粒 (2～3mm) ・礫を極くわずかに含む。 |
| 2 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 砂質土～やや粘性あり。橙色粒 (2～3mm) ・黄褐色粒を多量に含む。 |
| 3 黒色 (10YR2/1) 砂質土～やや粘性あり。 |
| 4 灰色 (10Y4/1) 砂質土～やや粘性あり。 |
| 5 黄褐色 (2.5Y5/6) 砂質土～ややしまりあり。橙色粒 (2～3mm) ・砂利・礫を含む。 |

C 8.500m



- | |
|-------------------------------------|
| 1 明オリーブ灰 (5GY7/1) 砂利層～もろい灰色岩礫を多く含む。 |
| 2 暗赤褐色 (5YR3/2) 砂質土～粘性なし。 |

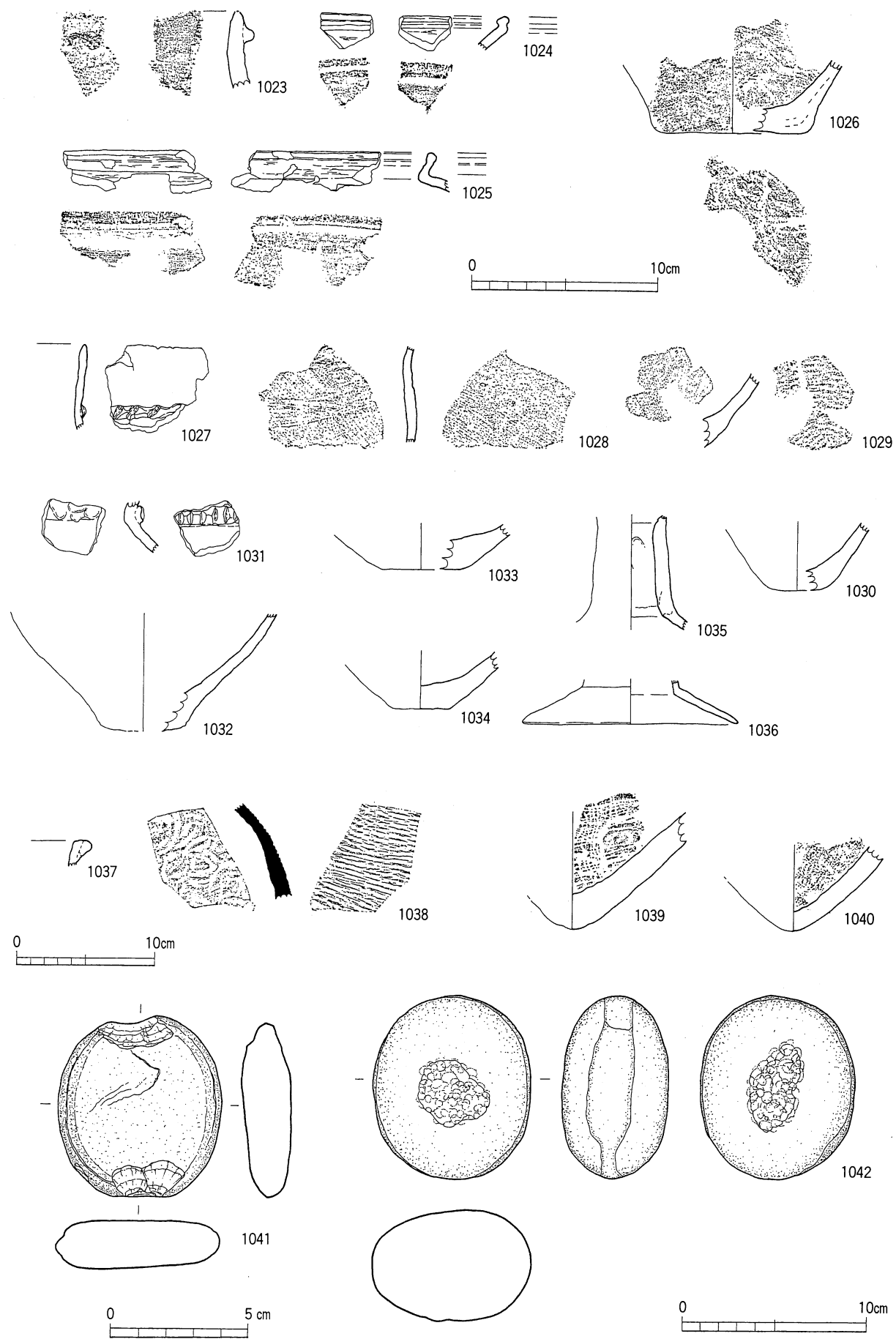
D 8.400m



0 1m

- | |
|---|
| 1 黒褐色 (7.5YR3/1) 砂質土～明黄褐色砂礫を含む。軽石を少量含む。 |
| 2 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土～粘性なし。礫を若干含む。 |
| 3 黄褐色 (2.5Y5/4) 砂質土～やや粘性あり。明黄褐色粒 (1～3mm) を含む。 |
| 4 灰黄色 (2.5Y6/2) 礫層～礫間を明黄褐色砂利が埋める。 |
| 5 黒褐色 (10YR2/3) 砂質土～やや粘性あり。 |
| 6 褐色 (10YR4/6) 砂質土～粘性あり。砂利を若干含む。 |

第127図 D区SE7土層断面実測図 (S=1/30)



第128图 D区SE7出土遺物実測図 (1023~1026・1039・1040・1042 S=1/3、1027~1038 S=1/4、1041 S=1/2)

9.000m

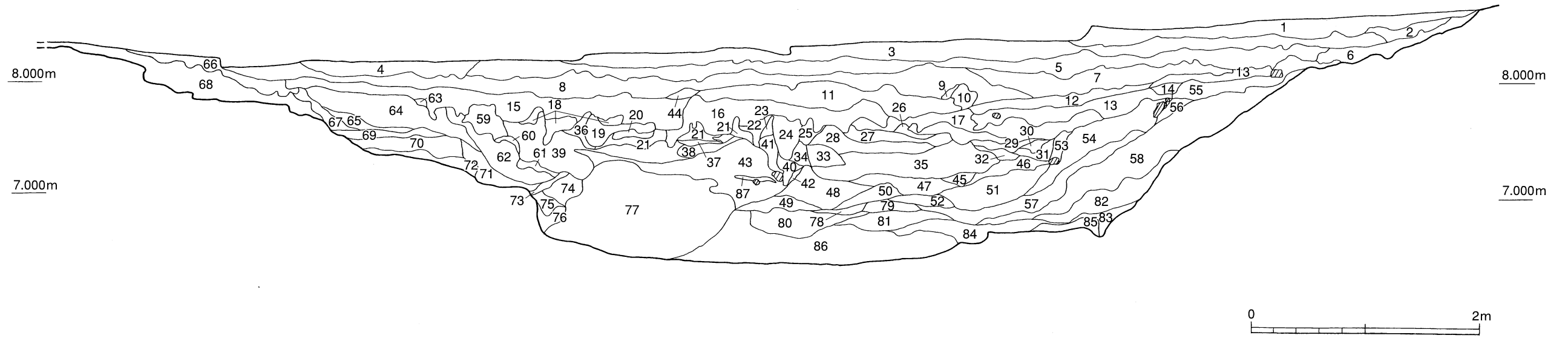
9.000m

8.000m

8.000m

7.000m

7.000m



- | | | | | |
|--|---|--|--|---|
| 1 オリーブ黒色 (7.5Y3/2) シルト質土～硬質。オリーブ色 (5Y6/6) 砂岩粒 (0.5～1 cm程) と炭化物粒を若干含む。鉄分筋が多く入る。 | 18 灰色 (5Y5/1) シルト質土～しまりあり。多量の青灰色 (5BG5/1) 粘土粒 (5 mm程) ・炭化物粒を含む。 | 37 オリーブ黒色 (10Y3/1) 砂質土～しまりあり。灰オリーブ色 (7.5Y5/3) 砂岩礫を含む。 | 55 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト質土～やや硬質。オリーブ色 (5Y6/6) 砂岩礫 (3 cm程) ・青灰色 (5BG5/1) 粘土粒 (1～2 cm程) ・炭化物粒 (0.5 mm程) を若干含む。 | 73 灰色 (10Y4/) シルト質土～やや軟質。オリーブ灰色 (10Y5/2) 砂岩粒を含む。 |
| 2 オリーブ黒色 (5Y2/2) シルト質土～やや硬質。オリーブ色 (5Y6/6) 砂岩粒・礫 (0.5～4 cm) を多く含む。鉄分筋が入る。 | 19 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) シルト質土～しまりあり。若干のオリーブ色 (5Y6/6) 砂岩礫 (1～3 cm程) ・青灰色 (5BG5/1) 粘土粒 (5 mm程) を含む。 | 38 オリーブ黒色 (10Y3/1) 砂質土～軟質。灰オリーブ色 (7.5Y5/3) 砂岩礫を少量含む。 | 56 オリーブ黒色 (5GY2/1) シルト質土～やや軟質。オリーブ色 (5Y6/6) 砂岩礫 (3 cm程) を若干含む。 | 74 灰色 (7.5Y4/) シルト質土～やや軟質。植物遺体を含む。 |
| 3 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト質土～硬質。鉄分筋が多く入る。 | 20 灰オリーブ色 (7.5Y5/3) 砂岩礫層～もろい。岩礫とオリーブ黒色砂質土が混在する。 | 39 灰色 (5Y4/1) 粘質土～軟質。若干砂質をもつ。炭化物粒 (1～5 mm程) を少量含む。 | 57 オリーブ黒色 (5GY2/1) 粘質土～硬質。若干の白色粒・炭化物粒・土器片を含む。 | 75 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) シルト質土～やや軟質。青灰色 (5B6/1) 砂岩礫 (2 cm程) を若干含む。 |
| 4 褐色 (10YR4/6) シルト質土～やや硬質。オリーブ黒色 (7.5Y3/2) 粘質土が混在する。鉄分筋が多く入り、炭化物粒を若干含む。 | 21 灰オリーブ色 (7.5Y5/3) 砂岩礫層～しまりあり。第20層より礫が多い。 | 40 灰色 (10Y4/1) 粘質土～軟質。植物遺体・灰色 (5Y4/1) 粘質粒・オリーブ色 (5Y6/6) 粘土粒を若干含む。 | 58 オリーブ黒色 (5GY2/1) 粘質土～硬質。若干の白色粒・炭化物粒・土器片を含む。 | 76 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) シルト質土～やや軟質。多量の青灰色 (5B6/1) 砂岩礫・若干の植物遺体を含む。 |
| 5 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト質土～やや軟質。オリーブ色 (5Y6/6) 砂岩粒 (1～3 cm程) をやや多く含む。鉄分筋が若干見られる。 | 22 灰オリーブ色 (7.5Y4/2) 粘質土～しまりあり。少量の灰オリーブ色 (7.5Y5/3) 砂岩礫・白色粒 (5 mm程) ・多量の植物遺体を含む。 | 41 灰色 (7.5Y4/1) シルト質土～やや軟質。黄色 (2.5Y7/8) ・青灰色 (5BG5/1) 粘土粒・多量の植物遺体を含む。 | 59 オリーブ黒 (5Y3/1) シルト質土～硬質。多量の炭化物粒・少量の土器片・青灰色 (5BG5/1) 粘土粒 (5 mm程) ・オリーブ色 (5Y6/6) 砂質土ブロックを含む。 | 77 明褐色 (10YR6/8) 砂利層～しまりあり。1～3 cm程の砂利層である。 |
| 6 黒色 (5Y2/1) シルト質土～やや硬質。オリーブ色 (5Y6/6) 砂岩粒・礫 (1～4 cm程) ・青灰色 (5BG5/1) 粘土粒 (1 cm程) を含む。 | 23 灰オリーブ色 (7.5Y4/2) 粘質土～しまりあり。土器片・植物遺体・白色粒 (5 mm程) を少量含む。 | 42 灰オリーブ色 (7.5Y4/2) 砂質土～軟質。植物遺体・青灰色 (5BG5/1) 粘土粒を若干含む。 | 60 黒色 (2.5GY2/1) 粘質土～硬質。オリーブ色 (5Y6/6) 粘質土を斑点状に含む。 | 78 暗オリーブ色 (7.5Y4/3) 砂岩礫層～ややもろい。 |
| 7 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト質土～やや硬質。若干のオリーブ色 (5Y6/6) 砂岩粒・礫 (1～3 cm程) ・青灰色 (5BG5/1) 粘土小ブロックを含む。鉄分少量含む。 | 24 灰オリーブ色 (7.5Y4/2) 粘質土～しまりあり。明褐色 (7.5YR5/6) 粘土粒を含む。 | 43 青灰色 (5BG5/1) 砂利層～ややもろい。1～3 cm程の小石層で、植物遺体を含む。 | 61 暗灰色 (N3/) シルト質土～やや硬質。多量の白色粒・若干の炭化物粒を含む。 | 79 灰オリーブ色 (7.5Y5/3) 砂岩礫層～しまりあり。 |
| 8 暗灰色 (N3/) シルト質土～硬質。オリーブ色 (5Y6/6) 砂岩粒・礫 (1～3 cm程) ・土器小片・炭化物粒を若干含む。鉄分筋が見られる。 | 25 灰オリーブ色 (7.5Y4/2) 粘質土～しまりあり。オリーブ黒色 (7.5Y3/1) シルト質土・白色粒 (5 mm程) を若干含む。 | 44 灰色 (5Y5/1) シルト質土～硬質。炭化物を若干含む。 | 62 黒色 (7.5YR2/1) 砂質土～軟質。オリーブ色 (5Y6/6) 砂岩礫 (3～4 cm程) ・土器小片を若干含む。 | 80 青灰色 (5B5/1) シルト質土～軟質。多量の青灰色 (5B5/1) 粘土粒 (1 mm程) ・植物遺体を含む。 |
| 9 オリーブ黒色 (7.5Y3/2) シルト質土 | 26 灰色 (N4/) 粘質土～軟質。鉄分含む。 | 45 暗オリーブ灰色 (2.5GY3/1) 粘質土～硬質。炭化物粒・白色粒を若干含む。 | 63 灰色 (5Y4/1) シルト質土～やや軟質。土器を含む。 | 81 暗青灰色 (5B4/1) シルト質土～やや軟質。炭化物粒を若干含む。 |
| 10 灰色 (5Y4/1) シルト質土～硬質。第11層より砂質が強い。 | 27 灰色 (5Y4/1) 粘質土～しまりあり。明青灰色 (10BG7/1) 粘土粒 (5 mm程) ・植物遺体・炭化物粒を含む。 | 46 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) シルト質土～硬質。白色粒・灰オリーブ色 (7.5Y5/3) 砂岩粒・土器小片を若干含む。 | 64 黒色 (5YR1.7/1) 砂質土～やや軟質。若干の炭化物粒・青灰色 (5BG5/1) 粘土粒 (1～2 mm程) ・オリーブ色 (5Y6/6) 砂岩礫 (3～4 cm程) ・多量の土器を含む。 | 82 灰色 (10Y4/1) シルト質土～やや軟質。青灰色 (5B6/1) 砂岩礫を多量に含む。 |
| 11 灰色 (5Y4/1) シルト質土～硬質。少量の炭化物粒 (0.5 mm程) ・鉄分粒・土器片を含む。 | 28 灰オリーブ色 (5Y4/2) 粘質土～しまりあり。明青灰色 (10BG7/1) 粘土粒 (5 mm程) ・植物遺体・炭化物粒を少量含む。 | 47 灰色 (N4/) 粘質土～硬質。白色粘土粒 (1 mm程) ・炭化物粒を若干含む。 | 65 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質土～やや硬質。若干の炭化物粒・青灰色 (5BG5/1) 粘土粒・土器を含む。 | 83 青灰色 (10BG5/1) 粘質土～軟質。 |
| 12 オリーブ黒色 (10Y3/1) 粘質土～硬質。少量のオリーブ色 (5Y6/6) 砂岩礫 (3 cm程) ・青灰色 (5BG5/1) 粘土粒 (1 cm程) ・炭化物粒・土器片を含む。 | 29 暗灰色 (N3/) 砂質土～軟質。黒色 (10Y2/1) 粘土ブロック・炭化物粒が若干含まれる。 | 48 灰オリーブ色 (7.5Y5/2) 粘質土～硬質。青灰色 (5BG5/1) 粘土粒 (3 mm程) ・炭化物粒を多量含む。 | 66 オリーブ黒 (5Y3/2) シルト質土～やや硬質。青灰色 (5BG5/1) 粘土粒 (1 cm程) ・明褐色 (7.5YR5/6) 粘土粒 (5 mm程) を若干含む。 | 84 灰色 (10Y4/1) 粘質土～軟質。青灰色 (5B6/1) 砂岩礫を多量に含む。 |
| 13 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質土～やや軟質。オリーブ色 (5Y6/6) 砂岩礫 (4～5 cm程) ・青灰色 (5BG5/1) 粘土粒 (1 cm程) を若干含む。土器片含む。 | 30 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粘質土～硬質。青灰色 (5BG5/1) 粘土粒 (1 cm程) ・炭化物粒を若干含む。 | 49 灰色 (N4/) 粘質土～軟質。青灰色 (5BG5/1) 粘土粒 (1 mm程) ・植物遺体を多量に含む。 | 67 灰色 (5Y4/1) シルト質土～硬質。若干の炭化物粒・土器片粒・多量の白色粒を含む。 | 85 暗青灰色 (5BG3/1) 粘質土～やや軟質。青灰色 (5B6/1) 砂岩礫を若干含む。 |
| 14 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質土～やや軟質。オリーブ色 (5Y6/6) 砂岩粒 (1 cm程) を多く、青灰色 (5BG5/1) 粘土粒 (1 cm程) を若干含む。 | 31 黒色 (10Y2/1) 粘質土～硬質。白色粒を多量に含む。 | 50 オリーブ灰色 (5GY5/1) 粘質土～硬質。若干の炭化物粒・白色粒 (1 mm程) を多量に含む。 | 68 黄褐色 (10YR5/6) 砂岩礫層～硬質。 | 86 青灰色 (5BG5/1) 砂利層～軟質。青灰色 (10BG5/1) 粘質土と層を成している。 |
| 15 灰色 (5Y4/1) シルト質土～やや軟質。青灰色 (5BG5/1) 粘土粒 (1～3 cm程) ・鉄分筋を少量含む。 | 32 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) 粘質土～硬質。オリーブ色 (5Y6/6) 粘質土が筋状に入る。 | 51 暗灰色 (N3/) シルト質土～硬質。多量の白色粒・若干の灰オリーブ色 (7.5Y5/3) 砂岩粒・少量の土器片を含む。 | 69 暗色オリーブ灰 (2.5GY4/1) 砂質土～硬質。青灰色 (5BG5/1) 砂岩礫 (3 cm程) を含む。 | 87 暗青灰色 (10BG3/1) 粘質土～軟質。 |
| 16 オリーブ黒 (10Y3/1) 粘質土～やや軟質。多量のオリーブ色 (5Y6/6) 砂岩礫 (2～3 cm程) ・青灰色 (5BG5/1) 粘土粒 (1～2 cm程) ・若干の土器片粒を含む。 | 33 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土～硬質。灰色 (10Y6/1) 粘土粒・オリーブ色 (5Y6/6) 粘土粒・炭化物粒を多量に含む。 | 52 灰色 (10Y5/1) 粘質土～硬質。多量の白色粒・若干の炭化物粒を含む。 | 70 青灰色 (5B6/1) 砂岩礫層～しまりあり。 | |
| 17 灰色 (5Y4/1) 粘質土～やや軟質。中量の明褐色 (7.5YR5/6) 粘土粒 (0.5～1 cm程) ・若干の黒色 (7.5YR2/1) 砂質土・青灰色 (5BG5/1) 粘土粒 (0.5～1 cm程) を含む。 | 34 灰オリーブ色 (7.5Y5/2) 粘質土～硬質。灰色 (10Y6/1) 粘土粒・オリーブ色 (5Y6/6) 粘土粒・植物遺体を若干含む。 | 53 オリーブ黒色 (5GY2/1) 粘質土～硬質。土器片・灰オリーブ色 (7.5Y5/3) 砂岩礫を少量含む。 | 71 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) シルト質土～やや硬質。青灰色 (5B6/1) 砂岩礫をやや多く含む。 | |
| | 35 灰色 (N4/) 粘質土～硬質。炭化物粒・白色粒・鉄分が含まれる。 | 54 オリーブ黒色 (5GY2/1) 粘質土～硬質。多量の青灰色 (5BG5/1) 砂岩粒 (0.5～1 cm程) ・白色粒・土器片・少量の炭化物粒を含む。 | 72 オリーブ灰色 (10Y5/2) 砂岩礫層～硬質。 | |
| | 36 灰オリーブ色 (5Y4/2) シルト質土～しまりあり。多量の植物遺体・若干の白色粒 (1 mm程) を含む。 | | | |

第129図 D区SE8土層断面(E-E')実測図(S=1/40)

継目や指頭痕がみられる。1054・1055は頸部屈曲部に貼り付け刻目突帯をもつ甕である。1056～1063は底部である。1056は上げ底で、くびれをもって裾が外に開く。1057・1058は平底で、くびれをもつ。1059～1061は平底で、くびれをもたない。1060は外面にタタキ調整、1061は外面に著しい指頭痕がみられる。1062は平底で、くびれをもって裾が若干外に開く。1063は作成技法に輪台が使われている。外面にはタタキ、内外面とも著しい指頭痕がみられる。1064～1083壺である。1064は二重口縁を呈すると思われる。頸部屈曲部には棒状工具による連続押圧を伴う貼り付け突帯をもつ。長胴で胴部中位程に最大径をもち尖底を呈する。内外面とも風化気味であるが、斜ハケ目仕上げがされている。1065と1066は頸部屈曲部に貼り付け刻目突帯をもつ。1066は肩部の張った器形を呈すると思われる。1067・1068は二重口縁壺である。1067は口縁部が直口し、頸部に刻目がみられる。1068は口縁部がやや内湾気味に立ち上がる。内面には丹塗りが残る。1069は丸底壺の口縁部になると思われる。やや内湾気味に外に開く。1070は球形を呈する壺の胴部と思われる。外面は丁寧にミガキが施されているが、内外面とも炭化物やススの付着がみられる。1071は短頸で、胴部が偏球形を呈する壺と思われる。外面はタタキ調整である。1072～1083は底部である。1072・1073は平底で、くびれをもつものである。1073は外面にタタキが施されている。1074～1076は平底で、くびれをもたない。1077は小さな平底を呈し、くびれをもたない。1078は底部に輪台を用いている。1079～1081は尖底のものである。1082は厚みが有り、やや丸底気味のものである。1083は器壁の薄い丸底を呈する。1084～1090は高坏の坏部、1091～1093は高坏の脚部である。1084は坏底部で口縁部との間に明瞭な稜をもつものと思われる。1085は口縁部と坏底部との間に稜をもたず、口縁部は外に開く。1086は小型のもので、口縁部と坏底部との間に明瞭な稜をもたず、口縁部の立ち上がりが短い。1087と1088は口縁部と坏底部との間に明瞭な稜をもたないもので、1089は若干稜をもつと思われる。1091は脚柱部にやや膨らみをもつ。1092は円柱状の脚柱部で、裾部が大きく開くものと思われる。1093円柱状の脚柱部である。1094は大型の鉢か？バケツ状の平底を呈する。外面にタタキが施され、内面には炭化物が付着している。1095～1099は小型土器の甕と思われる。1095は二重口縁を呈する。1096は胴部の張った器形を呈する。1097・1098は頸部から肩部で、1097は外面に丁寧な横ミガキが施されている。1099は底部である。

1100～1176は古代の土器である。1100～1120は土師器甕で、およその器形はやや長胴気味の球形及び丸底のバケツ形を呈するものと思われる。口縁から胴部形態で分類すると大きく4つに分けられる。

- ① 胴部に膨らみをもち、口頸部が「く」字状に強く屈曲し外反するもの。(1100～1112)
- ② 胴部に膨らみをもち、口頸部が緩やかにくびれ外反するもの。(1113～1115)
- ③ 胴部に膨らみをもたず、口頸部が緩やかにくびれ外反するもの。(1116～1118)
- ④ 膨らみのない胴部がのび、頸部にくびれをもたずに口縁部が外側に開くもの。(1119・1120)

である。また、口縁端部にはナデ形成によって作られた膨らみをもつもの(1105～1111)がみられる。器面調整は内外面で分類すると10に分けられる。

- ① 外面はハケ状工具によるヨコナデ、内面は口縁部がハケ状工具によるヨコナデと胴部が縦方向のケズリのもの。(1100～1103・1116)
- ② 外面はハケ状工具によるヨコナデ、内面は口縁部がハケ状工具によるヨコナデと胴部がナデのもの。(1104・1105)
- ③ 外面はハケ状工具によるヨコナデ、内面は口縁部がヨコナデ、胴部が工具によるヨコナデのもの。

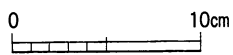
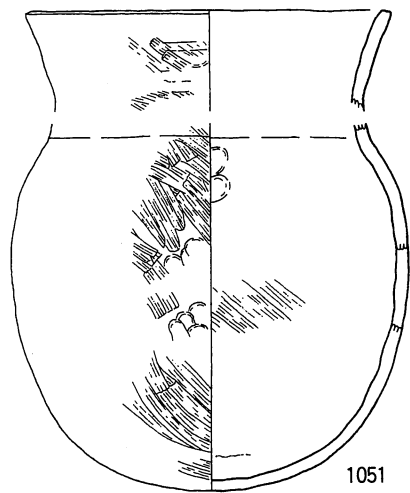
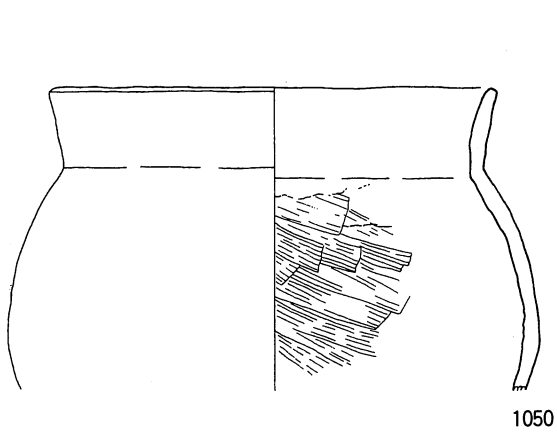
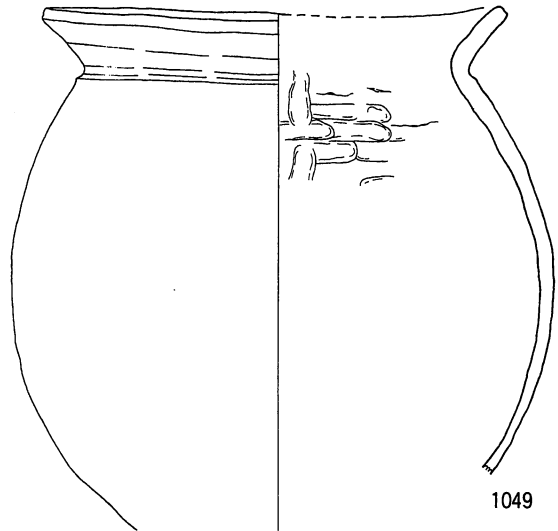
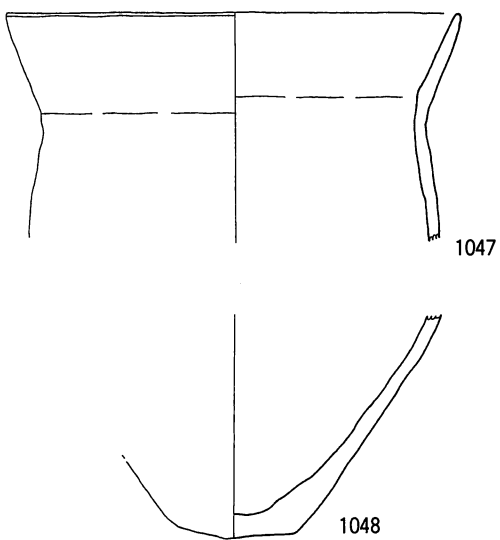
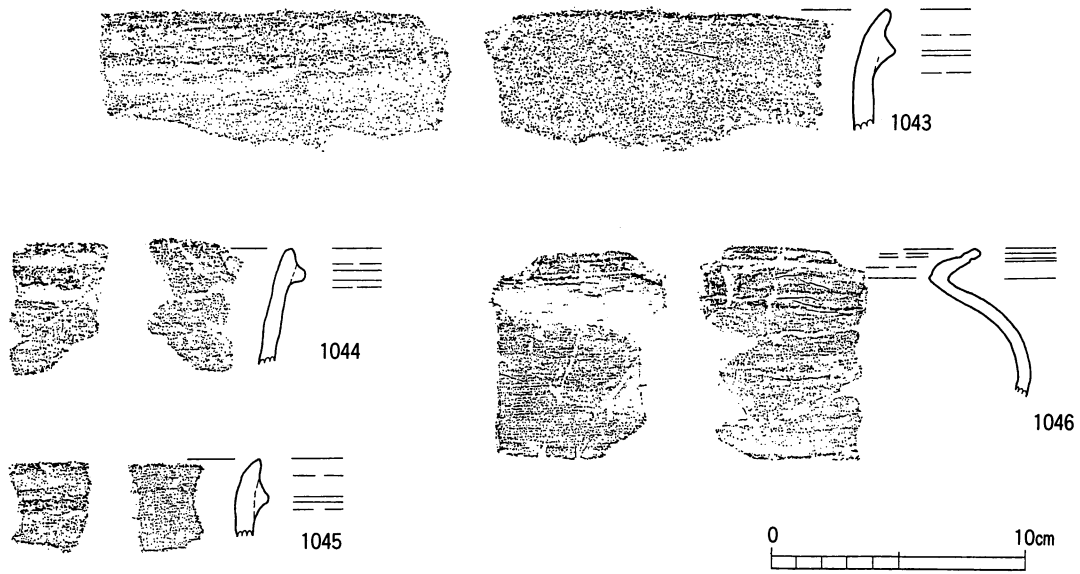
(1111)

- ④ 外面はハケ状工具によるヨコナデ、内面はナデのもの。(1117)
- ⑤ 外面はハケ目、内面は口縁部がハケ目、胴部が縦方向のケズリのもの。(1106)
- ⑥ 外面はハケ目、内面は口縁部がハケ目、胴部がナデのもの。(1108)
- ⑦ 外面は工具によるヨコナデ、内面は口縁部がナデ及びヨコナデ、胴部が縦方向のケズリのもの。(1109・1114)
- ⑧ 外面はナデ及びヨコナデ、内面は口縁部がナデ及びヨコナデと胴部が縦方向のケズリのもの。(1107・1110・1112・1113・1115)
- ⑨ 外面はハケ状工具によるナデとナデ、内面はナデのもの。(1119)
- ⑩ 外面は平行タタキや格子目タタキ、内面はナデのもの。(1118・1120)

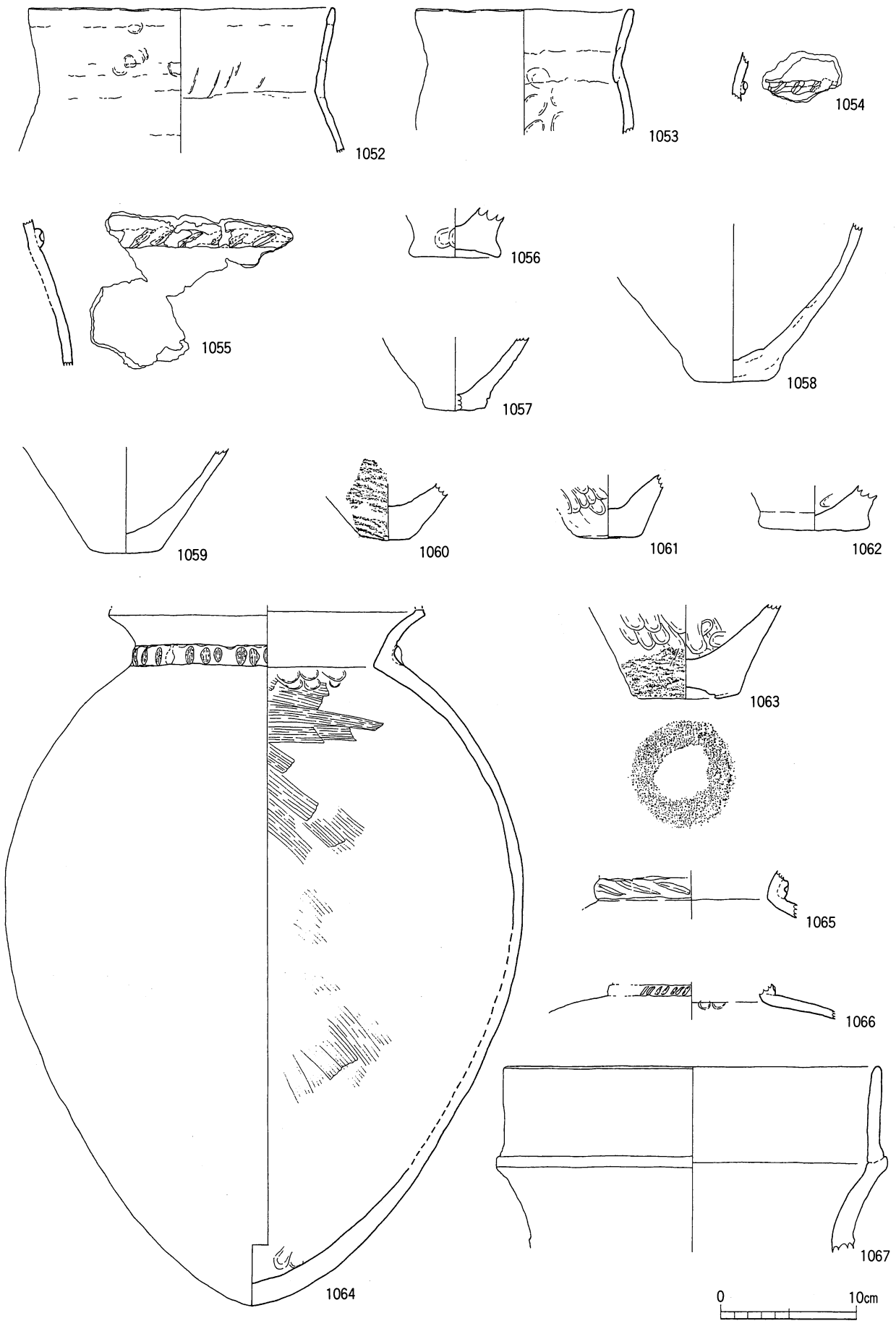
である。1114は口縁部内面に「+」のヘラ記号がみられる。1121は壺である。肩部がやや張り短い口頸部が外反する。肩部上には平行タタキ痕がみられる。1122は鉢と思われる。バケツ状の胴部を呈し口唇部は平らに仕上げられている。調整は外面はハケ状工具によるヨコナデ、内面はナデである。1123～1147は土師器坏である。法量や形態でみるとおおまかに次のことが言える。口径は小さいものと大きいものどちらかに分けられ、中間のものはみられない。また、口径と器高の比率でみるとやや浅めのものが多いことが解る。底部は全てヘラ切りである。分類すると次のとおりである。

- ① 口径が12～13.5 cm程で、口径に対して器高がやや高く、底径が7～8 cm未満のもの。(1126・1127・1129)
- ② 口径が12～13.5cm程で、口径に対して器高がやや低く、底径が7～8 cm未満のもの。(1123・1125)
- ③ 口径が12～13.5cm程で、口径に対して器高がやや低く、底径が8 cm以上のもの。(1128)
- ④ 口径が15.5～16.5cm程で、口径に対して器高がやや高く、底径が8 cm以上のもの。(1133・1134)
- ⑤ 口径が15.5～16.5cm程で、口径に対して器高がやや低く、底径が8 cm以上のもの。(1130～1132)
- ⑥ 底径が8 cm以上で、底部と体部の間にややくびれ(段)をもつもの。(1134・1143・1147)
- ⑦ 底径が6～7 cm未満で、底部と体部の間にくびれ(段)をもたないもの。(1138・1140)
- ⑧ 底径が7～8 cm未満で、底部と体部の間にくびれ(段)をもたないもの。(1139・1141・1142・1144)
- ⑨ 底径が8 cm以上で、底部と体部の間にくびれ(段)をもたないもの。(1145・1146)

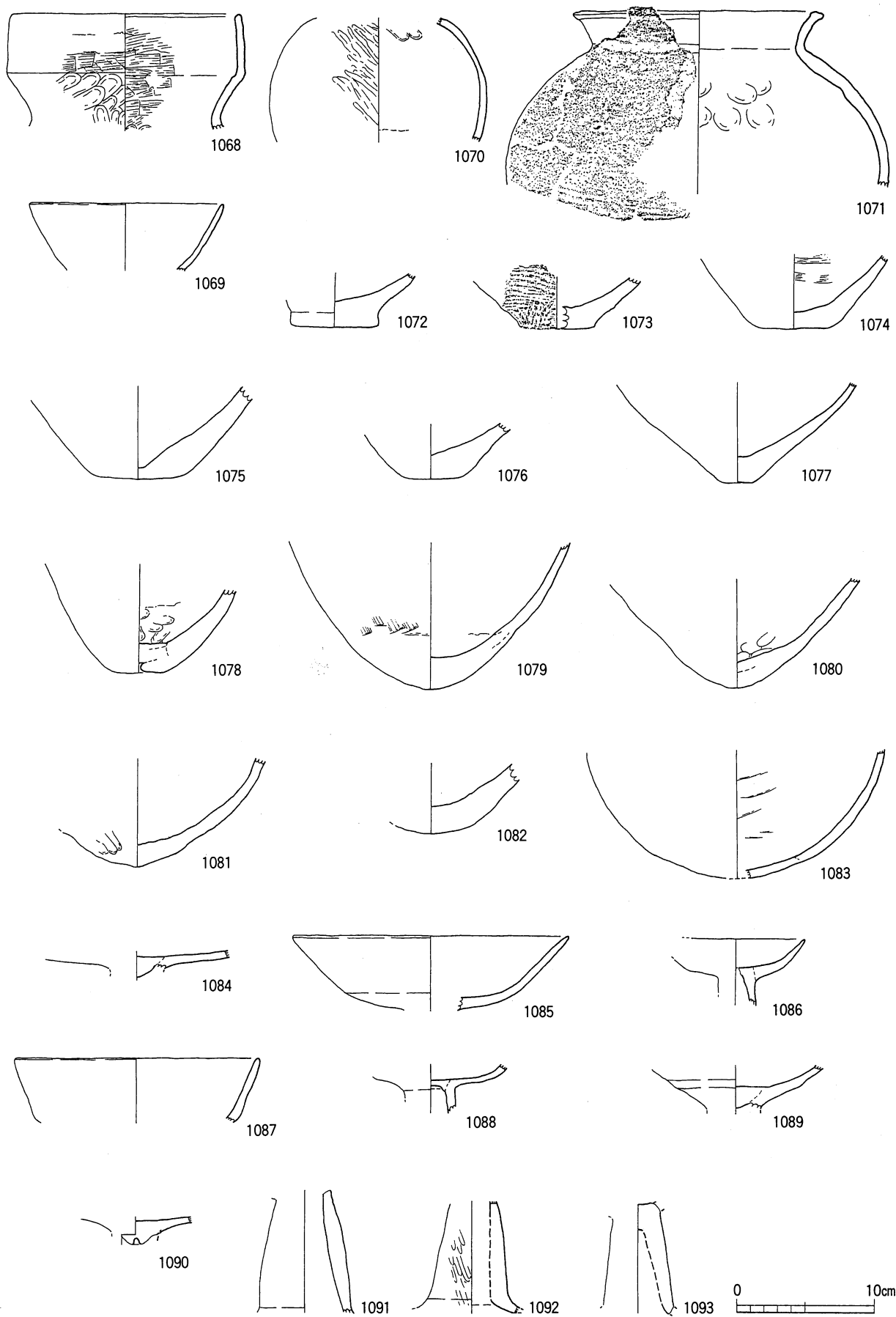
1124は口径を復元すると約13.6cm程になり①に分類される。1129は内面底部に「+」になると思われるヘラ記号がある。1135と1136は他のものと若干づくりが異なる。1135は器高が高くなる。内外面ともナデで、特に口縁端部内面はナデによって面取りされ外反する。1136は内湾する丸味をもった体部を呈する。内外面ともナデで、外面底部にはナデによる砂粒の動きが目立つ。1137は口縁部から体部で、口縁端部は外反する。調整は外面は回転ナデ、内面はナデである。1149は土師器の高台付き杯である。1150と1151は黒色土器の坏である。丸味をもった内湾気味の体部を呈する。1150は推定口径が16.9cmとやや大型で、口径に対して器高が低い。調整は外面は体部がヘラ削り、口縁部が横方向のミガキ、内面は黒色で、横方向のミガキの後丁寧なナデがされている。1151は1150よりひとまわり小さく、口径に対して器高が若干高くなる。調整は外面体部下半にヘラ削り、上半はナデ、内面は黒色でミガキ後丁寧なナデがみられる。1152～1170は布痕土器である。製塩や塩の運搬に使用されたとと思われる円錐状を呈する土



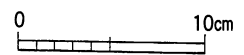
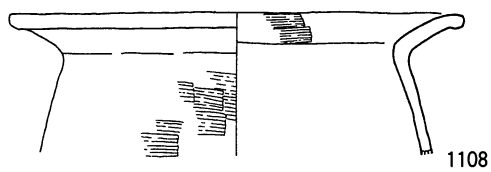
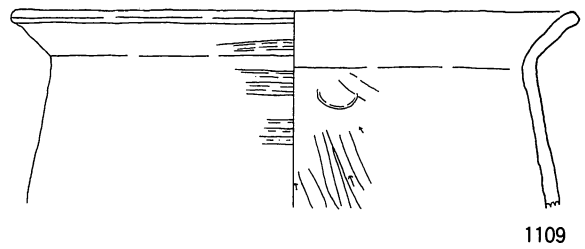
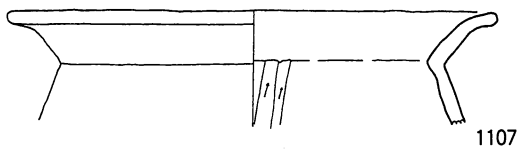
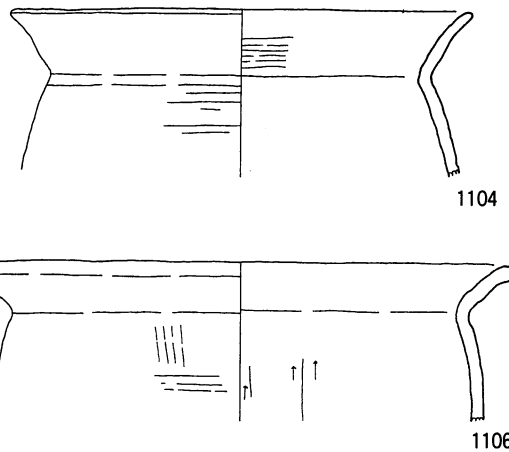
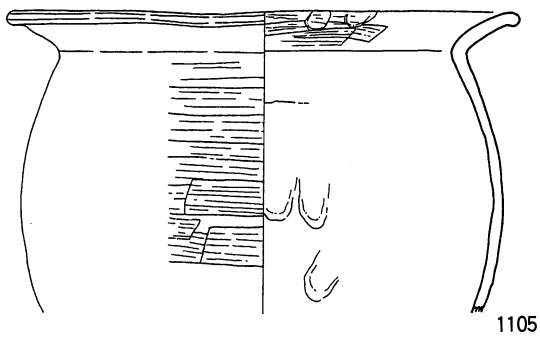
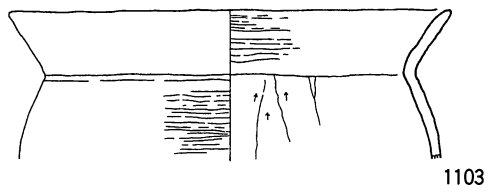
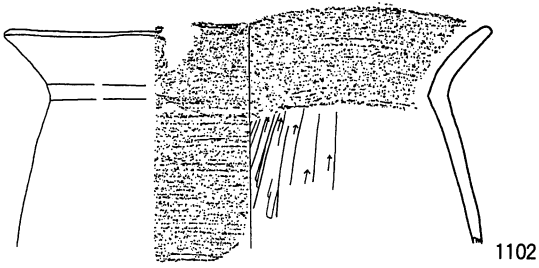
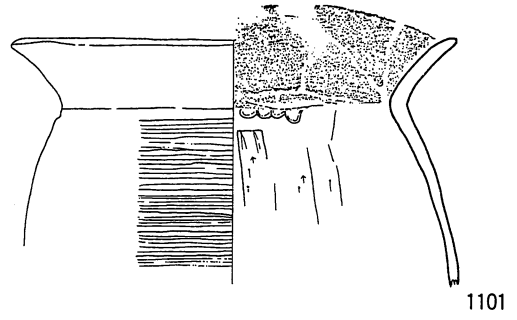
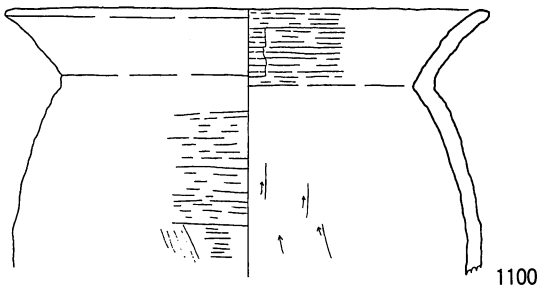
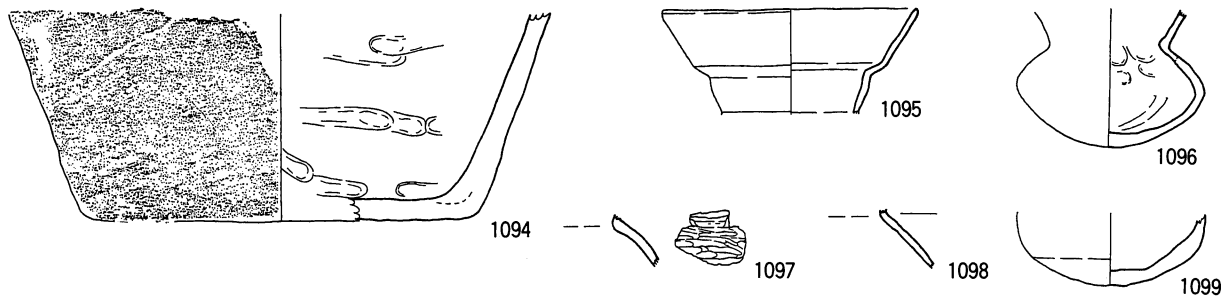
第130图 D区SE8出土土器实测图 (1043~1046 S=1/3、1047~1051 S=1/4)



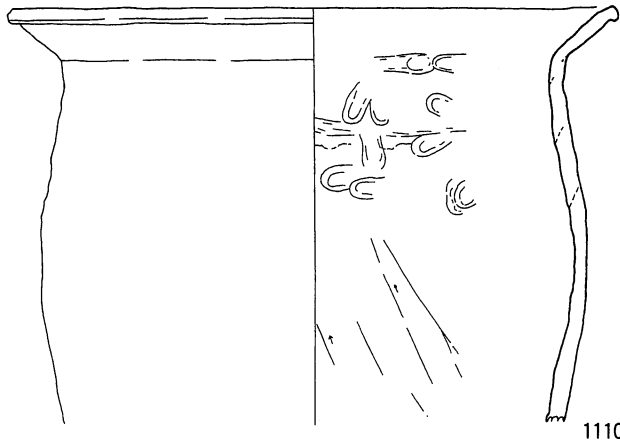
第131图 D区SE8出土土器实测图 (S=1/4)



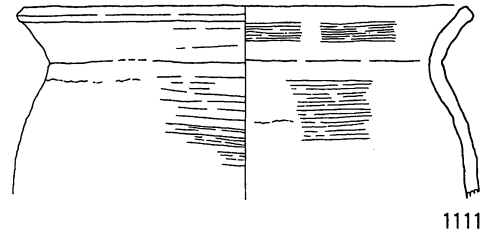
第132图 D区SE8出土土器实测图 (S=1/4)



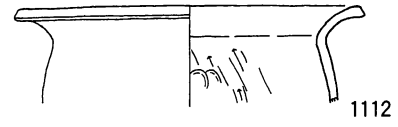
第133图 D区SE8出土土器实测图 (S=1/4)



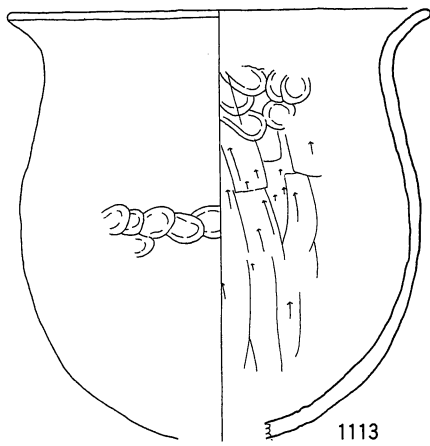
1110



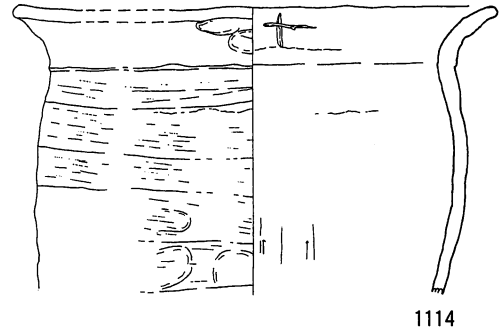
1111



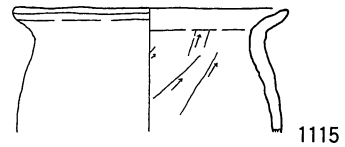
1112



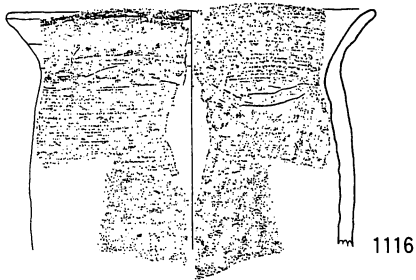
1113



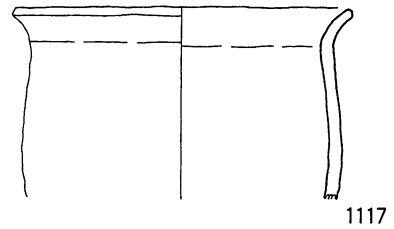
1114



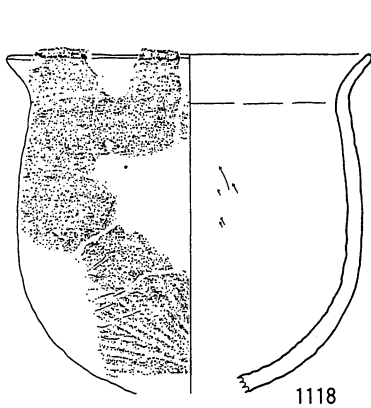
1115



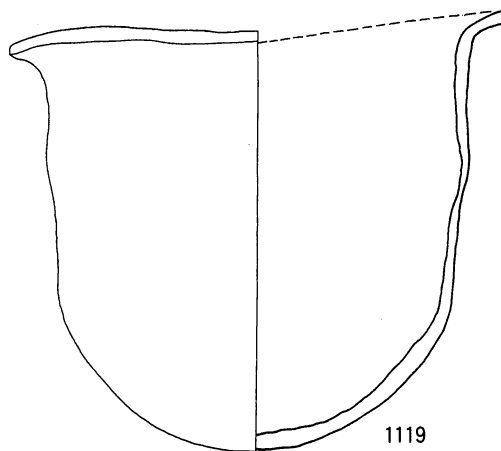
1116



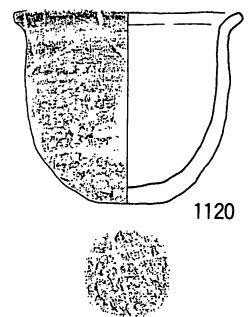
1117



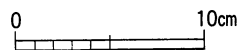
1118



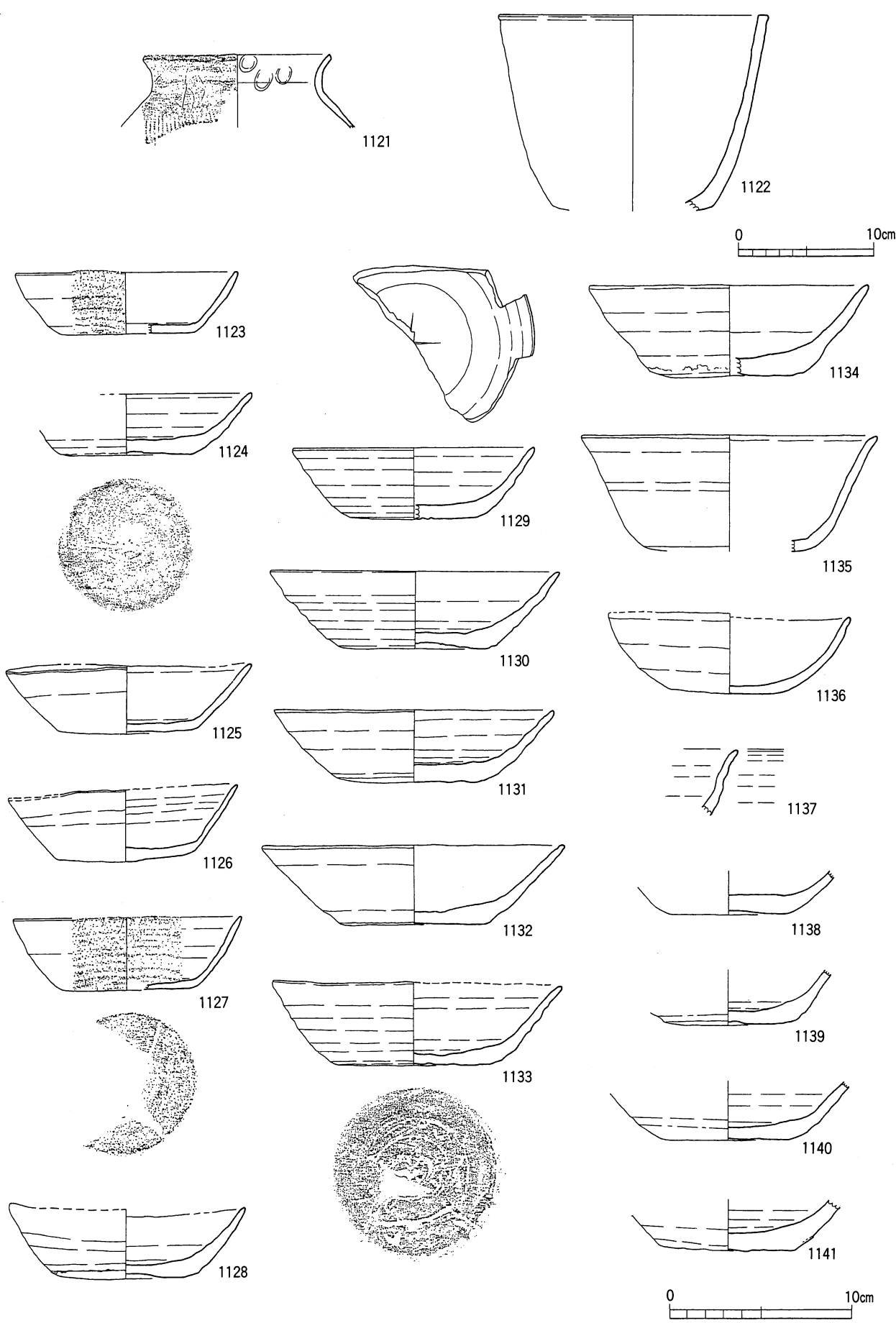
1119



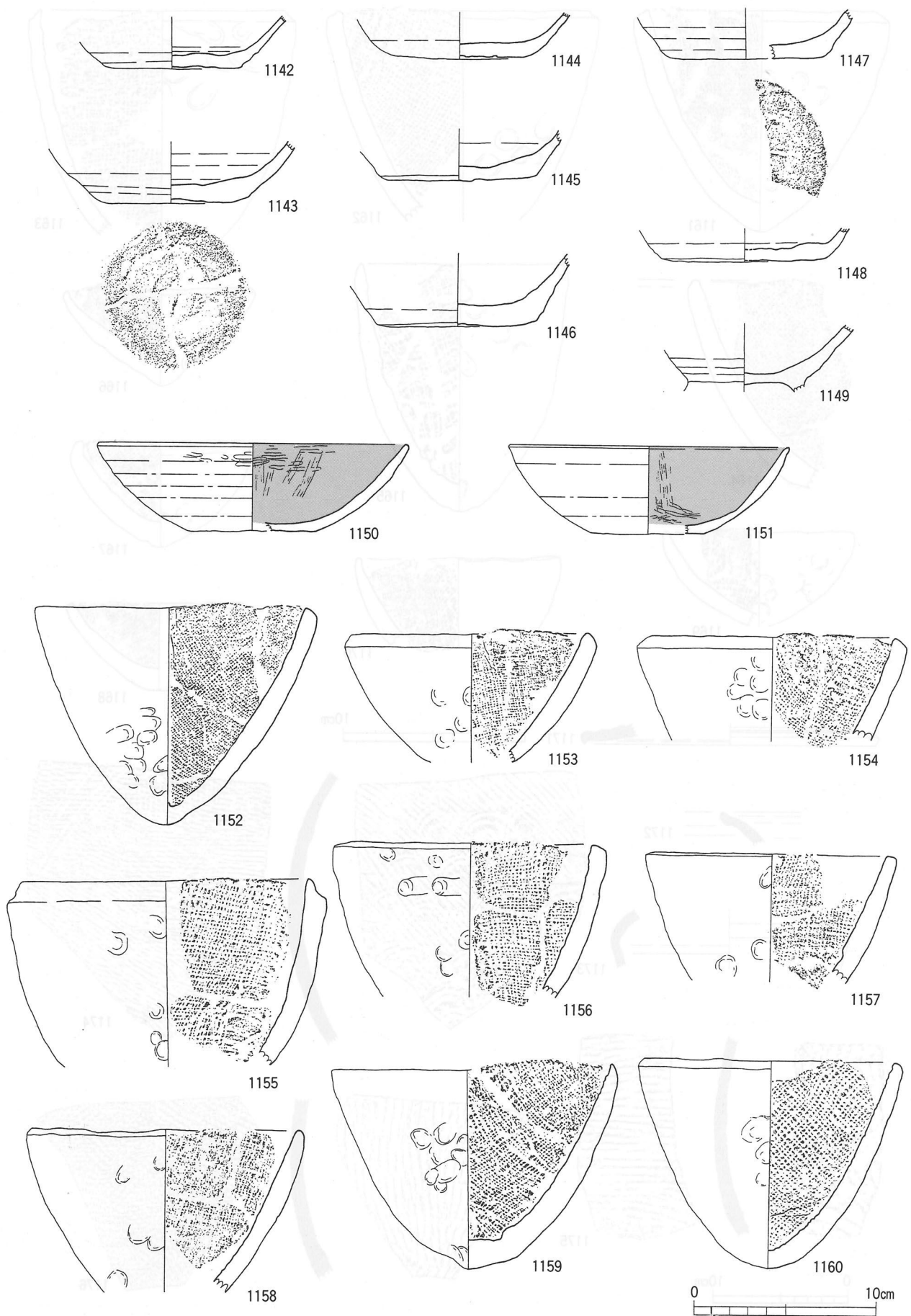
1120



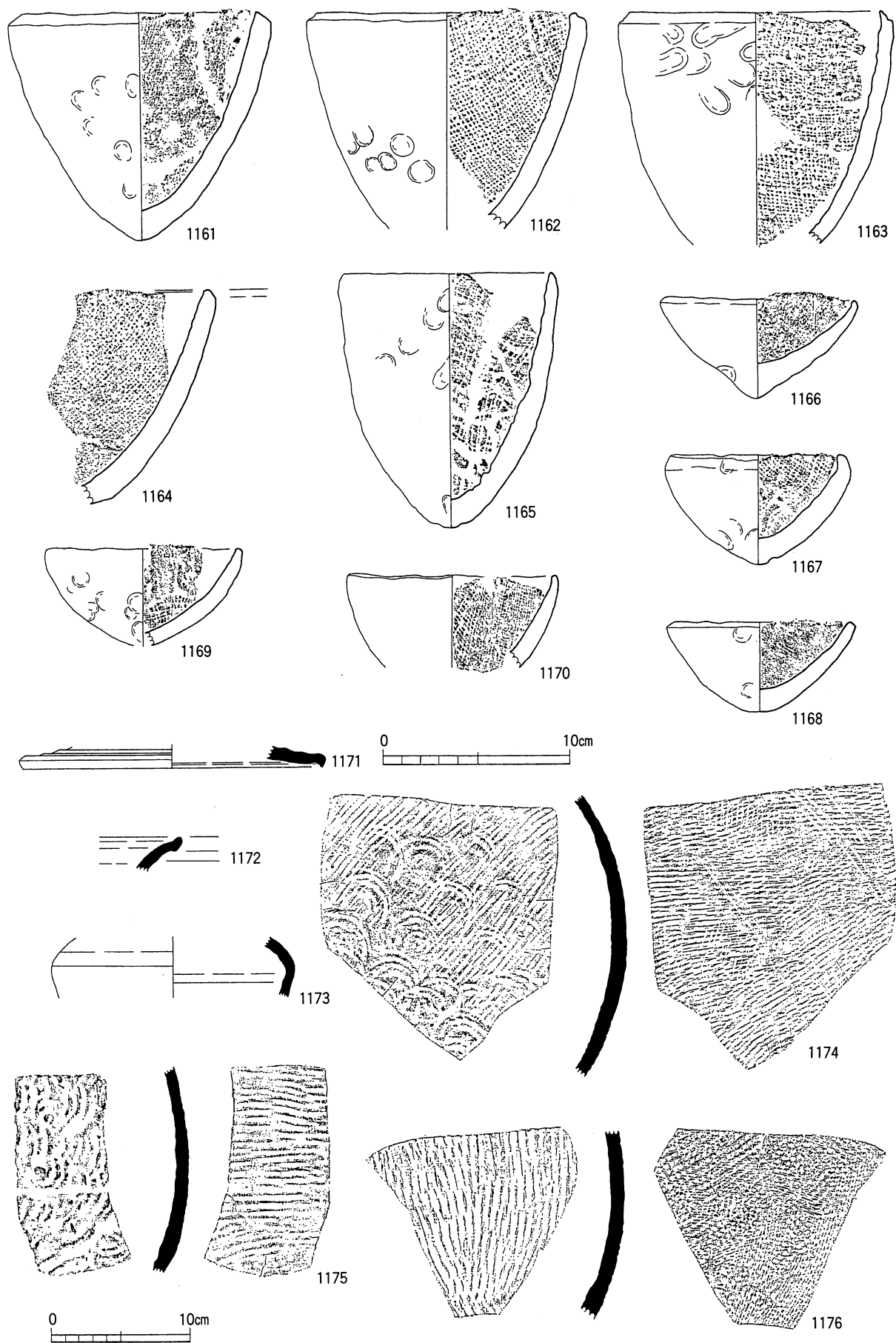
第134图 D区SE8出土土器实测图 (S=1/4)



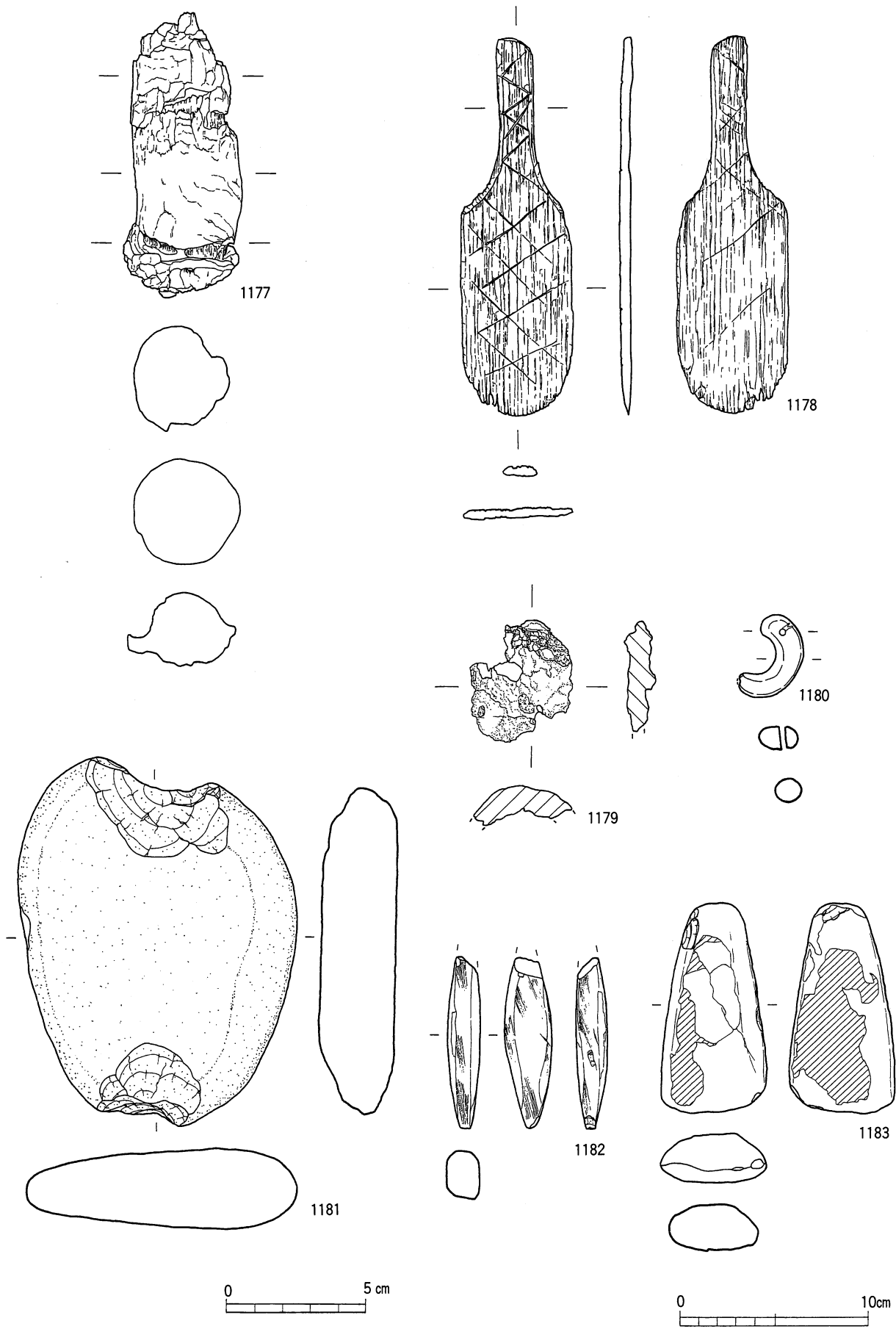
第135图 D区SE8出土土器实测图 (1121·1122 S=1/4、1123~1141 S=1/3)



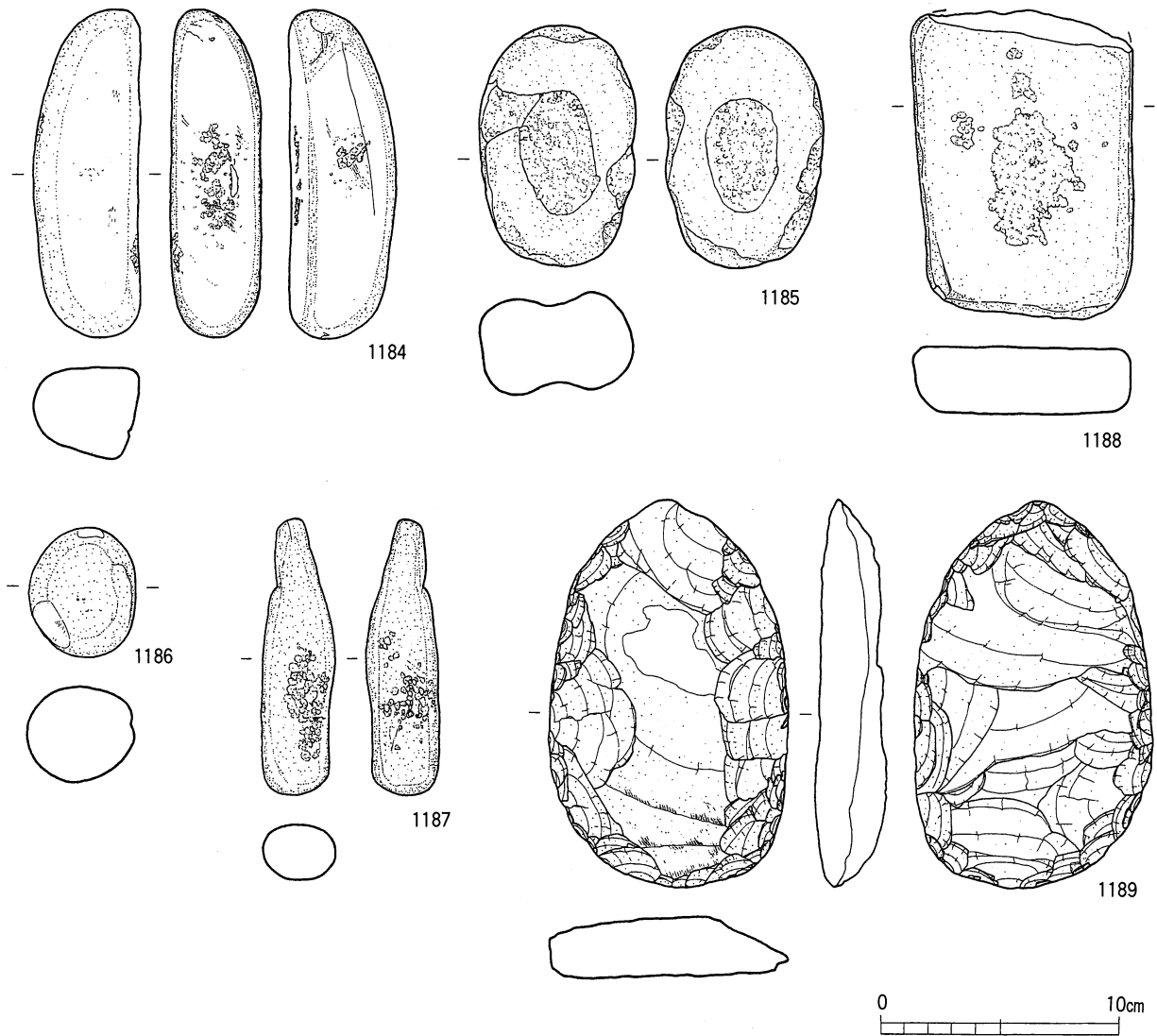
第136图 D区SE8出土土器实测图 (S=1/3)



第137图 D区SE8出土土器实测图 (1161~1171 S=1/3、1172~1176 S=1/4)



第138图 D区SE8出土遺物実測図 (1177·1178·1181 S=1/2、1179·1180·1182·1183 S=1/3)



第139図 D区SE8出土土器実測図 (S=1/3)

器である。作成には型造り技法を用い、内面に粗い布目圧痕、外面に指頭痕をもつ。尖底を呈し口縁端部は制作過程によるヘラ切り落としで面取りがされている。大きさや形状によって次のように分類できる。

- ① 中～大型で、横からみて横長の三角形のもの。(1153)
- ② 中～大型で、横からみて正三角形のもの。(1152・1158～1160)
- ③ 中～大型で、横からみて縦長の三角形のもの。(1161～1163・1165)
- ④ 小型で、横からみて横長の三角形のもの。(1166～1170)

小型のものについては、口縁端部はヘラによる切り離し後手捏ね的な整形がされているもの(1166・1169・1170)がみられる。1148・1171～1176は須恵器である。1148は坏の底部である。ヘラ切り底で内外面ともナデ調整である。焼成不良である。1171は蓋である。推定口径は16.0cmである。1172は甕の口縁部と思われる。1173は壺の肩部と思われる。1174～1176は甕の胴部である。1174の調整は外面は平行タタキの重なりによって格子目を呈している。内面は同心円当て具の後平行当て具を使用している。

1175は外面は平行タタキ、内面は同心円当て具痕がみられる。1176は外面に格子目タタキの後カキ目を施し、内面は平行当て具痕がある。外面には自然釉が付着している。

1177と1178は木製品である。1177は男性性器をかたどったものと思われる。両端に抉りを入れ、その外側を両方とも焼いているのか黒色化している。遺構南端の西側壁面上の黒色砂質土内から古代の土器と一緒に出土した。材質は二葉松類である。1178はヘラ状の道具である。厚みが3～4 mm程と薄く、両面に格子目状の刻みが彫られている。遺構中央部の埋土上層、オリーブ黒色シルト質土から出土している。材質はヒノキ科である。

1179は土製のフイゴの羽口である。復元径約6.5cm程になる。外器面にガラス質の自然釉が付着している。

1180は蛇紋岩製の勾玉である。遺構埋土中層の第 層から出土している。

1181～1189は石器である。1181は大型の石錘である。石材は砂岩で、長軸の両端を打ち欠いている。1182は小型磨製石斧か。長軸方向に8面、非常によく磨かれ笹の葉型に加工されている。長軸9.15+ α cmで両端を欠損する。石材は砂岩である。1183は片刃の磨製石斧である。両面とも節理や風化が著しいため擦痕は確認できないが、刃部に若干の使用痕がみられる。石材は細粒砂岩である。1184は敲石である。両面及び右側縁の中央部に敲打痕がある。また、左側縁には若干の摩擦痕がみられる。石材は頁岩である。1185は凹石である。両面中央部に凹と縁周に敲打痕がある。石材は砂岩である。1186は砂岩製の磨石である。1187は敲石である。両面に敲打痕、右左側縁部に擦痕がある。石材は砂岩である。上部を握り、敲き棒として使用したと思われる。1188は砥石である。長方形で安定感のある平らな石材を使用している。表面全体に擦痕と中央部に敲打痕がみられる。石材は砂岩である。1189は石斧の未製品と思われる。両面を剥離し、さらに刃部を形成するために左右と下側縁部に両面から加工を施している。表面下部には擦痕がみられる。石材は砂岩である。

第3節 E区の調査

1. 調査の概要

E区は遺跡の南側で、西側に広がる低位丘陵地の北東向き斜面に位置する。標高約10~11mの傾斜地で、D区との比高差は約2.5m程ある。面積約395m²について調査を行なった。D区とE区との間は、最近の排水路によって切り取られ著しい段差が生じているが、以前は傾斜に沿って谷とつながっていたと思われる。

調査はまず、重機で1717年に降下した霧島新燃享保テフラを混在する層（第141図 第11層）上面まで剥ぎ取りを行った（南側のSZ1周辺にはテフラ層は残っていない）。そこから人力で掘り下げを行ったところ、第12層上面で竪穴状遺構（SZ1：古代）、畝状遺構（近世）、溝状遺構4条（SE1~4：近世？）を検出した。遺物は、古代の土師器を中心に出土しているが、近世のテフラ混層からは近世以降の陶磁器片、調査区北側の第14層土中からは縄文土器も出土している。

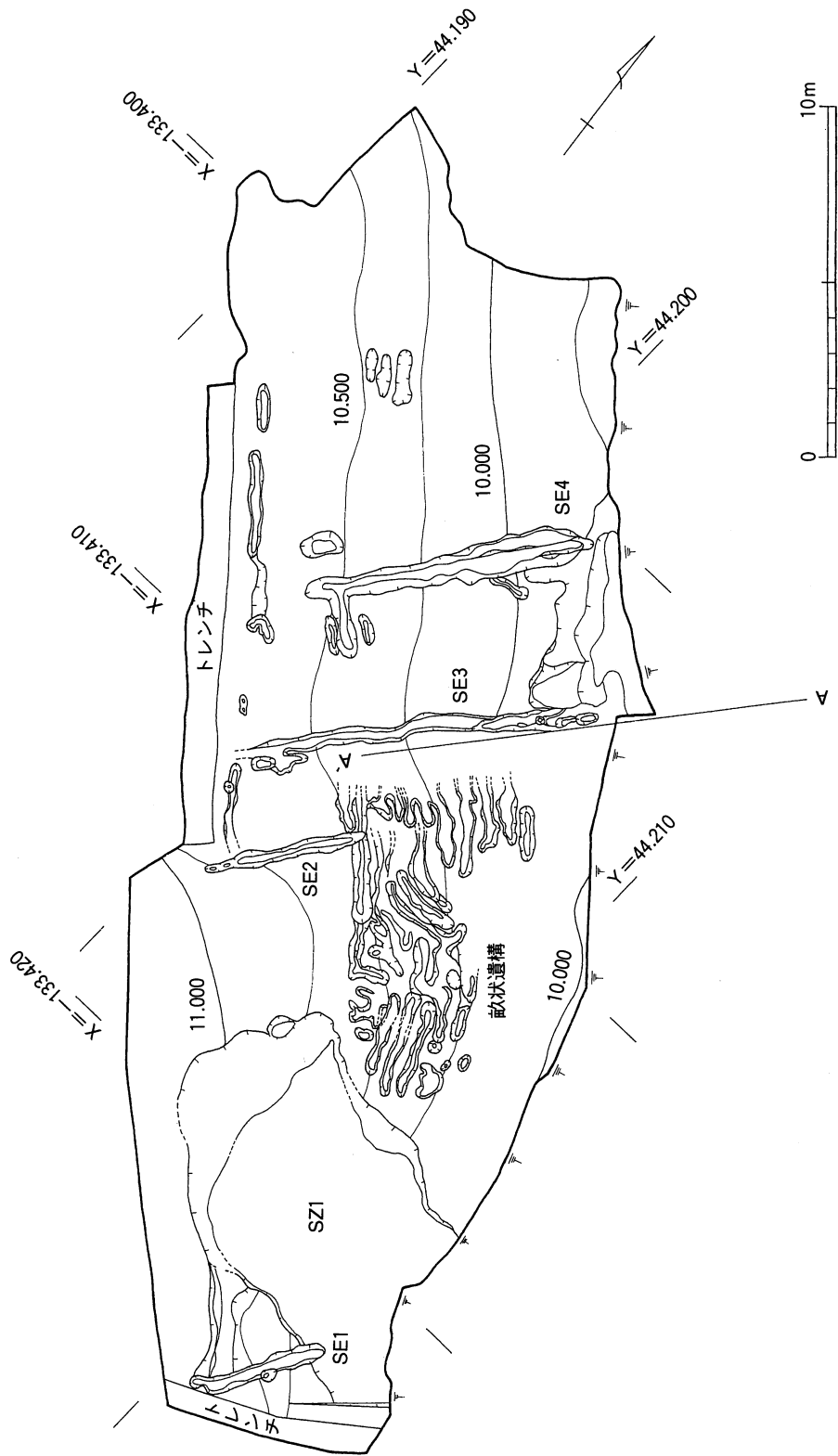
2. 遺構と遺物

（1）竪穴状遺構（SZ）

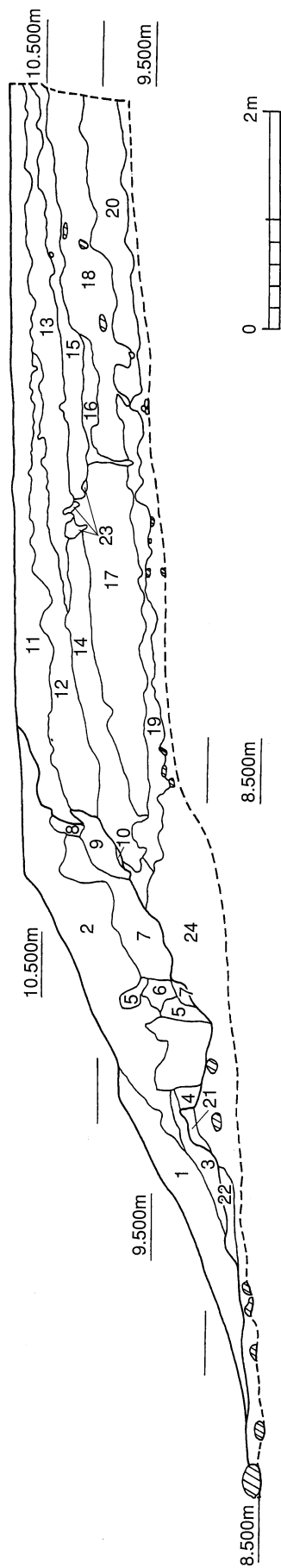
SZ1（第142図）

SZ1は、E区の南側に位置する。オリーブ褐色シルト質土（第141図 第12層）上面で検出した不定形プランを呈する落ち込みである。南北約6.5m、東西約10m、検出面からの深さ約10~30cmを測る。床面は地形に沿って傾斜し、東側に立ち上がりは確認出来ない。埋土は褐色シルト質土で、古代の遺物や炭化物を多く混在している。検出時の埋土上面には焼土も確認されている。この遺構の東側の谷（SE8）の西側壁面には同時期の土器が大量に出土しておりSZ1から流れ落ちたと推測される。

出土遺物は第143・144図に示している。1190~1204は土師器甕である。1190と1191は同一個体と思われる。器壁と厚みがほぼ同じである大きな平底の底部から内湾する胴部が立ち上がる。頸部にくびれをもって口縁部は外に大きく開く。胴部中位下に最大径をもち、下膨れ気味の器形を呈する。口唇部は丸く、内外面ともナデ仕上げで、頸部以外の外面にはススがたくさん付着している。1192は口縁部と胴部の最大径がほぼ同じ甕で、胴部が内湾して立ち上がり、頸部がくびれて口縁部が外に大きく開く。口唇部は丸く、内外面ともナデ仕上げである。1193は口縁部と胴部の最大径が同じである。内外面ともナデで、口唇部は平らに仕上げている。1194は口縁部がやや外に開く。1195は風化が見られるが、器壁が薄く、口縁部に最大径をもつ。1196は口縁部が大きく開いた甕である。風化が著しく、胎土がもろい。1197・1198は口縁部が外に開き、口唇部に膨らみをもたせて丸く仕上げている。1197は内面に横ハケ目が見られる。1199・1200は口縁部が大きく開き、更に口唇部を垂れ下り気味に仕上げている。1201は口唇部を丸く、1202は平らに仕上げている。1203と1204は底部である。厚みの無い、大きな平底を呈する。1205は鉢である。平底で、内湾気味に胴部が立ち上がり、口縁部が若干屈曲して外に開く。屈曲部内面には若干の稜をもつ。内外面とも丁寧なナデ仕上げが施されているが、外面胴部から口縁部にはススが付着している。1206は須恵器甕の胴部である。外面は格子目タタキの後カキ目、内面には同心円の当て具痕が見られる。外面には自然釉が付着する。1207~1213は土師器の蓋と坏である。1207は蓋である。推定口径は12.25cmである。1208~1213は土師器坏である。いずれも底部はヘラ切り底で、体部から口縁部へと外方に直線的にのびている。1208は口径が13.55cm、底径が6.9cmで、口径に対して器高がやや

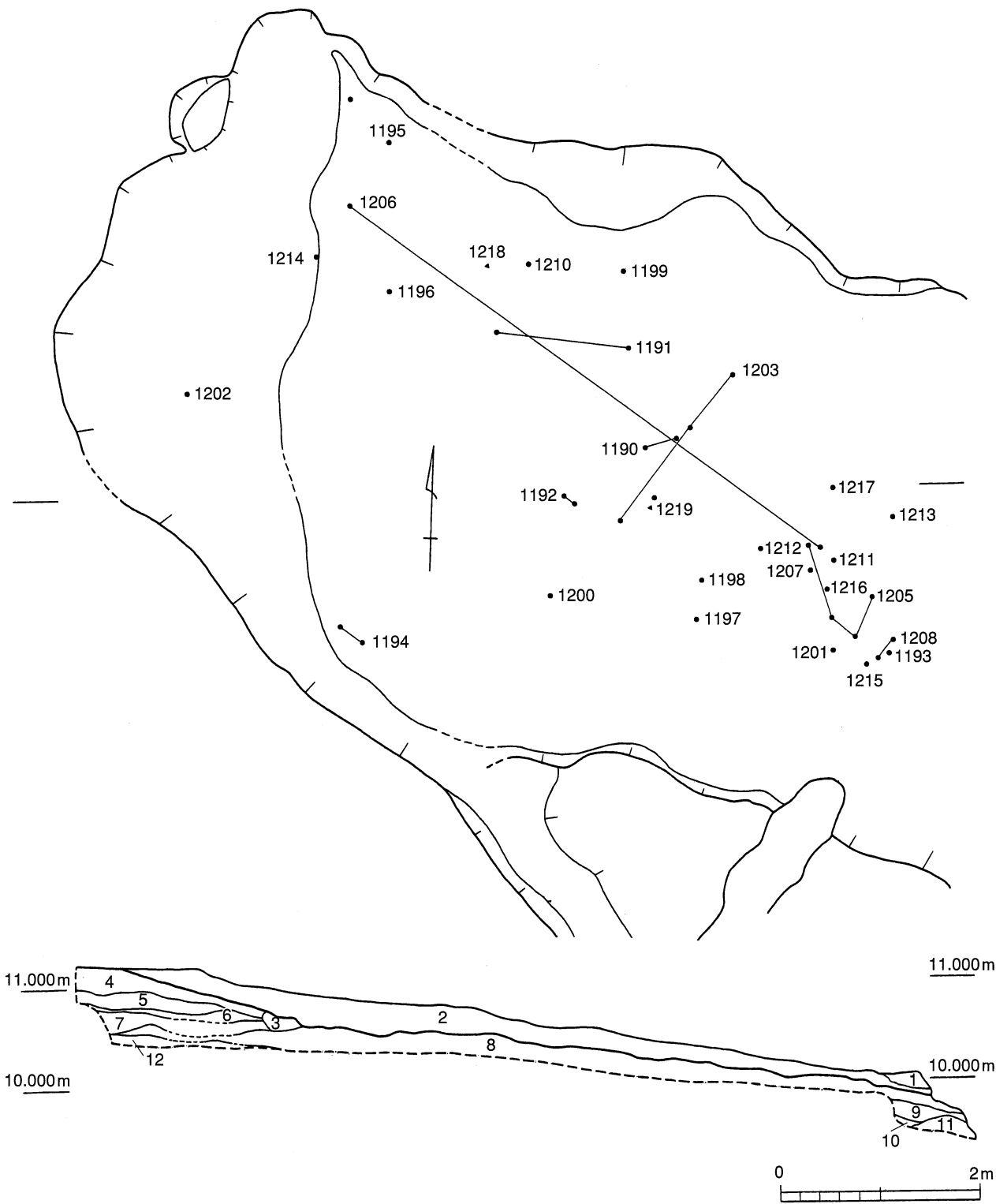


第140図 E区遺構分布図 (S=1/200)



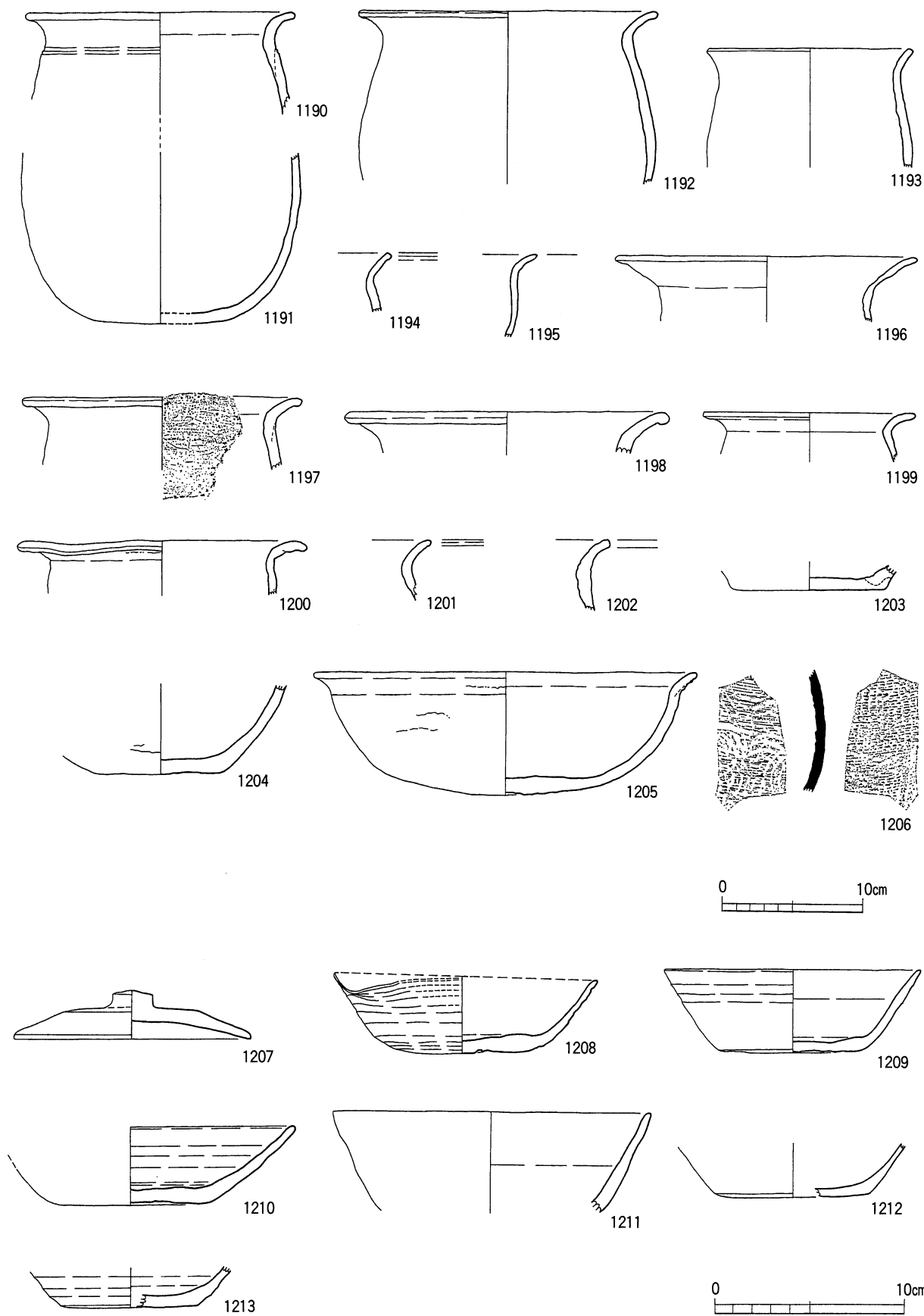
- | | |
|--|--|
| <p>1 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 弱粘質土～しまり弱い。</p> <p>2 緑灰色 (5G5/1) 粘質土～硬くしまる。</p> <p>3 灰色 (10Y4/1) シルト質土～やや粘質あり。</p> <p>4 灰色 (5Y4/1) シルト質土～しまりあり。礫 (2～3cm) を若干含む。</p> <p>5 明黄褐色 (2.5Y6/6) 弱粘質土～しまりあり。</p> <p>6 黄褐色 (2.5Y5/4) 弱粘質土～しまりあり。礫 (3～5cm) を若干含む。</p> <p>7 黄褐色 (2.5Y5/4) 弱粘質土～しまりあり。</p> <p>8 黄褐色 (2.5Y5/4) 弱粘質土～ややしまりあり。</p> <p>9 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト質土～しまりなし。黄褐色 (1mm程) 粒、浅黄褐色 (2～3mm) 粒、灰白色 (5～10mm) 砂粒を多量に含む。</p> <p>10 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 弱粘質土～しまりなし。</p> <p>11 黄褐色 (2.5Y5/4) 弱粘質土～しまりあり。土器片わずかに含む。西側に向けて明青色砂質土、明黄褐色粒、灰白色砂礫、鉄分が増加する。</p> <p>12 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト質土～硬くしまる。黄褐色 (1mm程) 粒、浅黄褐色 (2～3mm) 粒、灰白色 (5～10mm) 砂粒を多量に含む。極わずかに土器片を含む。部分的に青灰色のじみみあり。</p> <p>13 黒褐色 (2.5Y3/1) 弱粘質土～しまりあり。灰白色粒・砂礫 (1～15mm)、浅黄褐色粒・砂礫 (1～15mm) を含む。</p> | <p>14 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土～しまりあり。灰白色砂礫 (2～10mm)、浅黄褐色砂礫 (2～10mm) を若干含む。</p> <p>15 灰オリーブ色 (5Y5/3) シルト質土～鉄分を多く含む。</p> <p>16 オリーブ黄色 (5Y6/4) シルト質土～ややしまりあり。</p> <p>17 褐色 (10YR4/4) 砂質土～しまりあり。西側にかけて灰オリーブ色土、鉄分が増す。</p> <p>18 オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 砂質土～しまりあり。きめが粗い。極わずかに軽石を含む。</p> <p>19 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土～きめが細かい。小礫 (1.5cm程) を多少含む。</p> <p>20 褐色 (7.5YR4/6) 砂質土～きめが細かい。</p> <p>21 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 砂質土～しまりあり。</p> <p>22 灰オリーブ色 (7.5Y5/2) シルト質土～しまりあり。黄褐色粒を若干含む。</p> <p>23 オリーブ灰色 (10Y6/2) 弱粘質土～ややしまりあり。黄褐色粒 (1mm程) を若干含む。</p> <p>24 円礫層</p> |
|--|--|

第141図 E区 (A-A') 土層断面実測図 (S=1/60)

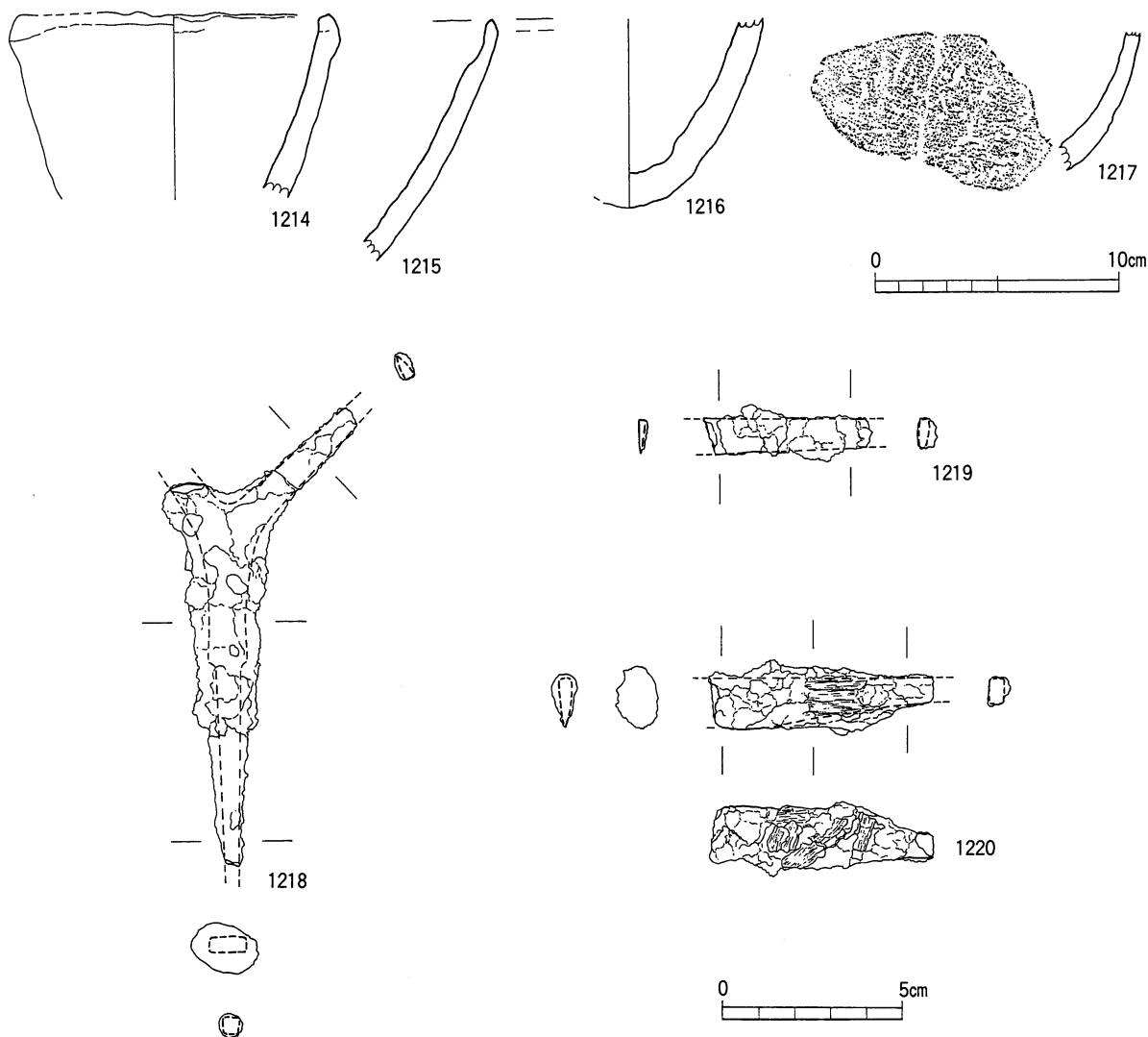


- | | |
|--|---|
| 1 黄色 (2.5Y8/6) シルト質土～礫 (4～5 cm) を若干含む。 | 7 にぶい黄色 (2.5Y6/4) シルト質土～しまりあり。角礫 (5～8 cm) を多く含む。 |
| 2 褐色 (10YR4/4) シルト質土～土器片、炭化物を多く含む。軽石を含む。 | 8 灰オリーブ色 (7.5Y5/3) シルト質土～しまりあり。炭化物を若干含む。鉄分を筋状、斑点状に含む。 |
| 3 灰色 (10Y6/1) 礫層～硬くしまる。全体に黄褐色にじみ広がる。 | 9 緑灰色 (7.5GY6/1) シルト質土～土器片を若干含む。砂岩性礫、鉄分斑を含む。S E 8へ流れ込む。 |
| 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) シルト質土～しまりあり。礫 (5～10cm) を含む。 | 10 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土～きめが粗い。 |
| 5 灰オリーブ色 (7.5Y6/2) シルト質土～ややしまり弱い。小礫を少量含む。 | 11 灰色 (N5) + 黄褐色 (10YR5/6) シルト質土～大小礫、鉄分を含む。 |
| 6 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 粘質土～礫をほとんど含まない。 | 12 暗褐色 (7.5YR3/4) 砂質土～鉄分沈澱により硬化。きめが粗い。 |

第142図 E区1号竪穴状遺構 (SZ1) 実測図 (S=1/60)



第143图 E区SZ1出土土器实测图 (1190~1206 S=1/4、1207~1213 S=1/3)



第144図 E区SZ1出土土器実測図 (1214~1217 S=1/3、1218~1220 S=1/2)

高いものである。1209は口径が13.4cm、底径が7.65cmで、口径に対して器高がやや高いものである。SE 8の分類でみると①になる。1210は底径が7.3cmで、口径に対して器高がやや低いものと思われる。1211は推定口径16.4cmで器高の高いものになると思われる。1212は底径が8.15cmでSE 8の分類でみると⑨である。1213は底径7.2cmで分類すると⑧である。1214~1217は布痕土器である。内面の布目痕は風化が著しくほとんど残存していない。1218~1220は鉄製品である。1218は雁股鏃である。鋒及び基部の欠損により全長は不明である。鋒の断面は三角形を呈し、篋被部は錆化が著しいが平造と思われる。1219と1220は刀子と思われる。1220は錆化が著しいが、外面に木質と思われるものが確認できる。

(2) 畝状遺構

E区中央の東向き緩斜面に確認された。等高線に平行及びやや斜方向に走行する数条の小溝状遺構群（畝状遺構）である。小溝状遺構群は第141図の第11層の霧島新燃享保テフラ（1717年）混在層に覆われ、溝の長さ2～3m、溝幅30～50cm、深さ5～10cm、溝と溝の間隔20～30cmを測る。小溝状遺構が確認された範囲は約37m²で、区画や規模は確認できない。西側トレンチに並走する小溝状遺構や北側に見られる等高線に沿った小さな凹みも畝状遺構の可能性が考えられる。遺構埋土で植物珪酸体分析を行った結果、微量のイネが検出された。稲作が行われていた可能性が考えられるが、密度が低いことから、上層などから混入した可能性も否定できない。傾斜に重複する小溝状遺構群については、水を貯える機能を考慮した陸稲栽培に適した畝立てを行っていることが考えられる。

(3) 溝状遺構（SE1～4 第140図）

溝状遺構は4条確認している。いずれも等高線に直交しており、埋土、遺構の切り合い、出土遺物などから近世以降の自然流路と思われる。

SE1は調査区の南東端に位置する。南西－北東方向に走行し、長さ約4m、溝幅約0.45～0.55m、検出面からの深さ約10～20mを測る。遺物は出土していないが、SZ1を切っている。

SE2は南西－北東方向に走行し、長さ約4.6m、溝幅約0.2～0.5m、検出面からの深さ約8～16cmを測り、畝状遺構を切っている。遺物は出土していない。

SE3は南西－北東方向に走行する長さ約10mを検出している。溝幅約0.4m、検出面からの深さは10cm未満と浅い。東端の傾斜裾部から近世以降の陶磁器片が出土している。

SE4は南西－北東方向に走行し、長さ約8m、溝幅約0.5～1.1m、検出面からの深さ10～30cmを測る。溝の東端には10cm未満の円礫が集中し、礫間からは近世以降の陶磁器片が出土している。

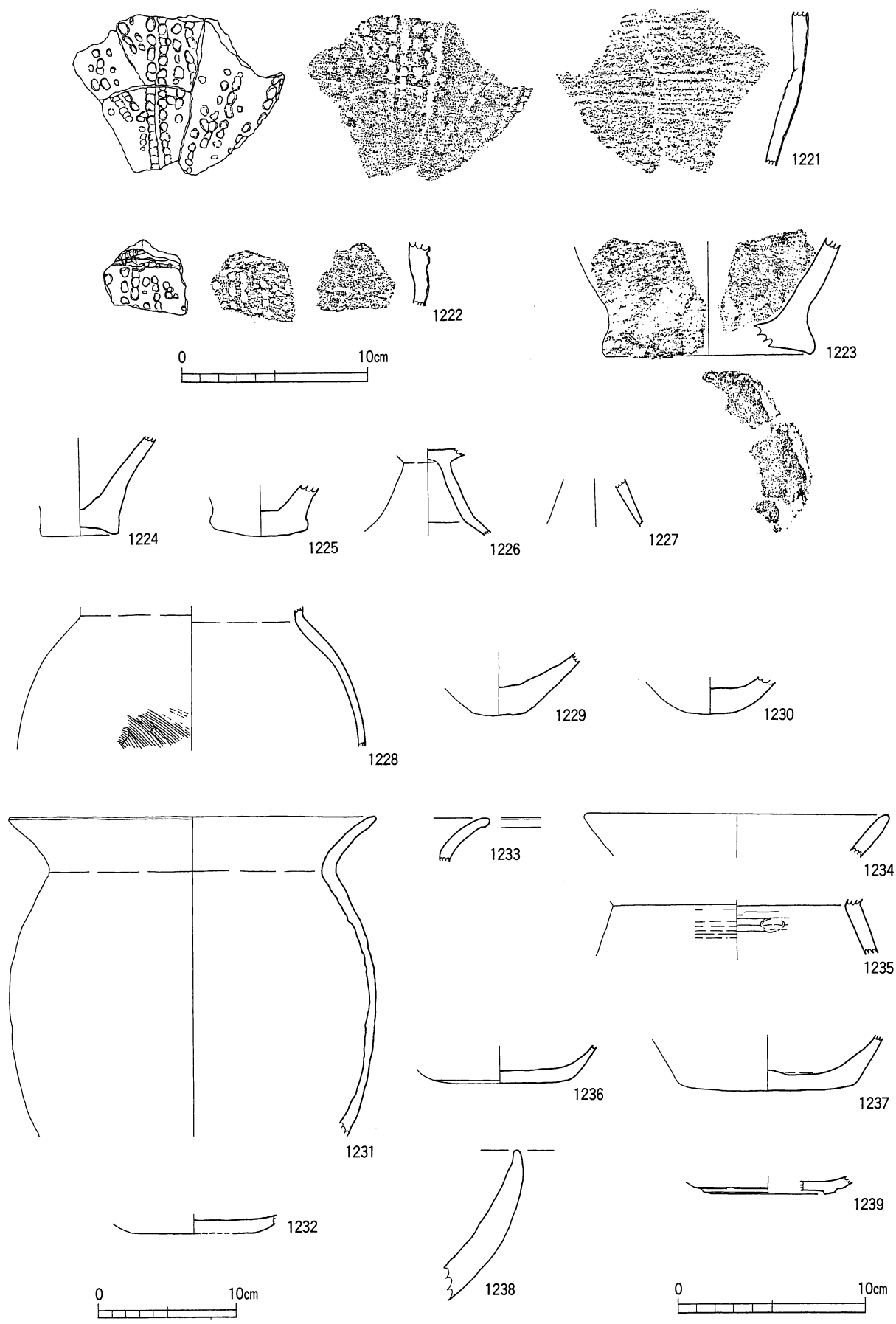
3. 包含層出土の遺物

遺物は、霧島新燃享保テフラ混土（第11層）中に近世以降の陶磁器片、SZ1周辺の第12層土中に弥生土器や古墳時代～古代の土師器、調査区北側の第14層土中に縄文土器が出土している。

1221～1223は縄文土器である。1221と1222は中期初頭に位置付けされる深浦式の深鉢で同一個体と思われる。1221は外面は棒状工具による縦方向の押引き、内面は横方向の貝殻条痕である。1222は外面に棒状工具による縦方向の押引きとその上に刻目付貼付隆帯文が施されている。内面はナデである。1223は深鉢の底部である。底部にくびれをもち、裾が若干開く。やや上げ底になると思われる。内外面ともナデである。

1224は弥生土器で、甕の底部である。上げ底で内外面ともナデである。

1225～1230は古墳時代の土器である。1225は甕の底部である。平底で若干くびれをもつ。裾端部は丸く仕上げている。内外面ともナデである。1226と1227は高坏の脚部である。1226は脚柱部と裾部の間に稜をもたずにラップ状に開く器形を呈すると思われる。1228～1230は壺である。1228は肩部があまり張らず、短い頸部が直口する器形を呈すると思われる。外面はナデと斜ハケ目でススが付着し、内面はナデである。1229は小さい平底を呈する。内外面ともナデである。1230はやや丸底気味で内外面ともナデである。



第145图 E区包含層出土遺物実測図 (1221~1223・1236~1239 S=1/3、1224~1235 S=1/4)

1231～1238は古代の土師器である。1231～1235は甕である。1231と1232は同一個体と思われる。厚みの無い、大きな平底を呈する。内湾する胴部に頸部が「く」字に屈曲して口縁部が大きく開く。内外面ともナデである。1233は甕の口縁部である。口縁部は外に大きく開き、端部は丸く仕上げている。1234と1235は同一個体と思われる。頸部が「く」字に屈曲する。内外面ともハケ状工具による横方向のナデである。1236と1237は坏である。風化が著しく調整不明である。1238は布痕土器である。内面の布目痕は風化が著しく不明瞭である。

1239は白磁か？高台及び高台内以外には釉が施してあるが、焼成不良のため釉に光沢が見られない。

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(1)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
1	B区 SA11	VIb	深鉢 口縁(33.2) 胴部	口唇部に押圧刻み(波状) 口縁部に棒状工具による縦位の短凹線文、2条の凹線文間に連続刺突	内外面ともナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	7~4mmの赤褐色粒 2mm以下の灰白・灰・褐・赤褐・黒褐色砂粒・透明光沢粒	
2	B区 SA11	VIb	口縁	口唇部に連続押し引き文 口縁部に2条の連続押し引き文	口唇部、外面はナデ 内面は条痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1~1.5mmの淡黄・褐色粒 半透明光沢粒・黒色光沢粒	
3	B区 SA11	VIb	深鉢 口縁	口縁部は竹管状工具による2段の連続刺突文、2条の凹線文	内外面ともナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	2mm以下の灰・褐・乳白色粒 半透明光沢粒・黒色光沢粒	外面にスズ波状口縁
4	B区 SA11	VIb	深鉢 口縁(33) 胴部	波頂部に貼付突起、突起に竹管状工具による刺突・押圧(3段?)突起の左右に竹管状工具による2段の連続刺突文、曲凹線文と凹線文の間に三角形の区画文(端部刺突留まり)	内外面ともナデ 口唇部、内面とも風化・剥離が著しい	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰白・褐・赤褐色砂粒 1mm以下の黒・黒褐色砂粒、透明・黒色光沢粒	山形口縁 5と同一個体
5	B区 SA11	VIb	深鉢 口縁(33.5) 胴部	波頂部に貼付突起、突起に竹管状工具による刺突・押圧(3段?)突起の左右に竹管状工具による2段の連続刺突文、曲凹線文と凹線文の間に三角形の区画文(端部刺突留まり)	内外面ともナデ 口唇部、内面とも風化・剥離が著しい	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1.5mm以下の褐・黒褐色砂粒 黒色光沢粒、1mm以下の透明光沢粒	山形口縁穿孔 (2ヶ所) 4と同一個体
6	B区 SA11	XIIIa	底部	編物圧痕	外面はナデ 内面は剥離のため不明	にぶい黄橙	灰黄	微細な透明・半透明・黒色光沢粒 1mm以下の黄灰・灰・茶色の粒	アジロ編み(不明)
7	B区 SA11	XIIIa	底部	編物圧痕	外面はナデ 内面は剥離のため不明	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の茶・灰色粒 微細な透明・半透明光沢粒	4・5と同一個体か アジロ編み (1-1-1)
8	B区 SA13	VIIIa	口縁 胴部	口唇部に押圧刻み、頸部から胴部にかけて2条の平行な沈線文、曲線文、渦巻状繋ぎ文	内外面ともナデ	黄褐	にぶい褐	3mm以下の黒灰・乳白色粒 微細な透明・半透明・黒色光沢粒	
9	B区 SA13	XIII	深鉢 底部		内外面ともナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	3mm以下の灰白色	
10	B区 SI3	VIIIc	深鉢 口縁	波頂部に押圧刻み、口唇部に沈線文、縦位の沈線間に連続刺突文その両側に沈線文、曲沈線文、下に沈線文 内面押し刻み下に刺突文	内外面ともナデ	にぶい黄橙	黄橙	2mm以下の淡黄・灰白・橙色の砂粒 透明・黒色光沢粒	波状口縁
11	B区 SI3 F24 E23	VIII d	胴部	上下2条の平行、沈線文間に2条の斜位平行沈線文	内外面はナデ	にぶい黄 一部にぶい橙	にぶい黄橙	5mm程の茶色粒を1つ 2mm以下の褐・乳白色粒 透明・黒色光沢粒	外面にスズ 内面に炭化物 付着
12	B区 SI3	XXIIa	深鉢 底部(6.5)		外面は粗いナデ 内面はナデ	浅黄橙	にぶい黄橙 黄灰	1mm以下の灰色粒 0.5mm以下の透明光沢粒	黒変
13	B区 SI3	XIIIa	深鉢 底部(8)		外面はナデ 内面は指オサエ、ナデ	にぶい橙	橙	3mm以下の褐色粒 5×8mm程の灰白色粒を1つ 透明光沢粒	
14	B区 SI4 F22	I	深鉢 口縁(34.7) 胴部	口縁部に刻みを施す2条の弧状微隆起突帯 胴部に刻みを施す2条の平行微隆起突帯	口唇部はナデ 内外面とも貝殻条痕の上をナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細~3mmの黒・浅黄・灰白・褐色灰色粒、透明・褐色光沢粒	緩やかな波状口縁、3ヶ所に穿孔(うち1ヶ所は未貫通)
15	B区 SE6 F23	I	深鉢 口縁 胴部	口縁部に刻みを施す2条の弧状微隆起突帯 胴部に1条の微隆起突帯	口唇部はナデ 内外面とも貝殻条痕の上をナデ	黄褐	暗灰黄	3mm以下の灰白色粒 1.5mm以下の黒色光沢粒 1mm以下の透明光沢粒	緩やか波状口縁
16	B区 F23	I	深鉢 胴部(26.2)	縦・横・斜方向に微隆起突帯・細沈線文	外面は丁寧なナデと指オサエ 内面はナデ、指オサエ	黄褐	にぶい黄橙	3.5mm以下の橙・灰白、淡黄色粒 黒色光沢粒	
17	B区 G24	I	深鉢 胴部	横方向に短微隆起突帯、曲線状の微隆起突帯	内外面ともナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙	4mm以下の灰白・浅黄・褐色砂粒、黒色光沢粒	
18	B区 F24	IIa	深鉢 口縁	5条以上の貼付突帯	外面は貝殻条痕、ナデ 内面に剥離のため不明	にぶい黄橙	にぶい橙	0.1~1mmの灰白・灰・茶色の砂粒、黒色光沢粒	

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(2)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
19	B区 E23	II a	深鉢 口縁	6条以上の貼付突帯	内外面とも貝殻条痕	にぶい褐	にぶい褐	1mm以下の褐・灰白色粒	20と同一個体か
20	B区 D23 E24	II a	深鉢 胴部		内外面とも貝殻条痕	灰黄褐	明赤褐	2.5mm以下の灰白・褐色粒 0.5mm以下の透明光沢粒	外面にスス 19と同一個体か
21	B区 E25	II a	深鉢 口縁付近 胴部(31.4)	2条以上の貼付突帯	外面は貝殻条痕の後、 ナデ 内面は貝殻条痕	灰黄褐	褐	1mm以下の透明・黒色光沢粒	
22	B区 SE6	II a	深鉢 口縁部	3条以上の貼付突帯	口唇部～外面はナデ 内面は貝殻条痕	灰黄	にぶい黄褐	0.2～4mmの灰白・灰褐・褐色砂粒 0.1～0.5mmの透明光沢粒	緩やかな波状 口縁 外面にスス
23	B区 SE6 E23	II b	深鉢 口縁(29.5) 胴部	5条の鋸歯状貼付突帯	口唇部はナデ 内外面とも貝殻条痕後 ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	2mm以下の灰白色粒 1mm以下の透明光沢粒	
24	B区 E24	II b	深鉢 口縁 胴部	4条の鋸歯状貼付突帯	内外面とも貝殻条痕後 一部ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	1.5mm以下の灰白・褐色粒 1mm以下の透明・黒色光沢粒	
25	B区 F23	II c	深鉢 口縁付近 胴部	縦・横方向に貼付突帯 逆V字状貼付突帯内に横方向の貼付突帯	内外面とも貝殻条痕後 一部ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	0.1～1mmの灰褐・灰白・黒色砂粒 透明・黒色光沢粒	
26	B区 F22	II b	深鉢 口縁	3条の弧状貼付突帯文	口唇部は風化のため不明 外面は貝殻条痕後ナデ 内面は貝殻条痕	灰黄褐	にぶい黄	0.5～2mmの灰褐・灰白・黒色砂粒 0.1～0.5mmの透明光沢粒	
27	B区 F22	II c	深鉢 胴部	縦・横方向に貼付突帯	内外面とも貝殻条痕	灰オリーブ	にぶい黄褐	0.5mm以下の透明・黒色光沢粒	
28	B区 SE2	II c	深鉢 口縁(22.6) 胴部	口唇部内面に押圧刻み 2条の貼付突帯間に縦方向の貼付突帯	外面はナデ 内面は貝殻条痕指おさえ	灰黄褐	灰黄褐	3mm以下の灰黄褐・灰白色砂粒 透明・黒色光沢粒	
29	B区 SE6	II c	口縁	縦方向の貼付突帯・両側に斜方向の貼付突帯	外面はナデ 内面は剥離のため不明	灰黄	にぶい褐	0.1～1mmの灰白・灰褐・茶色の 砂粒 0.1～0.5mmの透明光沢粒	波状口縁 外面にスス
30	B区 E27	II c	深鉢 頸部 胴部	縦方向に貼付突帯	内外面とも貝殻条痕後 指ナデ	灰褐・にぶい 赤褐	にぶい赤褐	2mm以下の灰色粒、6mm以下の 褐色粒 2mm以下の透明光沢粒	内外面とも黒 変
31	B区 SC4 SE25 E26	II c	深鉢 口縁 胴部(40.0)	2条の貼付突帯間に縦方向の波状貼付突帯	口唇部はナデ 内外面は貝殻条痕	灰黄褐・褐 灰	にぶい黄褐	2mm以下の浅黄色粒 微細な透明光沢粒	
32	B区	III	深鉢 口縁	外面は斜方向に貝殻刺突文	口唇部はナデ 内面はナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	2mm以下の褐色粒、1mm以下の透 明光沢粒	波状口縁
33	B区 G24	III	深鉢 胴部	斜方向に連点文	内外面ともナデ	浅黄	灰黄	2.5mm以下の浅黄色粒 1mm以下の透明・黒色光沢粒	穿孔あり
34	B区 SA1 F23	III	深鉢 胴部	斜方向に交差した沈線文	内外面ともナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	浅黄色粒 微細な透明光沢粒	
35	B区 F22	IV a	深鉢 口縁 胴部	波頭部にU状の湾入、口唇部に爪形文、外面に 縦・斜位の縄文の後、爪形文を施した大・小の 円形の貼付突帯、そこから斜、横位に延びる同 施文の貼付突帯。大円形の突帯内に押圧を施し た縦位の貼付突帯	内面は工具による丁寧 なナデ	黄褐、灰黄	にぶい黄	3mm程の灰白色粒 4mm以下の浅黄色粒 2mm程度の透明光沢粒	波状口縁 36、37、38 と同一個体か
36	A区 H20	IV a	深鉢 胴部	斜位の縄文の後、爪形文を施した正方形の貼 付突帯内に十字状の同施文の貼付突帯	内面は工具による丁寧 なナデ	灰黄	にぶい黄	1mm以下の浅黄色粒 2.5mm以下の透明光沢粒	35、37、38 と同一個体

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(3)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
37	B区 E25	IVa	深鉢 胴部	縦位の縄文の後、爪形文を施す円形・縦・横位の貼付突帯、円形突帯内に押圧を施した縦位の貼付突帯	内面はナデ	灰黄	にぶい黄橙	3mm以下の灰白・褐色粒	35、36、38 と同一個体
38	B区 E26	IVa	深鉢 胴部	爪形文を施す円形・斜位の貼付突帯文	内面は丁寧なナデ	にぶい黄	にぶい黄	2mm以下の灰白・褐色粒	35、36、37 と同一個体
39	B区	IVa	深鉢 口縁	縦位の縄文の後、楕円形、弧状、縦位の貼付突帯	口唇部・外面の突帯、 周辺・内面はナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	微細～4mm下の浅黄橙・灰褐・ 灰白色砂粒	
40	B区 F27	IVa	深鉢 口縁	口唇部に刻み 縄文の後、刻みを施した貼付突帯	外面は縄文の後ナデ 内面はナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細～2.5mmの浅黄橙・灰白・灰 褐色砂粒、金色光沢粒	
41	B区 F24	IVa	深鉢 口縁	外面は刻みを施す貼付突帯 内面は2段の縄文	口唇部はナデ 外面は縄文の後ナデ 内面はナデ・ヨコナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰・灰白・褐色粒	
42	B区 F22	IVb	深鉢 口縁	外面は押し引き文 内面は無節縄文	外面ナデ	灰黄褐	灰黄褐	5mm以下の灰白色粒 2mm以下の透明・黒色光沢粒	
43	B区 F24	IVb	深鉢 口縁	口唇部・口縁部に斜位の燃りの硬い縄文？を施した後、ヘラ状工具による連続刺突文内面に縄文	内面は縄文の後ナデ か？	黄灰	にぶい黄橙	4mm以下の灰白・浅黄橙・灰色 粒、透明光沢粒	
44	B区 F23	IVb	深鉢 口縁	外面は貝殻腹縁による連続押し引き文 内面は縄文？	口唇部はナデ？ 外面は粗なナデ 内面は風化著しく調整 不明	にぶい黄橙	にぶい黄橙	5mm以下の灰白色粒、3mm以下の 灰色粒、1mm以下の無色透明粒多 量	波状口縁 口唇部内面と も著しく風化
45	B区 G23	IVc	深鉢	縦位の縄文の後押し刻みを施した貼付突帯3段の連続刺突文	外面は部分的にナデ 内面はナデ	灰黄褐	にぶい橙	2.5mm以下の灰白・浅黄橙・黒色 砂粒	
46	B区 E23	IVc	胴部	縦位の縄文の後刻みを施した貼付突帯 波状に貝殻腹縁による押し引き状の連続刺突文、 縦・斜位に連続刺突文	内面はヨコナデ	灰黄褐	灰黄褐	3mm以下の浅黄色粒、透明光沢粒	
47	B区	IVc	胴部	無節縄文	内面はナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	1mm以下の透明・黒色光沢粒	
48	B区 C23	Va	深鉢 口縁～胴部	口唇部に貝殻腹縁による連続押し刻みが波頂部に 貝殻腹縁による連続押し刻みのある弧状・波 状の貼付突帯	外面は貝殻条痕の上を ナデ 内面は貝殻条痕	灰黄褐	にぶい黄褐	4mm以下の灰白色粒 0.5mm以下の透明光沢粒 1mm以下の黒色粒、黒色光沢粒	波状口縁 外面にスス 穿孔(未貫通)
49	B区	Va	深鉢 口縁～胴部	口唇部に貝殻腹縁による連続押し刻み 波頂部に貝殻腹縁による連続押し刻みのある鋸 歯状の貼付突帯	内外面とも貝殻条痕	灰黄褐	にぶい黄褐	2mm以下の浅黄色粒 透明光沢粒	波状口縁
50	B区 E26	Va	深鉢 口縁～胴部	口唇部に押し刻み 連続押し文のある貼付突帯	外面は貝殻条痕の上を ナデ 内面はナデ	灰黄褐	褐灰	2mm以下の浅黄色粒 透明光沢粒	
51	B区 SA8 F26	Va	深鉢 口縁	貝殻腹縁による押し引き状押し刻み目貼付突帯	外面は貝殻条痕の上に 指頭痕 内面は条痕の上にナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	0.5～2mmの淡黄・褐・灰色の砂 粒 金・黒色・透明に光るガラス質 の細片	波状口縁
52	B区 SE6	Va	深鉢 口縁	波頂部に連続刺突文を施した縦位の貼付突帯文、 両側に3段の連続刺突文、沈線文	外面はヨコナデ 内面は斜方向の条痕、 ナデ	にぶい黄	にぶい黄	3mm以下のにぶい黄橙・灰黄・ 灰褐色、透明光沢の砂粒	波状口縁
53	B区 SE6	Va	深鉢 口縁	3段の連続刺突文、2条沈線文	口唇部はナデ 外面はナデ、横方向の 条痕 内面は指頭痕、ナデ、 横方向の条痕	灰黄	灰黄褐	2mm以下の灰褐・灰黄・橙・灰 白色の砂粒	波状口縁
54	B区 SE6	Va	口縁	口唇部～外面は工具による押し刻みを施した鋸 歯状の貼付突帯	内外面ともナデ	灰黄褐	灰黄褐	2.5mm以下の黒色光沢粒、1mm以 下の無色光沢粒、灰白色粒	

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(4)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
55	B区 SE 6 E23	Va	深鉢 胴部	斜方向の刻みを施した2列の縦位貼付突帯、横位の貼付突帯	内外面とも横・斜方向の貝殻条痕	にぶい褐	にぶい黄褐	5mmの灰白色粒、3mm以下の黄橙・灰・黒色光沢・透明光沢・砂粒	外面にスス付着
56	A区	Vb	口縁	外面は工具による2段の連続刺突文	口唇部はナデ 内外面ともナデ	灰褐	灰黄褐	無色透明光沢微細粒	口唇部は風化
57	B区 SA 7	Vb	口縁	口唇部に連続押し引き文 口縁部に2条の連続押し引き文	口唇部～外面はナデ 外面はナデ 内面は斜方向の貝殻条痕(一部風化)	にぶい褐	にぶい褐	3mm大の茶褐色粒1個 0.5mm以下の無色透明光沢粒	内
58	B区 SE 6	Vb	口縁	3条の貝殻腹縁による連続押し引き文	口唇部はナデ 内外面ともナデ	明褐	にぶい褐	1mm以下の浅黄・無色透明光沢粒	
59	B区 F25	Vb	口縁	外面は曲線文連続押し押し文	内外面ともナデ	にぶい黄橙	灰	無色透明光沢微細粒、0.5mm以下の灰白色の粒	口唇部は著しく風化
60	B区 SA 3 D22	VIa	深鉢 口縁(30.2)	口唇部に押し押し文、その下に3条の波状の凹線文	外面は貝殻条痕の上をナデ 内面は風化のため調整不明	浅黄	にぶい黄橙	微細～3mmの灰白・灰褐・明赤褐・褐灰色の粒	39、51と同一個体
61	B区 D22	VIa	深鉢 口縁 胴部	口唇部は押し押し文、その下に指頭による渦巻状、逆三角形凹線文	内外面とも横・斜方向の貝殻条痕の上をナデ	浅黄、灰黄褐	にぶい橙	微細～3mmの透明光沢粒、灰白・浅黄、赤褐・褐色の粒	外面にスス付着
62	B区 E23	VIb	深鉢 口縁	口唇部は押し押し文 口縁部に連続した短凹線文	外面はナデ 内面はナデ、指ナデのような指頭痕	にぶい褐	にぶい橙	微細～1mmの透明光沢・黒色光沢粒、灰・灰褐・浅黄褐色の粒 4mm～6mmのにぶい赤褐・褐灰色の少量	外面は一部風化
63	B区	VIb	深鉢 口縁	口縁部に連続刺突文	内面はナデ	橙	にぶい橙	1mm以下の灰・褐灰色の粒と0.5mm以下の透明光沢粒	外面は風化
64	B区 D23	VIb	深鉢 口縁	刻みを施した貼付突帯文、その両側、下位に連続刺突文、下に凹線文	口唇部～内面はナデ 内面はナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	1.5mm以下の褐・灰白色粒、0.5mm以下の透明光沢粒	口唇部は剥離
65	B区 E23	VIb	深鉢 口縁	口唇部に細い沈線文 口縁部に2段の指頭による三日月状の連続押し押し文、同工具による斜位の浅い凹線文	口唇部はナデ 外面は貝殻条痕の上を外面施行し、その上をナデ 内面は貝殻条痕の上をナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	微細～1mmの透明光沢粒、灰白・浅黄・褐色の粒	波状口縁
66	B区	VIb	深鉢 口縁	口唇部は押し押し文(波状) 口縁部に連続した短凹線文、下に横・斜位の凹線文(風化)	外面はナデ 内面は貝殻条痕、一部剥離及び風化が著しいため調整不明	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2mmの灰褐・褐色の粒	口唇部は一部風化
67	B区 C21 D21	VIb	深鉢 口縁	口唇部は押し押し文(波状) 口縁部に連続した短凹線文下に凹線	外面はナデ 内面は貝殻条痕の上をナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	1～5mmの褐・浅黄橙・灰白色の粒	口唇部～内面は剥離
68	B区 C20	VIb	深鉢 口縁	口唇部は浅い押し押し文(波状) 口縁部に連続刺突文・凹線文?	外面はナデ 内面は貝殻条痕の上をナデ	橙	にぶい橙	微細～1mmの浅黄・灰白・灰褐色の粒	外面は一部風化 内面は風化気味
69	B区 E23	VIb	深鉢 口縁	口唇部は押し押し文 口縁部に押し押し文、下に連続の刺突文	外面は風化が著しく調整不明 内面はナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・灰白色粒、0.5mm以下の無色透明粒多量	
70	B区	VIb	深鉢 口縁	口唇部に押し押し文(波状) 2列の連続刺突文、凹線文	外面は縦方向にナデ、横方向の条痕の上をナデ 内面は剥離が著しい、一部ナデ	灰黄褐	灰黄褐	2mm以下の淡黄・褐・灰色粒 1mm以下の無色透明の粒多量	
71	B区 E21	VI d	深鉢 胴部	曲な凹線文、横方向の凹線文	外面は横・縦・斜方向に貝殻条痕 内面は横・斜方向に貝殻条痕	にぶい褐	にぶい褐	0.5mm以下の淡黄・無色透明の粒多量	
72	B区 SC 1	VI d	深鉢 頸部付近 胴部	横・斜方向に凹線文、渦巻状の凹線文	内面はナデ、横方向に条痕	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の褐・淡黄・灰白色粒 0.5mm以下の無色透明の粒多量	

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(5)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
73	B区	VId	深鉢 胴部	刺突文の両側に曲凹線文、曲線文に刺突文	外面は貝殻条痕の上をナデ 内面はナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	褐灰 灰黄褐	微細～3mmの黒色光沢粒 灰白・浅黄・灰褐・褐灰色の粒	
74	B区 F24	Vc	深鉢 口縁	外面は波頂部に貼付突起、凹線間に貝殻被縁連続刺突文、凹線文(入り組繋ぎ文)	外面はナデ、貝殻条痕 内面は粗ナデ、貝殻条痕の上をナデ	黄橙	黄灰 灰黄	2mm以下の褐色粒、1mm以下の黒色・無色透明光沢粒	波状口縁 外面にスス
75	B区	Vc	深鉢 口縁	2条の凹線間に斜位の貝殻被縁による連続刺突文	外面はナデ、内面は粗いナデ	灰黄	にぶい黄橙	1mm程の無色透明の粒多量、黒色光沢粒	波状口縁 74と同一個体か?
76	B区 C20	VIIa	深鉢 口縁(31.4)	横位の凹線文、渦巻?状の曲凹線文	外面はナデ 内面は条痕の上をナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙	1mm以下の無色透明光沢粒、黒色光沢粒	
77	B区 F26	VIIa	深鉢 口縁	凹線文、曲凹線文	内外面ともナデ	灰褐	褐	0.5mm以下の無色透明光沢粒多量、黒色光沢粒	
78	B区 SA 7 F23	VIIa	深鉢 口縁 胴部	横位の凹線文、波状の曲凹線文	外面はナデ 内面は条痕、丁寧なナデ	灰黄褐 黒褐	褐	0.5mm以下の無色透明光沢粒、灰白色粒、黒色光沢粒	外面一部黒変 波状口縁
79	B区 F22	VIIb	深鉢 口縁(17)	外面は貝殻被縁による連続刺突文、短凹線文(端部刺突留まり)	外面はナデ、貝殻条痕の上をナデ 内面は貝殻条痕の上をナデ	にぶい赤褐	にぶい褐	1mm以下の無色透明粒多量	
80	B区 G23	VIIb	深鉢 口縁	貝殻被縁による連続刺突文、横・斜位の凹線文	口唇部外面ともにヨコナデ 内面は横方向の貝殻条痕	灰黄褐	褐	2mm以下のにぶい黄橙・黒色光沢、透明光沢、砂粒	
81	B区 SE 6	VIIb	深鉢 口縁	貝殻被縁による連続刺突文、3条の平行な凹線文	口唇部はナデ、外面は貝殻条痕 内面は貝殻条痕の上をナデ	褐	にぶい褐	2mm以下の褐色色粒、微細な透明光沢粒	
82	B区 F22	VIIb	深鉢 口縁	貝殻被縁による連続刺突文、曲凹線2条の凹線文	口唇部内面上部はナデ 外面はナデ、内面は剥離の為調整不明	暗灰黄	暗灰黄	0.5mm以下の透明光沢粒	
83	B区	VIIb	深鉢 口縁 胴部	口唇部に押圧刻み 口縁部に貝殻被縁による連続刺突文、3条の凹線文	外面は横・斜方向の貝殻条痕、横・斜方向の貝殻条痕の上をナデ 内面は横・斜方向の貝殻条痕の上をナデ	にぶい赤褐 灰褐	口唇部に にぶい赤褐	微細～4mmの透明と黒色光沢粒 赤褐・褐・灰白色の粒	波状口縁 外面にスス 内面に一部黒変
84	B区 SE 6	VIIb	深鉢 口縁	口唇部に押圧刻み 口縁部に貝殻被縁による連続刺突文、その下に横・斜位の凹線文	内外面ともにナデ	暗灰黄	口縁部に にぶい黄	2mm以下の灰褐色粒 1mm以下の透明光沢粒	外面にスス 85、86と同一個体か?
85	B区 SE 6 E23	VIIb	深鉢 口縁	貝殻被縁による連続刺突文、その下に横・縦・斜位の凹線文	口唇部内面ともにナデ 外面はヨコナデ	暗灰黄	にぶい黄褐	1mm以下の灰白色粒 0.5mm以下の透明・黒色光沢粒	外面にスス付着 84、86と同一個体か
86	B区 SA 2	VIIb	深鉢 胴部	5条の凹線文、曲凹線文	外面は横方向のナデ 内面はナデ、一部貝殻条痕が残る	暗灰黄	にぶい黄褐	2mm以下の茶・灰白色の粒 0.5mm以下の透明・黒色光沢粒	外面にスス 84、85と同一個体か
87	B区 D22	VIIb	深鉢 口縁	口縁部に貝殻被縁による連続刺突文、3条の沈線文、沈線文を施した上に縦方向貝殻被縁刺突文	外面はナデ、内面はヨコナデ	灰褐	にぶい褐	1mm以下の無色透明粒多量	
88	B区 D21 E22	VIIb	深鉢 口縁	口縁部に貝殻被縁による連続刺突文、4条以上凹線文 凹線文を施した上に縦方向の連続刺突文	口唇部外面ともにナデ 内面は横方向の貝殻条痕の上をナデ	灰黄褐	にぶい橙	1mm以下の灰褐・灰黄・黒色光沢・透明光沢の砂粒	
89	B区 C20	VIIb	深鉢 口縁	2条の凹線文貝殻被縁による連続刺突文	内外面ともにヨコナデ	灰黄褐	にぶい褐	1mm以下のにぶい橙・灰黄・黒色光沢砂粒	内面は風化気味
90	B区 F22	VIIb	深鉢 口縁	口縁部に2列の竹管状工具による連続刺突文、2条の沈線	口唇部外面ともにナデ 内面は貝殻条痕の上をナデ	灰褐 にぶい褐	にぶい褐	微細～1.5mmの透明・褐色の光沢粒 灰白・灰褐・褐色の粒	

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(6)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
91	B区 C23	VIIb	深鉢 口縁	口唇部に斜方向の押圧文 口縁部に2列の竹管状工具による連続刺突文	外面は貝殻条痕の上を ナデ 内面は斜・横方向のナデ	にぶい橙 褐灰	にぶい橙 褐灰	微細～3.5mmの透明や黒色の光沢粒と灰褐・灰白・褐色の粒	波状口縁
92	B区 E25	VIIc	深鉢 口縁	口唇部に斜方向の刻目 外面は4条の平行な沈線文	外面はナデ 内面は工具によるナデの上をナデ	橙 にぶい黄褐	橙	微細～1mmの透明光沢粒、灰白・灰褐・浅黄・橙色の粒	緩やかな波状口縁か?
93	B区 SA10	VIIc	深鉢 口縁	口唇部に押圧刻み 口縁部に3条の沈線文	内外面ともにナデ	にぶい褐 黄灰	にぶい赤褐 黒褐	微細な透明や黒色の光沢粒、灰白色、浅黄橙色の粒	
94	B区 D23	VIIc	深鉢 口縁	口唇部に押圧刻み 口縁部に3条の沈線文(うち1条に端部刺突留まり)	内外面ともにナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細～1mmの透明光沢粒、褐灰・浅黄橙・灰・白色粒	口唇部～外面に少量のスス?
95	B区 E27	VIIc	深鉢 口縁	口唇部に押圧刻み 外面は3条の凹線文(うち1条は非常に浅い)	口唇部～内外面ともにナデ	灰黄褐	暗灰褐	1.5mm以下の淡黄・灰色粒 半透明光沢粒、黒色光沢粒	
96	B区 SE 6	VII d	深鉢 胴部	波状?の曲凹線文(凹線文内に工具痕)	外面はナデ 内面は工具による横方向一部斜方向のナデ	にぶい褐	にぶい褐	微細な透明・黒色光沢粒	外面にスス
97	B区 F23	VII d	深鉢 胴部	斜位に2条の平行な凹線・渦巻状凹線	外面は貝殻条痕の上を ナデ 内面は横方向の貝殻条痕	灰黄褐	にぶい黄褐	1mm以下の透明・黒色光沢粒	外面にスス
98	B区 E25 F25	VIIa	深鉢 口縁(38.4) 胴部	長方形の区画文内に鋸歯状に短沈線文(端部に刺突留まり)	外面は粗なナデ 内面はやや斜目方向の貝殻条痕	褐 灰褐	黄褐 にぶい赤褐	1mm以下の浅黄色粒、無色透明光沢粒多量	内外面に黒斑
99	B区 F26	VIIa	深鉢 口縁	横・斜位に2～3条の平行な沈線文(端部に刺突留まり)、沈線が連結する部分に2条の平行な弧状曲線文	口唇部内面ともにヨコナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	7mmのにぶい黄褐粒 3mm以下の褐灰・橙・灰白・黒色光沢・透明光沢砂粒	内面は風化気味
100	B区 D21	VIIa	深鉢 口縁	横・斜位に浅い沈線文、沈線文間に刺突文	口唇部内外面いずれもナデ	にぶい橙 褐灰	にぶい黄橙	微細～1mmの透明光沢粒 灰白・褐色の粒	内面に炭化物
101	B区	VIIa	深鉢 口縁	横・斜位に沈線文・曲線文(端部刺突留まり)	口唇部～内外面ともにナデ 内面は横方向の貝殻条痕、指頭痕	褐灰	にぶい黄橙	1mm以下の灰白・褐・透明光沢砂粒	波状口縁?
102	B区 SE 6	VIIa	深鉢 口縁	口唇部は刺突文、口縁部に沈線文、鋸歯状の沈線文(端部刺突留まり)	口唇部はナデ 外面は貝殻条痕の上を ナデ 内面は斜方向に貝殻条痕	にぶい褐 褐灰	灰黄褐 灰褐	黒・透明光沢のガラス質の細片 灰・灰褐色の砂粒	波状口縁
103	B区 C23 D24	VIIa	深鉢 胴部	外面は沈線文、山形をなす沈線文 沈線文(端部刺突留まり)	外面はナデ、ヨコ方向の貝殻条痕 内面はヨコ方向の貝殻条痕	灰黄褐	黒褐	黒・透明光沢のガラス質細片 0.5～1mmの灰褐色・黒褐色の砂粒	103と同一個体か
104	B区 E23	VIIa	深鉢 口縁	口唇部は押圧刻み 口縁部に短沈線文(端部刺突留まり)、波状の沈線文	内外面ともに貝殻条痕の上をナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	微細～2mmの透明光沢粒 浅黄橙・灰褐・灰白色の粒	105と同一個体か 緩やかな波状口縁
105	B区 D23	VIIa	深鉢 胴部	沈線の間に連続した菱形の区画文	外面はナデ 内面は貝殻条痕の上をナデ	灰黄褐	にぶい褐	微細～1mmの透明光沢粒 灰白・浅黄橙・灰褐色粒	104と同一個体か
106	B区 D23	VIIa	深鉢 口縁(26.7) 底部付近	口唇部は沈線文(端部に刺突留まり)、沈線文間に押圧刻み 胴部上半に上下の平行な沈線文(間に連続刺突文)間、く字状・長方形等の区画文	外面は上部はヨコナデ、下部はタテ方向に粗なナデの上をヨコナデ 内面はヨコ・斜方向に貝殻条痕	にぶい褐	にぶい赤褐	3mm以下の灰白・褐・無色透明粒 4mm以下の赤褐・灰色粒多量	外面に一部スス 内面に黒斑
107	B区 SE 1 SE 6	VIIa	深鉢 口縁(28.4)	口唇部から口縁上部にかけて斜位の沈線文 胴部上半に上下の平行な沈線文間に三角形・台形状・波状等の区画文	口唇部はナデ 外面は横方向の貝殻条痕の上をナデ 内面は風化の為に調整不明	にぶい黄橙	にぶい黄橙	5mm以下のにぶい赤褐色・灰褐色・黒褐・灰白・黒色光沢、灰白色光沢の砂粒	外面にスス
108	B区 SE 6	VIIa	深鉢 口縁(27.4)	口唇部から口縁上部にかけて斜位の沈線文 胴部上半に上下の平行な沈線文間に三角形・弧状等の区画文	口唇部はナデ 外面は横方向の貝殻条痕の上をナデ 内面は風化の為に調整不明(ナデか?)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細～1.5mmの透明光沢粒 灰白・褐・浅黄色粒	108と同一個体か

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(7)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
109	B区 SA 7 E23	VIIa	深鉢 口縁 胴部	波頂部に押圧刻み 口縁部に2条の平行短沈線文(端部刺突留まり)	外面はナデ、貝殻条痕の上をナデ 内面はヨコ方向に貝殻条痕、一部ナデ	にぶい赤褐 にぶい黄褐	にぶい褐	透明・黒色光沢のガラス質細片 半透明のガラス質の細片少量	波状口縁 内面に一部黒変
110	B区 E23 F23	VIIa	深鉢 口縁 胴部	波頂部内面に押圧刻み 口縁部に2条の平行短凹線文、曲沈線文(端部刺突留まり) 内面に竹管工具による刺突	外面はナデ 内面は貝殻条痕の上をナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	微細~2.5mmの透明や黒色の光沢粒 灰白・灰褐・暗赤褐色の粒	波状口縁
111	B区 E23 F23 F24	VIIa	深鉢 (器高19.75) 口縁(19.25) 底部(6.3)	波頂部に押圧刻み 口縁部から胴部にかけて短沈線、波状・斜位の沈線文(端部刺突留まり) 底部に編物圧痕	外面は上部はナデ、下部は丁寧なナデ及びナデ 内面は上部はナデ及び斜方向の工具痕、下部はナデ	灰褐 褐灰	褐灰 灰黄褐	1mm以下の無色透明光沢粒 灰白・褐色粒	波状口縁 内面は全体的に黒変 アジロ編み(1-1-1)
112	B区 E23	VIIa	深鉢 口縁	波頂部に押圧刻み、逆八字状に刻み 口縁部に沈線文	外面はナデ 内面は上部がナデ、下部が貝殻条痕の上をナデ	にぶい橙 褐灰	にぶい橙 褐灰	微細~2.5mmの灰白色・灰褐色・浅黄橙・褐・黒色光沢粒	
113	B区 SE 6	VIIa	深鉢 口縁(19) 胴部	波頂部の両側に口唇部に押圧刻み 口縁部から胴部にかけて上下2条の平行な沈線文間に斜位の2条平行な沈線文	口唇部内外面いずれもナデ	明黄褐	にぶい黄橙	微細な透明・半透明・黒色光沢粒 2mm以下の黒・灰・黄灰色粒 5mm大の褐色粒1ヶ	波状口縁 外面上部に黒変
114	B区 F22	VIIa	深鉢 口縁(19.8) 胴部	口唇部は押圧刻み、連続刺突文 口縁部に縦位、鋸歯状の短沈線文(端部刺突留まり)	外面は風化の為調整不明(ナデか?) 内面はヨコナデ	橙 にぶい黄橙 褐灰	にぶい黄橙 灰黄褐	微細~3.5mmの透明光沢粒と浅黄橙・灰白・灰褐・褐色粒	波状口縁
115	B区 D21 D22	VIIa	深鉢 口縁	横・斜に2条の平行な沈線文(端部刺突留まり)	口唇部外面ともナデ 内面はナデ、一部に条痕の痕跡	にぶい褐 にぶい黄褐	褐灰 にぶい黄	微細~1mmの透明光沢粒と浅黄橙・灰白・暗赤褐色粒	波状口縁
116	B区 SA 7	VIIa	口縁	2条の平行な沈線文、斜位の沈線文	口唇部はナデ 内外面とも横方向の貝殻条痕	灰黄褐	にぶい褐	0.5mm以下の無色透明光沢粒 1.5mm以下の灰白色粒	内面は風化
117	B区 D21 D23 E23	VIIa	深鉢 口縁 胴部	上・下2条の平行な入り組み繋ぎ文の間に横・斜位に2条の平行な沈線文(端部刺突留まり)	口唇部内外面いずれもナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	4mm大の浅黄色の 2mm以下の無色透明光沢粒	118と同一個体
118	B区 SA 3 SA 7	VIIa	深鉢 胴部	斜位の2条の平行な沈線文(端部に刺突留まり) 横位の入り組み繋ぎ文	内外面ともナデ	にぶい黄褐	にぶい赤褐	1mm程の黒色光沢粒・無色透明光沢粒 2mm以下の浅黄色の粒	117と同一個体
119	A区 H20	VIIa	深鉢 口縁	横・斜位の2条平行な沈線文、曲線文(端部に刺突留まり)	口唇部外面ともナデ 内面は貝殻条痕の上をナデ	灰褐	にぶい橙	1mm程の無色透明光沢粒 3mm程の褐色、灰白色粒少量	外面は風化気味
120	B区 SA 3 E23	VIIa	深鉢 口縁	2条の平行な沈線文、弧条の2条平行な入り組み繋ぎ文	外面はナデ 内面は風化の為調整不明(ナデか?)	灰黄褐	にぶい黄褐 にぶい黄橙	微細~1mmの透明・黒色光沢粒 灰白・明赤褐・浅黄・褐色の粒	
121	B区 C23 D24	VIIa	深鉢 口縁	沈線文、横・斜位に2条の平行な沈線文	口唇部はナデ 内外面とも貝殻条痕の上をナデ	にぶい褐	にぶい赤褐 にぶい黄褐	黒色・透明に光るガラス質の細片、0.5mm程の灰白・灰褐色の砂粒	ゆるやかな波状口縁? 内面に黒変
122	B区 E22	VIIa	深鉢 口縁	横・斜位の2条の平行な沈線文	口縁部外面はナデ 外面はナデ、所々に貝殻条痕 内面は横方向に貝殻条痕	にぶい褐	にぶい黄褐 灰黄褐	黒色・透明に光るガラス質の細片 0.2~1mmの灰褐・灰色の砂粒	
123	B区 E25	VIIa	深鉢 口縁	横・斜位の2条の平行沈線文	内外面ともナデ	にぶい褐	にぶい橙	3.5mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒	波状口縁 外面・口縁部 内面付近にスス
124	B区 E23	VIIa	深鉢 口縁	2条の平行沈線文	口唇部内外面いずれもナデ	橙	にぶい褐	1mm以下の灰白色粒 0.5mm以下の透明・黒色光沢粒	外面にスス
125	B区	VIIa	深鉢 口縁	2条の平行な浅い沈線文	口唇部~内面はヨコナデ 外面上部はヨコナデ、下部はナデ 内面下部は斜方向の貝殻条痕	にぶい褐 褐灰	黒褐 灰黄褐	光る微粒子、黒色・透明の光るガラス質の細片、0.2~2mmの褐・灰白色の砂粒	
126	B区 E25 F25	VIIa	深鉢 口縁(25.95) 胴部	横方向の2条平行の弧状短沈線文(端部刺突留まり)	口唇部内外面いずれもナデ	灰褐	褐	0.5mm以下の無色透明光沢粒 浅黄・黒色光沢粒	

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(8)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
127	B区 G23	VIIa	深鉢 口縁	短沈線文(端部刺突留まり)、2条の浅い沈線文	外面は貝殻条痕の上をナデ 内面は横・斜方向の貝殻条痕の上をナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	微細～4mmの透明光沢粒 灰白・浅黄橙・灰褐色粒	内面下部に黒変
128	B区 F24	VIIa	深鉢 口縁(16.6) 胴部	竹管状工具による2条の平行沈線文(端部刺突留まり)と2条の平行な沈線文間に斜位・弧状の2条の平行な沈線文	内外面ともナデ	暗灰黄	暗灰黄 黒褐	微細な無色透明光沢粒多量	外面・内面下部に黒変
129	B区 F22	VIIa	深鉢 口縁	2条の平行な沈線文間に斜位・曲線の沈線文	口唇部外面ともナデ 内面は横方向の貝殻条痕の上をナデ	灰褐	にぶい黄橙	微細～4mmの透明光沢粒、灰白・灰褐・浅黄橙・褐色の粒	波状口縁
130	B区 SE 6 D23	VIIa	深鉢 口縁	2条の平行な沈線文、曲線文	口唇部外面ともヨコナデ 内面は横方向の貝殻条痕	灰褐	にぶい黄褐	4mmの明赤褐・灰褐・灰白色・透明光沢砂粒	
131	B区 D21 E22	VIIa	深鉢 口縁(19.8) 胴部	沈線文の下に略三角形の沈線文・横位の沈線文(端部刺突留まり)	外面口縁部内面ともにヨコナデ 内面上部は貝殻条痕の上をヨコナデ、内面下部はヨコナデ	灰褐 にぶい赤褐	灰褐 にぶい赤褐	2mm以下の無色透明粒多量 淡黄色粒を少量	外面上部にスス痕 内面に炭化物付着
132	B区 G23	VIIa	深鉢 口縁	沈線文・斜方向に2条の平行沈線文	外面上部はナデ、指頭痕 外面下部内面下部ともに貝殻条痕の上をナデ 内面上部はナデ	灰褐	にぶい赤褐	微細な透明・黒色光沢粒 灰白・浅黄橙・褐色の粒	波状口縁
133	B区	VIIa	深鉢 口縁	長方形の区画文、横・斜位の沈線文(端部に刺突留まり)	口唇部はナデ 内外面ともにヨコナデ	橙	灰黄褐	3mm以下の灰黄褐・灰・淡黄・黒色光沢・透明光沢砂粒	波状口縁
134	B区 SA 2	VIIa	深鉢 口縁	2条の平行な沈線文・短沈線文	口唇部はヨコナデ、口縁部内面はナデ 外面内面上部とも横・斜方向のナデ 内面下部はナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	2mm以下の灰黄・灰白・黒色光沢・透明光沢砂粒	波状口縁
135	B区 D23	VIIa	深鉢 口縁	2条の平行な沈線文	口唇部内外面いずれもナデ	にぶい黄褐	にぶい赤褐	微細～1mmの透明光沢粒、浅黄橙・褐・灰褐の粒	波状口縁
136	B区 E25	VIIa	深鉢 口縁	短沈線文(端部刺突留まり)・長方形の区画文	外面はナデ 口縁部内面はナデ、内面上部は条痕の上をやや斜方向のナデ 内面下部は横方向の貝殻条痕	にぶい褐	灰黄褐	2mm以下の黒褐色粒 微細な黒色光沢粒	外面にスス
137	B区 E21 E25	VIIa	深鉢 口縁	2条の沈線文の下に長方形の区画文? 短・沈線文	外面はミガキのような丁寧なナデ 口唇部内面とも丁寧なナデ	にぶい褐	にぶい橙	微細な黒色光沢粒 浅黄橙・褐・灰褐色の粒	
138	B区 F24 G23	VIIa	深鉢 口縁	沈線文の下に斜位の沈線・曲線文	口唇部内外面いずれもナデ	にぶい橙 にぶい褐	にぶい赤褐	微細～1mmの透明光沢粒 灰白・浅黄・褐色の粒	
139	B区 F23	VIIa	深鉢 口縁	横・斜・曲線の短沈線・沈線文(端部に)	口唇部外面ともヨコナデ 内面は風化の為に調整不明	黄褐	にぶい黄橙	2mm以下の灰白・黄橙・黒色光沢・透明光沢砂粒	外面にスス
140	B区 E21 F23	VIIa	深鉢 口縁	横位2条・斜位3条の平行な沈線文(端部刺突留まり)	外面内面上部ともヨコナデ 内面下部はやや斜方向に貝殻条痕の上をナデ	褐	褐	0.5mm以下の無色透明光沢粒多量 灰色粒少量	波状口縁
141	B区 F21	VIIa	深鉢 口縁 胴部	2条の平行な沈線文の下に横・斜・曲線からなる幾何学模様の沈線文(端部刺突留まり)	外面内面上部ともナデ 内面下部はやや斜方向の貝殻条痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	微細な無色透明光沢粒多量 浅黄色粒少量	波状口縁
142	B区 SE 6 F22 F26	VIIa	深鉢 口縁(30.0) 胴部	口唇部は押圧刻み 頸部から胴部にかけて短沈線文と沈線文間に横・斜・曲線等の短沈線・沈線文(端部刺突留まり)	外面はナデ 内面は横方向に貝殻条痕の上を軽くナデ	灰褐 黒褐	にぶい赤褐 にぶい褐	2mm以下の褐・灰白色粒多量 1mm以下の無色透明粒多量 2mm以下の黒色光沢柱状粒少量	波状口縁 口縁部外面・外面下部にスス付着
143	B区 F22 F23	VIIa	深鉢 口縁(20.55)	波頂部に押圧刻み 頸部から胴部にかけて横位の短沈線文、横・斜方向の沈線文	内外面ともナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	1mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒	緩やかな波状口縁 外面にスス 内面に黒変
144	B区 SE 6	VIIa	深鉢 口縁	波頂部に押圧刻み横・斜位の沈線文(端部刺突留まり)	外面はナデ 内面は横・斜方向に貝殻条痕	灰黄褐	にぶい橙 にぶい黄橙	黒色・透明光沢のガラス質の細片 微細～1mm大の灰白・黄橙・灰褐色砂粒	波状口縁 口唇部に黒変色砂粒

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(9)

遺物番号	出地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
145	B区	VIIa	深鉢 口縁	波頂部に押圧刻み 頸部から胴部にかけて横・斜位に2条の平行な 沈線文	口縁部外面は貝殻条痕 の上をナデ 外面はナデ 内面は風 化の為調整不明	にぶい黄橙 にぶい褐	黄灰 にぶい橙	黒色・透明光沢のガラス質の細 片 微細～2mmの灰褐・灰白・黒色 の砂粒	波状口縁
146	B区 F24	VIIa	深鉢 口縁	波頂部に押圧刻み 2条の平行な沈線文	外面はナデ 内面は横・斜方向に貝 殻条痕	灰褐	にぶい褐	半透明のガラス質の細片少量 黒色・透明光沢のガラス質の細 片 微細～1mm大の灰白・橙・灰褐色 の砂粒	波状口縁 口唇部にスス
147	B区 F22	VIIa	深鉢 口縁	波頂部に押圧刻み 左右向きの違う斜位の2条の平行な沈線文(一部 結合部に刺突留まり)、沈線文	外面は丁寧なナデ 内面はヨコナデ	褐	にぶい黄橙	黒色・透明光沢のガラス質の細 片 微細な砂粒	波状口縁
148	B区 D23 E23 E24 F24	VIIa	深鉢 口縁	波頂部に押圧刻み 横・斜方向に2条の平行沈線文	口縁部外面に指頭痕 外面・口縁部内面とも ナデ 内面上部は貝殻条痕の 上をナデ 内面下部は 貝殻条痕	灰黄褐	にぶい褐	3mm以下の橙色粒 無色透明光沢粒	波状口縁
149	B区 SE 6	VIIa	深鉢 口縁(23.4) 胴部	口唇部に押圧刻み、頸部から胴部にかけて2条の 平行な短沈線文(端部刺突留まり)と2条の平行 沈線文(短沈線文?)間に斜・横位の2条平行な 短沈線文(端部刺突留まり)	内外面ともナデ	灰褐	にぶい黄橙	1mm以下の無色透明光沢粒多量 0.5mm以上の浅黄色粒	波状口縁
150	B区 SA 8	VIIa	深鉢 口縁 胴部	波頂部付近に押圧刻み 頸部から胴部にかけて上下の沈線文間に斜・横 位の沈線文・曲線文(一部端部刺突留まり)	口縁部外面・内面上部と もにヨコナデ 外面はナデ 口縁部内面はヨコナデの 上をナデ 内面下部は粗いヨコナデ	にぶい褐 褐灰	にぶい褐	黒色・透明光沢のガラス質の細 片多量 半透明のガラス質の細片少量 微細～1mm大の灰白・褐・灰色 の砂粒多量	内面にスス
151	B区 E24 E25	VIIa	深鉢 口縁(36.4) 胴部	波頂部に押圧刻み、口縁部から胴部にかけて2条 の平行な短沈線文(端部に刺突留まり)、長楕円 形状の区画文、斜位の入り組み繋ぎ文、短沈線 文	内外面ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	にぶい褐 灰黄褐	2mm以下の灰白色粒・透明光沢粒	波状口縁 内外面黒斑
152	B区 E23	VIIb	深鉢 口縁 胴部	波頂部に押圧刻み 頸部に竹管状工具による連続刺突文、その下に 横・斜位に沈線文・短曲線文(端部刺突留まり)	外面は貝殻条痕の上を ナデ 内面は貝殻条痕の上を ナデ・貝殻条痕	灰褐	にぶい黄橙	2mm以下の灰褐・灰白・橙色粒 黒色・透明光沢粒	波状口縁
153	B区	VIIb	深鉢 口縁	波頂部に押圧刻み 頸部に竹管状工具による連続刺突文、その下に 沈線文	内外面ナデ	褐灰	にぶい赤褐	1mm以下の無色透明・灰白色粒 無色透明光沢粒	波状口縁
154	B区 D25	VIIb	深鉢 口縁	波頂部に凹線文、両側口唇部に押圧刻み、沈線 文(端部刺突留まり)、口縁部に縦・横・斜位の 連続刺突文、その下に沈線文間に連続刺突文、 斜位の短線文	内外面ナデ	灰褐	にぶい褐	2.5mm以下の浅黄色粒・無色透 明光沢粒	波状口縁
155	B区 D23 F22	VIIb	深鉢 口縁	波頂部に押圧刻み 口唇部に沈線文(端部刺突留まり) 頸部に連続刺突文、沈線文(端部刺突留まり) 間に、円形、長方形の区画文	内外面ナデ	灰黄褐	にぶい褐	1mm以下の浅黄橙・灰白・黒・ 灰褐色粒・透明光沢粒	波状口縁
156	B区 SA 1	VIIb	深鉢 口縁	口唇部に沈線 口縁部から頸部にかけて2条の平行な短沈線文 (端部刺突留まり) 連続刺突文・沈線文(端部刺突留まり)	外面は貝殻条痕の上を ナデ 内面はナデ	にぶい黄橙	にぶい橙 にぶい褐	2mm以下の浅黄橙・灰白・灰褐 色粒 黒色・透明光沢粒	
157	B区 C23	VIIb	深鉢 口縁(26.8) 胴部	口唇部に2条の沈線(端部刺突留まり)交差する 細沈線 頸部～胴部にかけて連続刺突文、4条の平行沈線 文、斜位の3条の平行沈線文	内外面ナデ	にぶい赤褐 にぶい黄橙	にぶい褐 褐灰	1.5mm以下の灰白・浅黄橙・灰 褐・褐色粒、黒色・透明光沢粒	
158	B区 E25	VIIb	深鉢 口縁	口唇部に沈線文(一部端部刺突)、押圧刻み 頸部に連続刺突文、横・縦位の沈線文	内外面ナデ	灰褐	にぶい褐	1mm以下の灰褐・浅黄橙・灰白 色粒 透明光沢粒	
159	B区 SE 6	VIIb	深鉢 口縁	竹管状工具による連続刺突文、横・斜位の沈線 文、同工具による刺突文	内外面ナデ	灰黄褐 にぶい褐	にぶい褐	1mm以下の浅黄・灰褐色粒 黒色・透明光沢粒	
160	B区 D21	VIIb	深鉢 口縁	竹管状工具による連続刺突文、横・斜位の沈線 文	内外面ナデ	灰褐	にぶい黄橙 にぶい赤褐	1mm以下の灰褐・灰白色粒 黒色・透明光沢粒	
161	B区 SE 6	VIIb	深鉢 口縁	口唇部に押圧刻み(波状) 口縁部に竹管状工具による連続刺突文、横・斜 位に2条の平行な沈線文	外面ナデ 内面調整不明	にぶい黄橙	にぶい橙	1.5mm以下の灰褐・灰白・褐色 粒 黒色・透明光沢粒	
162	B区	VIIb	深鉢 口縁 胴部	竹管状工具による連続刺突文、頸部から胴部に かけて横・斜位に凹線文(端部刺突留まり)	内外面ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	2mm以下の灰白・茶褐色粒 黒色・透明光沢粒	波状口縁 外面にスス

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(10)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
163	B区 F25	VIIb	深鉢 口縁(33.0) 胴部	口唇部に連続刺突文 口縁部に連続刺突文、その下に長方形の区画 文内に横位の短沈線(端部刺突留まり)斜位の 2条の平行な入組繫ぎ手文	外面ナデ 内面貝殻条痕の上をナ デ	にぶい褐	にぶい赤褐	4mm以下の灰褐・暗赤褐・浅黄 橙・灰白色粒・透明光沢粒	
164	B区 SA3 F22 E23	VIIc	深鉢 口縁(39.4) 胴部	口唇部に2条の沈線文 口縁部は円形・三角形状の区画文・連続刺突文 頸部から胴部にかけて連続刺突文・長方形の 区画文、横・斜位の沈線文	内外面ナデ	にぶい褐	明赤褐	1mm以下の灰白色・無色透明粒	波状口縁
165	B区 SE6	VIIc	深鉢 口縁(26.3) 胴部	口唇部に沈線文、口縁部は円形・三角形状の区 画文の周囲に連続刺突文、頸部から胴部にか けて連続刺突文、沈線文、長方形・三角形状の 区画文・曲線文(端部刺突留まり)	内外面ナデ	灰黄褐 黒褐	にぶい赤褐	1mm以下の褐色粒・黒色透明粒	波状口縁 内外面黒変
166	B区 D23	VIIc	深鉢 口縁 胴部	波頂部に短沈線、西側に押圧刻み、沈線(端部 刺突留まり)、口縁部は、3段の押圧文、西側に 三角形状の区画文、周囲に連続刺突文、頸部 から胴部にかけて短沈線文、沈線間に連続の 入り組み状渦文、沈線文	内外面ナデ 外面指頭痕	にぶい黄褐	にぶい黄褐	2mm以下の灰・黄灰・乳白色粒 透明・半透明・黒色光沢粒	波状口縁
167	B区 F22	VIIc	深鉢 口縁	波頂部に刺突文、両側に押圧刻み、沈線文 口縁部に3段の押圧文、両側に4段の連続刺突 頸部に沈線文	内外面ナデ	灰黄 灰褐	灰黄	0.5mm以下の黒・灰白・灰褐色 粒 透明光沢粒	波状口縁
168	B区 F22	VIIc	深鉢 口縁 頸部	波頂部に押圧刻み、両側の口唇部に沈線文 口縁部に2段の押圧文、両側に三角形状の区画 文、上・下位に連続刺突文・頸部に長方形区画 文	外面はナデ 内面は貝殻条痕	褐	にぶい褐	1mm以下の灰白色粒・透明光沢粒	波状口縁
169	B区 E23	VIIc	深鉢 口縁 頸部	波頂部に押圧刻み、両側に沈線文 口縁部に楕円形(2段)・三角形状の区画文、 連続刺突文、頸部に沈線文	内外面ナデ	灰黄褐	にぶい褐	1mm以下の灰白・にぶい橙色粒 微細な黒色光沢粒	波状口縁
170	B区 F23	VIIc	深鉢 口縁 胴部	口唇部に沈線、口縁部に沈線文(端部刺突留ま り)・連続刺突文 胴部に連続刺突文、横・斜位の沈線文	外面はナデ 内面は貝殻条痕の上を ナデ	褐灰	にぶい褐	1mm以下の灰白・浅黄色粒 無色透明光沢粒	波状口縁
171	B区 C23	VIIc	深鉢 口縁 頸部	口唇部に沈線文、口縁部に縦位の短沈線文 両側に楕円形状の区画文、下に沈線文(端部刺 突留まり) 頸部に連続刺突文、沈線文	内外面ナデ	黒褐	灰黄褐 にぶい橙	1mm以下の浅黄色粒・無色透明 光沢粒	波状口縁
172	B区 SE6	VIIc	深鉢 口縁 頸部	円状の区画文内に刺突文、両側に楕円形状の 区画文、上・下位に連続刺突文、頸部に沈線文 (端部刺突留まり)	内外面ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	1mm以下の灰白・浅黄橙・褐色 粒、透明光沢粒	波状口縁
173	B区 F22	VIIc	深鉢 口縁 頸部	口唇部に沈線、口縁部に沈線文、連続刺突文、 頸部に沈線文	外面はナデ 内面はナデ	灰褐	にぶい褐	5mm以下の赤褐、浅黄色の粒 2.5mm以下の透明光沢粒	波状口縁 内面に黒変
174	B区	VIIc	深鉢 口縁 頸部	口唇部に短沈線文(端部刺突留まり) 口縁部に楕円形状の区画文、両側・下位に短沈 線(端部刺突留まり)頸部に連続刺突文	外面はナデ 内面はナデ、貝殻条痕 の上をナデ	にぶい橙 にぶい褐	にぶい黄橙	1mm以下の浅黄橙、灰褐、褐色 の粒、1mm以下の透明光沢粒	
175	B区 C22	VIIc	深鉢 口縁 頸部	口唇部に沈線文、刺突文 頸部に連続刺突文、沈線文	外面はナデ 内面はナデ	にぶい褐	灰褐	0.5mm以下の褐、浅黄色の粒、 透明光沢粒	
176	B区 SE6	VIIc	深鉢 口縁 頸部	口唇部・口縁部に沈線文 頸部に連続刺突文・沈線文	外面はナデ 内面は貝殻条痕の上を ナデ	にぶい褐	灰黄褐	灰白色の微粒、透明光沢微粒	
177	B区 E23	VIIc	深鉢 口縁 頸部	口唇部に押圧刻み、刺突文、沈線文(端部刺突 留まり) 口縁部に2条の平行な沈線文(端部刺突留まり) 連続刺突文 頸部に沈線文	外面はナデ 内面はナデ	黒褐	にぶい褐	1mm以下の浅黄・灰白色の粒、 透明光沢粒	外面にスス
178	B区 SA3	VIIc	深鉢 口縁 頸部	口唇部に沈線、口縁部に入組繫ぎ文、沈線によ って肥厚した部分に刻み、頸部に沈線文、貼付突 帯	外面はナデ(風化) 内面は調整不明	にぶい褐	橙 褐灰	2mm以下の乳白色、茶色の粒 1mm以下の透明光沢粒	波状口縁
179	A区	VIIc	深鉢 口縁 胴部	口唇部に沈線文、口縁部に2条の平行沈線間に 連続刺突文、頸部から胴部にかけて円形・鍵状の 区画文	外面はナデ 内面はナデ	にぶい褐	にぶい褐	1mm以下の乳白色の粒、透明光沢 粒	波状口縁
180	B区 E22	VIIc	深鉢 口縁 頸部	口縁部に長方形の区画文、頸部に沈線文	外面はナデ 内面はナデ	灰褐 灰黄	灰黄	1mmの灰褐、灰白色の粒、黒色、透 明光沢微粒	

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(11)

遺物番号	出地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
181	B区 D23	VIIc	深鉢 口縁 ↳ 胴部	口縁部に連続刺突文 頸部から胴部に沈線文	外面はナデ 内面は貝殻条痕	にぶい黄褐	にぶい黄褐	乳白色の微粒 透明光沢粒	
182	B区 D23	VIIc	深鉢 口縁	口縁部にL字・逆レの沈線文、曲線文 頸部に沈線文	外面はナデ 内面はナデ	灰黄褐	にぶい赤褐	0.5mm以下の淡黄色の粒、透明光沢粒	
183	B区	VIIc	深鉢 口縁(17.2) ↳ 胴部	波頂部に刺突文、西側に押圧刻み、沈線文 口縁部に刺突文・押圧文、西側に三角形の区 画文(端部刺突留まり)連続刺突文	外面はナデ 内面は貝殻条痕の上を ナデ	褐	灰黄褐 褐	1mm以下の透明光沢粒	波状口縁
184	B区 D23	VIIc	深鉢 口縁	波頂部に斜位の押圧刻み、両側に沈線文 口縁部に押圧文、周囲に連続刺突文、逆コ字状 の区画文(端部刺突留まり)、連続刺突文	外面はナデ 内面はナデ	灰黄褐	橙	1.5mm以下の灰白・褐色の粒 1mm以下の黒色・透明光沢粒	
185	B区 C23	VIIc	深鉢 口縁	波頂部に押圧刻み 口縁部に押圧文連続刺突文が施された貼付突起	外面はナデ 内面はナデ	灰黄褐	褐	1mm以下の橙、淡黄色の粒 黒色、金色、透明光沢粒	波状口縁
186	B区 F22	VIIc	深鉢 口縁	口唇部に沈線 口縁部に2列の連続刺突文	外面はナデ 内面はナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	1.5mm以下の淡黄色の粒 透明、金色光沢粒	波状口縁
187	B区 SE 2	VIIc	深鉢 口縁	波頂部に押圧刻み、沈線 口縁部に押圧文、曲線文、連続刺突文	外面はナデ 内面はナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	1mm以下の黄橙、灰白、灰褐色 の粒、透明光沢粒	波状口縁
188	B区 F 22	VIIc	深鉢 口縁	口唇部に沈線文(端部刺突留まり) 口縁部に円状に連続刺突文、曲線文(端部刺突 留まり)	外面はヨコナデ 内面は調整不明	にぶい黄褐	橙	0.5mm以下の灰白、淡黄色の粒、 透明光沢粒	波状口縁
189	B区 E22	VIIc	深鉢 口縁(28.6) ↳ 頸部	口唇部に沈線、押圧刻み 口縁部に楕円形の区画文、連続刺突文	外面はナデ 内面は貝殻条痕、ナデ	灰褐 褐灰	褐灰 灰黄	1mm以下の灰白色の粒、透明光沢 粒	波状口縁
190	B区 E23	VIIc	深鉢 口縁	口唇部に沈線 口縁部に沈線文、連続刺突文(交互)	外面はナデ 内面はナデ	にぶい褐	にぶい褐	1mm以下の灰白、浅黄橙、灰褐 色の粒、透明光沢粒	波状口縁
191	B区 SE 6	VIIc	深鉢 口縁	口唇部に沈線 口縁部に沈線(端部刺突留まり)、連続刺突文	外面はナデ 内面はナデ	にぶい褐	にぶい褐	1mm以下の乳白色の粒、透明光沢 粒	波状口縁
192	B区 SE 6	VIIc	深鉢 口縁	口唇部に沈線 口縁部に浅い沈線文、連続刺突文、凹線文、沈 線文	外面はナデ 内面はナデ	灰褐	にぶい赤褐	1mm以下の灰、浅黄色の粒 1.5mm以下の透明光沢粒	
193	B区 F23	VIIc	深鉢 口縁	口唇部に沈線、連続刺突文 口縁部に2条の平行な沈線文、連続刺突文	外面はナデ 内面はナデ	灰褐	にぶい赤褐	0.3mm以下の灰白色の粒、透明 光沢粒	
194	B区 SA 2	VIIc	深鉢 口縁 ↳ 頸部	押圧刻み、2条の平行沈線文、連続刺突文	外面はナデ 内面はナデ	にぶい赤褐	にぶい橙 にぶい黄褐	3mm以下の黄白・褐色の粒 1mmの半透明、透明光沢粒	波状口縁
195	B区	VIIc	深鉢 口縁	連続の押圧刻み、沈線文、連続刺突文	外面はナデ 内面はナデ	黄灰	にぶい褐	1mm以下の浅黄橙、灰褐、明赤 褐色の粒、透明光沢粒	波状口縁
196	B区 SA 3	VIIc	深鉢 口縁 ↳ 頸部	2条の平行な沈線文間に連続刺突文	外面はナデ 内面はナデ	褐	明赤褐	1mm以下の浅黄橙、灰褐色の粒、 透明光沢粒	波状口縁
197	B区 SE 6 G23	VIIc	深鉢 口縁 ↳ 頸部	逆U字状沈線文、下位に連続刺突文、両側に連 続の入り組み状渦文	外面はナデ 内面はナデ	にぶい褐 にぶい黄褐	黄褐	1mmの黄橙、灰白、灰褐色の粒 1.5mmの半透明、黒色、透明光 沢粒	
198	B区 F25	VIIa	深鉢 口縁 ↳ 頸部	口唇部に押圧刻み 頸部に長方形の区画文	外面はナデ 内面はナデ	にぶい赤褐	にぶい黄褐	1mm以下の金色、黒色、透明光 沢粒	

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(12)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
199	B区 F26	VII d	深鉢 口縁	二条の平行沈線文、沈線間に竹管状工具による連続刺突文	外面はヨコナデ 内面はナデ	にぶい褐	明赤褐	1mmの浅黄色の粒、透明光沢粒	
200	B区 F23	VII d	深鉢 口縁 胴部	口唇部に押圧刻み 二条の平行沈線文、沈線間に連続刺突文	外面はナデ 内面はナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の褐色の粒 2mm以下の透明光沢粒	波状口縁
201	B区 E23	VII d	深鉢 口縁	口唇部に押圧刻み(波状) 2条の平行する沈線間に連続刺突文	内外面ともナデ	にぶい橙	にぶい黄橙 にぶい橙	2mm以下の灰褐・灰白・褐色粒	波状口縁
202	B区 SE 1 D24	VII d	深鉢 口縁 胴部	口唇部内面上部に押圧刻み 口縁部にエ字状沈線文間に連続刺突文	内外面ともナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の透明・黒色光沢粒、 乳白色粒	波状口縁
203	B区 SE 6	VII d	深鉢 口縁	2条の平行沈線文間に2段の竹管状工具による連続刺突文	外面はナデ(一部風化) 内面は粗いナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙 褐灰	1mm以下の灰白・褐色粒、透明・ 黒色光沢粒	
204	B区	VII d	深鉢 胴部	横・斜めに2条の平行沈線文間に竹管状工具による連続刺突文	内外面ともナデ	にぶい黄褐	にぶい褐 褐	0.5mm以下の透明光沢粒	
205	B区 F22	VII d	深鉢 口縁付近 底部付近	口縁部に2条の沈線の下に連続刺突文、3条の平行な沈線のうち上2条間に連続刺突文 3条の平行な渦巻状文のうち下2条間に連続刺突文	内外面ともナデ	にぶい橙 にぶい黄褐	にぶい褐	1mm以下の透明光沢粒、灰白・ 浅黄橙・褐・褐灰色粒	
206	B区 SA 7 E23	VII e	深鉢 口縁	沈線文下に3段の竹管状工具による連続刺突文	内外面ともナデ	にぶい赤褐	にぶい黄褐	1mm以下の透明光沢粒、灰白・ 浅黄・褐色粒	
207	B区 F24	VII d	深鉢 口縁 胴部	口唇部に3本の押圧刻み、両側に連続刺突文、 沈線による長楕円状の区画内に貝殻腹縁による連続刺突文	内外面ともナデ	灰黄褐	灰黄褐	1.5mm以下の淡黄色粒、透明・ 黒色光沢粒	
208	B区 D23	VII d	深鉢 口縁 胴部	口唇部に押圧刻み、連続刺突文 口縁上部に連続刺突文、2条の沈線内に貝殻腹縁刺突文	外面はナデ 内面は貝殻条痕の上を ナデ	灰黄褐	にぶい褐	1mm以下の淡黄色粒、透明・ 黒色光沢粒	
209	B区 E25 F26	VII e	深鉢 口縁(22.5) 胴部	波頂部に押圧刻み、口唇部に貝殻腹縁による連続刺突文、貝殻・殻頂による押圧文・斜方向の貝殻腹縁連続刺突文、横・斜方向の沈線文・曲沈線文間に短沈線文・貝殻殻頂による押圧、貝殻腹縁による連続刺突	外面はナデ 内面は条痕の上をナデ	暗灰黄	にぶい褐	微細な透明光沢粒、0.5mm以下の 黒色光沢粒・浅黄色粒	波状口縁 外面にスス付着
210	B区 F27	VII e	深鉢 口縁	口縁部内面上部に貝殻腹縁刺突文 口縁部外面に貝殻腹縁刺突文と凹線文	外面は調整不明 内面はナデ	にぶい黄橙 淡黄	にぶい黄橙	1.5mm以下の灰白・灰褐・褐色粒、 透明光沢粒	波状口縁
211	B区 E22	VII e	深鉢 口縁	波頂部に押圧刻み 口縁部に貝殻腹縁刺突文と曲沈線文	内外面ともナデ	にぶい黄褐 にぶい褐	にぶい褐	1.5mm以下の透明・黒色光沢粒、 褐灰・浅黄橙・灰白色粒	波状口縁
212	B区 SA 3 E22	VII e	深鉢 口縁(25.0) 胴部	波頂部に押圧刻み、頸部～胴部にかけて、交互に2～3列の連続刺突文、2条の平行沈線文	外面はナデ 内面は条痕	灰黄褐	灰黄褐	1mm以下の浅黄色粒、光沢粒	波状口縁
213	B区 E22	VII e	深鉢 口縁 胴部	波頂部に押圧刻み 頸部～胴部にかけて、交互に連続刺突文、1～2条の沈線文	外面はナデ 内面は条痕	にぶい黄褐	にぶい黄褐	1mm以下の乳白色粒、透明光沢粒	波状口縁
214	B区 D23	VII d	深鉢 胴部	2条の平行する沈線文間に長方形の区画文	内外面とも条痕	灰黄褐 にぶい黄褐	にぶい褐	2.5mm以下の乳白色粒、透明光 沢粒	
215	B区 SA 8 E25	VII d	小型土器 胴部	短沈線を組み合わせた楕円形状の連続区画文	外面はナデ 内面は条痕	灰褐 褐	褐	3mm以下の褐色粒、1.5mm以下の 透明光沢粒	
216	B区 C2E28 D23 E22 E23	VII d	深鉢 胴部 底部(9.7)	沈線文、曲沈線文 底部編物圧痕	内外面とも条痕の上を ナデ	にぶい褐	黄灰 灰黄	1mm以下の透明・黒色光沢粒	外面にスス付着 モジリ編(密)

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(13)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
217	B区	VId	深鉢 胴部	2条の平行沈線文の下に横・斜位の短沈線文(端部刺突留まり)	内外面ともナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	5mm以下の黄土色粒、2mm以下の黒・灰色粒、透明・黒色光沢粒	内外面黒変?
218	B区 D21	VId	深鉢 胴部	曲沈線文	内外面とも貝殻条痕の上をナデ	明赤褐	にぶい黄橙	0.5mm以下の透明光沢粒	内面に黒変
219	B区	VId	深鉢 胴部	2条の平行曲沈線文	外面はミガキ 内面はナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	0.5mm以下の光沢粒	
220	B区	VId	深鉢 胴部	2条の平行する沈線文、下に長方形の区画文、沈線文、その下に斜位に2条づつ平行する沈線間に斜位・短沈線文、2条平行の渦巻文(端部刺突留まり)	外面はナデ 内面は貝殻条痕の上をナデ	橙	にぶい黄橙	2mm以下の淡黄色粒、透明・黒色光沢粒	外面に黒変
221	B区 E23	VId	深鉢 胴部	2条の平行沈線文、斜位に平行曲沈線文(端部刺突留まり) 3条の平行沈線文	外面はナデ 内面は調整不明	にぶい褐	にぶい橙	5mm以下の浅黄橙・赤褐色粒 2mm以下の透明・黒色光沢粒、 灰白・灰褐・褐色粒	内面風化著しい
222	B区	VId	深鉢 胴部	斜位の沈線文、横位短沈線文(端部刺突留まり) 2条の平行沈線文	内外面ともナデ	にぶい褐	灰黄褐	1mm以下の透明光沢粒、淡黄色粒	穿孔
223	B区 SA 1	VId	深鉢 胴部	竹管状工具による沈線文(端部刺突留まり)、その下に同工具による羽状短沈線文(端部刺突留まり)	内外面ともナデ 指頭痕	橙	橙	2.5mm以下の褐色粒、黒色光沢粒	
224	B区 F22 E23	VId	深鉢 胴部	沈線文の下に縦位の沈線文・長方形、三角形の区画文(区画内に同形状が区画されるものもある。また中には端部に刺突留まりもみられる)	外面は丁寧なナデ 内面は条痕	灰褐	褐	1mm以下の透明・黒色光沢粒	
225	B区 SA 1 SE 6	VId	深鉢 胴部	2条の平行する沈線内に円形・長方形の区画文(長方形区画内に連続刺突文)、その下の沈線と曲沈線間に連続刺突文、曲沈線と2条の平行する沈線文間に斜位沈線文、刺突文、2条平行の短沈線文	外面は丁寧なナデ 内面は条痕の上をナデ	にぶい黄褐	灰褐	微細な透明光沢粒	
226	B区 SE 6	VId	深鉢 頸部 胴部	連続刺突文、短沈線文の下に沈線文、その下に2条の平行な沈線文によって三角形・菱形に区画、区画内に刺突や弧状の沈線文、入組み緊ぎ文	内外面ともナデ	灰褐	にぶい黄褐 明赤褐	4mm以下の褐色粒、2mm以下の半透明粒、灰白・淡黄色粒 1mm以下の透明光沢粒	内面に炭化物付着
227	B区	VId	深鉢 胴部	斜方向に沈線文	外面はナデ 内面は貝殻条痕	にぶい褐	にぶい赤褐	3mm以下の褐・灰白・淡黄色粒	外面にスス付着 内面一部黒変
228	B区 E23	IXa	深鉢 口縁(30.0) 胴部	口縁部上面に斜方向の貝殻腹縁による刺突文	外面は貝殻条痕、指頭痕 内面は貝殻条痕の上をナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐 褐灰	3mm以下の透明光沢粒、褐灰・褐・浅黄褐色粒 6mm大のにぶい赤褐色粒	
229	B区	IXa	深鉢 口縁	口縁部上面に斜方向に短沈線文と貝殻腹縁刺突文	内外面とも貝殻条痕	にぶい褐 褐灰	にぶい赤褐	1.5mm以下の金色粒、透明光沢粒、 灰褐・浅黄色粒	
230	B区 F23	IXb	深鉢 口縁(31.6)	口唇部に沈線文、外面頸部付近に連続刺突文、沈線文、口縁部内面上部に4条の沈線文	内外面ともナデ	にぶい黄褐	にぶい赤褐	1.5mm以下の褐・乳白色粒、透明光沢粒	
231	B区 F23	IXd	深鉢 口縁	口唇部に貝殻腹縁による連続押圧刻み 口縁部上面に短沈線文(端部刺突留まり) 貝殻腹縁による連続刺突文	内外面とも条痕	灰黄褐	褐	1mm以下の透明光沢粒	
232	B区 D24	IXb	深鉢 口縁	口縁部上面に沈線文と短沈線文	内外面ともナデ	にぶい橙	にぶい橙 にぶい黄橙	微細な透明・黒色光沢粒、1mm以下の灰・浅黄・灰褐色粒	口唇部に黒変
233	B区 SE 6	IXd	深鉢 口縁 胴部	口唇部に貝殻腹縁連続刺突文 口縁部内面上部に2条の平行沈線文、沈線文間に、竹管状工具による連続刺突文	口唇部はナデ 内外面は条痕	にぶい褐	にぶい赤褐	3mm以下の褐色粒、1mm以下の透明光沢粒	
234	B区 SE 6	IXd	深鉢 口縁	口唇部に連続刺突文、両側に貝殻腹縁による刺突文 口縁部内面上部に押圧文その周囲に連続刺突文、両側に貝殻腹縁による連続刺突文	内外面とも条痕	にぶい黄褐	橙	2mm以下の褐・灰白色粒、1mm以下の透明・黒色光沢粒	波状口縁

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(14)

遺物番号	出土地	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
235	B区 F22	IXd	深鉢 口縁	口唇部には斜方向に貝殻腹縁による連続刺突文 口縁部上面に連続刺突文、貝殻腹縁による連続 刺突文、2条の沈線文、沈線文間に貝殻腹縁による 連続刺突文	外面は条痕 内面はナデ	灰黄褐	にぶい赤褐	微細な透明光沢粒、2mm以下の 灰白色粒、3.5mm大の褐色粒を1 コ	波状口縁
236	B区	IXb	深鉢 口縁 胴部	口縁部内面上部に2条の平行沈線文間に貝殻腹 縁による連続刺突文	外面は条痕 内面はナデの上を条痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	1mm以下の透明光沢粒	波状口縁
237	B区 C23	IXb	深鉢 口縁	口縁部上面に渦状沈線文(端部刺突留まり)	内外面ともナデ	灰黄褐 にぶい赤褐	灰 にぶい褐	微細な黒色・透明光沢粒 1mm以下の浅黄・灰白・灰褐色 粒	
238	B区 SE6	IXd	深鉢 口縁	口縁部内面上部に紐状貼付突帯	内外面ともナデ	にぶい褐	にぶい褐	2mm以下の灰白・褐色粒	波状口縁
239	B区 G23 F24	Xa	深鉢 口縁(37.0) 胴部	貝殻腹縁による連続刺突文	内外面とも貝殻条痕の 上を一部ナデ	橙	橙	6mm以下の赤褐色粒、0.5mm以下 の無色透明粒	波状口縁 外面に一部黒 変
240	B区 F21	Xa	深鉢 口縁	貝殻腹縁による連続刺突文	外面はナデ 内面は貝殻条痕	にぶい褐 灰黄	にぶい橙 灰黄	微細な黒色・透明光沢粒、灰褐 色粒	波状口縁
241	B区 SA2	Xa	深鉢 口縁	貝殻腹縁による連続刺突文	外面は粗いナデ 内面はナデ	にぶい橙	にぶい橙	微細な黒色・透明光沢粒 1.5mm以下の灰白・褐色粒	波状口縁
242	B区 SE6 F22 F24	Xc	深鉢 口縁	2条の沈線文	内外面ともナデ	にぶい橙	にぶい橙	微細な透明光沢粒 1mm以下の褐色粒	
243	B区 SA2	Xc	深鉢 口縁	2条の沈線文	内外面ともナデ	にぶい橙	にぶい橙	微細な透明光沢粒 1mm以下の黒色光沢粒	
244	B区	Xc	深鉢 口縁	貝殻腹縁による連続刺突文	内外面ともナデ	にぶい赤褐	明赤褐	1mm以下の赤褐・黒色粒	
245	B区 E23	Xc	深鉢 口縁	貝殻腹縁による短沈線文	内外面ともナデ	にぶい褐	にぶい褐	1mm以下の黄褐色粒	
246	B区 SE6	Xc	深鉢 口縁		内外面ともナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	1mm以下の赤褐色粒	
247	B区 C23	Xc	深鉢 口縁	口唇部に2条の沈線文、沈線文間に刺突	内外面ともナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	1mm以下の透明光沢粒	
248	B区 SA1	Xc	深鉢 口縁	口唇部に連続押圧刻み	外面はナデ、指頭痕 内面は条痕	橙	橙	1mm以下の灰色粒	
249	B区 SA4	Xd	深鉢 口縁(40.6) 胴部	斜方向に連続沈線文	外面は条痕 内面は条痕とミガキ	にぶい褐	にぶい褐	3.5mm以下の灰白・褐色粒	外面にスス付 着
250	B区 E23 F22	Xd	深鉢 口縁 胴部	斜方向に連続沈線文	内外面とも条痕 口唇部ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	2mm以下の灰・灰白色粒	波状口縁 外面にスス付 着
251	B区 E23	Xe	深鉢 口縁(22.5) 胴部	口唇部に沈線文 口縁部に4条?の平行沈線文	外面は風化のため不明 内面はナデ・一部風化	暗灰黄 灰黄	にぶい黄 灰黄	微細な透明光沢粒 3mm以下の黒褐・黒・浅黄色の 粒	
252	B区 SA7	Xe	深鉢 口縁(22.9) 胴部	口唇部に沈線文 口縁部に4条?の平行沈線文、その下に斜方向の 短沈線文	外面はナデ・一部風化 内面は剥離	灰黄 暗灰黄	暗灰黄	微細な黒色光沢粒・透明光沢粒 1mm以下の灰白・灰・黒褐の粒	

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(15)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
253	B区 E23	Xf	深鉢 口縁 (17.0)	2条の平行凹線文、凹線文間に縄文	外面はミガキ 内面はナデ	浅黄	淡黄	0.5mm以下の透明光沢粒 灰白・赤褐色の粒	
254	B区 SE6	Xe	深鉢 口縁	波頂部に押圧刻みの後、粘土貼付 斜方向の交差した凹線文・短凹線文	内外面ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	3mm以下の灰白・褐灰色の粒	波状口縁
255	B区 G24	Xb	深鉢 口縁 胴部	2列の貝殻腹縁による連続刺突文	内外面は貝殻条痕の上 をナデ	にぶい褐 褐灰	にぶい黄褐	微細な透明光沢粒・黒色光沢粒 2mm以下の浅黄・灰・褐色の粒	
256	B区 G23	Xb	深鉢 口縁	口唇部に貝殻腹縁による連続押圧刻み 口縁部に2列の貝殻腹縁による連続刺突文	内外面はナデ	灰黄褐	灰黄褐	0.5mm以下の透明光沢粒・浅黄の 粒	波状口縁
257	B区 F25	Xb	深鉢 口縁	口唇部は貝殻腹縁による連続刺突文 口縁部に2列の貝殻腹縁による連続刺突文	外面貝殻条痕の上をナ デ 内面貝殻条痕	にぶい黄褐	にぶい黄橙	1mm以下の透明光沢粒・黒色光 沢粒 灰褐・褐の粒	波状口縁
258	B区 SE6	Xb	深鉢 口縁	貝殻腹縁による連続刺突文	内外面はナデ	灰黄褐	灰黄褐	0.5mm以下の透明光沢粒	波状口縁
259	B区 SA2	Xb	深鉢 口縁	斜め方向に交差した貝殻腹縁による連続刺突文、 波線文	内外面はナデ	灰褐	にぶい赤褐	0.5mm以下の灰白・黒色光沢粒	
260	B区 SA8	Xb	深鉢 口縁	貝殻腹縁による連続刺突文	内外面はナデ	暗灰黄	黄灰	0.5mm以下の浅黄色・透明光沢 粒 黒色光沢粒	
261	B区 D20	Xb	深鉢 口縁	口唇部に斜方向の3条の短沈線、両側に竹管状 工具による連続刺突文 口縁部に貝殻腹縁による連続刺突文	内外面はナデ	にぶい赤褐	灰褐	0.5mm以下の灰白・浅黄色・透 明光沢粒	
262	B区 E26	Xb	深鉢 口縁	口唇部外面には貝殻腹縁による連続押圧刻み、 口縁部には2列の貝殻腹縁による連続刺突文	内外面は貝殻条痕の上 をナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	微細な浅黄橙・灰白・褐色の粒	
263	B区 D21 D22	Xb	深鉢 胴部	口唇部に貝殻腹縁による連続刺突文	外面はナデ 内面は丁寧なナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	1mm以下の褐色の粒	
264	B区 F25	Xb	深鉢 口縁	口唇部に2列の貝殻腹縁連続押圧刻み、斜方向 の連点	内外面ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	1mm以下の灰白色・黒色光沢粒、 透明光沢粒	
265	B区 F23	Xg	深鉢 口縁	口唇部に押圧刻み	内外面はナデ・指頭痕	橙	明黄褐	2mm以下の透明光沢粒 1mm以下の黒色光沢粒・褐色の 粒	波状口縁
266	B区 E23	Xg	脚台付浅鉢 口縁	波頂部にコブ状突起に押圧	外面ナデ 内面風化著しく調整不 明	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の茶・褐色の粒 2mm以下の黒色光沢粒	波状口縁 風化
267	B区 D21	Xg	脚台付浅鉢 口縁	口唇・内外面に竹管状工具による連続刺突文	外面はナデ・ヨコナデ 内面はナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	1.5mm以下の灰褐色・黒色光沢粒、 透明光沢粒	波状口縁
268	B区	Xg	脚台付浅鉢 脚部	凹線文	内外面ともミガキ	にぶい赤褐 にぶい黄橙	褐灰 にぶい黄橙	1mm以下の灰白・灰・橙色の粒 0.5mm以下の透明光沢粒	透かし?
269	B区 D21	XIa	深鉢 口縁(34.8) 胴部	口唇部に貝殻腹縁による連続押圧刻み	外面はナデ・風化著し い 内面は貝殻条痕・ナデ	暗灰黄	灰黄	微細な黒色光沢粒・透明光沢粒 3mm以下の灰白・褐灰・赤褐色 の粒	
270	B区 D21	XIa	深鉢 口縁(20.1) 胴部	口唇部は連続押圧刻み	内外面ともナデ	灰白	灰黄	3mm以下の褐色粒 1mm以下の透明光沢粒	外面スス付着 内面炭化物付 着

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(16)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
271	A区 H19	X Ia	深鉢 口縁 胴部	口唇部に連続押圧刻み	内外面ともナデ	褐灰	灰白	6mm以下の灰白色の粒	
272	B区 F21	X Ia	深鉢 口縁 胴部	口唇部に連続押圧刻み 外面は	外面は貝殻条痕の上を ナデ 内面はナデ	浅黄	灰黄 浅黄	3mm以下の褐・灰白色の粒	外面スス付着
273	B区 E23	X Ia	深鉢 口縁	口唇部に連続押圧刻み	内外面ともナデ	にぶい黄	暗灰黄	1mm以下の褐・浅黄色の粒	
274	B区 C22	X Ib	深鉢 口縁	口唇部に連続押圧刻み	外面はヨコナデ・ナデ 内面は貝殻条痕の上を ナデ	褐灰 にぶい黄橙	にぶい黄橙	1.5mm以下の灰白・黄褐・浅黄色 の粒	
275	B区 SA7	X Ib	深鉢 口縁	口唇部に連続押圧刻み	外面は風化のため不明 内面はナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の白色光沢粒・灰褐 褐色の粒	
276	B区 E21 F21	X Ia	深鉢 口縁	口唇部に貝殻腹縁による連続押圧刻み	内外面は貝殻条痕の上 をナデ	灰褐	にぶい赤褐	1mm以下の乳白色・黒色光沢粒 透明光沢粒	
277	B区 SE6	X Ib	深鉢 口縁	口唇部に連続押圧刻み	内外面ともナデ	にぶい赤褐 褐灰	にぶい褐	1mm以下の透明光沢粒 浅黄橙・灰褐・褐の粒	波状口縁
278	B区 SA8	X Ic	深鉢 口縁	口唇部は粘土貼付後に押圧刻み	外面はナデ 内面はヨコナデ	黒褐	褐	0.5mm以下の乳白色の粒、透明 光沢粒	
279	B区 SA5 E23	X IIa	深鉢 口縁(24.9) 胴部		外面は貝殻条痕の上を ナデ 内面はナデ	にぶい黄褐	橙	3mm以下の灰・黄灰・黒色の粒 微細な透明光沢粒・半透明光沢 粒・黒色光沢粒	
280	B区 D23	X IIa	深鉢 口縁		内外ともナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	2mm以下の灰白・黄褐色の粒 1mm以下の金色光沢粒	外面にスス
281	B区 E26 F26	X IIa	深鉢 口縁	内面に二重の弧状細沈線文	外面はナデ、貝殻条痕 の上をナデ 内面はナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	にぶい黄橙 にぶい褐	1mm以下の灰白・浅黄・褐灰、 赤褐色の粒、黒、白色の光沢粒	外面にスス
282	B区	X IIa	深鉢 口縁		外面はナデ、貝殻条痕 の上をナデ 内面は貝殻条痕	にぶい橙	にぶい赤褐	0.5mm以下の灰白色の粒、微細 な透明光沢粒	内面に黒斑
283	B区 D23	X IIa	深鉢 口縁 胴部		外面はナデ、内面はナ デ、貝殻条痕の上をナ デ	にぶい赤褐	にぶい黄橙 にぶい赤褐	2mm以下の浅黄橙、灰白、灰褐 色の粒、2mm以下の透明光沢粒	内面に黒斑
284	B区 D23	X IIb	深鉢 口縁		外面はナデ、貝殻条痕 内面は貝殻条痕、貝殻 条痕の上をナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	3mm以下の灰白・褐・赤褐・黄 褐色の粒	内面に黒斑
285	B区 E25 F27	X IIb	深鉢 口縁		外面はナデ、貝殻条痕 内面は貝殻条痕	灰黄褐	灰黄褐	1mm以下の灰白色の粒、1mm以下 の黒色、透明光沢粒	外面にスス
286	B区 SA3 SA8	X IIb	深鉢 口縁		外面は、貝殻条痕の上 をナデ 内面は、貝殻条痕の上 をナデ、貝殻条痕	灰褐	にぶい褐	1mm以下の褐、浅黄橙、灰白色 の粒	
287	B区 G23	X IIb	深鉢 口縁		外面はナデ、貝殻条痕 の上をナデ、指頭痕 内面はナデ、貝殻条痕 の上をナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	2mm以下の浅黄橙、灰褐、灰白 色の粒、2mm以下の透明光沢粒	
288	B区 SA7 D22 F23	X IIb	深鉢 口縁(18.2) 胴部		外面は、粗いナデ 内面は、粗いナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	2mmの茶、褐色の粒、1mm以下 の黒色、透明光沢粒	

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(17)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考		
						外面	内面				
289	B区 F21	XIIb	深鉢 口縁				外側はナデ、指頭痕 内側はナデ	にぶい黄橙	橙	1mm以下の灰白、赤褐、褐灰色の粒	
290	B区 C23 D23	XIIb	深鉢(器高26.2) 口縁(22) 底部(9.85)	底部に編物圧痕			外側は貝殻条痕、ナデ 内側は貝殻条痕、ナデ	にぶい褐 にぶい黄	にぶい褐 橙	5mm以下の淡黄、褐色の粒、半透明、黒色光沢粒	内外面に黒変 アジロ編み (1-1-1)
291	B区 SA2 E23	XIIb	深鉢 口縁(22.2) 胴部				外側は貝殻条痕、ナデ 内側は風化著しい、ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙 灰黄褐	1mm以下の灰白・灰褐色の粒 微細な黒色・透明光沢粒	外面にスス
292	B区 C21	XIIc	深鉢 口縁(23.35) 胴部				外側は貝殻条痕の上を ナデナデ 内側はヨコナデ、ナデ、 貝殻条痕の上をナデ	にぶい橙	にぶい橙	3mm以下の茶褐・灰白色の粒 2mm以下の黒色・無色透明光沢粒	内・外面に黒変 波状口縁
293	B区 D23	XIIc	深鉢 口縁(23.5) 胴部				内外面とも貝殻条痕の上をナデ	にぶい黄	灰黄褐 灰黄	2mm以下の黒、浅黄・灰褐・灰色の粒、黒色・透明光沢粒	波状口縁 外面にスス
294	B区 E23	XIIc	深鉢 口縁				内外面とも貝殻条痕の上をナデ、ナデ	にぶい赤褐	にぶい褐	1mm以下の灰褐・灰色の粒 微細な黒色・透明光沢粒	波状口縁
295	B区 E23 F24	XII d	深鉢 口縁(23) 胴部				内外面ともナデ、指頭痕	にぶい褐	にぶい黄褐	3mm以下の黄灰・灰・乳白色の粒 微細な黒色・半透明・透明光沢粒	内面に黒斑 外面に黒変
296	B区 SA7 SE3 D23 E23	XII e	深鉢(器高34.5) 口縁(25.4) 底部(9.6)				外側は貝殻条痕の上を ナデ、指ナデ、ナデ 内側は貝殻条痕の上を ナデ、貝殻条痕、ナデ、 指ナデ	にぶい赤褐 灰黄褐	にぶい赤褐 灰黄褐	5mm大の褐色の粒 2mm以下の透明光沢粒 1mm以下の黒色光沢粒	内面に黒変 外面にスス 波状口縁
297	B区 F23	XII e	深鉢 口縁				内外面ともナデ、貝殻条痕	灰	にぶい褐	1mm以下の灰白色の粒 無色透明光沢粒	内面に黒変
298	B区 E23	XII e	深鉢 口縁				外側は指ナデ、ナデ 内側は貝殻条痕	灰褐	褐灰	1mm以下の黒色・無色透明の光沢粒	内面に黒斑 波状口縁
299	B区 E26	XIII a	深鉢 底部(12.9)				外側は貝殻条痕の上を ナデ 内側は貝殻条痕の上を ナデ、指頭痕、底部は ナデ	橙 にぶい橙	にぶい橙 にぶい黄	6mm以下の灰褐色の粒 1mm以下の灰白・浅黄橙・灰褐・ 黄褐・褐・透明光沢・黒色光沢 の粒	平底 内面黒斑
300	B区 E23	XIII b	深鉢 底部(11.65)				内外面は貝殻条痕の上を ナデ 底部は工具による条痕	にぶい橙	にぶい黄橙	5mm以下の赤褐色の粒 2mm以下の褐・淡黄・灰・透明 光沢・黒色光沢の粒	平底
301	B区 C23	XIII b	深鉢 底部(9.3)				内外面はナデ、指頭痕 底部はナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	7mmのにぶい橙の礫 3mm以下の赤褐・灰褐・灰・ にぶい橙・透明光沢の粒	平底
302	B区 SC3 E23 F23	XIII b	深鉢 底部(9.1)				内外面は貝殻条痕の上を ナデ、ナデ、指頭痕、 底部はナデ	にぶい黄橙 にぶい褐	にぶい黄橙 褐灰	4mmの褐灰色の粒 2mm以下の灰白・褐灰・浅黄・ 透明光沢・黒色光沢の粒	平底
303	B区 D21	XIII a	深鉢 底部(7.8)				外側は貝殻条痕の上を ナデ、ナデ 内側はナデ、底部はナデ	暗灰黄	にぶい黄褐	4mm以下の赤褐色の粒 1mm以下の無色透明光沢・灰白色 の粒	平底
304	B区 E23	XIII b	深鉢 底部(10.2)				外側はナデ、底部はナデ 内側はナデ、剥離	にぶい黄橙	にぶい黄橙	5mm以下の茶褐色の粒 0.5mm以下の浅黄褐色の粒 微細な無色透明の粒	平底
305	B区 SE6	XIII b	深鉢 底部(9.4)				内外面はナデ、指頭痕 底部はナデ	橙	暗灰黄	4mm以下の灰白・灰・淡橙・ にぶい赤褐色の粒、透明光沢粒	平底
306	B区	XIII a	深鉢 底部(12.0)				外側は粗いナデ、底部 はナデ 内側はナデ	にぶい褐	明赤褐	3mm以下の浅黄色の粒 1mm以下の褐色の粒 0.5mm以下の無色透明光沢粒	平底

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(18)

遺物番号	出地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
307	B区 SE6	XIIIa	深鉢 底部(7.5)		内外面はナデ 底部はナデ	暗灰黄	暗灰黄	2mm以下の浅黄色の粒 1mm以下の無色透明光沢の粒	平底
308	B区 SE6 E23	XIIIa	深鉢 底部(6.25)		内外面はナデ 底部はナデ	灰褐	灰褐	3.5mm以下の褐色の粒 1mm以下の無色透明・黒色光沢 の粒	平底 内面黒変
309	B区 E22	XIIIc	深鉢 底部(7.0)		外面は工具によるナデ 内面はナデ、底部はナ デ	にぶい橙 にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の灰白・褐灰・灰褐・ 赤褐色の粒	平底 外面スス
310	B区 C23	XIIIa	深鉢 胴部 底部(13.2)		外面は貝殻条痕の上を ナデ、ナデ、指頭痕 内面は粗いナデ、指頭 痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	3mm以下の灰白・褐色の粒	内面一部黒変
311	B区 SA1	XIII d	深鉢 底部(10.4)		外面は工具によるナデ、 粗いナデ 内面は粗いナデ、底部 は粗いナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰褐・黒褐・褐色の 粒 微細な透明・半透明光沢の粒	あげ底 内面一部黒変
312	B区 F24	XIIIa	深鉢 底部(11.0)		外面は貝殻条痕、底部 はナデ 内面は風化著しい	灰褐	にぶい褐	4mmの褐色粒 1mm以下の浅黄・無色透明光沢 の粒	平底
313	B区 E23	XIII a'	深鉢 底部(9.8)	編物圧痕	外面は貝殻条痕、指頭 痕 内面は風化著しい	にぶい黄	にぶい褐	3mm以下の赤灰・赤褐色の粒	アジロ編み (1-1-1)
314	B区 D23 G23	XIII b'	深鉢 底部(10.8)	編物圧痕	内外面はナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の黄灰・灰色の粒 微細な透明・半透明・黒色光沢 の粒	アジロ編み (1-1-1) 内面黒変
315	B区 SA2 E23	XIII a'	深鉢 底部(10.7)	編物圧痕	外面は貝殻条痕 内面はナデ	灰黄褐 にぶい黄橙	浅黄	3mm以下の赤褐・灰褐・灰白・ 透明の粒	アジロ編み (1-1-1)
316	B区 E25	XIII a'	深鉢 底部(9.85)	編物圧痕	外面はナデ 内面はナデ、剥離	にぶい黄褐	明褐	3mm以下の暗褐・乳白・灰褐・ 透明の粒	アジロ編み(複雑) 1-2-1が多い 外面黒変
317	B区 C23	XIII a'	深鉢 底部(10.9)	編物圧痕	外面は貝殻条痕 内面は貝殻条痕、ナデ	褐	灰褐	1mm以下の灰白色の粒、無色透明 粒	アジロ編み(複雑) 1-1-1が多い
318	B区 F22 F23	XIII a'	深鉢 底部(9.8)	編物圧痕	外面は貝殻条痕の上を ナデ 内面は貝殻条痕、粗い ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	2mm以下の褐色の粒 0.5mm以下の無色透明粒	アジロ編み(複雑) 1-1-1と2-1-1 外面は一部スス 内面一部黒変
319	B区 SA2	XIII a'	深鉢 底部(9.0)	編物圧痕	外面はナデ 内面は剥離	暗灰黄	にぶい黄橙	2mm以下の灰白・灰・赤褐色の 粒 透明光沢粒	アジロ編み(複雑) 3本越えが多い
320	B区 F23	XIII a'	深鉢 底部(8.2)	編物圧痕	外面は貝殻条痕 内面は貝殻条痕、ナデ	にぶい黄	暗灰黄	1mm以下の灰白・褐色の粒、透 明光沢粒	アジロ編み(複雑) 1-1-1と複雑
321	B区 SE2	XIII a'	深鉢 底部(8.8)	編物圧痕	外面は貝殻条痕の上を ナデ 内面はナデ、剥離	にぶい褐	にぶい赤褐	2mm以下の淡黄・灰白・黒褐色 の粒、透明・半透明・黒色の光 沢粒	アジロ編み (3-1-1) 置きかえてず れている。
322	B区 SE6	XIII b'	深鉢 底部(13.4)	編物圧痕	外面は貝殻条痕の上を ナデ、指頭痕 内面は剥離、風化著し い	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の灰・灰黄・黒褐色の 粒、透明光沢粒	アジロ編み(複合) 1-1-1と複 雑
323	B区	XIII b'	深鉢 底部(6.9)	編物圧痕	外面は丁寧なナデ、指 頭痕 内面はナデ、指頭痕	にぶい褐	にぶい橙	5mmのにぶい橙色の粒 3mm以下の赤褐・黒褐・灰白・ 透明光沢の粒	アジロ編み(複雑)
324	B区 D25	XIII b'	深鉢 底部(10.3)	編物圧痕	外面はナデ、指頭痕 内面は貝殻条痕の上を ナデ、ナデ 底部は網代痕の上をナ デ	にぶい褐	にぶい橙	2mm以下の灰白・褐灰・浅黄橙 色の粒、透明・黒色光沢粒	アジロ編み(複雑)

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(19)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
325	B区	XIIIa'	深鉢 底部(11.65)	編物圧痕	内外面は貝殻条痕、ナデ	橙	橙	4mm以下の褐色の粒 1mm以下の透明光沢粒	アジロ編み(複雑) 1-1-1と複雑 外面スス
326	B区 E25	XIIIb'	深鉢 胴部 底部(10.1)	編物圧痕	内外面はナデ 底部は網代痕の上をナデ	にぶい黄褐	にぶい赤褐 にぶい褐	2mm以下の浅黄橙・灰褐・褐色 の粒、透明・黒色光沢の粒	アジロ編み(不明)
327	B区 E24 G23	XIIIb'	深鉢 底部(8.15)	編物圧痕	内外面はナデ 底部はナデ	灰褐	にぶい赤褐	0.5mm以下の無色透明光沢粒	アジロ編み (1-1-1)
328	B区 E23	XIIIa'	深鉢 胴部 底部(10.7)	編物圧痕	外面は貝殻条痕の上を ナデ 内面はナデ、指頭痕	にぶい黄橙	橙	2mm以下の灰・黄灰・茶・褐色 の粒 微細な透明・半透明・黒色光沢 粒	アジロ編み(複雑) 1本越え、2本 越えが多い
329	B区	XIIIa'	深鉢 底部(9.0)	編物圧痕	外面は工具ナデの上を ナデ 内面はナデ	にぶい褐	にぶい橙	5mmの橙色粒 1mm以下の灰白・浅黄橙・褐灰・ 黒・透明光沢粒・黒色光沢の粒	アジロ編み (1-1-1) 端はつれ
330	B区	XIIIa'	深鉢 底部(12.9)	編物圧痕	内外面はナデ、外面に 指頭痕	にぶい黄褐	にぶい橙	1mm以下の浅黄橙・灰白・褐灰 色の粒、透明・黒色光沢粒	アジロ編み(複雑)
331	B区	XIIIa'	深鉢 底部	編物圧痕	外面はナデ 内面は風化著しい	にぶい褐	にぶい赤褐	1mm以下の浅黄橙・褐灰・灰白 色の粒、透明・黒色光沢粒	アジロ編み(複雑) 3-3-1が基本
332	B区	XIIIa'	深鉢 底部(10.8)	編物圧痕	内外面は貝殻条痕の上 をナデ、ナデ	にぶい褐	にぶい褐	6mm以下の灰白色粒 2mm以下の浅黄橙色の粒	アジロ編み (2-1-1)
333	B区 D23	XIIIb'	深鉢 底部(12.6)	編物圧痕	外面はナデ 内面は風化著しい	黄灰	黄灰	1mm以下の灰白・褐・黒褐色の 粒 透明光沢粒	アジロ編み(複雑) 3-3-1が基本
334	B区 E23	XIIIb'	深鉢 底部(10.5)	編物圧痕	外面は風化著しい 内面はナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	2mm以下の黄灰・灰・褐・茶色 の粒 微細な透明・半透明・黒色光沢 粒	アジロ編み(不明)
335	B区 SE6	XIIIa'	深鉢 底部(8.75)	編物圧痕	外面はナデ、指頭痕 内面はナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	1mm以下の褐色の粒 0.5mm以下の無色透明粒	アジロ編み(複合) 1-1-1と複雑
336	B区 D21 F22 G22	XIIIb'	深鉢 胴部 底部(8.0)	編物圧痕	外面は貝殻条痕、ナデ 内面は貝殻条痕の上を ナデ 底部は網代痕の上をナデ	にぶい褐	にぶい褐	5mm以下の褐・灰・黄色の粒 微細な透明・半透明・黒色の光 沢粒	アジロ編み(不明) 外面黒変 内面黒斑
337	B区	XIIIa'	深鉢 胴部 底部(9.35)	編物圧痕	外面は貝殻条痕の上を ナデ 内面は貝殻条痕の上を ナデ、ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	1mm以下の無色透明・黒色光沢粒	
338	B区 D24	XIIIa'	深鉢 底部(7.2)	編物圧痕	外面はナデ、指頭痕 内面は貝殻条痕、ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	3.5mm以下のにぶい黄橙・淡黄色 の粒、透明・黒色光沢粒	モジリ編み(疎)
339	B区	XIIIb'	深鉢 底部(10.8)	編物圧痕	外面はナデ、指頭痕 内面はナデ	にぶい黄橙 にぶい黄	にぶい黄橙	6mm以下の暗褐・褐・灰褐色の 粒	モジリ編み(疎)
340	B区 D23	XIIIa'	深鉢 底部(9.2)	編物圧痕	外面はナデ 内面は風化著しい、剥 離	暗灰黄	にぶい褐	3.5mm以下のにぶい黄橙・にぶい 褐・褐・黒色の粒、透明光沢粒	アジロ編み (1-1-1) + モジリ編み(密)
341	B区	XIIIa'	深鉢 底部(10.2)	編物圧痕	外面は貝殻条痕 内面はナデ	にぶい褐	にぶい褐	1mm以下の灰白色の粒、透明光沢 粒	モジリ編み(疎)
342	B区	XIIIa'	深鉢 胴部 底部(8.6)	編物圧痕	外面は貝殻条痕の上を ナデ、ナデ 内面は貝殻条痕の上を ナデ	にぶい赤褐 にぶい黄褐	にぶい褐 にぶい黄褐	6mm以下の黄・赤褐色の粒 1.5mm以下の淡黄・褐・黒色光沢 の粒	モジリ編み(疎)

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(20)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
343	B区 SA2	XIIIa'	深鉢 底部(10.0)	編物圧痕	外面は貝殻条痕の上を ナデ、指頭痕 内面はナデ、剥離	暗灰黄	にぶい黄褐	1.5mm以下の灰白・橙色の粒、透 明・黒色光沢粒	アジロ編み(複雑) + モジリ編み(疎)
344	B区 SE6	XIIIa'	深鉢 底部(9.75)	編物圧痕	外面は丁寧なナデ 内面は貝殻条痕の上を ナデ、ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	2.5mm以下の褐色の粒 1mm以下の透明光沢粒	モジリ編み(密)
345	B区	XIIIa'	深鉢 底部(8.3)	編物圧痕	外面はナデ 内面は貝殻条痕、ナデ	にぶい褐	にぶい褐	1mm以下の乳白色の粒、透明光沢 粒	モジリ編み(疎)
346	B区	XIIIa'	深鉢 底部	編物圧痕	内外面はナデ	にぶい褐	にぶい褐	1mm以下の透明光沢粒	モジリ編み(密)
347	B区 SE6	XIIIa'	深鉢 底部(7.35)	編物圧痕	外面は貝殻条痕の上を ナデ 内面は貝殻条痕の上を ナデ、指頭痕 底部は ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	にぶい橙 浅黄	1.5mm以下の褐・灰白・黒色の粒 透明、黒色光沢粒	アジロ編み(不明) あげ底 外面にスス
348	B区	XIIIa'	深鉢 底部(9.5)	編物圧痕	内外面はナデ 底部はナデ	灰黄 暗灰黄 にぶい黄橙	にぶい黄橙 灰黄	3mm以下の褐・灰白・黒色の粒、 透明・黒色光沢粒	アジロ編み(不明) あげ底
349	B区 SE1	XIIIa'	深鉢 底部(9.8)	木の葉痕	外面はナデの上を貝殻 条痕 内面は貝殻条痕の上を ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	1mm以下の褐色の粒、透明・黒 色の光沢粒	
350	B区 SA8	XIIIa'	深鉢 底部(7.4)	木の葉痕	内外面はナデ	にぶい褐	橙	1mm以下の黄白・灰白・灰色の 粒、黒色光沢粒	
351	B区 SE6	XIVa	深鉢 口縁 胴部		外面は貝殻条痕の上を ナデ 内面はナデ	灰黄褐	にぶい黄橙 にぶい橙	2mm以下のにぶい黄・灰白・褐 色粒 黒色・透明の光沢粒	
352	B区 SE6	XIVa	深鉢 口縁		外面はナデ 内面はナデ、風化著し い	灰黄褐 黄灰	灰黄	3mm以下の黄灰・灰白・褐灰色 粒 黒色光沢・透明粒	
353	B区 F25	XIVb	深鉢 口縁		外面はナデ 内面は粗いナデ	暗灰黄	灰白	2.5mm以下の褐色の粒 1mm以下の黒色・無色透明光沢粒	外面にスス
354	B区 SE6	XIVa	深鉢 口縁(30.0)		内外面はナデ	にぶい褐	橙	1mm以下の乳白色粒	外面に黒変
355	B区 E23	XIb	深鉢 口縁		内外面はナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	1mm以下の灰褐・赤褐色粒	波状口縁
356	B区 E23	XIVa	深鉢 口縁		外面はナデ、条痕 内面はナデ、条痕	黄褐	にぶい赤褐	1mm以下の透明光沢粒	波状口縁 穿孔 外面黒変
357	B区 C21	XIVb	深鉢 口縁		内外面ナデ	褐灰	褐灰	1mm以下の白・無色透明粒	外面スス 内外黒変
358	B区 E26	XIVb	深鉢 口縁		外面は貝殻条痕の上を ナデ 内面は貝殻条痕の上を 丁寧なナデ	にぶい黄橙 灰白	にぶい黄橙	1mm以下の無色透明・褐・灰色 粒	
359	B区 E23	XIVc	深鉢 口縁(28.6) 胴部		外面は貝殻条痕の上を ナデ、ナデ 内面は貝殻条痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の褐・灰・灰白色粒	
360	B区	XIVc	深鉢 口縁 胴部		外面はナデ、指頭痕 内面はナデ	にぶい黄褐 灰黄褐	にぶい黄褐	1.5mm以下の灰白・浅黄橙・灰 褐・赤褐・透明・黒色光沢の粒	

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(21)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
361	B区 F23	XIVc	深鉢 口縁(22.3) 胴部		内外面条痕、ナデ	灰黄	にぶい黄	4.5mm以下の茶褐色の粒 1mm以下の無色透明光沢・黒色の粒	
362	B区 SA4 SA8	XVa	浅鉢 口縁(18.6) 胴部	外面に沈線文 内面に沈線文	外面はミガキ 内面はナデ、指頭痕	黒	オリープ黒	0.5mm以下の灰白・透明光沢粒	
363	B区 SA8	XVa	浅鉢 口縁(18.9) 頸部		外面はミガキ 内面はナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	0.5mm以下の無色透明光沢粒	
364	B区 SI3 F15	XVa	浅鉢 口縁付近 胴部		外面はミガキ 内面はミガキ、ナデ	暗灰黄	黄灰	微細な無色透明光沢粒	内面黒変
365	B区 E24	XVa	浅鉢 口縁 頸部	外面に沈線文 内面に沈線文	内外面ミガキ	黄灰	暗灰黄	1mm以下の黒・黄灰色の粒 微細な透明・半透明・黒色の光沢粒	内外面に黒変
366	B区 SE1	XVa	浅鉢 口縁(26.3) 頸部	外面に細い沈線文	内外面ミガキ	灰	灰	1.5mm以下の浅黄色の粒 0.5mm以下の無色透明光沢粒	
367	B区 SE1	XVa	浅鉢 口縁 頸部	外面に浅い沈線文	外面はミガキ 内面はミガキ、ナデ	暗灰黄	にぶい黄	1mm以下の黄灰・灰色の粒 微細な透明・半透明の光沢粒	内外面に黒変
368	B区 E25	XVa	浅鉢 口縁 頸部	外面に沈線文 内面に沈線文	内外面ミガキ	にぶい黄	浅黄	微細な黒・灰色の粒 透明・半透明・黒色の光沢粒	
369	B区 SE6	XVb	浅鉢 口縁	内面に沈線文	内外面ミガキ	褐灰	褐灰	きめ細か	
370	B区 G22	XVb	浅鉢 口縁		外面はナデ 内面はミガキ	灰黄	暗灰黄	1mm以下の灰白色の粒 微細な無色透明光沢粒	
371	B区 F22	XVc	浅鉢 頸部 胴部		外面は条痕の上をナデ 内面はナデ	赤褐	にぶい黄 黒褐	1mm以下の灰白・褐・黒色の粒、 透明光沢粒	372と同一個体 外面丹塗り
372	B区 SA2	XVc	浅鉢 底部(7.8)		外面は丁寧なナデ 内面は風化著しい	明赤褐	にぶい黄	1mm以下の灰白・灰・黒色の粒・ 透明光沢粒	371と同一個体 外面底面丹塗り
373	B区 D24	XVc	浅鉢 胴部		内外面ミガキ	灰黄褐	黄灰	1mm以下の乳白色粒	
374	B区 F22	XVd	浅鉢 口縁	口縁外面に浅い沈線文その下に沈線文 口縁内面に浅い沈線文	内外面ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.5mm以下の灰白・黄白色の粒・ 透明光沢粒	波状口縁 一部黒変
375	B区 SE6	XVe	浅鉢 口縁(19.0) 胴部		内外面ミガキ	灰黄 黒褐	暗灰黄	0.5mm以下の無色透明光沢粒 2.5mm以下の赤色粒	部分的に黒変
376	B区 F21	XVe	浅鉢 口縁		外面ミガキ 内面丁寧なナデ	にぶい黄	暗灰黄	微細な透明光沢粒	
377	B区 F24	XVe	浅鉢 口縁		内外面ミガキ	黄褐	黄褐	微細粒	
378	B区 SE3	XVe	浅鉢 口縁		内外面ミガキ	黄褐	黄灰	1mm以下の灰・浅黄色の粒 微細な金色・透明・黒色の光沢粒	外面にスス・ 赤色物

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(22)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
379	B区 SA5	XVf	浅鉢 口縁		内外面ミガキ	にぶい黄橙 褐灰	にぶい黄橙 褐灰	微細な灰白粒・透明光沢粒	
380	B区 SE1	XVc	浅鉢 口縁	口縁部内面に沈線	外面はミガキ 内面はナデ	黄灰	黄灰	微細な光沢粒	
381	B区 F22 F23	XVf	浅鉢 口縁	口縁部内面に浅い沈線	内・外面はナデ	灰黄	浅黄	0.5mm以下の無色透明光沢・灰白・浅黄色の粒	
382	B区 カクラン	XVg	浅鉢 口縁	蝶ネクタイ状突起	外面はミガキ 内面は風化著しい	灰黄	灰黄	1mm以下の黒色光沢粒 0.5mm以下の灰白色粒	穿孔
383	B区 F24	XVe	浅鉢 口縁	ヒレ状? (一部欠損) 突起	内外面はミガキ	にぶい黄	黄褐 浅黄	0.5mm以下の褐色粒	
384	B区 E25	XVib	浅鉢 口縁(40.2) 胴部	ヒレ状突起	外面は貝殻条痕、貝殻 条痕の上をミガキ 内面はナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細な透明・半透明・黒色の光 沢粒 3mm以下の黒・灰・茶・乳白色 の粒	外面は黒変
385	B区 F22	XVla	深鉢 口縁	ヒレ状? (一部欠損)	内外面はナデ	にぶい橙	にぶい橙	3mm以下の黒色光沢粒 灰白・灰褐・黒色の粒	
386	B区 SE6	XVib	深鉢 口縁	ヒレ状突起	外面はナデ 内面は風化著しい	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の透明光沢粒 灰白・浅黄・赤褐・褐灰の粒	
387	B区 F22	XVib	浅鉢 口縁	蝶ネクタイ状突起	外面は粗いナデ 内面はナデ	灰黄褐	褐	1mm以下の透明光沢粒・乳白・ 褐色の粒	
388	B区 E24	XVla	浅鉢 口縁	蝶ネクタイ状突起	外面はナデ 内面は粗いナデ	灰黄	灰黄	微細な透明光沢粒	
389	B区 D24	XVla	浅鉢 胴部	蝶ネクタイ状突起	内外面とも貝殻条痕の 上をナデ	にぶい褐 灰黄	にぶい黄橙	微細な透明光沢粒・黒色光沢粒 1mm以下の灰褐・灰・浅黄色の 粒	
390	B区 SE1	XVla	浅鉢 胴部	蝶ネクタイ状突起	内外面ともナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細な透明光沢粒 1.5mm以下の浅黄・赤褐色の粒	
391	B区 G23	XVla	浅鉢 胴部		外面はナデ、条痕 内面はナデ	暗灰黄	にぶい黄	1.5mm以下の黒色光沢粒 1mm以下の乳白・褐色の粒	
392	B区	XVla	浅鉢 胴部		内外面ともナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の茶・黒色の粒 1mm以下の透明粒	
393	B区 D21	XVla	浅鉢 胴部		内外面ともナデ	にぶい褐	灰褐	1mm以下の透明光沢粒・黒色光沢 粒・灰白・浅黄・褐色の粒	
394	B区 SE6	XVla	浅鉢 胴部		内外面ともナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙 にぶい橙	2.5mm以下の透明光沢粒・黒色光 沢粒・灰白・灰褐・黄灰・褐色 の粒	外面にスス
395	B区 C21	XVla	浅鉢 胴部		外面はヨコナデ・ナデ 内面はナデ	褐灰 にぶい黄橙	灰黄褐 にぶい褐	1mm以下の透明光沢粒・黒色光沢 粒・浅黄・灰白・褐灰色の粒	
396	B区 SE1	XVib	浅鉢 口縁 胴部		内外面ともナデ	にぶい黄橙 黄灰	にぶい黄橙	2mm以下の灰褐・浅黄橙・明赤 褐・褐色の粒、黒色・透明の光 沢粒	

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(23)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
397	B区 SE6	XVIb	浅鉢 口縁		内外面ともナデ	灰	灰黄褐	1mm以下の灰白色粒 0.5mm以下の無色透明光沢粒	穿孔
398	B区 F22	XVIc	浅鉢 口縁		外面は条痕の上をナデ 内面はナデ、条痕の上をナデ	褐	黒褐	1mm以下の透明光沢粒	
399	B区 F22	XVIc	浅鉢 口縁		外面は条痕、ナデ 内面は条痕	にぶい橙	にぶい黄橙	1mm以下の灰白・明褐・透明の粒	穿孔
400	B区 G24	XVIc	浅鉢 口縁(16.8) └ 底部(9.8)		外面は風化著しい 内面はミガキ・指頭痕、ナデ	暗灰黄	黄褐	1mm以下の透明光沢粒・乳白色の粒	
401	B区 E24	XVIc	浅鉢 口縁(19.2)		外面はナデ 内面は風化著しい	にぶい黄	黄灰	2mm以下の浅黄・透明粒	
402	B区 SA5	XVIc	浅鉢 口縁		外面はヨコナデ 内面はナデ、風化気味	灰	黄灰	0.5mm以下の黒色光沢粒	
403	B区 E22 F22	XVIc	浅鉢 口縁(26.5) └ 底部付近		口唇部はナデ 内外面ともヘラナデ	褐黒	褐黒褐	4mm以下の灰褐・乳白色の粒 1mm以下の透明光沢粒	内外面黒変 外面にスス
404	B区 F22 D23	XVIc	浅鉢 口縁		口唇部～外面はナデ 内面は条痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の灰・褐色の粒 1mm以下の透明光沢粒	
405	B区 F23	XVIc	鉢 口縁(34.0)		口唇部はナデ 内外面とも粗いナデ	にぶい黄褐	褐	2mm以下の透明光沢粒 1mm以下の乳白・褐色の粒	一部黒変
406	B区 F22 F24	XIXb	浅鉢 口縁(20.4) └ 底部付近	口唇部に断面三角形の貼付突帯	外面は条痕、風化気味 内面は条痕	灰黄	にぶい黄橙 灰黄褐	1mm以下の透明・乳白色・透明光沢の粒	
407	B区 SA1	XVI d	浅鉢 口縁(31.35) └ 底部		口唇部はナデ 外面は工具ナデ、底部は粗いナデ 内面は工具ナデ	にぶい黄橙 黄灰	にぶい黄橙	2mm以下の褐・灰白色の粒 1.5mm以下の透明光沢粒	外面にスス
408	B区 F24	XVI d	浅鉢 口縁(25.1) └ 底部		外面は貝殻条痕、粗いナデ 内面はナデ、粗いナデ、風化ごみ 底部は粗いナデ、ナデ	灰黄 にぶい橙	灰黄 灰	光沢ガラス質細片少量 0.2~0.9mm大の灰褐・灰白色の粒多量	外面にスス?
409	B区	XVI d	浅鉢 口縁 └ 底部		口唇部はナデ 外面は条痕の上をナデ、粗いナデ 内面は条痕の上をナデ、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	微細な透明・半透明黒色の光沢粒 3mm以下の茶・黒・黄灰・灰色の粒	
410	B区 C22	XIXa	浅鉢 口縁(34.2) └ 底部付近	口縁部外面は帯状に肥厚する(口縁帯)	口唇部はナデ 外面は粗いナデ、風化気味 内面は粗いナデ、ヘラナデ	橙	にぶい黄褐	微細な透明・半透明光沢粒 4mm以下の灰・黄灰・褐色の粒	外面上部にスス
411	B区 SA2 SA3 SE1	XVII	浅鉢 口縁付近 └ 底部付近	外面屈曲部下に編布圧痕	外面はヘラ状工具による粗いヨコナデ 内面は工具によるヨコナデ	明赤褐	黒	5mm大程の褐色・赤茶褐色の粒 8mm大程のにぶい橙色の粒 1mm以下の無色透明光沢粒	内外面に黒斑
412	B区 E21 F22	XVII	浅鉢 口縁 └ 胴部		口唇部はナデ 外面はヨコナデ 内面は工具による強いナデ	暗灰黄 にぶい橙	灰黄褐	2.5mm以下の灰白・褐色の粒 微細な透明・黒色の光沢粒	413と同一個体か? 内外面にスス
413	B区 E21 E23 F21	XVII	浅鉢 底部	編布圧痕	内面はナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	3mm以下の灰白・黒・褐色の粒	412と同一個体か? 外面に一部スス 内面に黒斑
414	B区 F22 F24	XVII	浅鉢 口縁		外面ナデ、風化気味 内面ナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	3mm以下の褐色の粒 1mm以下の透明光沢粒	穿孔 415と同一個体か?

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(24)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
415	A区 B区 SE6 F22	XVII	浅鉢 胴部 底部付近	屈曲部下に網目圧痕	外面屈曲部上はナデ? 内面はナデ、風化気味	にぶい黄褐	にぶい黄褐	5mm以下の褐色の粒 2mm以下の透明光沢粒 1mm以下の黒色光沢粒	414と同一個体か?
416	B区 SA2 E22 G22	XVII	浅鉢 口縁 胴部		口唇部はナデ 外面は工具によるヨコナデの上をナデ 口縁部内面は工具による斜位のナデ 内面は工具によるヨコナデ	にぶい褐 黄灰	にぶい橙	1mm以下の灰白・浅黄・灰褐色の粒 透明・黒色の光沢粒	417と同一個体か?
417	B区 E22 F22	XVII	浅鉢 胴部 底部付近	胴部下半部に網目圧痕	外面上部は工具によるナデ 内面は工具によるナデの上をナデ	にぶい赤褐 灰黄褐	にぶい黄橙	3mm以下の透明・黒・褐色の光沢粒 灰白・灰褐・浅黄橙・褐色の粒	416と同一個体か? 外面にスス 内面に黒変
418	B区 F22	XVII	浅鉢 胴部	屈曲部下に網目圧痕	外面上部はヨコナデ 内面は丁寧なナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	3mm以下の灰褐・灰白・透明光沢・黒色光沢の粒	外面にスス
419	B区 G22	XVII	浅鉢 胴部 底部付近	屈曲部下に網目圧痕	外面は貝殻条痕 内面はヨコナデ	橙 灰黄褐	にぶい橙	4mm以下の灰白・灰黄・灰褐・暗赤褐色・黒色光沢の粒	
420	B区 D23 F21 F22	XVII	浅鉢 胴部 底部付近	底部付近に網目圧痕	外面上部はナデ 内面は工具によるナデ	にぶい褐 褐灰	にぶい褐	2mm以下の透明・黒色の光沢粒、 灰白・浅黄橙・灰褐色の粒	外面にスス
421	B区 SE6	XVII	浅鉢 底部	網目圧痕	外面は貝殻条痕 内面は指頭痕、丁寧なナデ	黄灰 にぶい黄橙	褐 にぶい褐 黒褐	5mmの赤褐・淡黄色の粒 3mm以下の赤褐・淡黄・灰白・ 透明光沢・黒色光沢の粒	外面にスス? 内面に黒変
422	B区 F22	XVII	浅鉢 底部付近	下部に網目圧痕	外面上部は粗いナデ 内面は横方向の条痕の上をナデ	橙	灰黄褐	2mm以下の褐色の粒 微細な無色透明光沢粒	
423	B区 SE6	XVII	浅鉢 底部	網目圧痕	内面はナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	1mm以下の乳白色の粒 微細な光沢粒	
424	B区 F22	XVII	浅鉢 底部	網目圧痕	内面は粗いナデ、風化著しい	橙	灰黄褐	2mm以下の浅黄橙色の粒	
425	B区 F23	XVII	浅鉢 底部	網目圧痕	内面はナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	2mm以下の透明光沢粒 4mm以下の乳白色の粒、1mm以下の 黒色の粒	
426	B区 SE2	XVII	浅鉢 底部付近	網目圧痕	内面はナデ	にぶい褐	にぶい黄	1mm以下の透明光沢・褐色の粒	
427	B区 F22	XVII	浅鉢 底部	網目圧痕	内面は丁寧なナデ	にぶい黄褐	暗灰黄	1mm以下の透明光沢・褐色の粒	
428	B区 F22	XVII	浅鉢 底部	網目圧痕	内面は丁寧なナデ	明赤褐	褐灰	4mm以下の浅黄橙色の粒 1mm以下の無色透明の粒	
429	B区 SE1	XVII	浅鉢 底部	編布圧痕	内面は貝殻条痕の上を ナデ	にぶい黄褐	暗灰黄	2mm以下の灰白・灰黄・黒褐・ 明赤褐色・黒色光沢の粒	
430	B区 SE3	XVII	浅鉢 底部	編布圧痕	内面はナデ	橙	にぶい黄橙	3mm以下の褐・灰・灰白色の粒 0.5mm以下の透明光沢の粒	内外面にスス
431	B区 F22 G22	XVII	浅鉢 底部	網目圧痕内に編布圧痕	内面はナデ	橙	灰黄褐	7mmの灰褐色の礫 4mmの橙色の粒 2mm以下の灰白・橙・透明光沢・ 黒色光沢の粒	同一個体
432	B区 G22	XVII	浅鉢 底部	網目圧痕に編布圧痕	内面はナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	2mm以下の灰白・橙色・無色光 沢・黒色光沢の粒	同一個体

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(25)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
433	B区 F23	XVII	浅鉢 底部	網目圧痕	内面はナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	微細な透明・半透明・黒色の光沢粒 1mm以下の灰・黄灰色の粒	
434	B区 F22	XVII	浅鉢 底部	網目圧痕	内面はナデ	橙	にぶい黄橙	微細な透明・半透明の光沢粒 1mm以下の灰・茶色の粒	
435	B区 SE6	XVII	浅鉢 胴部	組織痕か?	内面は条痕の上をナデ	にぶい黄	暗灰黄	1mm以下の透明光沢粒 2mm以下の褐色の粒	
436	B区 SE2 G23	XVIIa	深鉢 口縁(33.72) 胴部	貼付突帯直下に竹管状? 工具による未貫通の孔列文	口唇部はナデ 外面は粗いナデ 内面はナデ	灰	灰白	1mm以下の灰白・浅黄・無色透明光沢の粒	外面に黒斑 内面に外面施文時の凸
437	B区 E24	XVIIa	深鉢 口縁(31.0)	貼付突帯直下に竹管状? 工具による未貫通の孔列文(1ヶ所貫通あり) 外面屈曲部に貼付突帯	外面はナデ 外面上部は丁寧なナデ 下部は粗いナデ	にぶい黄橙	暗灰黄	2mm以下の褐色の粒 1mm以下の透明光沢粒	内面に黒斑 外面施文時の凸
438	B区	XVIIa	深鉢 口縁	貼付突帯直下に竹管状? 工具による未貫通の孔列文	外面はナデ 内面はナデ	灰	灰	1.5mm以下の乳白・褐色の粒	内面に外面施文時の凸
439	B区 E22	XVIIa	深鉢 口縁	貼付突帯直下に竹管状? 工具による未貫通の孔列文	口唇部~外面上部はナデ 外面下部は風化著しい 内面は条痕の上をナデ	にぶい黄	にぶい黄橙 灰	1mmの透明光沢粒 2mm以下の灰褐・褐色の粒	内面に外面施文時の凸
440	B区 G22	XVIIa	深鉢 口縁	貼付突帯直下に竹管状? 工具による未貫通の孔列文	口唇部はナデ 外面は条痕 内面はナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の褐色の粒 微細な透明光沢粒	内面に外面施文時の凸 内外面にスス
441	B区 F21	XVIIa	深鉢 口縁 胴部	肥厚帯直下に先に丸みのある棒状工具による未貫通の孔列文	口唇部はナデ 内外面とも条痕の上をナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	8mmの灰褐色の粒 6mm以下の赤褐色の粒 2mm以下の灰白・灰・褐・黒色・透明光沢・柱状黒色光沢の粒	内面に外面施文時のわずかな凸
442	B区 E23	XVIIa	深鉢 口縁	竹管状? 工具による未貫通の孔列文	口唇部・外面はナデ 外面上部は指ナデ 内面は条痕	にぶい黄褐	明黄褐 にぶい黄褐	2mm以下の灰白・乳白色の粒	内面に外面施文時の凸
443	B区 F21	XVIIa	深鉢 口縁	肥厚帯直下に竹管状? 工具による未貫通の孔列文	口唇部は風化著しい 外面はナデ、指ナデ 内面は風化著しい、条痕	黄褐	にぶい黄	1mm以下の乳白色・透明・黒色の粒	内面に外面施文時の凸
444	B区 E24	XVIIa	深鉢 口縁 胴部	貼付突帯直下に竹管状? 工具による未貫通の連続刺突文	口唇部はナデ 外面上部はナデ 下部は風化著しい 口縁部内面は横方向のヘラナデの上を指ナデ 内面は横方向の丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	2mm以下の灰白・褐・黒褐・透明光沢・柱状黒色光沢の粒	口唇部・外面上部にスス 内面に黒斑 外面施文時の凸
445	B区 D22	XVIIa	浅鉢 口縁	肥厚させた部分に竹管状? 工具による未貫通の孔列文	外面は横方向のナデ 内面は横方向の条痕	灰黄 黄灰	にぶい黄橙	2.5mm以下の灰白・褐色の粒 4.5mm大の灰白色の粒	外面にスス 内面口縁部に外面施文時の凸
446	B区 E22	XVIIa	浅鉢 口縁	棒状工具による未貫通の孔列文	口唇部はナデ 外面は板状工具による横方向のナデ 内面は板状工具による横方向のナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	1mm以下の灰白・赤褐・黒色・透明光沢・柱状黒色光沢粒	外面にスス 内面に外面施文時の凸
447	B区 E24	XVIIa	深鉢 口縁	竹管状工具による未貫通の連続刺突文	口唇部・外面はナデ 内面は条痕の上をナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰白・褐色の粒 微細な透明光沢粒	内部に外面施文時の凸
448	B区 F24	XVIIb	深鉢 口縁	貼付突帯直下に竹管状? 工具による未貫通の孔列文	内外面とも工具によるナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	5mm程の褐色の粒 2.5mm以下の褐・茶・半透明光沢・黒色光沢の粒	外面にスス 内面に外面施文時の凸
449	B区 F22	XVIIb	深鉢 口縁	貼付突帯直下に竹管状? 工具による未貫通の孔列文	内外面ともナデ	にぶい黄橙	灰	1.5mm以下の淡黄・褐・乳白色の粒	内面に黒斑 外面施文による凸
450	B区 D24	XVIIb	深鉢 口縁	貼付突帯直下に竹管状? 工具による未貫通の孔列文	外面は風化著しい、ナデ 内面はナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	3mm以下の淡黄・灰・乳白色の粒	内面に外面施文時の凸

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(26)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
451	B区 F25	XVIIc	深鉢 口縁	押圧刻みのある貼付突帯直下に竹管状?工具による未貫通の孔列文	口唇部はナデ 外面は横方向の工具ナデ 内面は横・斜方向の工具ナデ	にぶい黄橙	黄灰	3.5mm以下の浅黄色粒 1mm以下の無色透明光沢粒	外面にスス 内面に外面施文時の凸
452	B区 SA8	XVIIc	深鉢 口縁	刻目突帯直下に竹管状?工具による未貫通の孔列文	内外面とも粗いナデ 口唇部はナデ	灰	灰オリーブ	3.5mmの褐・赤褐・灰白色の粒	
453	B区 D24	XVIIc	深鉢 口縁	棒状?工具による貫通?の孔列文 胴部屈曲部に工具による刻目	外面はヘラ状工具による粗いヨコナデ 口唇部はナデ 内面は粗いナデ	灰	灰	1mm以下の無色透明光沢・灰白色の粒	口唇部にスス
454	B区 SE6	XVIIc	深鉢 口縁(27.2) 胴部	竹管状?工具による未貫通の孔列文 胴部屈曲部は工具による刻目	外面はヘラ状工具によるヨコナデ、指頭痕 口唇部はナデ 内面はヘラ状工具による横・斜方向のナデ	灰 にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の無色透明光沢・褐・浅黄色の粒 3.5mmの褐色粒	口縁部外面に黒変 内面に外面施文時の凸 胴部内面に黒変
455	B区 G22	XVII d	深鉢 口縁(22.0) 胴部	棒状工具による未貫通の孔列文	外面は縦・横ミガキ 胴部屈曲部以下はナデ 口唇部はミガキ 内面は横ミガキ	にぶい褐 黄灰	黄灰	2.5mm以下の褐・灰白色の粒 0.5mm以下の透明・黒色光沢の粒	外面にスス 内面に外面施文時の凸(風化・剥離が多い)
456	B区 E22	XVII d	深鉢 口縁	竹管状?工具による未貫通の孔列文	外・内面ともナデ	黄褐	黄褐	1mm以下の乳白・透明の粒	内面に外面施文時の凸
457	B区 E21	XVII d	深鉢 口縁 胴部	竹管状?工具による未貫通の孔列文	口唇部はナデ 外面は条痕 内面は条痕の後ナデ	暗灰黄	にぶい黄	1mm以下の透明光沢粒 2mm以下の淡黄・黄褐色の粒	内面に外面施文時の凸
458	B区 SE3	XVII d	深鉢? 口縁	竹管状?工具による未貫通の孔列文	外・口唇部はナデ 内面は条痕	にぶい黄	にぶい黄橙	微細な透明・半透明・黒色の光沢粒 2mm以下の茶・灰色の粒	外面に黒変 内面に外面施文時の凸
459	B区 E23	XVII d	深鉢? 口縁	竹管状?工具による未貫通の孔列文	外・内面とも風化著しい 口唇部はナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細な透明・半透明・黒色の光沢粒 2mm以下の灰・茶・黄灰色の粒	口唇部は黒変 内面に外面施文時の凸
460	B区 E22	XVII d	深鉢? 口縁 胴部	2種類の竹管状?工具による未貫通の孔列文	外・内面はともナデ	にぶい黄橙	灰黄 にぶい橙	2mm以下の褐・黒・灰白色の粒・透明・黒色の光沢粒	内面に黒変・外面施文時の凸
461	B区 D24	XVII e	深鉢? 口縁	竹管状?工具による未貫通の孔突文	外面は横方向の条痕 口唇部はナデ 内面は横方向の条痕の後ナデ	明黄褐	明黄褐	4mm以下の茶色 1mm以下の透明光沢粒 1mm以下の黒色光沢粒	口唇部・外面に黒変 内面に外面施文時の凸
462	B区 G23	XVII e	深鉢? 口縁	竹管状?工具による未貫通の連続刺突文	口唇部・外面ともナデ 内面は貝殻条痕	にぶい黄橙	灰黄褐	5mmのにぶい橙色粒 2.5mm以下の褐灰・透明光沢・黒色光沢の粒	内面に外面施文時の凸
463	B区 F22	XVII e	深鉢? 口縁	竹管状?工具による未貫通の孔列文	内・外面とも貝殻条痕 口唇部はヨコナデ	にぶい黄橙 黄灰	黄灰	5mmの赤褐・にぶい黄橙色の粒 4mm以下のにぶい黄橙・灰白色の粒	内面に外面施文時の凸
464	B区 SE3	XVII e	深鉢? 口縁	竹管状?工具による未貫通の孔列文	外面・口唇部とも風化著しい 内面は横方向の条痕	浅黄	灰黄	3mm以下の褐色の粒 1mm以下の黒色光沢粒	内面に外面施文時の凸
465	B区 F22 F23 G23	XVII e	深鉢? 口縁(25.8)	竹管状?工具による未貫通の孔列文	内・外面とも貝殻条痕 口唇部はヨコナデ	黒褐 にぶい黄橙	浅黄	2.5mm以下の明褐・黄灰・灰白・黒色光沢の粒	内面に外面施文時の凸
466	B区 G23	XVII e	深鉢? 口縁	半裁竹管状?工具による未貫通の孔列文	内・外面とも条痕 口唇部はナデ	にぶい黄橙	にぶい黄 灰	4mm以下の褐色粒 2mm以下の黒色粒 1mm以下の透明・黒色の光沢粒	外面にスス 内面に外面施文時の凸・黒斑
467	B区	XVII f	浅鉢 口縁 胴部	竹管状?工具による未貫通の連続刺突文	内・外面とも貝殻条痕、指頭痕 口唇部はヨコナデ	褐灰	暗灰黄	2.5mm以下の灰白・橙・灰・灰黄・透明光沢の粒	外面・口唇部にスス 内面に外面施文時の凸
468	B区 F23	XVII f	浅鉢 口縁(15.15) 胴部	竹管状?工具による未貫通の連続刺突文	外面・口唇部とも風化著しく不明 内面は工具によるナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙 にぶい黄	2mm以下の淡黄・茶・乳白・半透明光沢・黒色光沢の粒	内面に外面施文時の凸

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(27)

遺物番号	出地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
469	B区 D22	XVII f	浅鉢 口縁 胴部	竹管状? 工具による未貫通の孔列文	外面・口唇部ともナデ 内面は横方向の貝殻条痕	灰黄	暗灰黄	2mm以下の淡黄・茶・半透明光沢・黒色光沢の粒	外面にスス
470	B区 SE2 D22	XVII f	浅鉢 口縁 胴部	竹管状? 工具による貫通したの孔列文	外面は条痕 口唇部は風化著しい 内面はミガキ	灰黄	にぶい黄橙	2mm以下の灰・灰白・透明の粒	内面に外面施文時の凸
471	B区 F23	XVII f	浅鉢 口縁(15.2) 底部(6.1)	細い棒状工具による未貫通の孔列文	外面・口唇部ともナデ 内面は工具によるナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	にぶい黄橙	2mm以下の透明光沢・灰白・灰褐・浅黄色の粒	
472	B区 SA2 F23	XVII f	浅鉢 口縁	細い棒状工具による未貫通の孔列文	外面は工具による斜位のナデ 内面・口唇部ともナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙 灰黄	1mm以下の浅黄・灰白・灰褐色の粒	内面に外面施文時の凸
473	B区 E26	XIX a	深鉢 口縁	口縁部に肥厚帯(口縁帯)	外面は斜・横位の条痕 内面は条痕の後ナデ	にぶい黄橙	明黄褐	3mm以下の褐・黒褐・赤褐色の粒	
474	B区 H24	XIX a	深鉢 口縁	口縁部に肥厚帯(口縁帯)	外面は斜・横位の粗いナデ 口唇部はヨコナデ 内面はヨコナデ	にぶい黄橙	黄灰	1mm以下の黄白・褐・灰褐透明光沢の粒	
475	B区 SE6	XIX a	深鉢 口縁	口縁部に肥厚帯(口縁帯)	内・外面ともヨコナデ	浅黄	にぶい黄橙	1mm以下の灰白・灰・褐・赤褐・黒褐・透明光沢の粒	
476	B区 SA8 E23	XIX a	深鉢 口縁	口縁部に肥厚帯(口縁帯)	外面は粗いナデ 内面は風化著しい	浅黄	にぶい黄橙	2mm以下の灰・褐・赤褐色の粒 0.5mm以下の透明光沢粒	
477	B区 SE6	XIX a	深鉢 口縁	口縁部に肥厚帯(口縁帯)	外面はナデ、条痕の後ナデ 内面はナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	微細な透明・半透明・黒色の光沢粒 1mm以下の灰・黄灰・茶色の粒	外面にスス
478	B区 SE6	XIX a	深鉢 口縁	口縁部に肥厚帯(口縁帯)	内・外面ともヨコナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	微細な透明・半透明の光沢粒 2mm以下の黄灰・灰色の粒	外面に黒変
479	B区 SA1	XIX a	深鉢 口縁	口縁部に肥厚帯(口縁帯)	外面はヘラ状工具によるヨコナデ 内面はナデ	褐灰	灰黄褐	0.5mm以下の無色透明光沢・灰色の粒	外面にスス 内面に黒変
480	B区 E23	XIX a	深鉢 口縁	外面口縁部に肥厚帯(口縁帯)	内外面ともナデ	にぶい黄橙	明褐灰	3mmの赤褐色粒 1mm以下の灰白・無色透明光沢・黒色光沢の粒	
481	B区	XIX b	深鉢 口縁	外面口縁部に貼付突帯	外面は条痕の後ナデ 口唇部はナデ 内面は風化著しい	灰黄褐	にぶい黄橙	微細な透明・半透明・黒色の光沢粒 2mm以下の灰・黄灰・茶色の粒	内外面に黒変
482	B区 F23	XIX a	深鉢 口縁	外面口縁部に貼付突帯	内外面ともナデ	褐灰	灰黄褐	1mm以下の無色透明光沢・灰白・黒色光沢の粒	
483	B区	XIX a	深鉢 口縁	外面口縁部に貼付突帯	内外面ともナデ	灰	灰	2.5mm以下の灰白色粒 1mmの浅黄色粒 3mmの褐・茶色の粒	内面・口唇部に黒変
484	B区 F23	XIX a	深鉢 口縁	外面口縁部に貼付突帯	外面は横・斜方向のナデ 口唇部はナデ 内面は風化著しい	にぶい黄橙	にぶい橙	3.5mm以下の灰黄褐・赤褐・灰・透明光沢・黒色光沢の粒	
485	B区 F25	XIX a	深鉢 口縁	外面口縁部に肥厚帯(口縁帯)	外面はナデ、条痕 内面はナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	微細な透明・半透明・黒色の光沢粒 1mm以下の黄灰・灰色の粒	外面にスス 内面に黒変
486	B区 E24	XIX b	深鉢 口縁	外面口縁部に貼付突帯	内外面ともナデ	黄灰	黄灰	2mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒	内・外面にスス

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(28)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
487	B区 F22	XIX b	深鉢 口縁	外面口縁部に貼付突帯	外面は横方向の条痕 内面はナデ 口唇部は風化気味	にぶい黄褐	にぶい橙	1mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒	外面にスス
488	B区 G22	XIX b	深鉢 口縁 胴部	外面口縁部に貼付突帯	外面は風化著しい 内面は横方向のナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	2mm以下の灰白色粒 1mm以下の黒色・透明の光沢粒	
489	B区	XIX b	深鉢 口縁	外面口縁部に貼付突帯	口唇部・外面はナデ 内面は粗いナデ	浅黄	にぶい黄	6.5mm以下の褐色の粒 1mm以下の透明粒 2mm以下の黒色光沢粒	
490	B区 E25	XIX b	深鉢 口縁	外面口縁部に貼付突帯	外面はナデ、ミガキ 内面はミガキ	褐	黒褐	1mm以下の透明・浅黄色の粒	
491	B区 D21	XIX b	深鉢 口縁	外面口縁部に貼付突帯	口唇部・外面とも丁寧なナデ 内面はナデ	褐	にぶい黄褐	1mm以下の透明・浅黄色の粒	
492	B区 SE6	XIX b	深鉢 口縁	外面口縁部に貼付突帯	内外面ともヨコナデ 口唇部は風化著しい	浅黄	にぶい黄橙	2.5mm以下の灰白・黒褐・透明光沢・黒色光沢の粒	
493	B区 SA2	XIX a	深鉢 口縁	外面口縁部に貼付突帯	口唇部・外面ともナデ 内面は横方向の貝殻条痕	褐灰	褐灰	2.5mm以下の灰黄・橙・灰白・灰褐・黒色光沢・透明光沢の粒	
494	B区 F21	XIX b	深鉢 口縁(28.2)	外面口縁部に貼付突帯	口唇部はナデ 外面はナデ、条痕 内面は条痕	にぶい黄橙	橙	1mm以下の透明光沢・赤褐・黄褐色の粒	
495	B区 F22	XIX b	深鉢 口縁(30.2) 胴部	外面口縁部に指頭押圧痕を有する貼付突帯	外面は横・斜方向の条痕 胴部屈曲部下半は横方向の粗いナデ 内面は横方向の条痕	橙 にぶい橙	橙 にぶい橙	1mm以下の黄白・褐・透明光沢の粒	外面に黒変
496	B区 F23	XIX c	深鉢 口縁 胴部	外面口縁部・胴部屈曲部に指頭押圧痕を有する貼付突帯	外面は横・斜方向の条痕 内面は横方向の条痕	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の褐・赤褐色の粒 1mm以下の灰白・黒褐・透明光沢の粒	外面に黒変 496・498と同一個体か?
497	B区 F23	XIX c	深鉢 胴部	外面屈曲部に指頭押圧痕を有する貼付突帯	外面は貝殻条痕 内面は貝殻条痕の後ナデ	灰黄褐	にぶい橙	1mm以下の無色透明・灰白・褐色の粒	496・498と同一個体か?
498	B区 E23 F22	XIX c	深鉢 口縁	外面口縁部に指頭押圧痕を有する貼付突帯	内外面とも貝殻条痕 口唇部はナデ	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の灰白色粒 4mm以下の赤褐色粒 0.5mm以下の無色透明粒	496・497と同一個体か?
499	B区 E23	XIX c	深鉢 口縁	外面口縁部に指頭押圧痕を有する貼付突帯	内・外面ともナデ	橙	橙	10mmの茶色粒 3mmの褐色粒	
500	B区 F22	XIX c	深鉢 口縁 胴部	外面口縁部にヘラ状工具による刻目を有する貼付突帯、胴部屈曲部に工具による押圧刻目を有する貼付突帯	内外面とも条痕の後ナデ	橙	灰黄褐	1mm以下の赤褐・黒褐・透明光沢の粒	
501	B区 SE6	XIX c	深鉢 口縁 胴部	外面口縁部にヘラ状工具による刻目を有する貼付突帯、胴部屈曲部に工具による押圧刻目を有する貼付突帯	口唇部はナデ 内外面とも横方向の条痕の後ナデ	橙	にぶい黄橙 橙	2mm以下の褐色の粒 1mm以下の灰白・黒褐・透明光沢の粒	
502	B区 F22	XIX c	深鉢 口縁 胴部	外面口縁部に指頭押圧痕を有する貼付突帯	口唇部はナデ 内外面とも横方向の条痕	にぶい黄褐	にぶい黄橙	微細な透明・半透明・黒色の光沢粒 2mm以下の黄灰・褐・灰色の粒	
503	B区 G23	XIX c	深鉢 口縁	外面口縁部に工具押痕を有する貼付突帯	内外面とも条痕の後ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	1mm以下の茶・透明光沢・黒色光沢の粒	
504	B区 SA4 D23 G23	XIX c	深鉢 口縁	外面口縁部に指頭押圧痕を有する貼付突帯	外面は条痕の後ナデ 口唇部・内面はナデ	暗灰黄	暗灰黄	微細な透明光沢粒 1mm以下の黄灰・茶色の粒	

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(29)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
505	B区 F23	XIXc	深鉢 口縁	外面口縁部に工具圧痕を有する貼付突帯	口唇部はナデ 内外面とも条痕の後ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙	1mm以下の黒色光沢・褐色の粒	外面にスス
506	B区 C23 D24	XIXc	深鉢 口縁(33.4)	外面口縁部にヘラ状工具による刻目を有する貼付突帯	外面はナデ、横ナデ、 工具ナデ 内面はヨコナデ	灰黄褐	灰黄	1.5mm以下の赤褐・灰白・明黄褐・黒・透明光沢の粒	口唇部に粘土のたるみ
507	B区 SA2	XIXc	深鉢 口縁	外面口縁部に工具による刻目を有する貼付突帯	内外面ともナデ	灰黄褐	灰黄褐	1mm以下の灰黄・灰白・橙・黒・透明光沢の粒	
508	B区 F24	XIXc	深鉢 口縁	外面口縁部に貝殻復縁による刻目を有する貼付突帯	外面は工具ナデの後ナデ 内面はナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	にぶい黄橙	1mm以下の灰白・浅黄・灰褐色の粒	
509	B区 SA2	XIXc	深鉢 口縁	外面口縁部に竹管状工具による刺突を有する貼付突帯	外面はナデ 内面は条痕	オリーブ黒	灰	1mm以下の灰白・褐灰色の粒 微細な透明・黒色の光沢粒	
510	B区 SA4	XIXc	深鉢 口縁	外面口縁部に貝殻復縁による刻目を有する貼付突帯	内外面ともナデ	にぶい黄橙	褐灰	1mm以下の褐・光沢の粒	
511	B区	XIXc	浅鉢 口縁 胴部	外面口縁部に工具による刻目を有する貼付突帯、 胴部屈曲部に貼付突帯	内外面とも工具ナデ	灰黄	灰黄	2mmの灰褐色粒 1mm以下の透明光沢粒	外面に黒斑・スス
512	B区 SE6	XIXc	浅鉢 口縁	外面口縁部にヘラ状工具による刻目を有する横位・ 曲線の貼付突帯	内外面ともナデ	橙	橙	1mm以下の灰白・褐・赤褐・浅黄橙・透明光沢の粒	
513	B区 F21	XIXc	浅鉢 口縁	外面口縁部にヘラ状工具による刻目を有する曲線の 貼付突帯	口唇部はナデ 内外面とも条痕の後ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	1mm以下の灰白・褐灰・褐・浅黄橙の粒	
514	B区 SA1	XIXc	浅鉢 口縁	外面口縁部に工具による刻目を有する貼付突帯	内外面ともナデ	暗灰黄	黄灰	0.5mm以下の無色透明光沢・淡黄色の粒	穿孔・内面に黒変 外面にスス
515	B区 E24	XIXc	浅鉢 胴部	外面胴部屈曲部に貝殻復縁による刻目	外面はナデ、条痕後ナデ 内面風化著しい	黄褐 黄灰	灰	3mm以下の灰褐色粒 微細な黒色・透明の光沢粒	
516	B区 F22	XXa	浅鉢 口縁(27.8) 胴部		外面はヨコナデ、ミガキ 内面は風化著しい	暗灰黄	にぶい黄褐	1mm以下の黄白・灰白・褐・黒褐・透明光沢の粒	穿孔・口唇部にスス 外面に黒変
517	B区 E24	XXa	浅鉢 口縁		外面は風化著しい 内面はミガキ	にぶい黄橙	黄褐	1mm以下の褐・灰白・透明光沢の粒	
518	B区	XXa	浅鉢 口縁(31.3) 胴部		外面は風化著しい 内面はミガキ	暗灰黄	暗灰黄	1mm以下の黄白・灰白・褐・黒褐・透明光沢の粒	波状口縁?
519	B区 SA2	XXa	浅鉢 口縁(29.5)	外面に沈線 屈曲部内外面に沈線	内外面ともミガキ	褐灰	褐灰	1mm以下の灰白色粒・微細な透明光沢粒	内外面はスス
520	B区 G22	XXa	浅鉢 口縁(24.6) 胴部	屈曲部に沈線	口唇部はナデ、外面は ミガキ 内面は丁寧なナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	1mm以下の黒色光沢・無色透明光沢の粒	
521	B区 SE6	XXa	浅鉢 口縁	口縁内外面に沈線 屈曲部内外面に沈線	内外面ともミガキ	にぶい褐	にぶい褐	1mm以下の透明・乳白色の粒	
522	B区 D25	XXa	浅鉢 口縁	沈線	内外面ともミガキ	暗灰黄	暗灰黄	0.5mm以下の透明光沢粒	

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(30)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
523	B区 SA2	XX a	浅鉢 口縁		口唇部はミガキ 外面はミガキ・内面は 風化著しい	暗灰黄	オリーブ黒	1mm以下の乳白・透明光沢の粒	
524	B区 SA7 SE3	XX a	浅鉢 口縁(24.35)		口唇部はナデ 外面はミガキ・内面は ミガキ	灰 オリーブ黒	灰 オリーブ黒	0.5mm以下の褐色粒 微細な透明光沢粒	
525	B区 SE6	XX b	浅鉢 口縁 胴部		外面はミガキ 内面は丁寧なナデ	灰黄 浅黄	にぶい黄橙	微細な無色透明粒	穿孔
526	B区 E24 F24	XX b	浅鉢 口縁(21.5)		内外面ともナデ	にぶい黄橙	褐灰 黄灰	1.5mm以下の浅黄・灰白・灰褐・ 透明光沢の粒	
527	B区 SA1 G23	XX b	浅鉢 口縁	屈曲部に沈線	外面はナデ 内面はミガキ	にぶい褐 灰黄褐	にぶい褐	1mm以下の浅黄橙・灰褐色の粒	
528	B区 SE6	XX b	浅鉢 口縁(31.4) 胴部	屈曲部に沈線	口唇部はナデ 外面はミガキ・内面は ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰褐・浅黄橙・黒・ 透明光沢の粒	
529	B区 E22	XX a	浅鉢 胴部		外面はミガキ 内面は風化著しい	にぶい赤褐	浅黄	1mm以下の灰・灰褐・光沢の粒	
530	B区 F22	XX a	浅鉢 胴部		外面はミガキ 内面は風化著しい	灰 浅黄	灰黄	1mm以下の灰白・浅黄・灰褐・ 透明光沢・黒色光沢の粒	
531	B区 D22	XX b	浅鉢 胴部		外面はミガキ 内面は風化著しい	にぶい黄橙	浅黄橙	0.5mm以下の無色透明粒	
532	B区 F22	XX a	浅鉢 胴部	屈曲部に沈線	外面はミガキ 内面は風化著しい	浅黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の灰白・褐色の粒 微細な無色透明粒	
533	B区 F22	XX a	浅鉢 胴部		内外面ともミガキ	暗灰黄	褐灰	1mm以下の灰褐・灰色の粒 微細な金色・黒色光沢の粒	
534	B区 D21	XXI a	壺形土器 口縁		外面は指ナデ 内面はナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	0.5mm以下の白・透明の光沢粒	
535	B区 SE6	XXI a	壺形土器 口縁(13.5)		外面はナデ 内面は風化著しい	にぶい橙	橙 にぶい黄褐	0.5mm以下の黄白・灰白・透明 光沢の粒	
536	B区 F22	XXI a	壺形土器 口縁(8.8)		外面はナデ 内面はミガキ	赤褐	赤褐	1mm以下の灰白・灰・褐・黒色 の粒 0.5mm以下の黒色・透明の光沢粒	内外面は丹塗 り
537	B区 SC6	XXI a	壺形土器 口縁		外面はミガキ 内面はヨコナデ	灰黄褐	黄灰	0.5mm以下の灰白・無色透明の粒	外面にスス
538	B区	XXI b	高坏形土器? 裾部		内外面ともナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐色の粒 1mm以下の黒色・透明の光沢粒	穿孔?
539	B区 SC1	XXII b	深鉢 胴部 底部(9.2)		内外面ともナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	1.5mm以下の灰白・浅黄橙・黒・ 灰褐色の粒	外面にスス 上げ底
540	B区	XXII a	深鉢 底部(5.8)		外面はミガキ・内面は 丁寧なナデ 底部はナデ	暗灰黄 にぶい赤褐	暗灰黄	2mm以下の浮白・灰・黄灰色の 粒 微細な透明・半透明・黒色の光 沢粒	平底内面に黒 斑 外面に黒変 沢粒

第1表 A・B区出土縄文土器観察表(31)

遺物番号	出土地点	分類	器部 (復元口径cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
541	B区 S13 F19	XXIIa	深鉢 底部(9.0)		外面はナデ 内面は風化著しい 底部はナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	0.5mm以下の灰白・無色透明の粒	平底
542	B区	XXIIa	深鉢 底部(8.3)		外面は条痕の後ナデ 内面は条痕の後ナデ 底部は風化著しい	にぶい橙	黄褐	2mm以下の灰・茶・黒色の粒 微細な透明・半透明の光沢粒	平底
543	B区	XXIIa	深鉢 底部(8.85)		内外面ともナデ 底部は粗いナデ	浅黄	灰黄	微細な光沢粒	上げ底
544	B区	XXIIa	深鉢 底部(9.7)		外面はナデ、内面条痕 の後ナデ 底部はナデ	浅黄	灰白 黄灰	2mm以下の浅黄・灰白色の粒 1mm以下の無色透明光沢粒	平底
545	B区	XXIIa	浅鉢 底部(9.7)		外面は風化著しい 内面はナデ、底部は風 化著しい	明黄褐 黄灰	黄灰	0.5mm以下の淡黄・透明の粒	平底
546	B区 F22	XXIIa	浅鉢 底部(8.1)		内外面ともナデ 底部は丁寧なナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	0.5mm以下の灰白・透明の粒	平底
547	B区 G23	XXIIa	浅鉢 底部(9.1)		内外面・底部は風化著 しい	灰オリーブ	灰白	1mm以下の淡黄・透明の粒	平底
548	B区	XXIIa	浅鉢 底部(8.5)		内外面とも底部はナデ	灰オリーブ	灰	2.5mm以下の浅黄色粒 微細な無色透明光沢粒	平底
549	B区 SA2 F21 F23	XXIIa	浅鉢 胴部 底部(8.0)		外面はミガキ、ナデ、 指頭痕 内面はミガキ 底部は工具ナデ	オリーブ黒	灰	5mmの褐色粒 3mm以下の茶色粒 1mm以下の透明光沢粒	上げ底
550	B区 SA4	XXIIa	浅鉢 底部(7.4)		外面はミガキ、内面は ナデ 底部はナデ	灰	灰白	0.5mm以下の灰白・無色透明の光 沢粒	上げ底
551	B区	XXIIa	浅鉢 底部		外面はナデ、内面は条 痕 底部はナデ	灰黄 黄灰	暗灰黄	1mm以下の灰白・浅黄色の粒 0.5mm以下の無色透明光沢粒	内面に黒変 底部に黒斑
552	B区 SA1	XXIIc	浅鉢 底部(9.2)		外面はナデ、内面は丁 寧なナデ 底部はナデ	にぶい黄橙	褐灰	2mm以下の灰白・赤褐色の粒 0.5mm以下の無色透明光沢粒	内面に黒変 上げ底

第2表 A・B区出土遺物観察表(1)

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
583	弥生	大口縁 胴部	B区 SA4				ヨコナデ、ハケ状工具 によるナデ 貼付突帯、スス付着	ハケ状工具によるナデ ナデ	にぶい黄橙	灰黄	2mm以下の灰褐・赤褐・黒色の粒	
584	弥生	底	B区 SA4		(10.35)		ヨコナデ、ナデ スス付着	ヨコナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の褐・灰白色の粒	
585	弥生	大口縁 底部	B区 SA4	20.15	5.78	21.7	縦・斜ハケ目の後ナデ、 ナデ、赤変、黒変 スス付着	ナデ、赤変、黒変	灰白	灰黄 灰	2mm以下の褐・灰褐・茶褐色の粒	
586	弥生	大口縁	B区 SA4				ナデ、スス付着	ナデ	にぶい黄橙	浅黄橙	2.5mm以下の灰・褐・乳白・半透明 光沢・黒色光沢の粒	
587	弥生	底 胴部	B区 SA4				ナデ、貼付刻目突帯 斜ハケ目	指頭痕、斜ハケ目の後 ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰・茶・褐・透明光沢の 粒	同一個体
588	弥生	底	B区 SA4		(8.0)		縦ハケ目、ヨコナデ、 ナデ、赤変、黒変	横・斜ハケ目の後ナデ、 ナデ、黒変	にぶい黄橙	灰	2.5mm以下の淡黄・灰・褐・半透明 光沢・黒色光沢の粒	
589	弥生	大口縁 底部	B区 SA7	(11.7)	(5.7)	(24.8)	口縁部に2条の凹線、 胴部にハケ状工具端部 による連続刺突、ナデ、 縦ハケ目、スス付着	ナデ、ヨコナデ、縦・ 斜ハケ目の後ナデ消し	橙 にぶい赤褐	橙 にぶい橙	3mm以下の暗赤褐・黒・灰色の粒	瀬戸内系
590	弥生	鉢 底部	B区 SA7	(10.7)	(5.4)	(15.8)	ナデ、横ハケ目の後縦・ 横・斜のミガキ、スス 付着、黒斑	縦・横・斜ミガキ、丁 寧なナデ、ナデ	にぶい橙 にぶい黄褐	にぶい橙 黄灰	2.5mm以下の褐・黒褐色粒	瀬戸内系 頸部に3個 の穿孔
591	弥生	大口縁 底部	B区 SA7	(20.05)	5.9	23.1	ヨコナデ、斜ハケ目、 ナデ、貼付刻目突帯、 スス付着	斜ハケ目、ナデ 黒変	橙	橙	2mm以下の褐・灰白・灰色の粒、柱 状の黒色光沢粒	
592	弥生	大口縁	B区 SA7				ナデ、貼付刻目突帯、 スス付着	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・乳白色の粒 1mm以下の黒色光沢粒	
593	弥生	大口縁 底部	B区 SA7	14.9	5.0	18.8	ナデ、斜ハケ目、ヨコ ナデ、スス付着	ナデ	赤褐 褐灰	橙 褐灰	1mm以下の褐・灰褐色の粒、黒色・ 無色透明の光沢粒	
594	弥生	大口縁 胴部	B区 SA7	(21.7)			ナデ、横・斜ハケ目、 スス付着	横・斜ハケ目、ナデ、 黒変	にぶい黄橙	橙	微細な透明・半透明・黒色の光沢粒 2mm以下の黒・灰・黄灰色の粒	
595	弥生	大口縁 胴部	B区 SA7	(20.6)			風化著しい ナデ、スス付着	風化著しい	にぶい黄	にぶい黄橙	3.5mm以下の茶・褐・黒色の粒	
596	弥生	大口縁 胴部	B区 SA7				ナデ、縦ハケ目 指頭痕	風化著しい ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	3mm以下の茶色の粒	
597	弥生	底	B区 SA7		6.0		縦ハケ目の後工具ナ デ、ナデ	風化著しい ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の淡黄・黒・褐色の粒 1mm以下の透明光沢粒	
598	弥生	大口縁	B区 SA10				ナデ、貼付刻目突帯	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の褐・浅黄橙・赤褐色の粒、 透明光沢粒	
599	弥生	大口縁	B区 SA10				風化著しい ナデ	風化気味 ヨコナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰白・褐・浅黄褐色の粒	
600	弥生	大口縁	B区 SA10	(18.1)			ヨコナデ、貼付刻目突 帯、斜ハケ目	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	1.5mm以下の灰白・黒・褐色の粒	
601	弥生	大口縁	B区 SA10				ナデ、スス付着	風化著しい	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・灰色の粒	
602	弥生	底 胴部	B区 SA10		5.7		ナデ、黒変	ナデ、炭化物付着 指頭痕	橙	黒	2mm以下の黒色光沢粒、褐色の粒	
603	弥生	底	B区 SA10		(8.35)		ナデ	ナデ、指頭痕、炭化物 付着	橙	黒	2mm以下の黒・褐色の粒 1mm以下の白色の粒	
604	弥生	底	B区 SA10		(8.4)		風化著しい	風化著しい	橙	にぶい黄橙	5mm以下の茶色の粒 3mm以下の褐・黒色の粒	
605	土師器	大口縁 底部付近	B区 SA1	(15.5)			ナデ、縦工具ナデ、ス ス付着、ヨコナデ	ヨコナデ、縦工具ナデ	橙	橙	6mm以下の透明光沢粒、褐灰・赤褐・ 浅黄橙・灰褐色の粒	
606	土師器	大口縁 胴部	B区 SA1	(13.65)			ナデ、粘土のつなぎ目	ナデ、粘土のつなぎ目	浅黄橙	灰黄	4mm以下の赤褐・褐・灰褐色の粒	同一個体
607	土師器	底 胴部	B区 SA1		(6.3)		ナデ	ナデ、指頭痕	浅黄橙	灰黄	4mm以下の赤褐・褐・灰褐色の粒	木の葉底
608	土師器	大口縁 胴部	B区 SA1	18.55			ナデ、スス付着	ナデ、ヨコナデ	にぶい橙	橙	6mm以下の褐・黄褐・褐色の粒	
609	土師器	大口縁 胴部	B区 SA1	(16.2)			ナデ、縦工具ナデ、ス ス付着、粘土のつなぎ 目	指頭痕、ナデ、粘土の つなぎ目	橙	橙	微細な透明・半透明・黒色の光沢粒 5mmの灰・黒・黄灰色の粒	
610	土師器	大口縁 胴部	B区 SA1 カマド	(14.6)			ナデ、粘土のつなぎ目	ナデ	橙	橙	6mm以下の茶色の粒	
611	土師器	大口縁 底部付近	B区 SA1	(28.8)			ナデ、スス付着、風化 気味 粘土のつなぎ目、スス 付着	ナデ、粘土のつなぎ目、 風化気味	にぶい黄橙 にぶい橙	にぶい黄橙	3mm以下の茶・褐・灰・乳白色の粒	
612	土師器	大口縁	B区 SA1				ナデ、ヨコナデ、貼付 突帯	ナデ	橙 にぶい黄橙	にぶい赤褐 にぶい黄橙	1mm以下の灰白・灰・赤褐色の粒、透 明光沢粒	

第2表 A・B区出土遺物観察表(2)

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
613	土師器	壺口縁胸部	B区 SA1				ナデ、貼付突帯	丁寧なナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	2mm以下の灰白・灰色の粒、透明光沢粒	
614	土師器	壺底部	B区 SA1		(4.4)		ナデ	指頭痕、黒変、ナデ	にぶい橙	褐灰	4mm以下の灰褐・灰白・黒色の粒 1mm以下の無色透明光沢粒	木の葉底
615	土師器	壺底部	B区 SA1		(7.55)		ナデ、スス付着	ナデ、黒変	にぶい橙	浅黄	5mmの赤褐色の粒 3mm以下の灰褐・灰白・黒色光沢の粒	木の葉底?
616	土師器	壺底部	B区 SA1		(9.4)		ナデ	ナデ、指頭痕	橙 にぶい黄橙	にぶい橙 褐灰	7mm以下の浅黄・褐・にぶい赤褐・ 褐灰色の粒	木の葉底
617	土師器	壺底部	B区 SA1 カマド		(8.0)		ナデ	ナデ、炭化物付着	赤褐	浅黄橙	5mm以下の褐灰・褐・灰褐色の粒	
618	土師器	壺底部	B区 SA1		(11.8)		縦工具ナデ	丁寧なナデ、黒変	にぶい黄橙	褐灰	2mm以下の暗赤褐・灰褐・灰白色の粒 微細な無色透明光沢粒	木の葉底
619	土師器	甌? 胸部 底部付近	B区 SA1				縦工具ナデ、スス付着 ナデ、穿孔	ナデ、縦工具ナデ、黒変、 風化気味	にぶい黄橙 にぶい橙 灰黄褐	にぶい橙 にぶい黄橙	5mm以下の褐・浅黄・黒色の粒 1mm以下の黒色光沢粒	
620	土師器	甌口縁底部	B区 SA1	25.2	8.8	29.0	ヨコナデ、ナデ、スス付着、 黒変、指頭痕、穿孔	黒変、ナデ、指頭痕、 粘土のつなぎ目	橙	橙	4mm以下の灰白・白灰・浅黄橙・ 褐色の粒 10mm以下の高師小僧	
621	土師器	壺口縁頸部	B区 SA1	(14.8)			ヨコナデ、ナデ、指頭痕	ナデ、指頭痕	浅黄橙	浅黄橙	4mm以下の茶・灰色の粒	
622	土師器	小型壺口縁頸部	B区 SA1	(6.7)			ミガキ	ナデ	橙	橙	1mm以下の茶・褐色の粒	
623	土師器	壺底部	B区 SA1				縦工具ナデ、ナデ	ナデ	橙	にぶい黄橙	6mm以下の褐色の粒 3mm以下の灰赤褐色の粒	
624	土師器	脚付鉢? 胸部 底部付近	B区 SA1				ナデ、工具痕	ナデ	浅黄橙	にぶい橙 褐灰	1mm以下の灰白・灰・褐・黒褐色の粒	
625	土師器	壺底部	B区 SA1				ナデ	粗いナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	1mm以下の赤褐・黒色の粒	木の葉底
626	土師器	壺底部	B区 SA1				ナデ、工具痕	風化著しい	にぶい橙	にぶい黄橙	3.5mm以下の暗褐・黒褐・灰褐色の粒	木の葉底?
627	土師器	壺底部	B区 SA1				ナデ、工具痕	ナデ、風化気味	にぶい赤褐	にぶい橙	5mm以下の黒褐・黄灰・暗褐色の粒	
628	土師器	高坏坏部	B区 SA1	(16.7)			ナデ、ヨコナデの後 ミガキ、丁寧なナデ、 黒変	横ミガキ、黒変	にぶい橙	にぶい橙	きめ細か	
629	土師器	高坏坏部	B区 SA1	(15.8)			横ミガキ、黒変、風化 気味	横ミガキ	にぶい橙	橙	1mm以下の赤褐色の粒	
630	土師器	高坏坏部	B区 SA1	(15.0)			ミガキ、風化気味	丁寧なナデ、風化気味	橙	橙	きめ細か	
631	土師器	高坏坏部	B区 SA1	(15.6)			横・斜ミガキ、黒変、 縦ヘラナデの後ミガキ	横・斜ミガキ	橙 にぶい黄橙	黒褐 褐灰 橙	6mm以下の赤褐色の粒 4mmの褐色の粒 2mmの黒褐色の粒	
632	土師器	高坏坏底部	B区 SA1				粗いナデ	ナデ、指頭痕	橙	にぶい黄橙	1.5mmの茶・黒色の粒	
633	土師器	高坏坏底部	B区 SA1				ナデ、風化気味	ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の茶色の粒	
634	土師器	高坏脚柱部	B区 SA1				ナデ、風化著しい	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.5mm以下の黒・灰白色の粒	
635	土師器	高坏裾部	B区 SA1				ナデ	ナデ	橙	橙	0.5mm以下の黒色・透明光沢の粒	
636	土師器	坏口縁体部	B区 SA1	(12.8)			ミガキ?	横・縦ミガキ	にぶい橙	にぶい橙	きめ細か	
637	土師器	坏口縁	B区 SA1				横ミガキ、スス付着	横ミガキ	にぶい橙	にぶい黄橙	1mm以下の褐・赤褐色の粒	
640	土師器	壺口縁底部	B区 SA2	16.2	8.3	21.7	ナデ、ヨコナデ、スス付着、 粘土のつなぎ目、指頭痕	ヨコナデ、ナデ、粘土の つなぎ目、指頭痕	にぶい橙	にぶい橙 にぶい黄橙	4mm以下の灰白・褐灰・暗赤褐色の粒	木の葉底
641	土師器	壺口縁底部	B区 SA2	(14.0)	(6.4)		ヨコナデ、スス付着、 ナデ、縦工具ナデ	ナデ、工具痕、指頭痕、 工具ナデ、黒変	橙	明褐	5mm以下の茶・褐・黒・灰・黄灰色の粒	木の葉底
642	土師器	壺口縁底部	B区 SA2	(21.1)	7.6	26.0	ヨコナデ、スス付着、 粘土のつなぎ目、指頭痕、 横ケズリ、黒変	黒変、指頭痕、ナデ、 粘土のつなぎ目	橙	橙	微細な透明・半透明の光沢粒 10mm以下の茶・灰・黒色の粒	木の葉底
643	土師器	壺口縁底部	B区 SA2	(16.7)	6.85	27.4	ヨコナデ、スス付着、 ナデ、指頭痕	風化気味、横工具ナデ	橙	橙	6mm以下の褐・黒・暗褐・乳白色の粒	
644	土師器	壺口縁胸部	B区 SA2	(19.4)			ナデ、スス付着、縦工具 ナデの後ナデ	粘土のつなぎ目、ナデ	にぶい黄橙	橙	5mm以下の暗褐色の粒 2mm以下の茶・乳白・透明光沢の粒	

第2表 A・B区出土遺物観察表(3)

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
645	土師器	甕口縁 ~胴部	B区 SA2	(15.1)			ナデ	ナデ、粘土のつなぎ目	橙 にぶい橙	橙	5mm以下の灰白・浅黄橙・灰褐・褐 灰色の粒	
646	土師器	甕口縁 ~胴部	B区 SA2	(14.2)			ナデ	ナデ、粘土のつなぎ目	浅黄橙	浅黄橙	6mm以下のにぶい赤褐・灰・灰黄褐 色の粒	
647	土師器	甕口縁 ~胴部	B区 SA2	(16.3)			ナデ、スス付着、縦工 具ナデ	粘土のつなぎ目、横工 具ナデの後ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	5mm以下の暗褐色の粒 2mm以下の茶・褐・乳白色の粒	
648	土師器	甕口縁 ~胴部	B区 SA2	(39.6)			ヨコナデ、スス付着、 黒変、粘土のつなぎ目、 ナデ	ヨコナデ、ナデ、黒変	にぶい黄橙 にぶい黄褐	にぶい黄橙 灰	3mm以下の褐・浅黄・灰褐色の粒 微細な光沢粒	同一個体
649	土師器	甕 底部	B区 SA2		11.55		ナデ、工具ナデ	ナデ、風化気味	にぶい黄橙 にぶい橙	にぶい黄橙 黄灰	微細な黒色・半透明の光沢粒 3mm以下の灰・灰褐色の粒	
650	土師器	甕口縁 ~ 底部付近	B区 SA2	(22.4)			ヨコナデ、ナデ、スス 付着	工具ナデ ヨコナデ	にぶい褐 橙	にぶい黄橙 灰	5mm以下の褐・赤褐・黒褐色の粒 3mm以下の灰白色の粒	同一個体
651	土師器	甕 底部	B区 SA2		(10.2)		ナデ、ヨコナデ	ナデ、風化気味、横工 具ナデ	にぶい橙	黄灰 灰	5mm以下の褐・赤褐・黒褐・灰白色 の粒	
652	土師器	甕口縁 ~ 底部	B区 SA2	(23.7)	(10.0)		スス付着、ナデ、縦工 具ナデ、粘土のつなぎ 目	ナデ、黒変、赤変	にぶい橙	にぶい黄橙	4mm以下の暗褐・褐灰色の粒	
653	土師器	甕口縁 ~ 底部付近	B区 SA2	(27.5)			ナデ、スス付着	ナデ	にぶい橙 明赤褐	にぶい黄橙 明赤褐	5mm以下の茶色の粒	同一個体
654	土師器	甕 底部	B区 SA2		10.7		風化気味、工具痕、 ナデ	ナデ	橙	橙	5mm以下の茶色の粒	木の葉底
655	土師器	甕口縁 ~ 胴部	B区 SA2	(26.0)			ヨコナデ、指頭痕、斜 工具ナデの後ナデ	ヨコナデ、指頭痕、横・ 縦工具ナデ、粘土のつ なぎ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の灰褐・赤褐・褐灰・灰白 の粒	同一個体
656	土師器	甕 胴部 底部	B区 SA2		10.6		縦・斜工具ナデの後 ナデ、黒斑、ナデ、粘 土のつなぎ目	黒斑、縦・横・斜工具 ナデ、粘土のつなぎ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の灰白・褐灰・赤褐・浅黄 橙・褐色の粒	
657	土師器	甕口縁	B区 SA2	(30.0)			ヨコナデ、粘土のつ なぎ目	ナデ、粘土のつなぎ目	淡黄 橙	橙	5.5mm以下の灰黄・にぶい橙・にぶ い赤褐色の粒 2mm以下の灰白・淡黄色の粒	注ぎ口
658	土師器	甕 胴部 底部	B区 SA2		11.5		ナデ	ナデ、黒変	橙 にぶい黄褐	にぶい黄褐 橙	5.5mm以下の灰黄褐・にぶい赤褐・ にぶい橙・灰・灰白・褐・黒色・透 明光沢・黒色光沢の粒	同一個体
659	土師器	甕口縁	B区 SA2	(15.0)			ナデ	ナデ	橙	橙	6mm以下の茶色の粒	注ぎ口
660	土師器	甕 底部	B区 SA2		(8.6)		ナデ	ナデ	橙	橙	6mm以下の茶色の粒	同一個体?
661	土師器	甕 底部	B区 SA2		5.7		ナデ 粘土のつなぎ目	ナデ	にぶい橙	浅黄橙	5mm以下の褐・褐灰色の粒	底部板目圧 痕
662	土師器	甕 底部	B区 SA2		(5.75)		粗いナデ、スス付着	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	4mm以下の暗褐・褐灰色の粒	木の葉底?
663	土師器	甕 底部	B区 SA2		(3.2)		スス付着、粗いナデ	ナデ	橙	橙	4mm以下の暗褐・褐灰色の粒	
664	土師器	甕 底部	B区 SA2				ナデ	黒斑、ナデ	にぶい黄褐	灰	6mm以下の灰褐・褐灰色の粒	木の葉底
665	土師器	甕 底部	B区 SA2		5.15		ナデ、縦工具ナデ	ナデ、風化著しい	にぶい橙	明褐灰	3mm以下の赤褐・灰褐・浅黄褐色の 粒	
666	土師器	甕 底部	B区 SA2		7.0		ナデ、風化著しい	指頭痕、ナデ	橙	橙	6mm以下の褐色の粒 2mm以下の乳白色の粒 微細な光沢粒	
667	土師器	甕 底部	B区 SA2		(7.4)		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	7mm以下の透明光沢・浅黄橙・灰白・ 褐灰・褐・黒色の粒	木の葉底
668	土師器	甕 底部	B区 SA2		11.7		工具ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	5mm以下の褐色の粒	木の葉底
669	土師器	甕 底部	B区 SA2		(11.5)		ナデ	ナデ	にぶい橙	浅黄橙 褐灰	3mm以下の灰褐・浅黄・褐色の粒	木の葉底
670	土師器	甕口縁 ~ 胴部	B区 SA2	(22.5)			ヨコナデ、ナデ、粘 土のつなぎ目	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	7mm以下の赤褐色の粒 4mm以下の灰白・褐色の粒	同一個体
671	土師器	甕 胴部 底部	B区 SA2		8.5		ナデ、工具痕、縦工 具ナデ、穿孔	ナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	にぶい褐 にぶい黄褐	8mm以下の赤褐色の粒 4mm以下の黒褐・灰色の粒 2mm以下の灰白色の粒	
672	土師器	甕口縁 ~ 底部	B区 SA2	(25.6)	(7.2)	(22.2)	ナデ、スス付着、穿孔、 縦工具ナデ	風化気味、ナデ	明赤褐	明赤褐	4mm以下の褐・褐灰色の粒	
673	土師器	甕口縁 ~ 底部	B区 SA2	(14.7)			スス付着、風化著しい、 粘土のつなぎ目	風化著しい、ナデ、粘 土のつなぎ目	浅黄橙 灰黄褐 にぶい赤褐 にぶい黄橙	にぶい黄橙 浅黄	4mm以下の褐・灰・灰白色の粒	
674	土師器	甕口縁 ~ 底部	B区 SA2	(14.95)	(8.7)		ナデ、ヨコナデ、横ミ ガキ	横ミガキ、黒変、粘 土のつなぎ目、ナデ	にぶい黄橙	褐灰	5mm以下の赤茶褐・褐・灰白・灰色 の粒	

第2表 A・B区出土遺物観察表(4)

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
675	土師器	壺口縁 胴部	B区 SA2	(16.2)			ナデ、斜ハケ目	ナデ、横ハケ目、 指頭痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	3mm以下の黄灰・灰・乳白・褐色の 粒 微細な半透明・金色の光沢粒	
676	土師器	壺口縁 頸部	B区 SA2	(14.4)			風化著しい	ナデ	橙	橙	5mm以下の灰・茶・黒色の粒	
677	土師器	壺底部	B区 SA2				黒変、ナデ	ナデ	にぶい黄橙 橙	にぶい橙	6mm以下のにぶい褐・褐灰色の粒	
678	土師器	壺胴部 底部	B区 SA2		(4.0)		ナデ、縦工具ナデの後 ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	6mm以下の褐灰・褐色の粒	
679	土師器	高坏 坏底部	B区 SA2				風化著しい	ナデ、指頭痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の茶褐色の粒 微細な無色透明粒	
680	土師器	高坏 裾部	B区 SA2		(11.1)		横・斜ヘラミガキ、 ナデ、黒斑、粘土の返 り、線刻?	ヨコナデ、指頭痕	橙	にぶい橙	微細な無色透明粒 きめ細か	
681	土師器	脚付鉢? 脚部	B区 SA2		(9.55)		ナデ	指頭痕、ナデ	橙	にぶい黄橙 赤橙	3mm以下の暗褐色の粒 2mm以下の褐・乳白色の粒	
682	土師器	脚付鉢? 脚部	B区 SA2		(8.6)		風化著しい、ナデ、 丹塗り?	ナデ、指頭痕	浅黄橙 赤褐	にぶい黄橙	3mmの灰・褐色の粒 2mm以下の茶・灰・褐・黒色光沢の 粒	
683	土師器	壺口縁 底部	B区 SA2	(12.3)			ヨコナデ、指頭痕、 スス付着	風化著しい、黒変、ヨ コナデ	にぶい橙 灰褐	にぶい橙	6.5mm以下の灰褐・赤褐・灰黄・灰 赤・灰白、透明光沢・黒色光沢の粒	
684	土師器	坏口縁 体部	B区 SA2	(12.2)			横ミガキ	横ミガキ	にぶい橙	橙	きめ細か	
685	土師器	坏口縁 体部	B区 SA2	(12.8)			ナデ、風化気味、丹塗 り、ミガキ、ヨコナデ	風化気味、ナデ、 丹塗り?	明赤褐	橙	1mm以下の灰白・褐・淡黄・黒色光 沢・透明光沢の粒	
686	土師器	坏口縁 体部	B区 SA2	(17.25)			横ミガキ、ナデ スス付着	横ミガキ、スス付着	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1.5mm以下の褐色の粒 きめ細か	
687	須恵器	高坏? 口縁	B区 SA2	(15.55)			ヨコナデ	ヨコナデ	暗灰黄	暗灰黄	精良	
688	須恵器	坏蓋 天井 口縁	B区 SA2	12.3			ヨコナデ、ヘラ削り	ヨコナデ、ナデ	灰	灰	0.5mm以下の灰白色の粒 精良	
689	須恵器	小坏? 底部	B区 SA2				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	灰	灰	0.5mm以下の灰白色の粒 精良	
693	土師器	壺口縁	B区 SA3				ナデ	ナデ	灰黄褐	灰黄	2mm以下の灰褐・褐・浅黄色の粒	
694	土師器	高坏 坏部	B区 SA3				丁寧なヨコナデ	丁寧なヨコナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2.5mm以下の明褐・灰色の粒、黒色・ 透明の光沢粒	
695	土師器	鉢口縁 胴部	B区 SA3	(18.0)			ミガキ	ミガキ	橙	橙	1mm以下の褐色の粒	
696	土師器	壺口縁 底部	B区 SA5	(19.0)	(18.0)		ナデ、ヨコナデ、横・ 斜ハケ目の後ナデ、ス ス付着	ヨコナデ 横・斜ハケ目の後ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐 灰黄褐	2.5mm以下の灰褐・灰黄褐・黒・浅 黄色の粒、透明・黒色の光沢粒	
697	土師器	壺口縁 底部	B区 SA5	(14.0)	20.1		ヨコナデ、ハケ目の後 ナデ、ハケ目、ナデ、 スス付着、黒変	ヨコナデ、ナデ、粘土 のつなぎ目、炭化物付 着	にぶい橙 橙	にぶい黄橙 にぶい橙	3mm以下の茶・褐色の粒	
698	土師器	壺口縁付近 底部付近	B区 SA5				ヨコナデ、縦・横・斜 ハケ目 スス付着	横・斜ハケ目、ナデ、 黒変	明黄褐	にぶい黄橙	2mm以下の黒・茶・灰色の粒 微細な透明・半透明・黒色の光沢粒	
699	土師器	壺底部	B区 SA5	(5.4)			丁寧なナデ、黒変、 工具ナデ	ナデ	橙 黄灰 にぶい黄橙	にぶい黄橙	2.5mm以下の灰黄・褐・灰白・黒褐・ にぶい橙・透明光沢・黒色光沢の粒	
700	小型土器	柑口縁 底部	B区 SA5	11.3		9.3	ヨコナデ、ナデ、スス 付着	ヨコナデ、ナデ、指頭 痕、黒斑	浅黄橙 にぶい橙	浅黄橙 にぶい橙 褐灰	2mm以下の褐灰・灰褐・にぶい赤褐 色の粒	
701	土師器	高坏 坏部	B区 SA5	20.2			ヨコナデ、横・斜・縦 ミガキ、ナデ、スス付 着	横・斜ミガキ、ナデ	橙 黄褐	黄褐 にぶい橙	3mm以下の黒褐・灰黄・灰白・褐色 の粒、黒色・透明の光沢粒、金雲母	
702	土師器	坏口縁 体部	B区 SA5	(14.4)			ヨコナデ、ナデ	ナデ、黒変	にぶい黄	浅黄橙	2mm以下の灰・褐・橙色の粒、黒色・ 透明の光沢粒	
703	土師器	小坏 底部	B区 SA5		(4.0)		ナデ	風化著しい	にぶい黄橙	明黄褐	1mm以下の灰褐色の粒、透明光沢粒	
704	土師器	壺口縁 胴部	B区 SA6	(18.2)			ナデ、ヨコナデ、縦工 具ナデ、スス付着	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	4mm以下の灰褐・浅黄・赤褐色の粒 微細な半透明・透明・黒色の光沢粒	
705	土師器	壺底部付近	B区 SA6				ナデ、スス付着	ナデ	橙	浅黄橙	2mm以下の褐・灰白色の粒	
706	土師器	高坏 脚柱部	B区 SA6				ナデ、黒変	ナデ、黒斑	にぶい橙 灰黄	黄灰	2mm以下の灰白色の粒 1mm以下の透明光沢粒	
707	土師器	壺口縁 底部	B区 SA8	(23.6)	8.5	21.4	ナデ、粘土のつなぎ目	ナデ、黒変	にぶい橙	にぶい褐	5.5mm以下の暗赤褐・灰褐色の粒	木の葉底

第2表 A・B区出土遺物観察表(5)

遺物番号	種別	器種・部位	出土地点	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
708	土師器	壺口縁 ~胴部	B区 SA8	(17.0)			ナデ	ナデ、指頭痕	浅黄橙	にぶい黄橙	5mm以下の褐・にぶい赤褐色の粒	同一個体
709	土師器	壺胴部 ~底部	B区 SA8		4.2		ナデ、スス付着 粗いナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙 淡黄 灰	5mm以下の灰白・褐・灰褐・暗赤褐色の粒	
710	土師器	壺口縁 ~肩部	B区 SA8	(16.8)			ナデ、縦工具ナデ、横 ミガキ、スス付着	ナデ、横工具ナデ、指 頭痕、粘土のつなぎ目	にぶい黄橙 にぶい橙	暗灰黄 黄灰	4mm以下の浅黄・灰白・灰褐の粒 微細な黒色光沢粒	同一個体?
711	土師器	壺胴部	B区 SA8				横・斜ミガキ	ナデ、風化気味	にぶい橙	灰黄	5mm以下の灰褐・灰の粒 微細な透明・黒色の光沢粒	
712	土師器	壺胴部 ~底部	B区 SA8		5.9		縦工具ミガキ、黒斑、 スス付着	ナデ、粘土のつなぎ目、 黒変	にぶい黄褐	褐灰	2mm以下の灰褐・灰白色の粒	
713	土師器	高坏 坏部	B区 SA8	(16.7)			ナデ、ヨコナデ	ナデ、横ミガキ	橙	にぶい黄橙	きめ細か	
714	土師器	高坏 坏部	B区 SA8				風化著しい	横ミガキ	にぶい黄橙 にぶい橙	にぶい橙	きめ細か 微細な褐色の粒	
715	土師器	高坏 坏部	B区 SA8	(14.8)			ナデ、工具ナデ、風化 著しい	ナデ	橙	橙 灰黄	2mm以下の灰白色の粒 きめ細か	
716	土師器	高坏 坏底部	B区 SA8				ナデ、風化著しい	ナデ、風化著しい	にぶい橙 にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.5mmの褐・浅黄の粒 微細な透明光沢粒	
717	土師器	高坏 坏底部 ~脚柱部	B区 SA8				ミガキ、横ミガキの後 縦ヘラミガキ	ミガキ、風化著しい、 ナデ、ヘラナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1.5mm以下の褐・浅黄・透明・黒色光 沢の粒	
718	土師器	高坏 坏底部 ~脚部	B区 SA8		11.3		丁寧なナデ、ナデ、 指頭痕	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	4mmの褐灰・黄褐・灰白色の粒	
719	土師器	高坏 坏部	B区 SA8	(14.8)			風化著しい	横・斜ミガキ	橙 にぶい黄橙	にぶい橙 橙	3mm以下のにぶい赤褐・褐色の粒 きめ細か	
720	土師器	坏口縁 ~底部付近	B区 SA8	(16.8)			ナデ	ナデ、ミガキ	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の赤褐色の粒	
721	土師器	坏口縁 ~底部	B区 SA8	(15.0)	(6.15)	(5.95)	ナデ スス付着	ナデ 風化気味	にぶい橙	にぶい黄橙	1.5mm以下の褐灰・褐・黒色の粒	
722	土師器	坏口縁 ~底部	B区 SA8	(12.35)	7.1		横ミガキ、スス付着	横ミガキ	にぶい赤褐	明赤褐	3mm以下の赤褐・褐色の粒	
723	土師器	坏口縁 ~底部	B区 SA8	(14.4)	(6.55)	(5.8)	ナデ、スス付着	ナデ	にぶい橙	黄灰	2mm以下の灰褐・褐・赤褐色の粒	円盤状高台
724	須恵器	坏蓋 天井 口縁	B区 SA8	(13.5)		(4.01)	ナデ、ヘラ削り 朱が残る	ナデ	にぶい黄 にぶい橙	浅黄	微細な光沢粒	焼成不良
725	須恵器	坏蓋 天井 口縁	B区 SA8	(11.8)			ナデ、ヘラ削りの後ナ デ	ナデ、斜工具痕	灰	灰	3mm以下の灰白色の粒	
726	土師器	壺胴部 ~底部付近	B区 SA12				縦ミガキ、ナデ、黒斑	丁寧なナデ、黒斑	明赤褐	明赤褐	3mm以下の褐色の粒	
727	土師器	高坏 坏底部	B区 SA12				横ミガキ、縦工具ナデ 風化気味	横ミガキ、風化気味	にぶい橙	にぶい赤褐 にぶい褐	1mm以下の灰褐・浅黄色の粒 微細な透明・黒色の光沢粒	
728	土師器	高坏 脚柱部	B区 SA12				縦ケズリ	ナデ、指頭痕、 工具ナデ	にぶい橙	明黄褐	3mm以下の浅黄・赤褐の粒 微細な透明・半透明の光沢粒	
729	土師器	高坏 椗部	B区 SA12				縦・横ミガキ	風化著しい	にぶい黄橙	にぶい黄橙	きめ細か	
730	土師器	坏口縁 ~体部	B区 SA12				横ミガキ	横ミガキ、黒変	にぶい褐	にぶい黄橙	きめ細か	
731	弥生	甕口縁	B区 SA2				ナデ、貼付刻目突帯、 斜ハケ目の後ナデ、 刻目	風化著しい	橙	橙	5mm以下の白・褐色の粒	
732	弥生	甕口縁	B区				ヨコナデ、刻目、貼付 刻目突帯、斜ハケ目の 後ナデ	ハケ目の後ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	5mmの茶褐色の粒 3mm以下の茶褐・黒・浅黄色の粒 1mm以下の金色光沢粒	
733	弥生	甕口縁	B区				刻目、貼付刻目突帯、 縦ハケ目の後ナデ、 ヨコナデ	ナデ	灰黄	にぶい橙	3mm以下の灰白・黒・乳白色粒 2mm以下の柱状黒色光沢粒 1mm以下の金色光沢粒	
734	弥生	甕口縁	B区				ヨコナデ、刻目、貼付 刻目突帯、斜ハケ目の 後ナデ	斜ハケ目の後ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	3mm以下の淡黄・灰白・茶褐色の粒 2mm以下の無色光沢粒	
735	弥生	甕口縁	B区 D23				口縁部に断面三角形の 貼付突帯	ナデ	黄灰	にぶい黄橙	2mm以下の褐・暗褐・にぶい褐・透 明光沢の粒	
736	弥生	甕口縁 ~胴部	B区 E20	(16.6)			口縁部に断面三角形の 貼付突帯、ナデ	丁寧なナデ	灰黄	灰黄	1mm以下の灰白・浅黄・灰褐色の粒 微細な透明・黒色の光沢粒	
737	弥生	甕口縁	B区				口縁部に断面台形の貼 付突帯、ナデ、スス付 着、粗いナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐灰・灰褐・黒色光沢・ 透明光沢の粒	

第2表 A・B区出土遺物観察表(6)

遺物番号	種別	器種・部位	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
738	弥生	壺口縁 ~ 胴部	B区				口縁部に断面台形の貼付突帯、ヨコナデ、ナデ、指頭痕、横襷描き文、襷描き波状文	ナデ、指頭痕	にぶい黄橙	明黄褐 にぶい黄橙	2mm以下の褐灰・灰褐・灰白・黒色透明光沢の粒 1mm以下の黒色光沢粒	
739	弥生	脚台付壺 脚台部	B区		6.0		ナデ、指頭痕 縦工具ナデ	ナデ、風化著しい	浅黄	にぶい黄橙	3.5mm以下の褐色の粒 2.5mm以下の透明光沢粒 2mm以下の黒色光沢粒	
740	弥生	脚台付壺 脚台部	B区 D21		(6.5)		ナデ、指頭痕	ナデ、指頭痕	にぶい黄橙	灰黄褐	3mm以下の褐色の粒 1.5mm以下の透明光沢粒	
741	弥生	壺口縁 ~ 頸部	B区 SA5	(9.8)			横・斜ハケ目、ナデ、黒変	ナデ、横ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の黒・灰・茶色の粒 微細な透明・半透明・黒色の光沢粒	
742	弥生	壺口縁 ~ 頸部	B区 SA3 E22	(7.2)			横・縦ミガキ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の黒・褐灰・灰白色の粒	
743	弥生	壺口縁 ~ 頸部	B区 SA3	(7.7)			横・縦ミガキ、ナデ、丹塗?	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の黒・褐灰色の粒	
744	弥生	壺口縁 ~ 頸部	B区 SA3	(14.0)			ナデ、ハケ目の後縦ミガキ	横ミガキ、ナデ、指頭痕、炭化物付着	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・褐灰・透明・黒色の粒	
745	弥生	壺口縁	B区 SA3				ヨコナデ、横ミガキ	横・斜ミガキ	明褐灰	にぶい橙	1mm以下の黒・灰・無色透明光沢の粒	
746	弥生	壺口縁 ~ 胴部	B区 E22				ナデ、円形浮文斜ハケ目の後ナデ、スス付着	横ハケ目、工具ナデ、黒変	橙	橙	2mm以下の黒・灰・黄灰・褐色の粒 微細な透明・半透明・黒色の光沢粒	
747	弥生	壺口縁	B区 E22	(18.5)			ヨコナデ、3条の凹線文、スス付着	ヨコナデ	にぶい赤褐 褐灰	明赤褐 褐	2.5mm以下の灰白・透明光沢の粒	瀬戸内系
748	弥生	壺口縁 ~ 胴部	B区 D22	(16.2)			3条の凹線文、ヨコナデ、スス付着	ヨコナデ、ナデ、指頭痕	にぶい黄橙 暗灰黄	にぶい黄橙 灰黄褐	1.5mm以下の褐灰・灰褐色の粒 1mm以下の透明灰白の光沢粒	瀬戸内系
749	弥生	壺口縁 ~ 胴部	B区 F22				ナデ、横・斜ハケ目、スス付着	ナデ、斜ハケ目の後ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	2mm以下の灰・茶・黄灰色の粒 微細な透明・半透明・黒色の光沢粒	
750	弥生	壺口縁 ~ 胴部	B区 SA1				ヨコナデ、黒変、貼付刻目突帯、横・斜ハケ目	横・斜ハケ目	浅黄	浅黄	1mm以下の灰・褐・透明光沢の粒	
751	弥生	壺口縁 ~ 胴部	B区 SA3				ナデ、黒変、貼付刻目突帯	横ハケ目の後ナデ	橙	橙	2mm以下の黒・灰・黄灰色の粒 微細な透明・半透明・黒色の光沢粒	
752	弥生	壺口縁 ~ 胴部	B区 SA3 E22	(32.6)			ナデ、貼付刻目突帯、スス付着	ナデ、黒変、横・斜ハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・黒色光沢の粒 1mm以下の灰白色の粒	
753	弥生	壺口縁 ~ 胴部	B区 SA8 E25	(26.8)			ナデ、貼付刻目突帯、スス付着	工具ナデ、黒変	にぶい橙	にぶい黄橙	1mmの茶・褐・黒色光沢・透明光沢の粒	
754	弥生	壺口縁 ~ 底部	B区 F22 F23	(28.6)	7.0	(32.8)	ナデ、貼付刻目突帯、縦・斜ハケ目、ヨコナデ、丁寧なナデ、スス付着	ナデ、丁寧なナデ、黒変	にぶい橙 褐灰	にぶい橙	1.5mm以下の灰白・黒・無色透明光沢の粒	
755	弥生	壺口縁 ~ 胴部	B区 SA3 F22 F23 E22	25.3			ナデ、ヨコナデ、貼付刻目突帯、斜ハケ目	ヨコナデ、横・斜ハケ目	橙	にぶい橙	2mm以下の灰白・褐・黒褐・赤褐・透明光沢の粒	
756	弥生	壺口縁 ~ 胴部	B区 F22 F23				ナデ、貼付刻目突帯、スス付着	横・斜工具ナデ・黒変	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の灰・黄灰・茶色の粒 微細な透明・半透明・黒色の光沢粒	
757	弥生	壺口縁	B区				ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	1.5mm以下の褐・褐灰色の粒 1mm以下の黒・透明光沢の粒	
758	弥生	壺口縁 ~ 頸部	B区 SA2 SE2 F24	(27.1)			ナデ、指頭痕、スス付着	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の褐色の粒	
759	弥生	壺口縁 ~ 底部	B区 E22	(17.3)	5.9		ナデ、ヨコナデ、縦工具ナデ、スス付着	ナデ、横・斜工具ナデ、指頭痕	にぶい黄橙 にぶい褐	にぶい黄橙 にぶい黄褐	4mm以下の黒褐・暗褐色の粒	
760	弥生	壺口縁 ~ 底部	B区 F22	19.7	(5.7)		ヨコナデ、横・斜ハケ目、ナデ、スス付着、風化著しい	ヨコナデ、斜ハケ目、黒斑	にぶい黄橙 にぶい橙	にぶい黄橙 にぶい褐 褐灰	2.5mm以下の褐・乳白色の粒 3mm以下の黒色・透明の光沢粒	
761	弥生	壺口縁 ~ 胴部	B区	(17.6)			ハケ目の後ヨコナデ、斜ハケ目、スス付着	ヨコナデ、斜ハケ目	にぶい黄橙	にぶい橙	3mmの褐色の粒 1mm以下の白・褐・黒褐・透明光沢の粒	
762	弥生	壺口縁 ~ 胴部	B区 SE2	(18.4)			ヨコナデ、縦ハケ目、黒変、スス付着	ナデ、横ハケ目、縦工具ナデ、黒変	浅黄	にぶい黄橙	3mm以下の茶・灰色の粒 1mm以下の灰白・灰・褐・透明光沢の粒 1.5mm以下の柱状黒色光沢粒	
763	弥生	壺底部	B区 E23		5.7		縦工具ナデ、ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	1.5mm以下の灰褐・浅黄橙・褐・灰白・透明光沢の粒	
764	弥生	壺底部	B区		5.15		ナデ、黒変、スス付着	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	1.5mm以下の灰白・灰褐・赤褐・浅黄橙・褐・透明光沢・黒色光沢の粒 5mmの赤褐色の粒	
765	弥生	壺底部	B区		7.2		ナデ、指頭痕	粗いナデ、炭化物付着、黒変	にぶい黄 にぶい黄橙	灰オリーブ オリーブ黒	2mm以下のにぶい赤褐・灰白・褐白色の粒 1mm以下の透明光沢粒	
766	弥生	壺胴部 ~ 底部	B区 F27		5.8		ナデ、縦ハケ目状工具ナデ、スス付着、風化著しい	ナデ、黒変	にぶい褐	にぶい黄橙	3mm以下の灰・褐・白灰・暗褐・黒色光沢の粒	
767	弥生	壺胴部 ~ 底部	B区 F22 G22 G23				ハケ目、ハケ目の後ナデ、ナデ	ナデ、黒変	灰黄	にぶい黄	1mm以下の黒透明・褐灰・暗褐色の粒	

第2表 A・B区出土遺物観察表(7)

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
768	弥生	甕胴部底部	B区 SA3		(7.5)		ナデ、風化著しい	ナデ、斜ハケ目後ナデ、工具痕、黒斑	にぶい橙	黄灰	3mm以下の褐色の粒 2mm以下の灰白色の粒 1mm以下の無色透明粒	
769	弥生	甕胴部底部	B区 E23		(7.5)		縦工具ナデ、ナデ、スス付着	工具ナデ、黒変	にぶい赤褐	にぶい黄橙	1mmの黒・赤褐・褐灰・灰白の粒	
770	弥生	甕底部	B区 SA3		(5.95)		ナデ、黒斑	ナデ、黒変	灰黄褐	暗灰	1mm以下の褐・黒・浅黄・無色透明光沢の粒	
771	弥生	甕底部	B区 G23		7.56		ナデ、指頭痕、黒変	ナデ、黒変	にぶい褐黄灰	黄灰	1mm以下の灰黄・黄灰・透明光沢・黒色光沢・灰白光沢の粒	
772	弥生	甕底部	B区 SA3		(6.3)		ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	0.5mm以下の褐・黒・浅黄・無色透明光沢の粒	
773	弥生	壺口縁	B区	(17.1)			ナデ、スス付着	丁寧なナデ、ナデ、スス付着	明黄褐 黄灰	黄灰 明黄褐	1mm以下のにぶい赤褐・透明光沢・黒色光沢の粒 高師小僧を含む	
774	弥生	壺口縁肩部	B区	(13.2)			ナデ、風化気味、ミガキ、黒斑	ナデ、指頭痕	橙	橙	5mm以下の茶・灰色の粒 微細な透明・半透明・黒色の光沢粒	
775	弥生	壺口縁頭部	B区 F23	(14.7)			ナデ、丁寧なナデ	丁寧なナデ、指頭痕斜ミガキ	浅黄	浅黄	2mm以下の褐・無色透明光沢・黒色光沢の粒	
776	弥生	壺頭部	B区 D20				ナデ、2条の凹線文工具による連続刺突文	ナデ	褐	明赤褐	2mm以下の浅黄・褐灰・灰白・褐・透明光沢の粒	瀬戸内系
777	弥生	壺肩部	B区 D21				ナデ、4条の断面三角形の貼付突帯	ナデ、指頭痕	黄褐	橙	1mm以下の赤褐・褐灰・透明光沢・黒色光沢の粒	
778	弥生	壺底部	B区	(6.8)			ミガキ、スス付着、黒変	ナデ、指頭痕、風化気味	黄褐 黒	にぶい橙	2mm以下の褐灰・褐・黒色の粒 1mm以下の透明・灰白・黒色の光沢粒	
779	弥生	壺底部	B区 SA3	(5.3)			斜ミガキ、ナデ、丹塗り	ナデ、指頭痕	にぶい赤褐	灰白	1mm以下の褐・無色透明光沢の粒	
780	弥生	壺底部	B区 E23	(5.4)			丁寧なナデ、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	浅黄橙 褐灰	2.5mm以下の褐・黒・浅黄・灰褐色の粒	
781	弥生	壺底部	B区	6.8			工具ナデ、ナデ	ナデ、指頭痕	にぶい黄	浅黄	5mm以下の褐色の粒 微細な黒色・透明の光沢粒	木の葉底
782	弥生	壺底部	B区	(5.0)			ナデ、指頭痕	ナデ	橙	にぶい黄橙	3mm以下の乳白色の粒 8mm以下の褐色の粒 2mm以下の黒色・透明の光沢粒	木の葉底
783	弥生	壺底部	B区	4.55			ナデ	工具ナデ、黒変、指頭痕	浅黄橙	褐灰	1.5mm以下の褐・灰褐・無色透明光沢の粒 5mmの褐色の粒	
784	弥生	壺底部	B区	3.65			粗いナデ	ナデ、黒変	にぶい橙	にぶい黄橙 褐灰	5mm以下の褐・灰白・黒色の粒	
785	弥生	甕胴部底部	B区 SA3 F22 D21	(6.6)			縦・斜ハケ目、ナデ、スス付着、丁寧なナデ	斜ハケ目の後ナデ、ナデ、指頭痕、黒斑	にぶい橙	黄灰	2mm以下の灰白色の粒 0.5mm以下の無色透明粒	
786	弥生	高坏坏部	B区				ナデ	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の褐・赤褐・浅黄褐色の粒	
787	弥生	高坏脚部	B区 SA3	(7.7)			縦ミガキ、ヨコナデ、脚貫通の三角形の透し穴、丹塗り	粗いヨコナデ	にぶい橙	にぶい橙	5mm以下のにぶい黄橙・淡黄・橙・灰色の粒	瀬戸内系
788	土師器	壺口縁胴部	B区				ヨコナデ、ナデ、黒変、スス付着	ヨコナデ、斜工具ナデ、指頭痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の灰褐・黒色の粒 微細な半透明粒	
789	土師器	壺口縁胴部	B区				ヨコナデ、ナデ、縦ハケ目、スス付着、指頭痕	ナデ、指頭痕	黄褐	にぶい黄橙 灰黄	2mm以下の灰褐・灰白・灰色の粒 微細な黒色光沢粒	
790	土師器	壺口縁肩部	B区 B25				縦・横ハケ目、ヨコナデ、風化気味	ヨコナデ、横ハケ目、黒変	にぶい黄	黄褐	1mm以下の褐色の粒	
791	土師器	壺頭部胴部	B区				縦ハケ目、ハケ目の後横ミガキ	ナデ、風化気味、指頭痕	橙	にぶい黄橙	3mm以下の黒・灰・茶・褐色の粒 微細な透明・半透明の光沢粒	
792	土師器	壺頭部肩部	B区 F24				縦ハケ目、風化著しいナデ	ナデ、斜ハケ目、指頭痕、風化著しい	にぶい橙	にぶい黄橙	4mm以下の赤褐・灰白・褐色の粒	二重口縁
793	土師器	壺肩部胴部	B区				横ハケ目	ナデ、斜ハケ目	橙	オリーブ褐	2mm以下の灰白・褐灰・赤褐色の粒	
794	土師器	壺底部付近	B区 E24				縦ハケ目の後ナデスス付着	ハケ目	黄褐	灰オリーブ	2mm以下の浅黄・白灰・褐色の粒 微細な光沢粒	
795	土師器	壺口縁低部	B区	(15.3)			横・斜ハケ目の後ナデ、スス付着、風化著しい	横・斜工具ナデ、ナデ、黒変	橙	橙	3mm以下の黒・灰・茶・乳白色の粒 微細な透明・半透明の光沢粒	
796	土師器	壺口縁胴部	B区 D23	12.8			ナデ、斜ハケ状工具ナデ、スス付着	ナデ、工具ナデ粘土のつなぎ目	橙 にぶい黄	浅黄 橙	2mm以下の茶・褐色の粒	
797	小型土器	壺頭部底部付近	B区 D23				ミガキ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄	2mm以下の灰白・褐灰・透明光沢の粒	

第2表 A・B区出土遺物観察表(8)

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
798	土師器	壺底部	B区 E24				丁寧な横工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 灰	灰	2mm以下の灰褐・灰白色の粒 微細な透明・黒色の光沢粒	穿孔
799	土師器	高坏坏部	B区	15.25			風化著しい	風化著しい	浅黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰白・白・褐色の粒 1mm以下の柱状黒色光沢粒 微細な無色透明粒	
800	土師器	高坏坏底部	B区				風化著しい	風化著しい	にぶい赤褐	にぶい赤褐	きめ細か	
801	土師器	高坏脚部	B区		11.8		ヨコナデ、ナデ、指頭痕	ナデ 指頭痕	橙	橙	4mm以下の赤褐色の粒	
802	土師器	高坏裾部	B区 SE1		(9.6)		風化著しい	ナデ	明黄褐	明黄褐	1mm以下の褐色の粒 微細な透明光沢粒	
803	土師器	椗口縁底部	B区	13.0		7.4	ナデ、斜工具ナデ	ナデ、横・斜ミガキ	にぶい橙 にぶい黄橙	にぶい橙	4.5mm以下の灰褐・褐・灰白色の粒	
804	土師器	椗胴部底部	B区		(7.6)		ナデ	横工具ナデ、ナデ	にぶい橙	にぶい橙	7mm以下の赤褐・灰白・褐灰・黒色 光沢・褐色光沢の粒	
805	小型土器	椗口縁胴部	B区 E23	(9.5)			ナデ、黒斑	ナデ、風化著しい	にぶい黄橙 灰	橙	微細な光沢粒	
806	小型土器	椗口縁底部	B区 F21	7.3			ナデ、風化著しい 黒斑、指頭痕	ヨコナデ、ナデ、指頭痕、粘土の返り	にぶい黄橙 橙	にぶい黄橙	3.5mmの褐色の粒 1.5mmの乳白色の粒 1mm以下の透明・黒色の光沢粒	
807	土師器	蓋胴部底部	B区 SE2 D23				ナデ、工具ナデ、スス 附着、風化気味	ナデ、ハケ目の後ナデ、 風化著しい	橙	にぶい橙	3.5mm以下の茶色の粒 1.5mm以下の白色の粒	808と同一 個体
808	土師器	蓋胴部底部	B区		4.95		ナデ、工具ナデ、スス 附着	ナデ、黒変、風化気味	にぶい橙	にぶい橙	3.5mm以下の茶・黒色の粒	807と同一 個体
809	土師器	蓋胴部底部	B区		6.05		縦ハケ目の後ナデ、ナ デ、スス附着	ナデ、黒変、風化気味	明赤褐	暗灰黄	10mm以下の白灰・褐・乳白色の粒	
810	須恵器	坏身口縁底部	B区	(11.4)			ヨコナデ	ヨコナデ	灰オリーブ	灰	精良	
811	須恵器	坏口縁	B区 攪乱				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	灰	灰	精良	
812	弥生	甕口縁	B区 SE6				口唇部刻目、貼付刻目 突帯、ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	3mm以下の灰白・赤褐色の粒 1mm以下の無色透明光沢粒	
813	弥生	甕口縁	B区 SE6	(23.8)			ナデ、スス附着	ナデ	にぶい赤褐	にぶい黄橙	0.5mmの透明光沢粒	
814	弥生	壺口縁	B区 SE6	(18.0)			ナデ、縦ミガキ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰・茶・淡黄・黒色光沢・ 透明光沢の粒	
815	弥生	高坏坏部	B区 SE6	(34.8)			ナデ、縦・斜ミガキの 後ナデ、ヨコナデ	横・斜ミガキの後ナデ	にぶい橙	にぶい橙 にぶい黄橙	3mm以下の茶・黒・淡黄・黒褐色の 粒 1mm以下の金色光沢粒	
816	土師器	甕口縁底部	B区 SE6	(16.3)	(5.15)	(24.2)	丁寧なヨコナデ、縦工 具ナデ、スス附着	ナデ、指頭痕	灰黄褐	にぶい褐	4.5mm以下の灰白・褐・赤褐色の粒	
817	土師器	甕口縁胴部	B区 SE6	(17.3)			ヨコナデ、縦工具ナデ、 ナデ、スス附着	横・斜工具ナデ	橙	橙	微細な透明・半透明・黒色の光沢粒 2mm以下の灰・黄・褐・黒色の粒	
818	土師器	甕口縁底部	B区 SE6	(13.4)	6.1		ナデ、縦工具ナデの後 ナデ、スス附着	ナデ、横工具ナデの後 ナデ、黒斑	明褐 黒褐	橙 明赤褐 にぶい黄橙	4mm以下の茶褐・乳白・灰白・茶・ 黒色の粒 2mm以下の柱状黒色光沢粒 0.5mm以下の無色透明光沢粒	
819	土師器	甕口縁	B区 SE6	(10.2)			ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	3mm以下の黒・褐色の粒	
820	土師器	甕口縁	B区 SE6				ナデ、スス附着	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の灰白・褐色の粒 1mm以下の無色透明光沢粒	
821	土師器	甕口縁胴部	B区 SE6				ナデ、斜工具ナデ	ナデ	橙	橙	4mm以下の赤褐・褐色の粒	
822	土師器	甕底部	B区 SE6		(8.85)		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の浅黄・黄褐・灰褐色の粒	木の葉底
823	土師器	甕底部	B区 SE6		8.4		縦工具ナデ、ナデ	縦・横・斜工具ナデ、 黒斑	橙	にぶい黄橙	微細な透明・半透明・黒色の光沢粒 4mm以下の灰・茶・褐色の粒	木の葉底
824	土師器	甕底部	B区 SE6		(8.05)		工具ナデ、ナデ	ナデ、黒変	にぶい橙	灰 灰白	3mm以下の赤褐・灰褐・浅黄色の粒 1mm以下の無色透明光沢粒	
825	土師器	甕口縁底部	B区 SE6	(23.3)	(8.3)	(28.3)	ナデ、指頭痕	ナデ、指頭痕、黒変	橙 にぶい黄橙	橙 にぶい橙 灰黄褐	7mm以下のにぶい黄橙・にぶい黄褐 色の粒 2mm以下の灰白・黒色光沢の粒	
826	土師器	甕口縁胴部	B区 SE6	20.55			ナデ、粘土のつなぎ目	ナデ、粘土のつなぎ目	橙	橙	3mm以下の褐・灰黄褐・灰褐色の粒 1mm以下の無色透明光沢粒	同一個体?
827	土師器	甕底部	B区 SE6		(7.2)		ナデ、工具痕、指頭痕	ナデ	橙	橙	3mm以下の褐灰・灰褐色の粒 1mm以下の透明・黒色の光沢粒	

第2表 A・B区出土遺物観察表(9)

遺物番号	種別	器種・部位	出土地点	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
828	土師器	壺底部	B区 SE6				ナデ、風化気味	風化著しい	赤褐 にぶい橙	灰	1mmの灰・灰白色の粒	
829	小型土器	壺? 底部	B区 SE6		(3.5)		ナデ、風化気味、黒斑	ナデ	にぶい黄橙	灰	1mmの灰褐・褐色の粒	
830	土師器	高坏坏部 ~脚部	B区 SE6	(14.9)	(10.6)	(10.9)	ナデ、風化著しい	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	1.5mm以下の灰褐・灰白・黒色光沢の粒 1mm以下の無色透明光沢粒	
831	土師器	高坏坏部	B区 SE6				ナデ、風化著しい	ミガキ 風化気味	にぶい橙	橙	微細な透明・半透明・黒色の光沢粒 2mm以下の灰・黒・黄灰色の粒	
832	土師器	高坏坏底部	B区 SE6				横ミガキ、ナデ、指頭痕	ミガキ、ナデ	橙	にぶい赤褐	5mm以下の赤褐色の粒	
833	土師器	高坏脚部	B区 SE6		(9.2)		風化著しい	ナデ	明黄褐	橙	2.5mm以下の褐・灰・乳白色の粒	
834	土師器	高坏脚柱部	B区 SE6				工具ナデ	ナデ、風化気味 粗いナデ、指頭痕	橙	橙	1mmの灰白・透明・赤褐色の粒	
835	土師器	碗口縁 底部	B区 SE6	(13.0)			横ミガキ、ナデ、風化著しい、丹塗り	横ミガキ、丹塗り	明黄褐	明黄褐	微細な透明・半透明の光沢粒 2mm以下の灰・黒色の粒	
836	土師器	鉢? 口縁	B区 SE6				ナデ、風化著しい	丁寧な横ミガキ	にぶい橙	にぶい黄橙	0.5mm以下の無色透明光沢粒	
837	土師器	鉢? 口縁	B区 SE6				丁寧なナデ	ナデ	にぶい橙	橙	2mm以下の赤褐色の粒 0.5mm以下の無色透明光沢粒	
838	土師器	胸付き坏? 胴部 底部	B区 SE6		5.2		ナデ、風化気味	風化著しい	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の乳白色・透明・黒色の粒 1mm以下の透明光沢粒	
839	須恵器	平瓶? 壺? 頸部 底部	B区 SE6				ヨコナデ、ヘラ削り、ナデ、自然釉	ヨコナデ、自然釉	灰白 オリーブ灰	灰白 オリーブ灰	精良	
840	須恵器	坏蓋天井 口縁	B区 SE6	(13.4)		(3.75)	ヘラ削り後ナデ、ナデ	ナデ	にぶい黄	淡黄	2mm以下の茶色の粒	焼成不良
841	須恵器	坏蓋天井 口縁	B区 SE6				ヘラ削り後ナデ、ナデ	ナデ	灰	灰	2mm以下の白色の粒	
842	須恵器	坏身口縁 ~底体部	B区 SE6	11.3		4.65	ナデ、ヘラ削り	ナデ	灰	灰	2mm以下の乳白色の粒	
844	土師器	甕底部	A区		6.15		縦ハケ目、風化著しい、粗いナデ、工具痕	ナデ	にぶい橙	にぶい黄	8mm以下の褐灰色の粒 3mm以下の灰白・褐灰色の粒 1mm以下の透明・黒色の光沢粒 小石粒	
845	土師器	壺胴部 底部付近	A区 SZ1				ナデ、黒斑	ナデ	淡赤橙 褐灰	褐灰	2mm以下の褐灰・灰白・赤褐色の粒 1mm以下の透明光沢粒	
850	弥生	甕口縁	B区 SC4	(28.0)			ナデ、風化気味	ナデ、指頭痕、風化気味	にぶい橙	にぶい黄橙	3mm以下の褐色の粒 1mmの透明光沢・乳白色の粒	
851	土師器?	壺頸部 胴部	B区 SC3				ナデ、粘土のつなぎ目	ヨコナデ、粘土のつなぎ目	にぶい橙	にぶい黄橙	7mm以下の褐色の粒	
852	土師器	高坏坏部	B区 SC5	(11.85)			ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	2mm以下の灰褐・褐色の粒 1mm以下の無色透明光沢粒	
853	土師器	壺頸部 ~胴部	B区 SC6				ナデ、スス付着	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の褐・無色透明光沢の粒	
854	土師器	甕底部	B区 SC6		(6.9)		縦工具ナデ	ナデ	暗灰黄	暗灰黄	2mm以下の灰褐・灰白・黒色の粒 微細な光沢粒	
855	土師器	高坏坏底部 ~脚柱部	B区 SC6				ミガキ、風化著しい	ミガキ、風化著しい、ナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の灰褐・褐色の粒 微細な光沢粒	
856	土師器	皿底部	B区 G23		(5.0)		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	きめ細か 微細な透明光沢・褐・浅黄橙色の粒	糸切り底
857	土師器	土鉢	B区	最大長 (cm) 4.5	最大幅 (cm) 1.45	最大厚 (cm) 1.3	重さ (g) 7.9					
858	土師質土器	鉢口縁	攪乱				ナデ	ナデ	黄灰	黄灰 灰黄	きめ細か	
859	土師質土器	焙烙口縁	B区 攪乱				ヨコナデ、ナデ、スス付着	ナデ	にぶい褐	にぶい褐 にぶい橙	きめ細か 1mm以下の灰白・浅黄橙・赤褐・黒褐色の粒	
860	染付け	碗底部	B区 SE1		5.45		染付け、施釉 高台内施釉 高台端部露胎	染付け、施釉 見込に唐人立ち姿絵	浅黄橙 灰白	浅黄橙 灰白	精良	16C 中国産
861	染付け	皿底部	B区 D28				染付け、施釉	染付け、施釉	明緑灰 灰白	明緑灰 灰白	精良	16~17C 景德鎮
862	染付け	碗体部	B区				染付け、施釉	施釉	灰白	灰白	精良	16~17C 中国産 福建系

第2表 A・B区出土遺物観察表(10)

遺物番号	種別	器種・部位	出土地点	法 量(cm)			手法・調整・文様ほか		色 調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
863	陶器	碗口縁	B区 F26				灰釉、貫入	灰釉、貫入	オリーブ灰灰白	オリーブ灰灰白	精良	17C前半唐津
864	陶器	碗口縁・体部	A区 H19	(9.2)			鉄釉、貫入、露胎、ナア	鉄釉、貫入	にぶい黄褐灰白	にぶい黄褐灰白	精良	17C前半肥前
865	染付け	碗底部	B区				染付け、施釉 高台内施釉、高台端部露胎	施釉	明緑灰灰白	明緑灰灰白	精良	18C肥前
866	染付け	皿底部	B区		(8.8)		染付け、施釉 高台蛇ノ目釉ハギ	染付け、施釉	灰白	灰白	精良	18C中葉有田
867	陶器	碗口縁	B区				施釉(白化粧) ハケ目	施釉(白化粧) ハケ目	灰オリーブ灰	灰オリーブ灰	精良	18C唐津
868	陶器	碗口縁	B区 SE6 攪乱				施釉	施釉	褐黄灰	褐黄灰	精良	18~19C小代窯
869	陶器	碗体部	B区 SA3 攪乱				施釉、貫入	施釉、貫入	灰白	灰白	白薩摩の生地	17~18C
870	土製品	フィゴの羽口	B区 攪乱				ガラス質自然釉付着		オリーブ黒	にぶい褐	2mm以下の灰・白・灰白・透明光沢の粒	

第3表 土器片加工品計測表

番号	出土地点	器種	分類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
553	B区	円盤	I c	5.6	5.6	1.3	45	有文・口縁部
554	B区	円盤	I a	3.75	4.4	1.25	25.6	有文・口縁部
555	B区	円盤	I a	5.05	4.75	1.25	29.3	有文・口縁部
556	B区・D23	円盤	I c	5.4	5.3	1.15	28.6	有文・口縁部
557	B区	円盤	I a	4.9	5.1	1.25	27.3	有文・口縁部
558	B区	円盤	I c	5.1	5.5	1.25	40.1	有文・口縁部
559	B区	円盤	I a	5.35	5.15	1	32.3	有文・口縁部
560	B区・SA 5	円盤	I a	6	6.05	1.1	45.1	有文・口縁部
561	B区	円盤	I a	6.8	6.6	0.85	42.8	有文・口縁部
562	B区	円盤	I a	6.35	5.6	1	40	有文・口縁部
563	B区	円盤	I a	8.2	8.15	1.15	86.9	有文・口縁部
564	B区	円盤	I c	5.1	5.35	1.5	42.4	有文・胴部
565	B区・SA 1	円盤	I a	4.7	4.65	8.5	21.4	有文・胴部
566	B区	円盤	I a	5.8	5.43	1.05	36.2	有文・胴部
567	B区・SA 7	円盤	I b	4.8	4.25	0.85	18.3	有文・胴部
568	B区・F24	円盤	I c	4.15	4.5	1	21.9	有文・胴部
569	B区・F22	円盤	I b	3.95	4.4	1.2	23.8	有文・胴部
570	B区・D25	円盤	I d	(3.2)	(2.79)	(0.75)	(8.5)	有文・胴部
571	B区	円盤	I c	5	5.5	1.15	35.7	有文・胴部
572	B区	円盤	II c	5.1	5.2	0.9	29.7	無文・胴部
573	B区	円盤	II a	5.8	6.8	8.5	40.3	無文・胴部
574	B区・F23	円盤	II b	4.1	4.45	0.9	22.3	無文・胴部
575	B区	円盤	II a	7.65	7.35	1	64.4	無文・胴部
576	B区・F23	円盤	II c	4.6	4.95	0.9	24.1	無文・胴部
577	B区・SA 8	円盤	II b	4.1	4.2	1	18	無文・胴部
578	B区	円盤	II d	4.35	3.8	1	17.8	無文・胴部
579	B区	円盤	II d	4.82	3.92	0.7	16.9	無文・胴部
580	B区・SA 5	土器片錘		4.4	3.35	0.8	17.1	無文・胴部
581		土器片錘		4.8	2.95	0.9	15.3	有文・胴部
582	B区・SA 9	土器片錘		4.3	2.9	0.75	12.5	無文・胴部

第4表 石器計測表(1)

番号	出土地点	器種	分類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
871	B区	打製石鏃	I	1.7	(1.55)	0.4	(0.7)	頁岩	両脚一部欠損
872	B区・SE1	打製石鏃	I	1.5	1.5	0.4	0.5	頁岩	
873	B区	打製石鏃	I	1.15	(1.25)	0.25	(0.4)	頁岩	片脚欠損
874	B区・SE1	打製石鏃	II a	1.7	1.35	0.4	1.0	チャート	
875	B区	打製石鏃	II b	2.25	1.75	0.3	1.0	砂岩	
876	B区・SA2	打製石鏃	II b	2.55	1.55	0.5	1.4	頁岩	
877	B区・SA9	打製石鏃	II b	2.0	1.2	0.25	0.5	砂岩	
878	B区	打製石鏃	II b	2.65	(1.0)	0.35	(0.6)	黒曜石	片脚欠損
879	A区	打製石鏃	II b	1.6	1.15	0.3	0.5	砂岩	
880	B区・SE6	打製石鏃	II c	1.95	(1.35)	0.4	(0.6)	頁岩	片脚欠損
881	B区	打製石鏃	II c	2.1	1.85	0.35	1.1	黒曜石	
882	B区	局部磨製石鏃	II a	2.35	2.1	0.55	1.9	砂岩	
883	B区	局部磨製石鏃	II b	1.65	1.3	0.4	0.6	頁岩	
884	B区	局部磨製石鏃	II b	2.2	1.6	0.4	0.9	頁岩	
885	B区	尖頭状石器		2.05	(2.0)	0.75	(3.2)	頁岩	右側縁一部欠損
886	B区	尖頭状石器		2.75	2.4	0.65	4.9	黒曜石	
887	A区	尖頭状石器		(2.8)	2.65	0.8	(6.0)	流紋岩	先端欠損
888	B区	石匙	I	8.65	6.05	1.6	88.9	頁岩	
889	B区	石匙	I	3.2	1.95	0.4	2.7	頁岩	
890	B区	石匙	II a	1.85	2.85	0.35	1.8	砂岩	
891	B区	石匙	II a	2.3	4.6	0.75	5.4	石英	
892	B区・SA13	石匙	II b	4.3	5.2	0.9	13.2	チャート	
893	B区	石匙	II b	2.9	3.55	0.7	6.0	珪岩	
894	B区・SA13	石錐		1.9	1.95	0.65	3.2	チャート	
895	B区	石錐		3.8	3.0	1.25	11.4	頁岩	先端一部欠損
896	B区・SE1	石錐		3.2	2.6	1.15	9.7	頁岩	
897	B区	スクレイパー	I	6.6	8.45	3.1	214.4	砂岩	
898	B区・SC4	スクレイパー	I	4.85	5.95	2.3	85.3	砂岩	
899	B区	スクレイパー	I	7.2	7.3	3.0	181.4	砂岩	
900	B区	スクレイパー	I	9.85	9.3	4.5	465.4	砂岩	

第4表 石器計測表(2)

番号	出土地点	器種	分類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
901	B区	スクレイパー	I	8.0	7.15	2.2	127.4	砂岩	
902	B区	スクレイパー	II	7.6	6.65	1.9	101.2	砂岩	
903	B区・SA 11	スクレイパー	II	4.2	2.05	1.1	8.6	頁岩	
904	A区	スクレイパー	II	7.6	4.4	1.6	55.1	頁岩	
905	B区・SA 2	スクレイパー	II	9.55	6.5	2.45	169.9	砂岩	
906	B区	スクレイパー	II	6.1	4.1	1.55	35.6	頁岩	
907	B区	スクレイパー	II	11.8	6.7	2.3	183.8	砂岩	
908	B区	スクレイパー	II	8.05	13.3	1.8	205.4	砂岩	
909	B区	楔形石器		3.45	1.75	1.2	5.0	チャート	
910	B区	二次加工剥片		7.65	11.6	0.75	90.1	砂岩	
911	B区・SA 7	二次加工剥片		4.2	6.5	1.7	48.4	頁岩	
912	B区・SA 11	使用痕剥片		6.8	4.9	0.85	45.1	頁岩	
913	B区	使用痕剥片		6.4	3.85	0.95	26.7	頁岩	
914	B区	使用痕剥片		10.2	5.3	1.3	68.2	砂岩	
915	B区	使用痕剥片		4.8	5.05	1.2	41.8	砂岩	
916	A区	使用痕剥片		10.25	6.35	0.95	64.3	砂岩	
917	B区	磨製石器		(11.65)	(8.6)	0.6	(88.5)	砂岩	
918	B区・SE 6	磨製石器		(5.05)	(2.15)	0.55	(10.7)	砂岩	
919	B区	磨製石器		(5.75)	(2.2)	0.4	(7.3)	砂岩	石庖丁か?
920	B区	石核		8.45	5.05	5.35	177.0	頁岩	
921	B区	石核		2.65	4.9	2.6	34.6	砂岩	
922	B区	石核		7.6	8.1	3.9	225.7	砂岩	
923	B区	石核		2.05	2.7	2.0	10.2	黒曜石	
924	B区	礫器		(6.7)	(6.5)	1.8	(126.0)	砂岩	
925	B区	打製石斧		9.9	5.5	1.9	131.4	砂岩	
926	B区	打製石斧		12.75	9.1	3.2	511.8	尾鈴酸性岩	
927	B区・SA 3	磨製石斧	I	6.3	3.1	1.25	28.2	砂岩	
928	B区	磨製石斧	I	(5.8)	5.2	1.6	(69.3)	砂岩	
929	B区・SA 2	磨製石斧	IV	(7.8)	(1.45)	1.95	(34.3)	砂岩	
930	B区	磨製石斧	I	6.8	3.4	1.3	45.0	砂岩	

第4表 石器計測表(3)

番 号	出土地点	器 種	分 類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重 量(g)	石 材	備 考
931	B区・SA 8	磨製石斧	Ⅲ	12.0	6.25	3.4	403.9	砂岩	
932	A区・SZ 1	磨製石斧	Ⅱ	(10.35)	(5.25)	2.7	(202.9)		
933	B区	磨製石斧	Ⅲ	(8.65)	(3.7)	2.8	(89.0)	砂岩	
934	B区	磨製石斧	Ⅰ	(7.45)	5.2	2.0	(107.9)	砂岩	
935	B区	磨製石斧	Ⅲ	(10.7)	(5.9)	3.65	(358.3)	砂岩	
936	B区	磨製石斧	Ⅲ	(14.78)	8.35	3.95	(749.8)	砂岩	
937	B区・SA 8	磨石	Ⅰ	9.95	9.5	4.6	662.0	尾鈴酸性岩	
938	A区・SZ 1	磨石	Ⅱ	12.9	10.3	5.75	1157.8	尾鈴酸性岩	
939	A区	磨石	Ⅱ	10.8	9.3	5.0	777.9	尾鈴酸性岩	
940	B区	磨石	Ⅱ	10.5	7.4	5.0	543.7	砂岩	
941	B区	磨石	Ⅱ	10.65	8.7	4.4	578.0	砂岩	
942	B区	磨石	Ⅰ	10.2	9.2	4.45	646.5	尾鈴酸性岩	
943	A区	磨石	Ⅰ	9.6	8.85	3.6	439.2	砂岩	
944	B区	敲石	Ⅰ	4.4	4.2	3.65	96.7	砂岩	
945	B区	敲石	Ⅱ	7.5	4.95	2.75	161.0	砂岩	
946	B区・SA 7	敲石	Ⅲ	11.5	4.0	2.69	191.8	砂岩	
947	B区・SA 2	凹石	Ⅲ	15.8	6.8	5.0	651.0	砂岩	
948	B区・SA 7	凹石	Ⅱ	9.95	8.35	4.2	467.6	砂岩	
949	B区・SA 8	凹石	Ⅴ	10.35	6.9	3.0	315.4	砂岩	
950	B区・SA 11	凹石	Ⅴ	9.72	7.2	4.45	394.8	砂岩	
951	B区	凹石	Ⅱ	10.15	7.1	4.5	422.2	砂岩	
952	B区	凹石	Ⅱ	11.85	8.45	4.7	667.2	砂岩	
953	B区	凹石	Ⅱ	8.75	4.8	3.2	174.8	砂岩	
954	B区	凹石	Ⅱ	10.2	6.3	3.35	351.4	砂岩	
955	B区・SA 5	凹石	Ⅱ	9.15	7.6	4.1	406.8	砂岩	
956	B区	凹石	Ⅱ	11.0	8.55	4.25	566.4	砂岩	
957	B区	凹石	Ⅱ	(15.75)	10.4	5.62	(1183.2)	砂岩	
958	B区・SA 2	砥石	Ⅱ	10.25	5.8	2.0	183.3	砂岩	
959	B区・SA 3	砥石	Ⅰ	16.9	6.65	2.9	536.9	砂岩	
960	B区・SA 7	砥石	Ⅰ	13.95	4.68	3.6	384.6	砂岩	

第4表 石器計測表(4)

番号	出土地点	器種	分類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
961	B区	砥石	Ⅱ	(14.2)	(8.15)	2.45	(473.3)	砂岩	
962	B区	砥石	Ⅱ	14.9	4.8	3.05	433.7	砂岩	
963	B区	砥石	Ⅱ	11.4	5.5	2.15	234	砂岩	
964	B区	有溝砥石		(8.4)	(6.5)	1.7	(105.8)	砂岩	
965	B区・SE 1	有溝砥石		(19.0)	(12.9)	(9.45)	(2240)	砂岩	
966	B区・SI 2	石皿		(23.2)	35.5	5.6	(5860)	砂岩	
967	B区	石皿		26.0	18.25	3.7	(2710)	砂岩	
968	B区	石皿		(35.9)	(22.4)	13.1	(1090)	砂岩	
969	B区	石皿		29.7	26.3	12.2	8500	砂岩	
970	B区・SA 13	台石		16.5	13.0	5.25	1680	砂岩	
971	A区・SZ 1	台石		13.1	12.0	6.0	1238	砂岩	
972	B区・SA 5	台石		23.95	16.0	9.15	4500	砂岩	
973	B区	台石		31.15	23.15	11.9	1090	砂岩	
974	B区・SE 6	石錘	Ⅰ	5.6	5.0	4.5	151.7	砂岩	一部赤化。敲打痕あり
975	B区	石錘	Ⅰ	7.7	4.5	2.2	104.2	砂岩	
976	B区・SA 11	石錘	Ⅱ	5.65	3.3	1.8	47.2	砂岩	
977	B区・SE 6	石錘	Ⅱ	3.95	3.95	1.9	40.4	砂岩	
978	B区・SE 6	石錘	Ⅱ	2.95	2.05	1.3	9.6	頁岩	
979	B区	石錘	Ⅱ	2.9	2.3	0.85	7.5	砂岩	一部赤化
980	B区	石錘	Ⅱ	4.5	4.4	1.9	50.8	砂岩	
981	B区	石錘	Ⅱ	4.65	2.95	0.95	19.4	頁岩	
982	B区	石錘	Ⅱ	5.35	3.65	1.3	35.2	頁岩	
983	B区	石錘	Ⅱ	6.40	1.85	0.8	11.9	砂岩	
984	B区・SA 1	石錘	Ⅲ	5.65	5.05	1.95	75.6	砂岩	
985	B区・SA 2	石錘	Ⅲ	3.4	3.05	0.95	15.1	砂岩	
986	B区・SA 2	石錘	Ⅲ	7.45	6.0	1.75	110.2	砂岩	敲打痕
987	B区・SA 3	石錘	Ⅲ	6.2	6.05	2.25	107.4	砂岩	
988	B区・SA 3	石錘	Ⅲ	10.0	9.5	2.5	306.3	砂岩	
989	B区・SA 7	石錘	Ⅲ	8.4	7.0	2.85	240.2	砂岩	全体的に赤化
990	B区・SA 7	石錘	Ⅲ	10.7	6.8	2.55	199.1	砂岩	

第4表 石器計測表(5)

番号	出土地点	器種	分類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
991	B区・SA 11	石錘	Ⅲ	11.15	7.6	2.25	210.1	砂岩	
992	B区	石錘	Ⅲ	4.0	3.8	1.25	24.4	砂岩	全体的にやや赤化
993	B区	石錘	Ⅲ	6.15	6.4	2.7	151.7	砂岩	
994	B区	石錘	Ⅲ	6.8	6.55	2.15	141.5	砂岩	
995	B区	石錘	Ⅲ	7.75	7.35	2.05	162.5	砂岩	全体的にやや赤化。敲打痕
996	B区	石錘	Ⅲ	6.55	5.95	1.4	77.8	砂岩	
997	B区	石錘	Ⅲ	6.65	6.22	1.65	98.9	砂岩	全体的に赤化
998	B区	石錘	Ⅲ	5.5	4.2	1.55	54.6	砂岩	
999	B区	石錘	Ⅲ	6.4	4.5	1.8	75.7	砂岩	
1000	B区	石錘	Ⅲ	8.6	6.9	2.25	243	砂岩	
1001	B区	石錘	Ⅲ	7.9	6.15	2.7	188.6	砂岩	
1002	B区	石錘	Ⅲ	8.7	5.75	2.5	173.7	砂岩	全体的にやや赤化
1003	B区	石錘	Ⅲ	8.5	5.7	1.62	114.1	砂岩	
1004	B区	石錘	Ⅲ	9.55	6.4	1.8	147.9	砂岩	
1005	B区	石錘	Ⅲ	8.8	4.7	2.2	127.2	砂岩	
1006	B区	石錘	Ⅲ	6.95	5.6	1.0	66.8	砂岩	
1007	A区	石錘	Ⅲ	7.7	5.6	1.35	106.8	砂岩	
1008	B区	石錘	Ⅲ	15.65	13.65	5.3	1495	砂岩	
1009	A区	石錘	Ⅲ	12.7	10.4	4.4	798	砂岩	敲打痕
1010	B区	石錘	Ⅲ	12.35	10.5	2.85	575	砂岩	
1011	B区	石錘	Ⅲ	11.0	22.95	3.2	1245	砂岩	
1012	B区	石錘	Ⅳ	13.45	7.5	2.9	374.5	砂岩	
1013	B区	異形石器		(2.15)	1.35	0.45	(1.3)	黒曜石	
1014	B区・SE 6	石棒		(5.3)	1.8	1.25	(14.4)	砂岩	
1015	B区・SE 1	石棒		(5.45)	5.6	5.15	165.7	頁岩	
1016	B区	管玉		1.5	0.5	0.4	0.4	ひすい?	
1017	B区	勾玉		1.1	0.4	0.2	0.2	蛇紋岩	
1018	B区・SA 3	勾玉		1.75	0.5	0.35	0.5	蛇紋岩	
1019	B区	勾玉		1.7	0.7	0.4	0.9	蛇紋岩	
1020	B区	軽石製品	I	4.85	3.0	2.15	8.1	軽石	穿孔

第4表 石器計測表(6)

番号	出土地点	器種	分類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1021	B区	軽石製品	I	14.5	8.2	3.3	96.1	軽石	穿孔
1022	B区	軽石製品	II	15.0	11.0	5.35	202.1	軽石	
638	SA1・カマド	カマド支柱		22.3	10.18	8.69	900.3	軽石	
639	SA1	軽石製品		10.55	5.05	2.8	49.5	軽石	
690	SA2	軽石製品		10.6	4.1	4.96	36.4	軽石	穿孔あり
1041	D区・SE7	石錘		6.5	5.9	1.8	88.0	砂岩	
1042	D区・SE7	磨石		9.85	8.4	5.85	741.0	砂岩	
1180	D区・SE8	勾玉		3.0	1.05	0.9	5.9	蛇紋岩	
1181	D区・SE8	石錘		13.3	10.0	2.9	512.8	砂岩	
1182	D区・SE8	小型磨製石斧		9.15	1.75	2.5	51.4	砂岩	
1183	D区・SE8	磨製石斧		11.2	5.6	2.6	203.7	砂岩	
1184	D区・SE8	敲石		13.6	4.4	3.7	370.5	頁岩	
1185	D区・SE8	凹石		10.0	6.45	4.2	401.9	砂岩	
1186	D区・SE8	磨石		5.32	4.38	3.9	111.3	砂岩	
1187	D区・SE8	敲石		11.45	3.05	2.2	110.0	砂岩	
1188	D区・SE8	砥石		12.83	9.2	2.75	631.0	砂岩	
1189	D区・SE8	石斧		16.15	9.95	2.85	587.8	砂岩	未製品か

第5表 装身具一覧表

番号	出土地点	種別	長さ(高さ) (cm)	幅(径) (cm)	重量 (g)	色調	材質	備考
691	B区・SA3	耳環	0.48	2.35	7.5	金色	銅芯金張	
692	B区・SA3	耳環	0.5	2.38	8.2	金色	銅芯金張	

第6表 D区出土遺物観察表(1)

遺物番号	種別	器種・部位	出土地点	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
1023	縄文	深鉢口縁	D区 SE7				口縁部に貼付突帯 粗いナデ	ナデ	にぶい黄橙 黄灰	にぶい黄橙	微細な透明・半透明の粒 1mm以下の灰褐・灰色の粒	
1024	縄文	浅鉢口縁	D区 SE7				口縁部細沈線 ミガキ	ミガキ	オリーブ黒 黄灰	オリーブ黒	微細な光沢粒	
1025	縄文	浅鉢口縁 ~ 頸部	D区 SE7				口縁部に細沈線 ミガキ	ミガキ、ナデ 風化気味	褐灰	灰黄褐	微細な光沢粒 0.5mmの黒色粒	
1026	縄文	深鉢底部	D区 SE7		(8.1)		条痕の後ナデ 粘土の返り 粗いナデ	粗いナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	1.5mm以下の乳白色・透明光沢の粒	
1027	土師器	甕口縁	D区 SE7				ナデ、貼付刻目突帯	ナデ	橙	橙	1mm以下の灰白・浅黄橙・褐灰色の粒	
1028	土師器	甕頸部 ~ 胴部	D区 SE7				斜ハケ目の後ナデ、 スス付着	ナデ、斜ハケ目の後ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	5mmの茶色の粒 2mm以下の褐色の粒 1mm以下の透明光沢の粒	
1029	土師器	甕底部付近	D区 SE7				横・斜平行タタキ	ハケ目・黒斑	橙	にぶい黄橙 灰	3mm以下の茶・褐色の粒	
1030	土師器	甕底部	D区 SE7		(4.1)		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	橙	2mm以下の褐・透明光沢の粒	
1031	土師器	壺頸部	D区 SE7				貼付刻目突帯、ナデ、 風化著しい	ナデ、指頭痕	橙	橙	5.5mm以下のにぶい黄橙・赤褐色の粒 1.5mm以下の透明光沢粒	
1032	土師器	甕胴部 ~ 底部	D区 SE7				黒変、風化著しい、 ナデ	ナデ、風化著しい	明黄褐 灰	明黄褐	3.5mm以下の茶・褐・灰色の粒	
1033	土師器	壺底部	D区 SE7		(5.8)		ナデ	ナデ	橙 にぶい黄橙	黄灰	2mm以下の黒・乳白・灰白・茶褐・ 柱状黒色光沢の粒 1mm以下の無色透明光沢粒	
1034	土師器	壺底部	D区 SE7		(4.2)		ナデ、風化気味	ナデ	にぶい橙	橙 黄灰	4mm以下の茶褐・乳白・灰白・橙色 の粒 1.5mm以下の無色透明光沢粒	
1035	土師器	高坏 脚柱部	D区 SE7				ナデ	ナデ、指頭痕	にぶい橙	にぶい橙	3mm以下の褐色の粒 微細な光沢粒	
1036	土師器	高坏 裾部	D区 SE7		(15.5)		ナデ、風化著しい	ナデ	橙	橙	微細な光沢粒	
1037	土師器	甕口縁	D区 SE7				ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の褐色・無色透明の粒 3mm以下の灰白色の粒	
1038	須恵器	甕胴部	D区 SE7				平行タタキ	同心円の当て具	灰白	にぶい黄橙	精良	
1039	布痕土器	坏体部 ~ 底部	D区 SE7				ナデ	布目痕	にぶい橙	橙	3mm以下の灰・褐色の粒 13mmの小石	
1040	布痕土器	坏体部 ~ 底部	D区 SE7				ナデ	布目痕	にぶい橙	橙	1.5mm以下の褐色の粒 10mmの小石	
1043	縄文	深鉢口縁	D区 SE8				口縁部に貼付突帯 指頭痕、ナデ	ナデ、黒変	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細な透明・半透明・黒色の光沢粒 3mm以下の茶・黒・灰・黄灰色の粒	
1044	縄文	深鉢口縁	D区 SE8				口縁部に貼付突帯、ナデ	ナデ、黒斑	灰黄褐	にぶい黄橙	微細な透明・半透明・黒色の光沢粒 2mm以下の灰・黄灰・乳白色の粒	
1045	縄文	深鉢口縁	D区 SE8				口縁部に貼付突帯、黒 変、ヨコナデ	ナデ、黒変	黄灰	褐灰	2mm以下の橙・黒・茶・白・茶褐色 の粒 1mm以下の無色透明光沢粒	
1046	縄文	浅鉢口縁 ~ 胴部	D区 SE8				ヨコナデ、口縁部に細 沈線 横ミガキの後ナデ、黒 斑	横ミガキの後ナデ 口縁部に浅い沈線	暗灰黄 暗灰	暗灰黄 灰	1mm以下の黒・茶褐・灰白色の粒 微細な金色・無色透明の光沢粒	
1047	土師器	甕口縁 ~ 胴部	D区 SE8		(23.7)		ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細な透明・黒色の光沢粒 3mmの灰・褐・茶色の粒	
1048	土師器	甕胴部 ~ 底部	D区 SE8		6.2		ナデ、黒変	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細な透明・黒色の光沢粒 3mm以下の灰・褐・茶色の粒	
1049	土師器	甕口縁 ~ 胴部	D区 SE8	23.9			ヨコナデ、ナデ、スス 付着	ナデ、指頭痕、粗いナ デ	浅黄	にぶい橙	3.5mm以下の灰・褐・暗褐・乳白色 の粒 1.5mm以下の透明・黒色の光沢粒	
1050	土師器	甕口縁 ~ 胴部	D区 SE8	(23.8)			ヨコナデ、横・斜工具 ナデ、スス付着	ヨコナデ、斜ハケ目	にぶい橙	にぶい黄橙	1mm以下の褐・褐灰・黒・透明光沢の粒	
1051	土師器	甕口縁 ~ 底部	D区 SE8	(18.5)			ヨコナデ、斜ハケ目の 後ナデ、斜ハケ目、ス ス付着、指頭痕	ヨコナデ、ナデ、指頭 痕、炭化物付着、斜工 具ナデ、風化気味	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の褐色の粒 1mm以下の赤・黒色光沢・透明光沢 の粒	
1052	土師器	甕口縁 ~ 頸部	D区 SE8	(21.9)			ナデ、スス付着、指頭 痕、風化気味、粘土の つなぎ目	ヨコナデ、ナデ、工具 ナデ	にぶい橙	にぶい橙	4mm以下の褐色の粒 2mm以下の灰白・灰・黒色光沢の粒	
1053	土師器	甕口縁 ~ 胴部	D区 SE8	(15.25)			ヨコナデ、風化著しい、 黒斑	ヨコナデ、ナデ、指頭 痕、黒斑、粘土のつなぎ目	灰黄褐 灰白	にぶい黄橙	2mm以下の褐・灰白・無色透明・柱 状黒色光沢の粒	
1054	土師器	甕頸部	D区 SE8				貼付刻目突帯、ナデ	風化著しい	橙	橙	1.5mm以下の褐・白色の粒	

第6表 D区出土遺物観察表(2)

遺物番号	種別	器種・部位	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
1055	土師器	壺頭部 ~ 胸部	D区 SE8				貼付刻目突帯、ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	2mm以下の褐色の粒 1mm以下の透明光沢粒	
1056	土師器	壺底部	D区 SE8		(6.1)		ナデ、指頭痕	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	5mm以下の暗褐・淡黄色の粒 2.5mm以下の灰・淡黄・褐・乳白・ 透明光沢・黒色光沢の粒	
1057	土師器	壺底部	D区 SE8		(4.35)		ハケ目、ナデ	ナデ、黒変	淡橙	灰白 黄灰	3.5mm以下の褐・灰褐色の粒 1mm以下の黒色光沢粒	
1058	土師器	壺胸部 ~ 底部	D区 SE8		5.4		ナデ、スス付着	ナデ、黒変	にぶい黄橙	明褐灰 褐灰	3mm以下の褐・灰褐・灰白色の粒 7mmの浅黄褐色粒	
1059	土師器	壺胸部 ~ 底部	D区 SE8		(5.0)		丁寧なナデ、ナデ	ナデ、黒変、指頭痕	灰黄褐	にぶい黄褐	4.5mm以下の褐灰色の粒	
1060	土師器	壺底部	D区 SE8		3.4		ナデ、タタキ	ナデ	橙	褐灰	6mm以下の灰白・褐灰・褐・灰褐色 の粒	
1061	土師器	壺底部	D区 SE8		4.9		ナデ、指頭痕	ナデ	にぶい黄橙	褐灰	3mm以下の褐灰・赤褐・黒・褐・灰 褐色の粒	
1062	土師器	壺底部	D区 SE8		(8.1)		ナデ、粗いナデ	ナデ、指頭痕	橙	にぶい黄橙	3mm以下の灰白・褐灰色の粒 1.5mm以下の赤褐・透明光沢の粒	
1063	土師器	壺底部	D区 SE8		7.75		タタキの後ナデ、指頭 痕 スス付着	ナデ、指頭痕	にぶい黄橙 にぶい橙	にぶい黄橙 褐灰	3.5mm以下の褐灰・褐・赤褐色の粒	底部輪台
1064	土師器	壺頭部 ~ 底部	D区 SE8				ナデ、貼付突帯(突帯 に連続押圧)、斜ハケ 目、黒変、風化気味	ナデ、斜ハケ目 指頭痕、風化気味	浅黄橙	にぶい橙	微細な透明・半透明・黒色の光沢粒 1mm以下の茶・褐・灰色の粒	二重口縁
1065	土師器	壺頭部	D区 SE8				貼付刻目突帯、ナデ	ナデ、風化気味	にぶい橙	にぶい黄橙	1.5mm以下の黒・茶・乳白色の粒 1mm以下の無色透明光沢粒	
1066	土師器	壺頭部 ~ 肩部	D区 SE8				貼付刻目突帯、ナデ、 風化気味	ナデ、指頭痕、風化気 味	橙	橙 にぶい黄橙	2mm以下の乳白・黒・茶・茶褐・灰 白色の粒	
1067	土師器	壺口縁 ~ 頸部	D区 SE8	(26.8)			ナデ、横ハケ目、指頭 痕	ナデ、丁寧なナデ	浅黄橙 褐灰	浅黄橙 灰黄褐 褐灰	1mm以下の灰白色の粒 1mm以下の無色透明光沢・黒色光沢 の粒	二重口縁
1068	土師器	壺口縁 ~ 頸部	D区 SE8	(16.3)			ナデ、横ハケ目、指頭 痕 風化気味	横・斜ハケ目、指頭痕、 丹塗り 風化気味	にぶい橙 にぶい黄橙	にぶい黄橙 にぶい橙	4mm以下の褐・褐灰・透明光沢の粒	二重口縁
1069	土師器	壺口縁	D区 SE8	(13.7)			ナデ、風化著しい	ナデ、風化著しい	灰白 黄灰	灰白	1.5mmの灰白の粒 きめ細かな光沢粒	
1070	土師器	壺肩部 ~ 胸部	D区 SE8				ミガキの後ナデ、斜ミ ガキ、黒斑、スス付着	ナデ、指頭痕、炭化物 付着、黒斑	橙 にぶい黄橙	灰黄	微砂粒	
1071	土師器	壺口縁 ~ 胸部	D区 SE8	(18.0)			ナデ、タタキ、平行タ タキ、黒変 風化気味	ナデ、指頭痕 風化気味	にぶい橙	にぶい褐	5mm以下の暗褐・褐灰・赤褐色の粒	
1072	土師器	壺底部	D区 SE8		(3.25)		ナデ、工具ナデ	ナデ、黒変	橙 明黄褐	明褐灰 褐灰	3mm以下の灰白・褐灰色の粒 2mm以下の赤褐色の粒 1mm以下の透明光沢粒	
1073	土師器	壺底部	D区 SE8		(5.35)		斜タタキ、ナデ	丁寧なナデ、黒変	にぶい黄橙	灰黄褐 褐灰	3mm以下の灰褐色の粒	
1074	土師器	壺底部	D区 SE8		(5.7)		粗いナデ、縦工具ナデ	工具ナデ、黒変	明赤褐	黄褐 黒褐	2mm以下のにぶい赤褐・明赤褐色の 粒 1mm以下の透明・黒色の光沢粒	
1075	土師器	壺底部	D区 SE8		6.2		ナデ、スス付着	ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	にぶい橙	9mm以下の褐灰・灰褐・透明光沢の 粒	
1076	土師器	壺底部	D区 SE8		4.1		ナデ	ナデ	灰白	にぶい黄褐 褐灰	6mmの灰黄褐色粒 2mm以下の灰黄褐・無色透明光沢の 粒	
1077	土師器	壺底部	D区 SE8		(2.2)		ナデ	ナデ	にぶい橙	褐灰	2.5mm以下の灰・茶・白・灰白・乳 白色の粒 1mm以下の無色透明光沢粒	
1078	土師器	壺底部	D区 SE8		3.8		ナデ、スス付着	工具ナデ、指頭痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰・茶・褐・灰白透明光 沢・黒色光沢の粒	底部輪台
1079	土師器	壺胸部 ~ 底部	D区 SE8				ハケ目の後ナデ、ナデ	ナデ、黒変	にぶい黄橙	にぶい黄褐	1mm以下の黄灰・暗褐色の粒	
1080	土師器	壺胸部 ~ 底部	D区 SE8				ナデ	ナデ、黒変、指頭痕	にぶい橙	にぶい黄橙	1mmの暗褐・灰・灰白色の粒	
1081	土師器	壺底部	D区 SE8				ナデ、指頭痕	ナデ、指頭痕、黒斑	にぶい褐	灰	3mm以下の褐色の粒 1mm以下の透明光沢粒	
1082	土師器	壺底部	D区 SE8				ナデ、風化著しい	風化著しい	にぶい黄橙	にぶい橙	2mm以下の白・褐色の粒	
1083	土師器	壺胸部 ~ 底部	D区 SE8				ナデ、黒変、スス付着	ナデ、斜工具ナデ 黒斑	灰黄褐	にぶい橙	1.5mm以下の灰白・褐色の粒 2mm以下の無色透明・柱状黒色の光 沢粒	
1084	土師器	高坏 ~ 坏底部	D区 SE8				ミガキ、丹塗り	風化著しい	明赤褐	にぶい黄褐	1mm以下の黒・暗褐色の粒	

第6表 D区出土遺物観察表(3)

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
1085	土師器	高坏坏部	D区 SE8	(19.7)			ナデ、ハケ状工具ナデ ヨコナデ、風化著しい	ヨコナデ、ハケ状工具 ヨコナデ	にぶい黄	にぶい橙	きめ細かな光沢粒 0.5mm以下の褐灰・黒色光沢の粒	
1086	土師器	高坏坏部 脚柱部	D区 SE8	(10.1)			ナデ、風化気味	ナデ	明赤褐 にぶい橙	明赤褐 にぶい黄褐	1.5mm以下の灰白・褐灰・黒褐・半透明光沢の粒	
1087	土師器	高坏坏部	D区 SE8				ナデ、風化著しい	ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の無色透明光沢粒	
1088	土師器	高坏坏底部	D区 SE8				風化著しい	風化著しい	橙	橙	1mm以下の灰白色の粒	
1089	土師器	高坏坏底部	D区 SE8				風化著しい	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の黒・灰白・褐灰色の粒	
1090	土師器	高坏坏底部	D区 SE8				ナデ、黒変 風化気味	ミガキ?風化気味	橙 暗灰黄 灰黄	灰黄褐	1mm以下の灰白・黄灰・赤褐色の粒 0.6mm以下の透明光沢粒	
1091	土師器	高坏脚柱部	D区 SE8				ナデ、黒変	ナデ	橙 褐灰	橙	2mm以下の灰白・透明光沢の粒	
1092	土師器	高坏脚柱部	D区 SE8				斜ミガキの後ナデ 風化気味	ナデ、丁寧なナデ	にぶい黄橙	灰黄 黄灰	2mm以下の茶・白・黒・灰白・柱状 黒色光沢の粒 1mm以下の無色透明光沢粒	
1093	土師器	高坏脚柱部	D区 SE8				風化著しい 黒斑	ナデ	灰黄	灰黄	2mm以下の茶・黒褐・茶褐・淡黄色 の粒 1mm以下の無色透明光沢粒	
1094	土師器	鉢?底部	D区 SE8	(20.0)			タタキの後ナデ、ナデ	ナデ、指頭痕、炭化物 付着	灰褐 にぶい橙	にぶい黄橙	5mm以下の灰・淡黄・暗褐色の粒 2mm以下の灰・茶・暗褐色の粒	
1095	小型土器	埴口縁 頸部	D区 SE8	(13.4)			ナデ	ナデ	橙	灰黄 にぶい橙	1mm以下の淡黄・灰・透明光沢の粒	
1096	小型土器	埴頸部 底部	D区 SE8				ナデ、黒斑	ナデ、指頭痕、工具痕、 黒斑	灰黄	灰黄	1mm以下の黒・灰白・金色光沢の粒	
1097	小型土器	埴頸部 肩部	D区 SE8				横ミガキ	ナデ	にぶい黄橙	褐灰	1mm以下の灰褐・浅黄橙・褐・黒色 光沢の粒	
1098	小型土器	埴頸部 肩部	D区 SE8				ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の灰白・褐灰・赤褐色の粒	
1099	小型土器	埴底部	D区 SE8				ナデ	ナデ	灰褐	灰褐	5mm以下の茶褐・黒・乳白色の粒 1mm以下の無色透明光沢粒	
1100	土師器	埴口縁 胴部	D区 SE8	(24.4)			ナデ、ハケ状工具による ヨコナデ、斜ハケ目	ハケ状工具によるヨコ ナデ、ヨコナデ、ナデ、 縦・斜ケズリ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の灰白・褐・灰色の粒	
1101	土師器	埴口縁 胴部	D区 SE8	(23.5)			ナデ、ハケ状工具による ヨコナデ、黒斑	ハケ状工具によるヨコ ナデ、指頭痕、縦ケズリ	黄灰	黄灰	2mm以下の灰褐・赤褐・褐色の粒	
1102	土師器	埴口縁 胴部	D区 SE8	(25.1)			ヨコナデ、ハケ状工具による ヨコナデ、スス付着	ハケ状工具によるヨコ ナデ、縦ケズリ、炭化 物付着	にぶい黄橙 褐灰	灰黄褐 黒褐	5mm以下の灰褐色の粒 2mm以下の赤褐色の粒	
1103	土師器	埴口縁 胴部	D区 SE8	(23.0)			ハケ状工具によるヨコ ナデの後ナデ、ナデ	ハケ状工具によるヨコ ナデ、縦ケズリ	にぶい橙	にぶい黄橙 褐灰	3mm以下の褐・茶色の粒	
1104	土師器	埴口縁 胴部	D区 SE8	(24.1)			ナデ、ハケ状工具による ヨコナデ	ハケ状工具によるヨコ ナデ、ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	4.5mm以下の茶・褐色の粒	
1105	土師器	埴口縁 胴部	D区 SE8	(26.6)			ナデ、ハケ状工具による ヨコナデ	ハケ状工具によるヨコ ナデの後ナデ、ナデ、 指頭痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	5mm以下の褐灰・灰褐色の粒 2mm以下の赤褐色の粒	
1106	土師器	埴口縁 胴部	D区 SE8	(28.5)			ヨコナデ、縦・横ハケ 目	横ハケ目、縦ケズリ	褐灰 灰白	灰白	4mm以下の灰白・灰・褐色の粒	
1107	土師器	埴口縁 胴部	D区 SE8	(25.2)			ナデ、黒変	ナデ、縦ケズリ	浅黄橙	浅黄橙	2mm以下の茶・褐・灰・黒色の粒	
1108	土師器	埴口縁 胴部	D区 SE8	(23.9)			ヨコナデ、黒斑、横ハ ケ目の後ナデ	横ハケ目、ナデ	灰黄褐 黄褐	灰黄褐	4mm以下の茶・茶褐・灰・黒褐色の 粒 1mm以下の無色透明光沢粒	
1109	土師器	埴口縁 胴部	D区 SE8	(29.6)			工具によるヨコナデ	ヨコナデ、黒変、ナデ、 指頭痕、斜ケズリ	にぶい赤褐	灰黄褐	5.5mm以下の褐色の粒 3mm以下の褐色の粒 微細な黒・透明光沢の粒	
1110	土師器	埴口縁 胴部	D区 SE8	(31.8)			ナデ、スス付着	ナデ、指頭痕、斜ケズリ	浅黄 橙	にぶい褐 橙	7mm以下の灰・褐・暗褐・茶色の粒	
1111	土師器	埴口縁 胴部	D区 SE8	(23.4)			ヨコナデ、ハケ状工具による ヨコナデ	ヨコナデ、工具による ヨコナデの後ナデ	にぶい橙	にぶい褐	5mm以下の褐色の粒 4mm以下の褐色の粒 2mmの乳白色の粒 1.5mm以下の透明光沢粒	
1112	土師器	埴口縁 胴部	D区 SE8	(17.6)			ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ、指頭 痕、斜ケズリ	灰褐 にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の赤褐色の粒 3mm以下の灰色の粒 1cmの灰色の小石粒	
1113	土師器	埴口縁 底部付近	D区 SE8	(22.2)			ヨコナデ、ナデ、指頭 痕、スス付着	ナデ、縦ケズリ、指頭 痕	浅黄橙 にぶい橙	浅黄橙	5mm以下の褐灰・灰褐・赤褐・褐色 の粒	
1114	土師器	埴口縁 胴部	D区 SE8	(25.0)			工具によるヨコナデ、 指頭痕、黒変、スス付 着	ヨコナデ、ヘラ記号 「+」、縦ケズリの後横 ナデ、黒変	灰黄褐 にぶい黄橙	にぶい黄橙	5mm以下の赤褐色の粒 4mm以下の灰色の粒 4.5mm以下の褐・赤褐色の粒 3mm以下の乳白・黒色光沢の粒	

第6表 D区出土遺物観察表(4)

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
1115	土師器	壺口縁 ~胴部	D区 SE8	(14.3)			風化気味、ヨコナデ	ナデ、斜ケズリ	灰黄褐	灰黄褐	2mm以下の赤褐・灰色の粒	
1116	土師器	壺口縁 ~胴部	D区 SE8	(19.1)			ナデ、ハケ状工具によるヨコナデ、風化気味	ハケ状工具によるヨコナデ、縦ケズリ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	5mm以下の褐灰・灰・灰黄褐色の粒	
1117	土師器	壺口縁 ~胴部	D区 SE8	(17.6)			ヨコナデ、ハケ状工具によるヨコナデ、炭化物付着、風化気味	粗いナデ、風化気味、黒変	にぶい黄橙	にぶい黄橙 褐灰	3mm以下の茶黒・茶褐・乳白色の粒 微細な無色透明光沢の粒	
1118	土師器	壺口縁 ~底部付近	D区 SE8				ナデ、横・斜タタキ	ナデ、黒変	明褐灰 灰黄	褐灰	3mm以下の灰褐・褐色の粒 1mm以下の無色透明光沢粒	
1119	土師器	壺口縁 ~底部	D区 SE8	26.35		23.25	ナデ、ハケ状工具によるナデ	ナデ、縦ケズリ	にぶい褐	にぶい褐	6mm以下の褐灰・灰褐・灰・暗褐色の粒	
1120	土師器	小型壺 口縁 ~底部	D区 SE8	(11.9)	4.0	(10.1)	ナデ、黒変、格子目タタキ? 風化著しい	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細な透明・黒色の光沢粒 3mm以下の茶・褐・黒・灰・乳白色の粒	
1121	土師器	壺口縁	D区 SE8	(13.4)			ヨコナデ、タタキ、ナデ タタキの後ナデ	指頭痕、ナデ	浅黄橙	浅黄橙	2mm以下の茶・黒褐・乳白色の粒	
1122	土師器	鉢口縁 ~底部付近	D区 SE8	(19.8)			ナデ、ハケ状工具によるヨコナデの後ナデ	ナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	灰黄褐	4mm以下の灰・にぶい黄橙色の粒	
1123	土師器	坏口縁 ~底部	D区 SE8	(12.2)	(7.4)	(3.39)	ハケ状工具によるヨコナデ	ヨコナデ	灰白 黄灰	黄灰	2mm以下の褐灰・黒色の粒 1mm以下の灰白・無色透明光沢の粒	ヘラ切り底
1124	土師器	坏口縁 ~底部	D区 SE8		7.5		ヨコナデ、粗いナデ	ヨコナデ	にぶい褐	にぶい橙	精良	ヘラ切り底
1125	土師器	坏口縁 ~底部	D区 SE8	13.5	7.5	3.8	ヨコナデ、風化著しい	ヨコナデ、黒変、ナデ	灰褐	褐灰 明褐灰	1mm以下の灰褐・褐・無色透明光沢の粒	ヘラ切り底
1126	土師器	坏口縁 ~底部	D区 SE8	12.6	7.7	4.3	ヨコナデ、風化著しい、黒斑	ヨコナデ、黒変	灰黄褐 明褐灰	明褐灰 褐灰	2mm以下の灰褐・灰白・無色透明光沢の粒	ヘラ切り底
1127	土師器	坏口縁 ~底部	D区 SE8	(12.5)	(7.25)	(3.95)	黒斑、ハケ状工具によるヨコナデ	ハケ状工具によるナデ	浅黄橙	灰白 明褐灰	1mmの茶褐・灰褐・無色透明光沢の粒	ヘラ切り底
1128	土師器	坏口縁 ~底部	D区 SE8	(12.9)	(8.3)	(3.4)	回転ナデ	回転ナデ、ナデ、黒斑	橙	橙	微細な半透明光沢粒 2mm以下の灰・黄灰の粒	ヘラ切り底
1129	土師器	坏口縁 ~底部	D区 SE8	(13.0)	(7.0)	(3.9)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ヘラ記号「+」?	にぶい褐 にぶい橙	にぶい褐	精良	ヘラ切り底
1130	土師器	坏口縁 ~底部	D区 SE8	(15.65)	8.1	(4.25)	ナデ、炭化物付着	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	精良	ヘラ切り底
1131	土師器	坏口縁 ~底部	D区 SE8	15.3	8.25	3.9	回転ナデ、黒色物付着、ナデ	回転ナデ、黒色物付着、墨痕?	にぶい橙	にぶい橙	微細な灰・乳白色の粒	ヘラ切り底
1132	土師器	坏口縁 ~底部	D区 SE8	(16.7)	(8.1)	(4.35)	ナデ	ナデ	にぶい褐	橙	きめ細か	ヘラ切り底
1133	土師器	坏口縁 ~底部	D区 SE8	15.85	8.4	4.65	ナデ、風化気味、スス付着	ナデ、風化気味、炭化物付着	にぶい橙	浅黄橙	精良	ヘラ切り底
1134	土師器	坏口縁 ~底部	D区 SE8	(15.3)	(8.0)	(4.95)	ナデ、粘土の返り	黒色物付着、ナデ	にぶい橙	橙	きめ細か 1mm以下の浅黄橙・褐色の粒	ヘラ切り底
1135	土師器	坏口縁 ~底部付近	D区 SE8	(16.2)			ナデ	風化著しい	淡黄	浅黄橙	1mm以下の淡黄色の粒	ヘラ切り底
1136	土師器	坏口縁 ~底部	D区 SE8	13.1	6.3	4.4	回転ナデの後ナデ 横工具ナデ	ナデ	にぶい黄橙 灰黄褐	にぶい黄橙 にぶい橙	きめ細か 2mm以下の褐・赤褐・褐灰色の粒	
1137	土師器	坏口縁 ~底部	D区 SE8				回転ナデの後ナデ	ヨコナデ、ナデ	浅黄	浅黄	きめ細か	
1138	土師器	坏体部 ~底部	D区 SE8		7.1		ナデ、スス付着	ナデ、黒色物付着	にぶい橙	にぶい橙	きめ細か 微細な灰白・褐・褐灰・黒色光沢・透明光沢の粒	ヘラ切り底
1139	土師器	坏体部 ~底部	D区 SE8		7.0		ナデ、ヘラ切り、風化気味 粘土の返り	風化気味、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微砂粒	ヘラ切り底
1140	土師器	坏体部 ~底部	D区 SE8		7.0		ナデ、ヘラ切り 風化気味	ナデ、黒色物付着 風化気味	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微砂粒	ヘラ切り底
1141	土師器	坏体部 ~底部	D区 SE8		7.6		ナデ、粘土のかえり	ナデ	橙 褐灰	橙 灰褐	きめ細か 微細な灰白・褐灰色の粒	ヘラ切り底
1142	土師器	坏体部 ~底部	D区 SE8		7.4		ナデ、粘土のかえり	ナデ、黒色物付着	にぶい橙	にぶい橙	きめ細か 微細な透明光沢粒	ヘラ切り底
1143	土師器	坏体部 ~底部	D区 SE8		7.4		ナデ	ナデ	にぶい橙 橙	にぶい橙	きめ細か	ヘラ切り底
1144	土師器	坏体部 ~底部	D区 SE8		7.75		ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、黒色物付着	にぶい橙	にぶい褐	きめ細か 微細な光沢粒	ヘラ切り底

第6表 D区出土遺物観察表(5)

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
1145	土師器	坏体部 ~ 底部	D区 SE8		8.55		風化著しい、ナデ	風化著しい	にぶい橙	橙 にぶい黄橙	3mm以下の茶・褐色の粒	ヘラ切り底
1146	土師器	坏体部 ~ 底部	D区 SE8		8.7		ナデ、風化著しい	ナデ、風化著しい	にぶい橙	にぶい黄橙	1mm以下の透明光沢粒 0.5mm以下の茶色の粒	ヘラ切り底
1147	土師器	坏体部 ~ 底部	D区 SE8		(8.4)		ヨコナデ、ナデ、ヘラ 記号	ナデ	にぶい橙	橙	きめ細か 灰白色の粒	ヘラ切り底
1148	須恵器	坏体部 ~ 底部	D区 SE8		(9.0)		ナデ	ナデ	灰白	灰白 灰黄	きめ細か	焼成不良 ヘラ切り底
1149	土師器	高台付坏 体部 ~ 底部	D区 SE8				ナデ、指頭痕、風化気 味	ナデ、風化気味	浅黄	浅黄	1mm以下の茶色の粒	
1150	黒色土器	坏口縁 ~ 底部	D区 SE8	(16.9)	(6.9)	(4.85)	横ミガキ、風化気味 ヘラ削り、ナデ	ヨコミガキの後丁寧な ナデ	褐灰	黒	きめ細か 微細な無色透明光沢粒	ヘラ切り底
1151	黒色土器	坏口縁 ~ 底部	D区 SE8	(15.4)	(6.3)	(4.79)	ナデ、風化著しい ヘラ削り	ミガキ後丁寧なナデ	にぶい黄	黒	きめ細か 微細な無色透明光沢粒	ヘラ切り底
1152	布痕土器	坏口縁 ~ 底部	D区 SE8	(14.8)			ナデ、指頭痕	布目痕	橙	橙	3mm以下の灰褐・褐灰色の粒	
1153	布痕土器	坏口縁 ~ 体部	D区 SE8	(13.8)			ナデ、指頭痕	布目痕	にぶい橙	にぶい橙	8mm以下の浅褐色の粒	
1154	布痕土器	坏口縁 ~ 体部	D区 SE8	(14.8)			ナデ、指頭痕	布目痕	にぶい橙	にぶい橙	4.5mm以下の浅褐・褐色の粒	
1155	布痕土器	坏口縁 ~ 体部	D区 SE8	(15.6)			ナデ、指頭痕、風化気 味	布目痕	にぶい橙	橙	2mm以下の灰・暗褐色の粒	
1156	布痕土器	坏口縁 ~ 底部付近	D区 SE8	(14.9)			ナデ、風化気味、指頭 痕	布目痕	にぶい橙	にぶい褐	1mm以下の無色透明光沢粒 1.5mm以下の浅赤色の粒	
1157	布痕土器	坏口縁 ~ 体部	D区 SE8	(12.7)			指頭痕、ナデ	布目痕	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の透明光沢粒 0.5mm以下の褐・白色の粒	
1158	布痕土器	坏口縁 ~ 底部付近	D区 SE8	(14.5)			指頭痕、ナデ、風化気 味	布目痕	橙	橙	13mmの橙色の小石 4.5mm以下の橙色の粒 微細な透明光沢の粒	
1159	布痕土器	坏口縁 ~ 底部	D区 SE8	15.25		11.15	ナデ、指頭痕	布目痕	赤 にぶい橙	明赤褐	10mmのにぶい橙色の粒 3mm以下の褐灰色の粒 1mm以下の透明・黒色の光沢粒	
1160	布痕土器	坏口縁 ~ 底部	D区 SE8	(14.0)		(11.3)	風化気味、指頭痕、ナ デ	布目痕	橙	橙	2mm以下の透明光沢粒 1mm以下の橙色の粒 微細な乳白色の粒	
1161	布痕土器	坏口縁 ~ 底部	D区 SE8	(12.55)		(11.95)	ナデ、指頭痕	布目痕	にぶい橙	にぶい橙	3.5mm以下の茶色の粒 1mm以下の黒色・透明の光沢粒	
1162	布痕土器	坏口縁 ~ 体部付近	D区 SE8	(13.8)			ナデ、指頭痕、スス付 着	布目痕	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の灰白・灰色の粒 微細な黒色・光沢の粒	
1163	布痕土器	坏口縁 ~ 体部付近	D区 SE8	(13.4)			ナデ、指頭痕	布目痕	橙	にぶい橙	11mm以下の茶・灰・暗褐色・褐色の 粒	
1164	布痕土器	坏口縁 ~ 体部付近	D区 SE8				ナデ、指頭痕	布目痕	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の灰白・灰褐色の粒 微細な光沢粒	
1165	布痕土器	坏口縁 ~ 底部	D区 SE8	(11.1)		13.4	風化気味、指頭痕、ス ス付着、ナデ	布目痕	にぶい橙	橙	3.5mm以下の茶色の粒	
1166	布痕土器	坏口縁 ~ 底部	D区 SE8	10.1		5.3	ナデ、指頭痕、風化気 味	布目痕	橙	橙	8mm以下の褐・黒・灰色の粒	
1167	布痕土器	坏口縁 ~ 底部	D区 SE8	(9.3)		(5.8)	指頭痕、ナデ、風化気 味 工具痕	布目痕	橙	橙	4mmの橙色の粒 微細な乳白色の粒	
1168	布痕土器	坏口縁 ~ 底部	D区 SE8	9.2		4.8	風化気味、指頭痕、ナ デ	布目痕	浅黄橙	橙	13mmの褐色の小石 7mm以下の褐・灰・黒色の粒	
1169	布痕土器	坏口縁 ~ 底部	D区 SE8	(10.1)			風化著しい、指頭痕、 ナデ	布目痕	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の褐色の粒 きめ細か	
1170	布痕土器	坏口縁 ~ 体部	D区 SE8	(11.0)			風化著しい、指頭痕、 ナデ	風化著しい、布目痕	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の褐色の粒 きめ細か	
1171	須恵器	蓋 口縁	D区 SE8	(16.0)			回転ナデ	黒色物付着、回転ナデ	灰	灰	精良	
1172	須恵器	甕 口縁	D区 SE8				ヨコナデ	ヨコナデ、風化気味	灰	灰	精良	焼成不良
1173	須恵器	壺 肩部	D区 SE8				ヨコナデ	ヨコナデ	灰	灰	精良	
1174	須恵器	甕 胴部	D区 SE8				縦・斜平行タタキ、ナ デ	黒色物付着、同心円当 て具 同心円当て具の後平行 当て具	にぶい黄橙	にぶい黄橙	精良	

第6表 D区出土遺物観察表(6)

遺物番号	種別	器種・部位	出土地点	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
1175	須恵器	甕胴部	D区 SE8				平行タタキ	同心円当て具	灰白	灰白	きめ細か 6mm以下の褐灰・赤褐色の粒	焼成不良
1176	須恵器	甕胴部	D区 SE8				格子目タタキの後縦・斜カキ目 自然釉	平行当て具	灰	灰	精良	
1179	土製品	フィゴの羽口	D区 SE8				ガラス質自然釉付着		灰オリーブ 灰白 オリーブ黒	にぶい橙	細砂粒	

第7表 E区出土遺物観察表(1)

遺物番号	種別	器種・部位	出土地点	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
1190	土師器	甕口縁 ~胴部	E区 SZ1	(18.0)			ナデ、黒斑	ナデ	明黄褐 黒褐	にぶい黄橙	5mm以下の褐灰・灰褐色の粒 1mm以下の半透明・黒色光沢・褐色の粒	
1191	土師器	甕胴部 ~底部	E区 SZ1				ナデ、スス付着	ナデ	明黄褐 黒褐	にぶい黄橙	5mm以下の褐灰・灰褐色の粒 1mm以下の半透明・黒色光沢・褐色の粒	
1192	土師器	甕口縁 ~胴部	E区 SZ1	(20.8)			ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	6.5mm以下の褐灰・赤褐・褐色の粒	
1193	土師器	甕口縁 ~胴部	E区 SZ1	(14.6)			ナデ	ナデ、高師小僧	橙 にぶい橙	にぶい橙	5mm以下の褐灰・褐・赤褐色の粒 5mmの高師小僧	
1194	土師器	甕口縁 ~頸部	E区 SZ1				ナデ、風化気味	ナデ、風化気味	橙	橙	5mm以下の褐灰・褐・黄褐色の粒	
1195	土師器	甕口縁 ~胴部	E区 SZ1				ナデ、風化気味	黒斑、ヨコナデ	にぶい黄橙	黄灰	4mm以下の赤褐色の粒 3mm以下の灰白色の粒 微細な透明光沢・乳白色の粒	
1196	土師器	甕口縁 ~頸部	E区 SZ1	(21.2)			風化著しい	風化著しい	にぶい橙 淡黄	にぶい橙 淡黄	3mm以下の灰褐・灰・浅黄色の粒	
1197	土師器	甕口縁	E区 SZ1	(18.4)			ナデ	横ハケ目、ナデ	にぶい橙	にぶい橙	7mm以下の褐色の粒 3mm以下の灰色の粒 5mm以下の茶褐色の粒	
1198	土師器	甕口縁	E区 SZ1	(21.8)			ナデ、風化著しい	ナデ、風化著しい	橙	橙	5mm以下の褐・赤褐色の粒 3mm以下の灰色の粒 4mm以下の灰白色の粒	
1199	土師器	甕口縁 ~頸部	E区 SZ1	(15.0)			ナデ、風化気味	ナデ、風化気味	にぶい黄橙	にぶい黄橙	5mm以下の褐色の粒 4mm以下の乳白色の粒 1mmの赤色の粒 微細な光沢の粒	
1200	土師器	甕口縁 ~頸部	E区 SZ1	(20.2)			ナデ	ナデ、風化気味	橙 にぶい黄橙	にぶい橙	5mm以下の灰褐・灰白色の粒	
1201	土師器	甕口縁 ~頸部	E区 SZ1				ナデ	ヨコナデ	浅黄橙 にぶい橙	橙	4mm以下の褐灰・褐色の粒	
1202	土師器	甕口縁 ~頸部	E区 SZ1				ナデ、スス付着	ナデ、粗いナデ	にぶい黄橙	褐灰	3mm以下の褐色の粒	
1203	土師器	甕底部	E区 SZ1			(10.9)	ナデ	ナデ、工具ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	5mm以下の褐色の粒	
1204	土師器	甕胴部 ~底部	E区 SZ1			9.0	ナデ	ナデ	にぶい橙 灰黄褐	浅黄橙	4.5mm以下の赤褐色の粒 2.5mm以下の乳白色の粒	
1205	土師器	鉢口縁 ~底部	E区 SZ1	26.3		8.65	ナデ、ヨコナデ、スス付着 黒変	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	5mm以下の明褐・褐・褐灰色の粒	
1206	須恵器	甕胴部	E区 SZ1				格子目叩きの上をカキ目、自然釉	同心円当て具痕の上をナデ	暗灰黄 にぶい黄	灰	精良	
1207	土師器	蓋つまみ ~口縁	E区 SZ1	(12.25)		(2.5)	ナデ	ナデ	灰黄	浅黄	1mm以下の明赤褐色の粒 きめ細か	
1208	土師器	坏口縁 ~底部	E区 SZ1	13.55	6.9	4.25	ナデ、風化気味	ナデ、風化気味	橙	橙	1mm以下の褐・淡黄・透明光沢の粒	ヘラ切り底
1209	土師器	坏口縁 ~底部	E区 SZ1	(13.4)	7.65	4.3	ナデ、風化著しい	ナデ、風化著しい	橙	橙	1mm以下の茶色の粒	ヘラ切り底
1210	土師器	坏口縁 ~底部	E区 SZ1			7.3	ナデ	ナデ	橙	橙	きめ細か	ヘラ切り底
1211	土師器	坏口縁 ~体部	E区 SZ1	(16.4)			ナデ、風化著しい	ナデ、風化著しい	にぶい黄橙	にぶい黄橙 にぶい橙	きめ細か 微細な浅黄褐色の粒	
1212	土師器	坏体部 ~底部	E区 SZ1			(8.15)	風化著しい	風化著しい	橙	橙	1mm以下の茶色の粒	
1213	土師器	坏体部 ~底部	E区 SZ1			(7.2)	ナデ	ナデ	にぶい橙	橙 にぶい橙	きめ細か 微細な褐色の粒	ヘラ切り底

第7表 E区出土遺物観察表(2)

遺物番号	種別	器種・部位	出土地点	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
1214	布痕土器	坏口縁~体部	E区 SZ1	(12.6)			ナデ、風化著しい	風化著しい 布目痕	にぶい黄橙	灰黄	8.5mm以下の灰色小石 7mmの赤褐色の粒	
1215	布痕土器	坏口縁~体部	E区 SZ1				ナデ、風化著しい	指頭痕、風化著しい	にぶい橙 にぶい黄橙	にぶい橙	7.5mm以下の赤褐色小石 5mm以下の灰白色の粒	
1216	布痕土器	坏体部~底部	E区 SZ1				ナデ、風化気味	風化著しい	明褐灰	淡赤橙	5mm以下の浅橙・褐・浅黄色の粒	
1217	布痕土器	坏体部	E区 SZ1	(12.15)			ナデ	布目痕、風化気味	橙	橙	微細な光沢・浅黄色の粒	
1221	縄文	深鉢胴部	E区				棒状工具による押し引き、黒斑、スス付着	貝殻条痕、黒変	にぶい褐 黒	灰褐 黒	3mm以下の浅黄・褐・無色透明光沢の粒	同一個体 深浦式
1222	縄文	深鉢胴部	E区				刻目付貼付隆帯文、棒状工具による押し引き、黒斑	ナデ	灰黄褐	にぶい褐	2.5mm以下の浅黄色の粒 1mm以下の黒・無色透明光沢の粒	
1223	縄文	深鉢底部	E区		(11.25)		ナデ、指頭痕、風化気味	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	3mm以下の褐・灰白色の粒 1.5mm以下の黒色・無色透明の光沢粒	
1224	弥生	甕底部	E区 SZ1		5.5		風化気味、ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	4.5mm以下の褐色の粒 1mmの白灰色の粒	
1225	土師器	甕底部	E区 SZ1		6.9		風化気味、ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	3.5mm以下の灰白・褐・浅黄色の粒	
1226	土師器	高坏脚柱部	E区 SZ1				ナデ、風化気味、黒斑	ナデ	にぶい橙 灰黄	にぶい橙	1mm以下の茶・黒・乳白色の粒 微細な無色透明光沢粒	
1227	土師器	高坏脚柱部	E区				ナデ	ナデ	橙	橙	3mm以下の淡黄・乳白・茶褐・黒色の粒	
1228	土師器	壺頸部~胴部	E区 SZ1				ナデ、スス付着、斜ハケ目	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	3mm以下の褐灰・浅黄・灰白・赤褐色の粒	
1229	土師器	壺底部	E区		3.8		ナデ	ナデ	浅黄橙 灰白	灰白 灰黄	3.5mm以下の灰褐・褐色の粒	
1230	土師器	壺底部	E区 SZ1		(3.3)		風化著しい	ナデ、黒斑	浅黄橙	灰	2mm以下の灰・褐・半透明光沢の粒 3mm以下の柱状黒色光沢粒	
1231	土師器	甕口縁~胴部	E区	(25.8)			風化気味、ナデ	ナデ、風化気味	橙	にぶい橙	6mm以下の茶・黄灰・灰・黒・乳白色の粒 微細な黒色光沢粒	同一個体
1232	土師器	甕底部	E区		(8.8)		風化著しい	ナデ、風化気味	にぶい橙	にぶい橙	微細な黒色光沢粒 4mm以下の茶・黄灰・灰・黒色の粒	
1233	土師器	甕口縁	E区				ナデ	ナデ、風化気味	浅黄橙 灰白	にぶい橙 灰白	3mm以下の灰褐・茶褐・乳白色の粒	
1234	土師器	甕口縁	E区	(21.5)			横工具ナデ	横・斜工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	5mm以下の赤褐色の粒 2.5mmの乳白色の粒 1mm以下の透明・黒色の光沢粒	同一個体?
1235	土師器	壺頸部	E区				横ハケ状工具ナデ、ヨコナデ 風化気味	横ハケ状工具ナデ、指頭痕	灰褐	にぶい黄橙	3.5mm以下の褐色の粒 1.5mm以下の乳白色の粒 1mm以下の赤色・光沢の粒	
1236	土師器	坏体部~底部	E区		7.05		風化著しい	風化著しい	橙	橙	きめ細か	
1237	土師器	坏体部~底部	E区		(9.2)		風化著しい、ナデ	ナデ	橙	橙	きめ細か 1.5mm以下の灰白・赤褐・浅黄橙・灰褐色の粒	
1238	布痕土器	坏口縁~体部	E区				風化著しい、ナデ	風化著しい、布目痕	橙	橙	微細な光沢・浅黄色の粒	
1239	白磁?	皿底部	E区		(7.1)		施釉 高台・高台内は露胎とナデ	施釉	灰白	灰白	1mm以下の透明光沢粒 精良	焼成不良

第8表 木製品一覧表

番号	出土地点	種別	長さ (cm)	幅(径) (cm)	厚さ (cm)	材質	備考
846	A区・SZ1	加工木材	21.0	3.1	2.05	マツ科マツ属 二葉松類	
847	A区・SZ1	加工木材	10.08	3.1	2.15	マツ科マツ属 二葉松類	
848	A区・SZ1	加工木材	17.2	3.7	2.8	マツ科マツ属 二葉松類	
849	A区・SZ1	加工木材	19.35	2.8	2.4	マツ科マツ属 二葉松類	
1177	D区・SE8	木製品	10.25	3.8	3.8	マツ科マツ属 二葉松類	
1178	D区・SE8	木製品	13.5	4.0	0.4	ヒノキ科ヒノキ属	

第9表 鉄製品計測表

番号	出土地点	種別	長さ(高さ) (cm)	幅(径) (cm)	厚さ (cm)	備考
843	B区・SE6	鉄鏃?	$3.5 + \alpha$ $3.5 + \alpha$	(1.25) (1.25)	(0.3) (0.25)	2個体が重なる?
1218	E区・SZ1	鉄鏃	$12.5 + \alpha$	(1.0)	—	
1219	E区・SZ1	刀子?	$4.65 + \alpha$	1.0	0.25	
1220	E区・SZ1	刀子?	$6.15 + \alpha$	(1.35)	(0.35)	木質付着

第Ⅳ章 自然科学分析調査の結果

第1節 テフラ分析

1. はじめに

宮崎市域には、すでに噴出年代が明らかにされているテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が分布している。そして、これら示標テフラとの層位関係を求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

右葛ヶ迫遺跡の発掘調査では、構築年代の不明な遺構が検出された。そこで遺構の覆土について地質調査を行い土層の層序を記載するとともに、テフラ検出分析を合わせて行って、すでに噴出年代が明らかにされている示標テフラの層位を明らかにして、遺構の構築年代に関する資料を得ることになった。調査の対象とした地点は、SE 6、A区竪穴状遺構（SZ 1）、SE 8、E区畝状遺構の4遺構である。

2. 土層の層序

（1）SE 6

本遺構の覆土は、下位より暗褐色砂質土（層厚21cm）、黄色粗粒火山灰層（層厚3cm）、暗褐色土（層厚27cm）の連続が認められる（図1）。

（2）A区竪穴状遺構（SZ 1）

この遺構の覆土は、下位より黒灰色粘質土（層厚9cm）、白色粗粒火山灰混じり黒灰色土（層厚3cm）、黒灰色土（層厚9cm）、灰色砂岩粒子に富む暗灰色土（層厚23cm）、灰色粘質土（層厚52cm、盛土）が認められる（図2）。

（3）SE 8

この遺構の覆土は、下位より灰色粘質土（層厚7cm）、暗灰色砂質土（層厚31cm）、灰色砂質土（層厚7cm）、灰色砂岩粒子に灰色土（層厚16cm、石質岩片の最大径24mm）、灰色土（層厚7cm）、白色粗粒火山灰に富む灰色土（層厚7cm）、白色粗粒火山灰混じり灰色土（層厚18cm）が認められる（図3）。

（4）E区畝状遺構

褐色砂層の上面に造られた畝状遺構は、下位より黄灰色粗粒火山灰に富む灰色粘質土（層厚7cm）と灰色土（層厚19cm）により覆われている（図4）。

3. テフラ検出分析

（1）分析試料と分析方法

示標テフラを検出するために、テフラ粒子の混入が認められた試料のほか、基本的に5cmごとに採取された試料、合計16点を対象にテフラ検出分析を行った。テフラ検出分析の手順は、次の通りである。

1) 試料10gを秤量。

- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。SE6では、試料番号1に黄色がかった白色の軽石粒子が比較的多く認められた。軽石はスポンジ状によく発泡している。この軽石はその岩相から1471(文明3)年に桜島火山から噴出した桜島3テフラ(Sz-3, 町田・新井, 1992)に由来すると考えられる。したがって試料番号1のテフラ層はSz-3に同定される。このことから、SE6の構築年代は1471(文明3)年を遡ると考えられる。

A区竪穴状遺構(SZ1)の試料番号1にも、スポンジ状によく発泡した白色軽石が比較的多く認められた。軽石の最大径は1.5mmである。この軽石もその岩相からSz-3に由来すると考えられる。したがってA区竪穴状遺構(SZ1)についても、その構築年代は1471(文明3)年を遡ると考えられる。

さらにSE8においても、試料番号1にスポンジ状によく発泡した白色軽石が少量ながら認められた。軽石の最大径は1.2mmである。この軽石もその岩相からSz-3に由来すると考えられる。したがってこのSE8についても、その構築年代は1471(文明3)年を遡ると考えられる。なお、この遺構では、試料番号8から3にかけての層準(ただし試料番号6を除く)で、灰色がかった暗褐色のスコリアが少量ずつ認められた。スコリアの最大径は1.2mmである。検出された量がわずかなため、明確なことは言えないが、このスコリアについては、788(延暦7)年に霧島火山御鉢火口から噴出したと考えられている霧島御鉢延暦テフラ(Kr-OhE, 町田・新井, 1992, いわゆる高原スコリア)に同定される可能性がある。つまりSE8の構築年代に関しては788(延暦7)年を遡る可能性も考えられる。

E区畝状遺構を覆う灰色粘質土中(試料番号1)には、褐色がかった淡灰色の軽石が比較的多く含まれている。軽石は比較的よく発泡している。この軽石については、その岩相から1717(享保2)年に霧島火山新燃岳から噴出した霧島新燃享保テフラ(Kr-SmK, 町田・新井, 1992)に由来する可能性が考えられる。したがって、畝状遺構については1717(享保2)年ころに造られていた可能性が大きいと思われる。

4. まとめ

右葛ヶ迫遺跡において地質調査とテフラ検出を合わせて行った。その結果、霧島御鉢延暦テフラ(Kr-OhE, 高原スコリア, 788年)に由来する可能性のあるスコリアのほか、桜島3テフラ(Sz-3, 1471年)や霧島新燃享保テフラ(Kr-SmK, 1717年)が検出された。これらのテフラとの関係から、SE6、A区竪穴状遺構(SZ1)、SE8については、1471年以前に構築されたものと推定された。SE8については、さらに788年を遡る可能性も考えられた。またE区畝状遺構については、1717(享保2)年ころに造られていた可能性が考えられた。

文献 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.

表1 右葛ヶ迫遺跡のテフラ検出分析結果

地 点	試料	軽 石			ス コ リ ア		
		量	色調	最大径	量	色調	最大径
S E 6	1	++	白	2.1	-	-	-
	2	+	白	2.0	-	-	-
	3	-	-	-	-	-	-
	4	-	-	-	-	-	-
	5	-	-	-	-	-	-
A区竪穴状遺構(SZ1)	1	++	白	1.5	-	-	-
S E 8	1	+	白	1.2	-	-	-
	2	-	-	-	-	-	-
	3	-	-	-	+	暗灰	0.6
	4	-	-	-	+	暗灰	0.7
	5	-	-	-	+	暗灰	1.2
	6	-	-	-	-	-	-
	7	-	-	-	+	暗灰	0.9
	8	-	-	-	+	暗灰	0.5
	9	-	-	-	-	-	-
E区畝状遺構	1	++	淡灰	2.7	-	-	-

++++：とくに多い，+++：多い，++：中程度，+：少ない，
 -：認められない．最大径の単位は，mm.

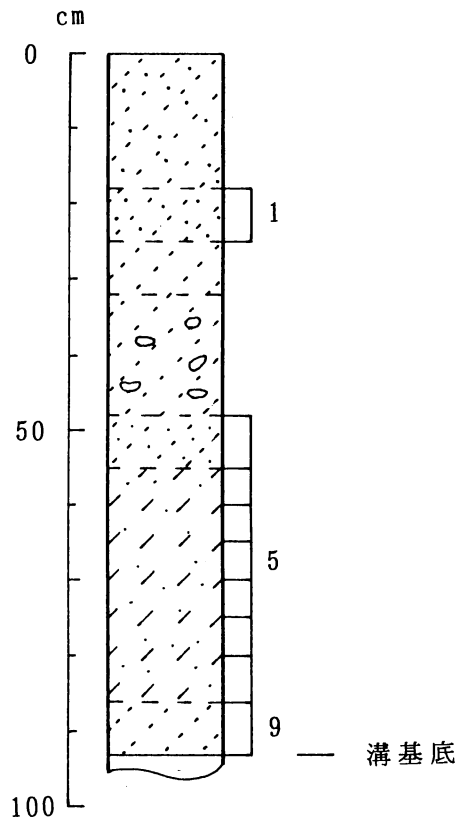


図3 右葛ヶ迫遺跡SE8の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

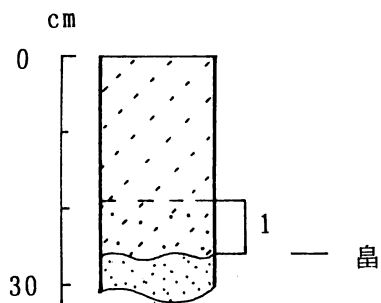


図4 右葛ヶ迫遺跡E区畝状遺構の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

第2節 放射性炭素年代測定結果

1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No 1	3号住居跡内	炭化木	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン合成	β 線法
No 2	S E 8溝中位	炭化木	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン合成	β 線法
No 3	S E 8溝底部	炭化木	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン合成	β 線法
No 4	A区竪穴状遺構底部 (SZ1)	泥炭	酸-アルカリ-酸洗浄 ベンゼン合成	β 線法

2. 測定結果

試料名	14C年代 (年B P)	δ 13C (‰)	補正14C年代 (年B P)	暦年代 交点(1 σ)	測定No (Beta-)
No 1	1700 \pm 60	-30.1	1620 \pm 60	A D 430 (A D 395~535)	82722
No 2	1910 \pm 50	-27.9	1870 \pm 50	A D 135 (A D 90~225)	82723
No 3	980 \pm 60	-28.6	930 \pm 60	A D 1055, 1090, 1150 (A D 1025~1195)	82724
No 4	1060 \pm 70	-20.0	1140 \pm 70	A D 895 (A D 855~990)	86945

1) 14C年代測定値

試料の14C/12C比から、単純に現在(1950年A D)から何年前(B P)かを計算した値。14Cの半減期は5,568年を用いた。

2) δ 13C測定値

試料の測定14C/12C比を補正するための炭素安定同位体比(13C/12C)。この値は標準物質(P D B)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。

3) 補正14C年代値

δ 13C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、14C/12Cの測定値に補正值を加えた上で算出した年代。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中14C濃度の変動を補正することにより算出した年代（西暦）。補正には年代既知の樹木年輪の14Cの詳細な測定値を使用した。この補正は10,000年BPより古い試料には適用できない。暦年代の交点とは、補正14C年代値と暦年代補正曲線との交点の暦年代値を意味する。1σは補正14C年代値の偏差の幅を補正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の1σ値が表記される場合もある。

第3節 炭化材の樹種同定

1. 試料

試料は、SE 8溝底部の炭化材（試料1）、SE 8溝中位の炭化材（試料2）、および3号住居内の炭化材（試料3）の計3点である。

2. 方法

試料は割折またはカミソリを用いて、新鮮な基本的三断面（木材の横断面・放射断面・接線断面）を作製し、落射顕微鏡及び生物顕微鏡によって60～750倍で観察した。樹種同定はこれらの試料標本をその解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

3. 結果

結果を表1に示し、同定根拠となった特徴を記す。また各断面の顕微鏡写真を示す。

試料	樹種（和名 / 学名）
No 1 SE 8溝底部の炭化材	スダジイ <i>Castanopsis sieboldii</i> Hatusima
No 2 SE 8底中位の炭化材	スダジイ <i>Castanopsis sieboldii</i> Hatusima
No 3 3号住居跡の炭化材	ヒノキ科

a. ヒノキ科 Cupessaceae

図版1

横断面：早材から晩材への移行はゆるやかである。晩材部の幅は狭い。

放射断面：早材部に於いて、放射柔細胞の分野壁孔を観察することはできなかった。早材部以外では、スギ型でややヒノキ型の分野壁孔が確認できた。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、10細胞高以下のものが多かった。

以上の形質より、ヒノキ科に同定される。なお本試料は保存状態が悪く、上記のとおり放射断面の早材部に於いて、放射柔細胞の分野壁孔の型及び1分野に存在する数が確認できなかったため、ヒノキ科内での同定は困難であった。

b. スダジイ *Castanopsis sieboldii* Hatusima ブナ科 図版2・3 横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管がやや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

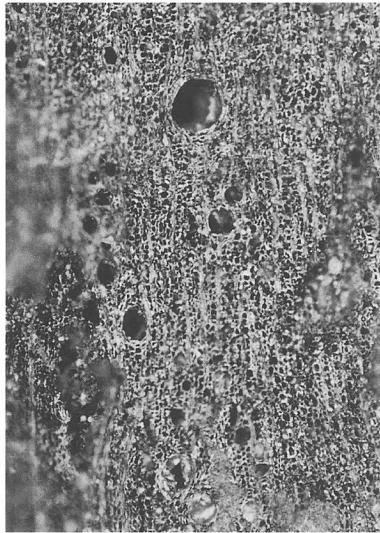
接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質からスダジイに同定される。スダジイは関東以南の本州・四国・九州に分布する。常緑の高木で、高さ20m、径1.5mに達する。材は耐朽・保存性やや低く、建築・船舶・器具・下駄・薪炭などに用いられる。

参考文献

島地謙ほか (1985) 木材の構造. 文永堂出版, p.20-100.

右葛ヶ迫遺跡-1 出土炭化材の顕微鏡写真



横断面 ————— : 0.4mm

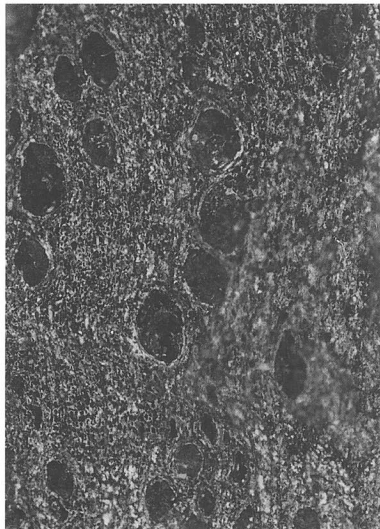


放射状面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm

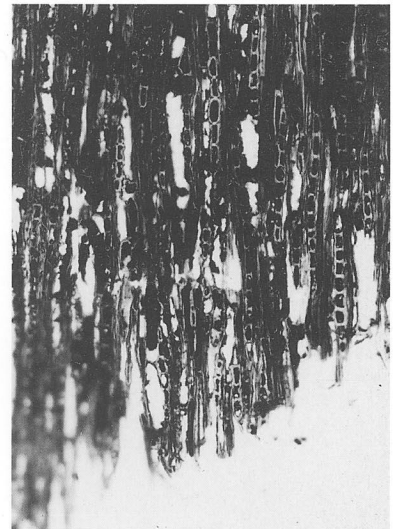
1. S E 8 溝底部出土炭化材 スダジイ



横断面 ————— : 0.4mm

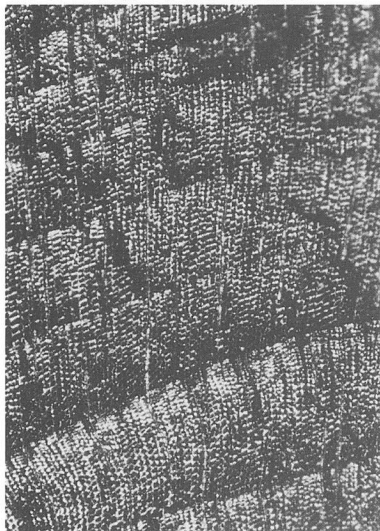


放射断面 ————— : 0.1mm

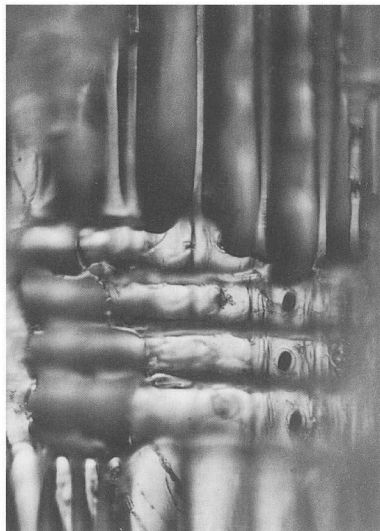


接線断面 ————— : 0.2mm

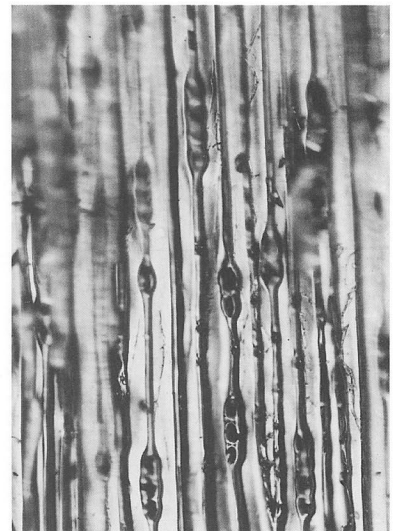
2. S E 8 溝中位出土炭化材 スダジイ



横断面 ————— : 0.4mm



放射断面 ————— 0.04mm



接線断面 ————— : 0.1mm

3. 3号住居跡出土炭化材 ヒノキ科

第4節 植物珪酸体分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山, 1987)。

2. 試料

試料は、E区畝状遺構、A区竪穴状遺構 (SZ1)、SE8溝から採取された計23である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料の絶乾 ($105^\circ\text{C} \cdot 24$ 時間)
- 2) 試料約1gを秤量、ガラスビーズ添加 (直径約 $40\mu\text{m} \cdot$ 約 0.02g)
※電子分析天秤により1万分の1gの精度で秤量
- 3) 電気炉灰化法 ($550^\circ\text{C} \cdot 6$ 時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波による分散 ($300\text{W} \cdot 42\text{KHz} \cdot 10$ 分間)
- 5) 沈底法による微粒子 ($20\mu\text{m}$ 以下) 除去、乾燥
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散、プレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位: 10^{-5}g) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ (赤米) の換算係数は2.94、ヒエ属型 (ヒエ) は8.40、ヨシ属 (ヨシ) は6.31、ススキ属型 (ススキ) は1.24、ネザサ節は0.48、クマザサ属は0.75である。

4. 分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1～図3に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

[イネ科]

機動細胞由来: イネ、ヒエ属型、キビ族型、ススキ属型 (ススキ属、チガヤ属)、ウシクサ族型、ウシクサ族型A (大型)、ネザサ節型 (おもにメダケ属ネザサ節)、タケ亜科 (未分類等)

穎の表皮細胞由来: イネ、オオムギ族

その他: 表皮毛起源、棒状珪酸体 (おもに結合組織細胞由来)、茎部起源、未分類等

[樹木]

ブナ科 (シイ属)、マンサク科 (イスノキ属)、その他

5. 植物珪酸体分析から推定される植生・環境

(1) E区畝状遺構

霧島新燃享保テフラ (Kr-SmK, 1717年) の直下から検出された畝状遺構の溝部 (試料1~4) と畝部 (試料5、6) について分析を行った。その結果、溝部埋土 (試料1、3) からイネが検出されたが、密度は1,000個/g未満と低い値である。したがって、ここで稲作が行われていた可能性は考えられるものの、上層などからの混入の可能性も否定できない。

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもオオムギ族 (ムギ類が含まれる)、ヒエ属型 (ヒエが含まれる)、キビ族型A (アワが含まれる)、ジュズダマ属 (ハトムギが含まれる)、オヒシバ属 (シコクビエが含まれる)、モロコシ属などがあるが、これらの分類群は検出されなかった。

(2) A区堅穴状遺構 (SZ1)

堅穴状遺構 (SZ1) の堆積物 (試料1~7) について分析を行った。その結果、全体的にマンサク科 (イスノキ属) が比較的多量に検出され、ススキ属型やウシクサ族型なども少量検出された。また、試料1と試料3からイネ、試料2からオオムギ族 (穎の表皮細胞、ムギ類)、試料1からヒエ属型 (ヒエが含まれる) が検出されたが、いずれも少量である。

以上のことから、A区堅穴状遺構 (SZ1) の周囲はススキ属やチガヤ属などが生育するイネ科植生であり、周辺にはイスノキ属やシイ属などの樹木 (照葉樹) もある程度生育していたものと推定される。また、A区堅穴状遺構 (SZ1) 上部の堆積当時には、周辺で稲作やムギ類などの栽培が行われていたものと推定される。

(3) SE8

溝の堆積物 (試料1~9) について分析を行った。その結果、全体的にマンサク科 (イスノキ属) が比較的多量に検出され、ススキ属型やウシクサ族型、ブナ科 (シイ属) なども少量検出された。また、試料3からイネが少量検出された。

以上のことから、溝の周囲はススキ属やチガヤ属などが生育するイネ科植生であり、周辺にはイスノキ属やシイ属などの樹木 (照葉樹) もある程度生育していたものと推定される。また、溝上部の堆積当時には、周辺で稲作が行われていたものと推定される。

参考文献

杉山真二 (1987) 遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点. 植生史研究, 第2号, p. 27-37.

杉山真二・松田隆二・藤原宏志 (1988) 機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追究のための基礎資料として—. 考古学と自然科学, 20, p. 81-92.

杉山真二・石井克己 (1989) 群馬県子持村、FP直下から検出された灰化物の植物珪酸体 (プラント・オパール) 分析. 日本第四紀学会要旨集, 19, p. 94-95.

藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) —数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—. 考古学と自然科学, 9, p. 15-29.

植物珪酸体の顕微鏡写真

表1 右葛ヶ追遺跡の植物珪酸体分析結果
 検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群 \ 試料	E区畝状遺構						A区竪穴状遺構(SZ1)						SE8								
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7	8	9
イネ科																					
イネ	7		8				8	15							7						
イネ籾殻(穎の表皮細胞)	7																				
オオムギ族(穎の表皮細胞)								7													
ヒエ属型							8														
キビ族型							8														
ススキ属型	37		31			8	32	52	15	15	16	8	8	8	30		8	23	24	7	
ウシクサ族型A(大型)										8											
ウシクサ族型	15		62			8	63	82	23	37	47	94	8	24	45		16	54	24	37	15
タケ亜科																					
ネササ節型			8				8			7	8										
未分類等							8														
その他のイネ科																					
表皮毛起源																					
棒状珪酸体	37	16	31	16	8	15	158	165	15	22	87	24	8	16	7	8	16	15	16	8	15
基部起源									8												
未分類等	44	24	123	23	15	15	118	247	46	97	95	71	15	32	60	31	32	38	55	37	38
樹木起源																					
フナ科(シイ属)	22									7	16	8									
マンサク科(イスノキ属)	88		223	8	139	8	126	352	162	217	111	196	116	103	134	55	215	177	174	74	106
その他	7						22	8		47	16	47	31	8	30		32	15	24	7	23
植物珪酸体総数	264	39	485	47	162	54	561	930	293	404	482	549	209	190	313	94	334	331	339	171	204

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ	0.22	0.23	0.23	0.45	0.23	0.22
ヒエ属型					0.66	
ススキ属型	0.46	0.38	0.09	0.19	0.59	0.10
ネササ節型		0.04	0.04	0.04	0.04	0.09

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

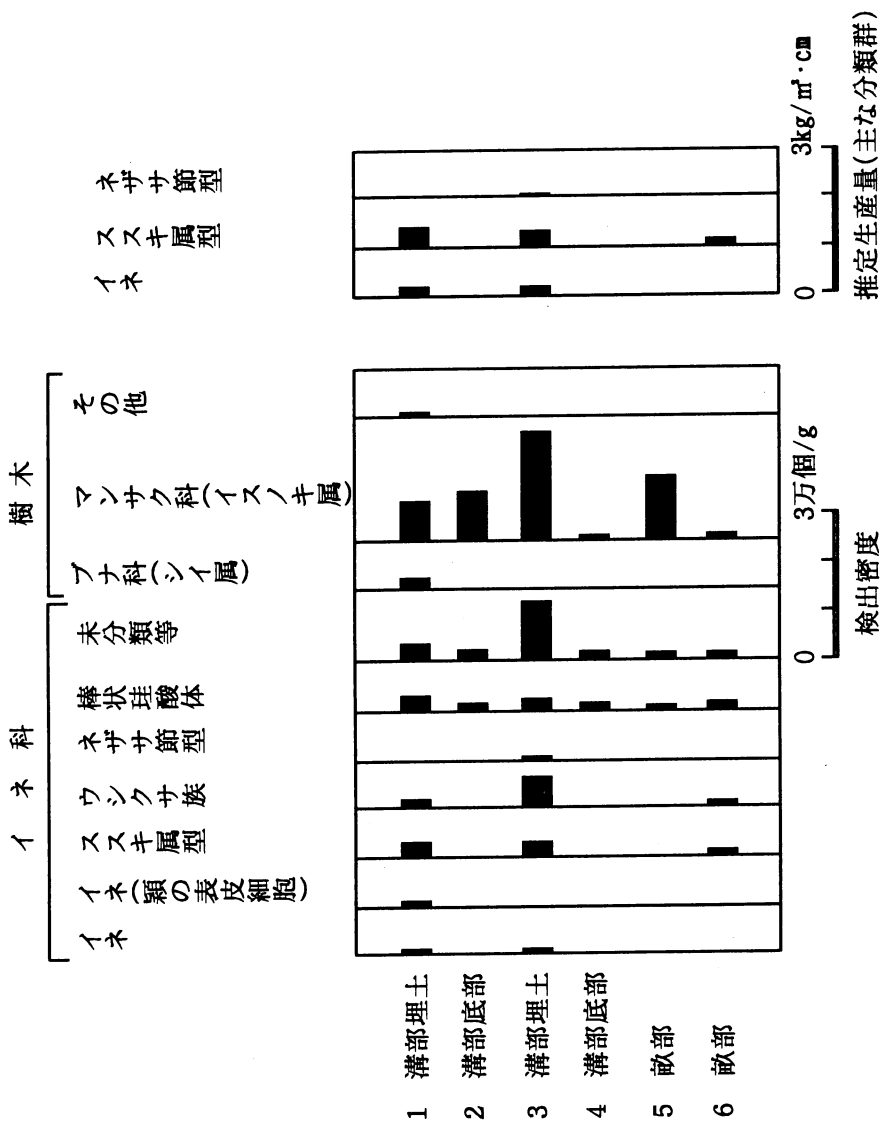


図1 右葛ヶ迫遺跡、E区畝状遺構の植物珪酸体の分析結果

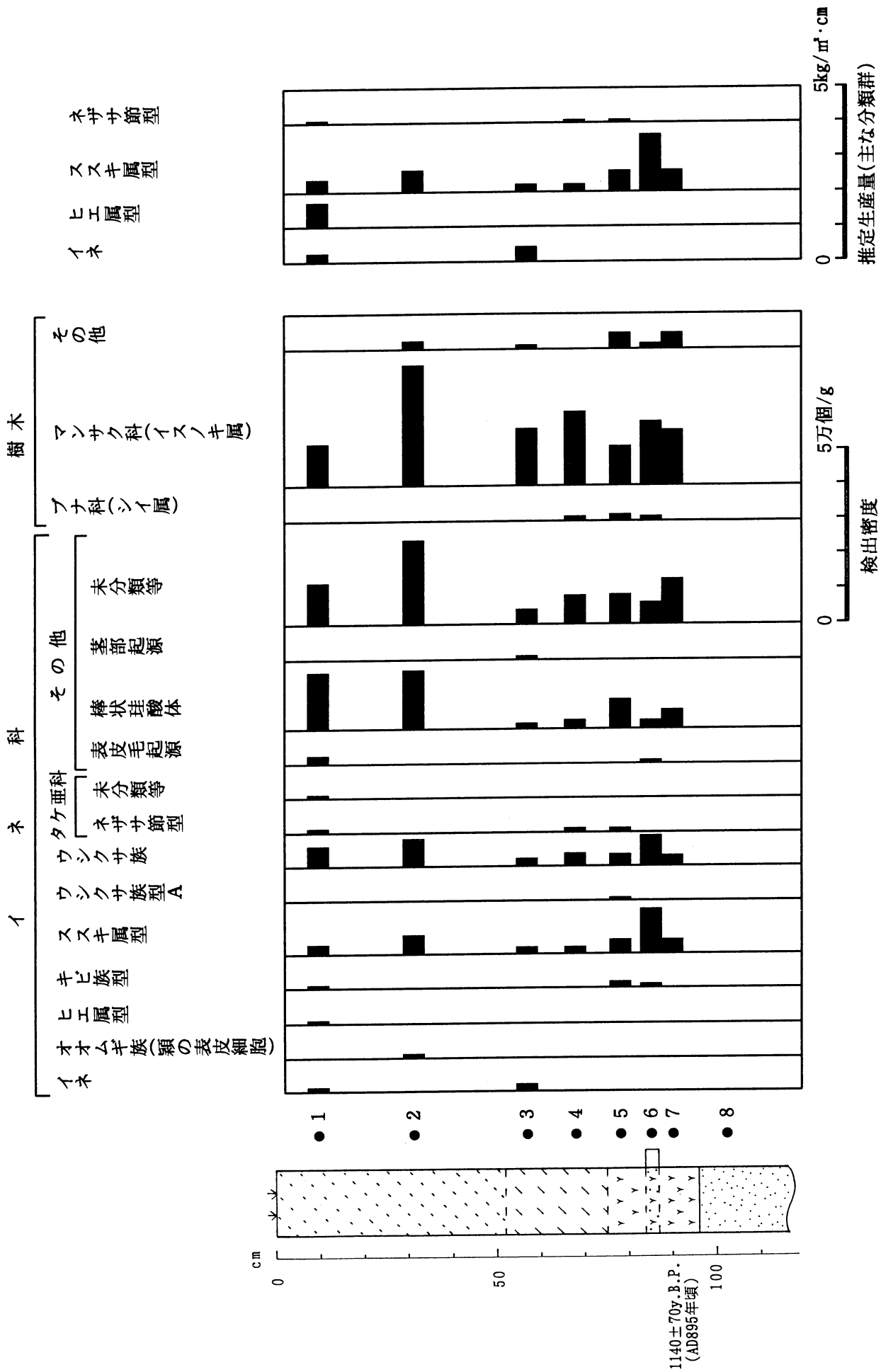


図2 右葛ヶ迫遺跡、A区竪穴状遺構(SZ1)の植物珪酸体分析結果

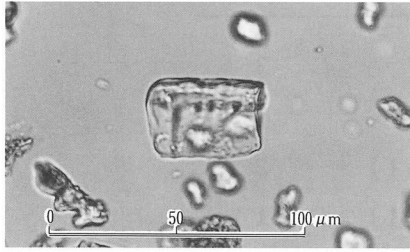
(倍率はすべて400倍)

No.	分類群	地点	試料名
1	イネ (側面)	E区畝状遺構	3
2	イネの籾殻 (穎の表皮細胞)	E区畝状遺構	1
3	オオムギ族 (穎の表皮細胞)	A区竪穴状遺構 (SZ1)	2
4	ヒエ属型	A区竪穴状遺構 (SZ1)	1
5	キビ族型	SE8	1
6	ススキ属型	A区竪穴状遺構 (SZ1)	6
7	ウシクサ族型	E区畝状遺構	3
8	ネザサ節型	E区畝状遺構	3
9	ブナ科 (シイ属)	E区畝状遺構	1
10	マンサク科 (イスノキ属)	A区竪穴状遺構 (SZ1)	3
11	マンサク科 (イスノキ属)	E区畝状遺構	1
12	クスノキ科 (タブノキ?)	A区竪穴状遺構 (SZ1)	7

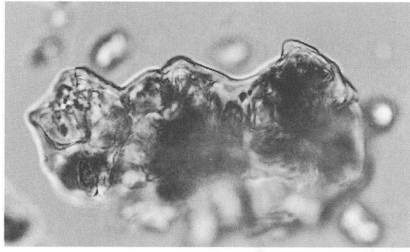
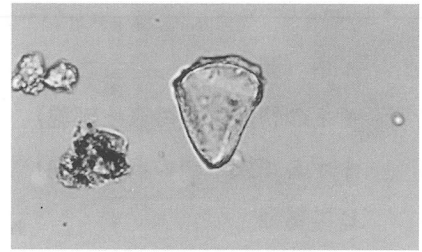
各標本

点 数

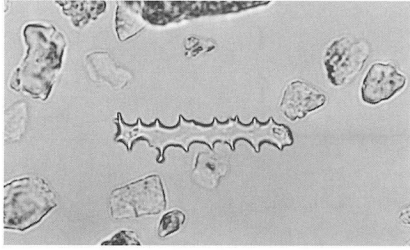
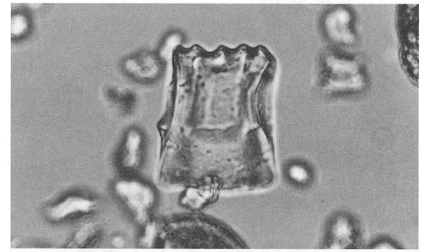
標 本 号



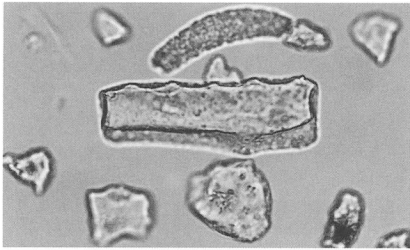
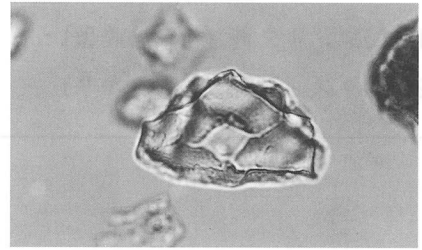
1 7



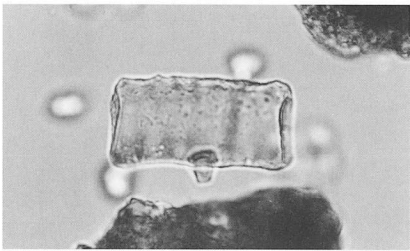
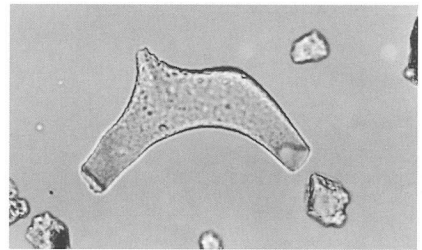
2 8



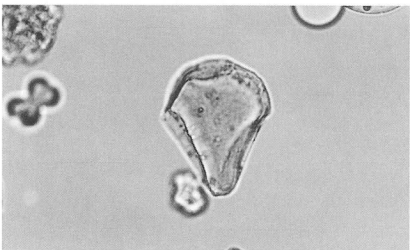
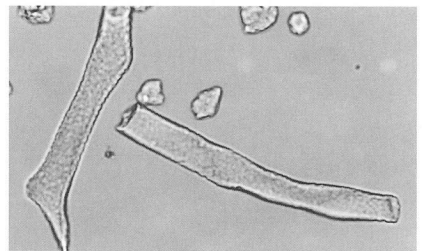
3 9



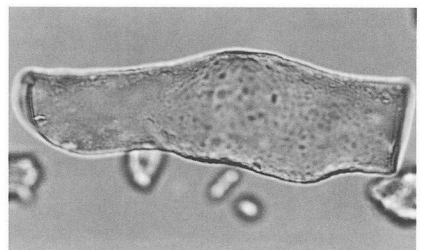
4 10



5 11



6 12



第5節 花粉分析

1. 試料

試料は、A区堅穴状遺構（SZ1）の堆積物（試料4～8）およびSE8の堆積物（試料5～9）の計10点である。

2. 方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村（1973）を参考にし、試料に以下の順で物理化学処理を施して行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- 2) 水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：1濃硫酸のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す。
- 5) 再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
- 6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1500rpm、2分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとし、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン（—）で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、中村（1974,1977）を参考にし、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類し、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

3. 結果

出現した分類群は、樹木花粉23、樹木花粉と草本花粉を含むもの1、草本花粉16、シダ植物孢子2形態の計42である。これらの学名と和名および粒数を表1に示し、主要な分類群を写真に示す。花粉総数が200以上の試料は花粉総数を基数とする花粉組成図を示した。以下に出現した分類群を記す。

〔樹木花粉〕

モミ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、スギ、イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科、ヤモモモ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、ハシバミ属、クマシデ属—アサダ、クリーシイ属—マテバシイ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属—ケヤキ、エノキ属—ムクノキ、アカメガシワ、サシショウ属、モチノキ属、グミ属、ミズキ属、ハイノキ属、ニワトコ属—ガマズミ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

マメ科

〔草本花粉〕

ガマ属—ミクリ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節、ギシギ

シ属、アカザ科ーヒユ科、ナデシコ科、アリノトウグサ属ーフサモ属、セリ科、シソ科、ナス科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

[シダ植物孢子]

単条溝孢子、三条溝孢子

(1) A区堅穴状遺構〔SZ1〕 (図1)

試料7～4では花粉組成に大きな変化がない。これらの試料は樹木花粉より草本花粉の占める割合がやや高い。草本花粉ではイネ属型を含むイネ科とヨモギ属が優占し、カヤツリグサ科、キク亜科が伴われる。他にガマ属ーミクリ属、オモダカ属、ギシギシ属などの水湿地植物が伴われる。樹木花粉ではクリーシ属ーマテバシ属、コナラ属アカガシ亜属が優占し、マツ属複維管束亜属が伴われる。

(2) SE8溝 (図2)

試料9～6では花粉組成に大きな変化がない。これらの試料は樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉ではヨモギ属が優占し、イネ科の出現率もやや高く、カヤツリグサ科、キク亜科などが伴われる。樹木花粉ではクリーシ属ーマテバシ属、コナラ属アカガシ亜属の出現率が高く、マツ属複維管束亜属の出現率もやや高い。試料5では樹木花粉の占める割合がやや高い。クリーシ属ーマテバシ属の出現率が高くなり、イネ属型が出現する。

4. 花粉分析から推定される植生と環境

(1) A区堅穴状遺構 (SZ1)

草本花粉の占める割合が高いため、A区堅穴状遺構 (SZ1) の周辺は草本が優勢であり、樹木は比較的少なかったと推定される。ヨモギ属とイネ属型を含むイネ科が優占することから、ヨモギ属の好むやや乾燥した畑地や集落などの環境と水田とが分布していたと推定される。A区堅穴状遺構 (SZ1) にはイネ科、カヤツリグサ科、ガマ属ーミクリ属、オモダカ属、ギシギシ属などの水湿地植物が生育していたとみなされる。樹木はシイ類 (クリーシ属ーマテバシ属、ここではシイ属と推定される)、カシ類 (コナラ属アカガシ亜属) の照葉樹を主にニヨウマツ類 (マツ属複維管束亜属) が疎林の状態かやや遠方で森林として分布していたと推定される。シイ属とニヨウマツ類は二次林として成立していたと考えられ、A区堅穴状遺構 (SZ1) の時期は森林が大きく人為干渉を受けていたと考えられる。

(2) SE8溝

各試料とも草本花粉の占める割合が高いため、SE8の周辺は草本が優勢であったと推定される。霧島御鉢延暦テフラ (Kr-OhE, 高原スコリア, 788年) と見られるテフラ混層 (試料9から6) の堆積当時は、ヨモギ属が繁茂し、やや乾燥した集落域や畑地のような環境であったと推定される。樹木ではシイ類 (クリーシ属ーマテバシ属、ここではシイ属と推定される)、カシ類、ニヨウマツ類 (マツ属複維管束亜属) が孤立木かやや遠方で森林として分布していたと推定される。シイ属とニヨウマツ類は二次林要素であり、これらの森林が人為干渉を受けた二次林であったと推定される。試料5の時期には水田が拡大し、それに伴ってシイ林が拡大したものと推定される。

参考文献

中村純 (1973) 花粉分析. 古今書院, p.82-110.

金原正明 (1993) 花粉分析法による古環境復原. 新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p.248-262.

島倉巳三郎 (1973) 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.

中村純 (1980) 日本産花粉の標徴. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.

中村純 (1974) イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として. 第四紀研究, 13, p.187-193.

中村純 (1977) 稲作とイネ花粉. 考古学と自然科学, 第10号, p.21-30.

表1 右葛ヶ迫遺跡における花粉分析結果(1)

学名	分類群	和名	A区竪穴状遺構					
			4	5	6	7	8	
Arboreal pollen		樹木花粉						
<i>Abies</i>		モミ属	1	1	1			
<i>Tsuga</i>		ツガ属	1	2	1	1		
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>		マツ属複雑管束亜属	15	16	30	22		1
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	2	1				
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科			1			
<i>Myrica</i>		ヤマモモ属	1	1	3	3		
<i>Juglans</i>		クルミ属		1				
<i>Alnus</i>		ハンノキ属	1					
<i>Corylus</i>		ハシバミ属		1	1	1		
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属-アサダ	2	1	1	2		
<i>Castanea crenata-Castanopsis-Pasnia</i>		クリ-シイ属-マテバシイ属	68	55	71	55		1
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	7	9	4	3		
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>		コナラ属アカガシ亜属	65	64	75	85		7
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属-ケヤキ			1			
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>		エノキ属-ムクノキ		1				
<i>Mallotus japonicus</i>		アカメガシワ			1			
<i>Zanthoxylum</i>		サンショウ属	1	2	2	7		3
<i>Ilex</i>		モチノキ属	3	2	2	1		
<i>Cornus</i>		ミズキ属			1	1		1
<i>Symplocos</i>		ハイノキ属		1				
<i>Sambucus-Viburnum</i>		ニワトコ属-ガマズミ属	1					
Arboreal · Nonarboreal pollen		樹木 · 草本花粉						
Leguminosae		マメ科		1	1	3		
Nonarboreal pollen		草本花粉						
<i>Typha-Sparganium</i>		ガマ属-ミクリ属	2					
<i>Sagittaria</i>		オモダカ属	1	1				
Gramineae		イネ科	70	97	135	82		6
<i>Oryza type</i>		イネ属型	17	13	17	6		
Cyperaceae		カヤツリグサ科	8	30	35	22		1
<i>Rumex</i>		ギシギシ属		1		1		
<i>Haloragis-Myriophyllum</i>		アリノトウグサ属-フサモ属	1					
Umbelliferae		セリ科	2	2				
Labiatae		シソ科	1	1			1	1
Solanaceae		ナス科	1		1			
Lactucoideae		タンポポ科	2	1	1			
Asteroidae		キク亜科	8	4	8	1		
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	128	109	109	126		5
Fern spore		シダ植物胞子						
Monolate type spore		単条溝胞子	8	13	23	33		31
Trilate type spore		三条溝胞子	13	7	11	19		1
Arboreal pollen		樹木花粉	168	158	195	181		13
Arboreal · Nonarboreal pollen		樹木 · 草本花粉	0	1	1	3		0
Nonarboreal pollen		草本花粉	241	259	306	239		13
Total pollen		花粉総数	409	418	502	423		26
Unknown pollen		未同定花粉	4	4	5	5		1
Fern spore		シダ植物胞子	21	20	34	52		32

表2 右葛ヶ迫遺跡における花粉分析結果(2)

学名	分類群	S E 8				
		5	6	7	8	9
Arboreal pollen	樹木花粉					
<i>Abies</i>	モミ属	1		1	3	1
<i>Tsuga</i>	ツガ属	1				2
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属複維管束亜属	24	11	13	12	10
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	2	1	1	1	1
<i>Myrica</i>	ヤマモモ属		3			
<i>Juglans</i>	クルミ属				1	
<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ	1				
<i>Corylus</i>	ハシバミ属	2	2			1
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ		1	1		1
<i>Castanea crenata-Castanopsis-Pasnia</i>	クリ-シイ属-マテバシイ属	116	47	54	61	47
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	3	2		3	2
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	24	43	37	35	59
<i>Zanthoxylum</i>	サンショウ属	1		2		1
<i>Ilex</i>	モチノキ属			1	1	
<i>Elaeagnus</i>	グミ属					1
<i>Cornus</i>	ミズキ属	1		1	1	
<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニワトコ属-ガマズミ属			1		1
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉					
Leguminosae	マメ科	3		1	2	3
Nonarboreal pollen	草本花粉					
Gramineae	イネ科	53	46	41	41	72
<i>Oryza type</i>	イネ属型	2				
Cyperaceae	カヤツリグサ科	16	9	8	13	17
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	2				
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科					1
Caryophyllaceae	ナデシコ科					1
Umbelliferae	セリ科	1	1		1	
Labiatae	シソ科					2
Lactucoideae	タンポポ科		1	1		2
Asteroideae	キク亜科	8	2	6	10	11
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	155	234	196	239	183
Fern spore	シダ植物胞子					
Monolate type spore	単条溝胞子	15	8	25	31	42
Trilate type spore	三条溝胞子	49	35	50	39	68
Arboreal pollen	樹木花粉	176	110	112	118	127
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	3	0	1	2	3
Nonarboreal pollen	草本花粉	237	293	252	304	289
Total pollen	花粉総数	416	403	365	424	419
Unknown pollen	未同定花粉	5	1	3	6	5
Fern spore	シダ植物胞子	64	43	75	70	110

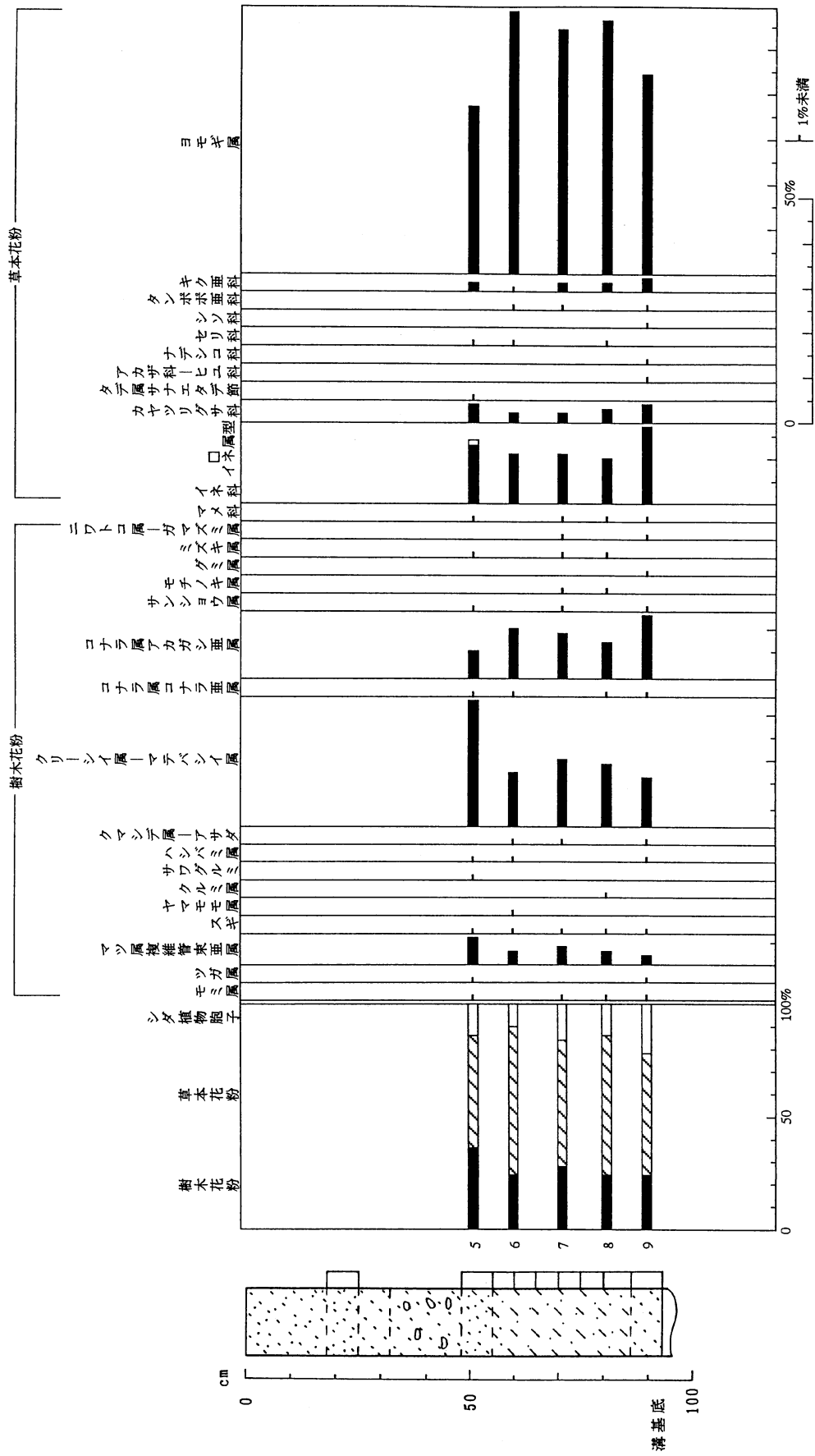
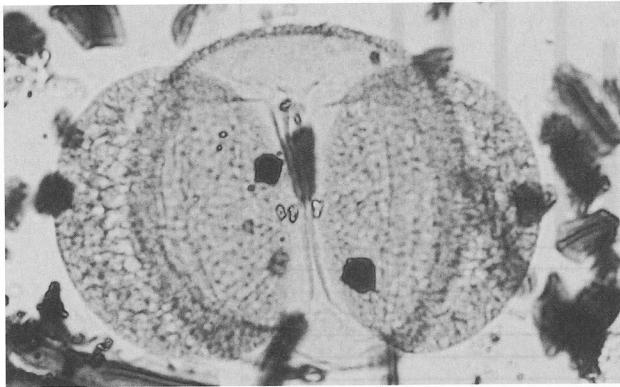
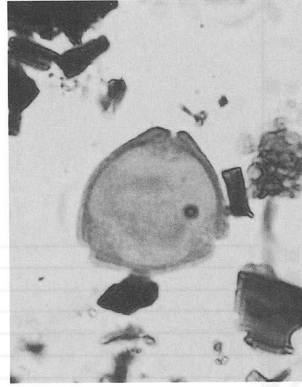


図2 右葛ヶ迫遺跡S E 8 における花粉組成図 (花粉総数が基数)

右葛ヶ迫遺跡の花粉・孢子遺体 I



1 マツ属複維管束亜属



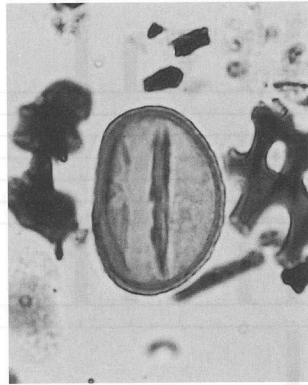
2 ヤマモモ属



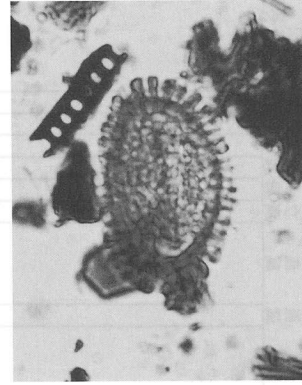
3 クリーシイ属



4 コナラ属コナラ亜属



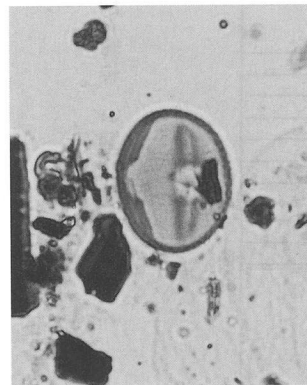
5 コナラ属アカガシ亜属



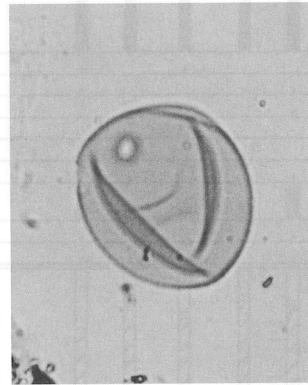
6 モチノキ属



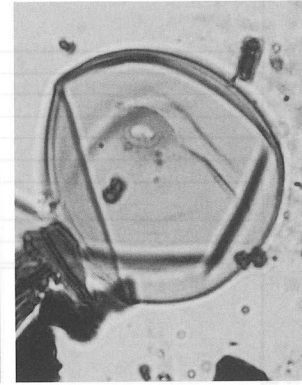
7 ハイノキ属



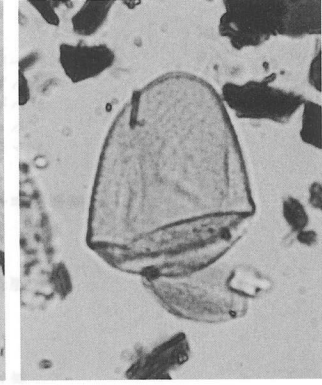
8 マメ科



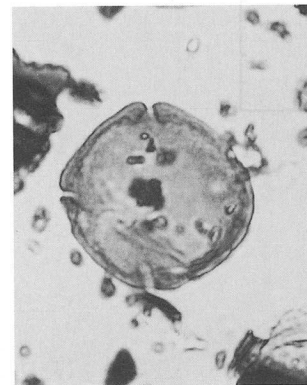
9 イネ科



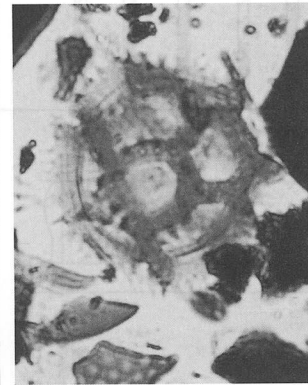
10 イネ属型



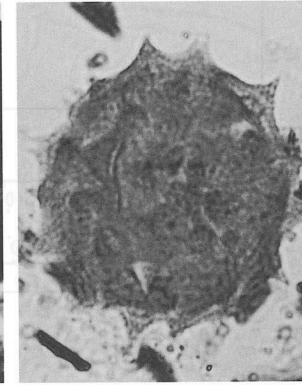
11 カヤツリグサ科



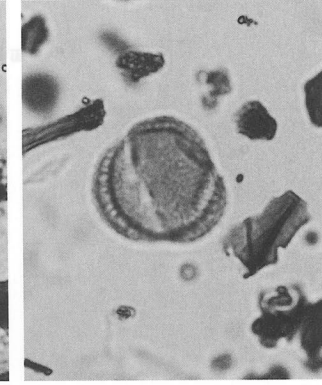
12 アリノトウガサ属-フサモ属



13 タンポポ亜科

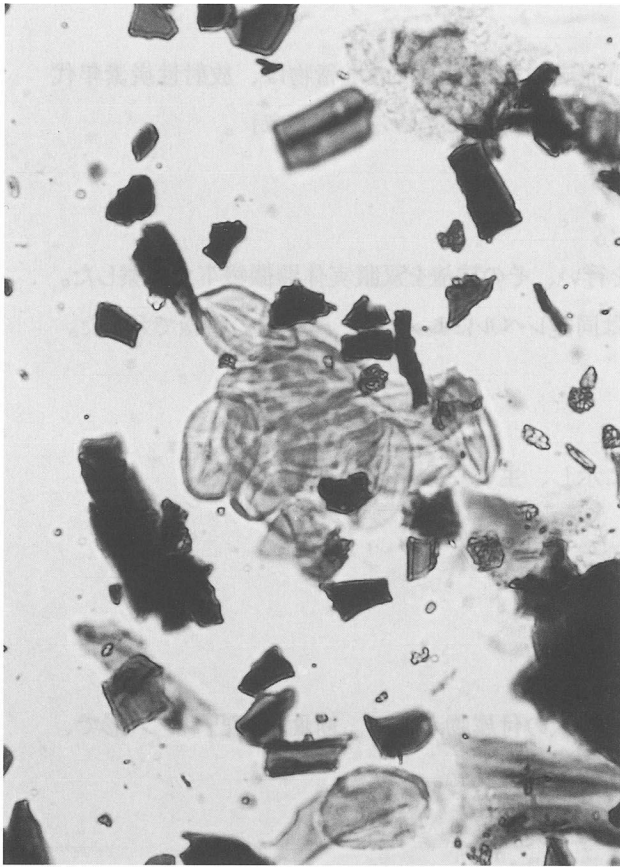


14 キク亜科

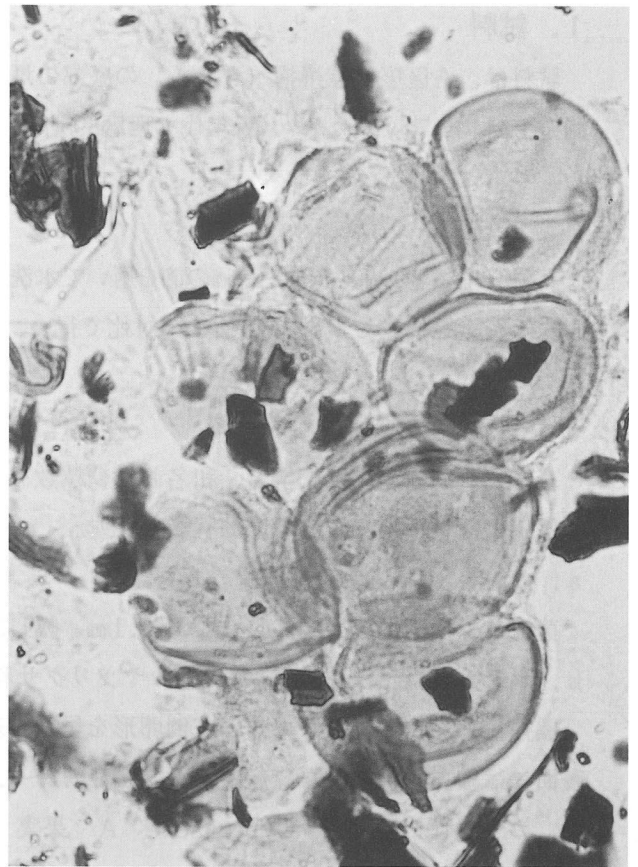


15 ヨモギ属

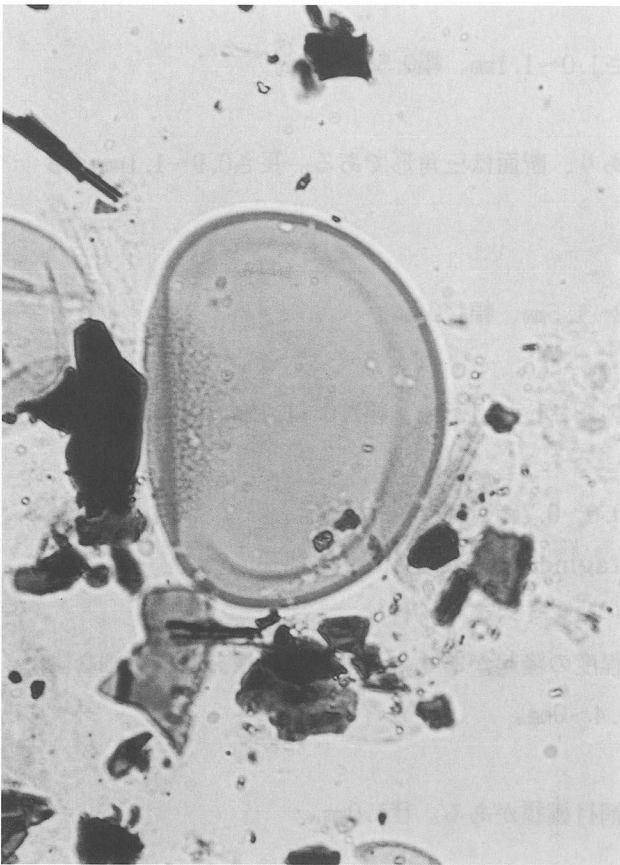
45 μm



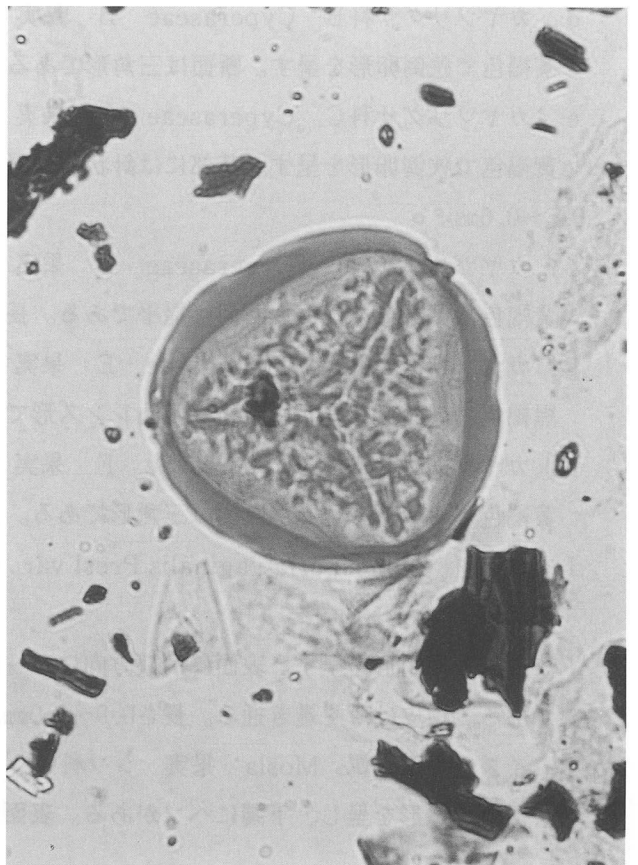
1 クリーシイ属集塊



2 イネ科集塊



3 シダ植物単条溝孢子



4 シダ植物三条溝孢子

第6節 種実同定

1. 試料

試料は、A区堅穴状遺構(SZ1)の底部の堆積物(泥炭)である。この堆積物は、放射性炭素年代測定で 1140 ± 70 y. B. P. (暦年代で西暦895年頃)の年代値が得られている(第II章)。

2. 方法

試料(堆積物)300ccを0.25mmの篩を用いて水洗選別を行い、その残渣を双眼実体顕微鏡下で観察した。同定は形態的特徴および現生標本との対比で行い、結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

3. 同定された分類群

草本10が同定された。学名、和名および粒数を表1に示し、主要な分類群を写真に示す。

以下に同定根拠となる形態的特徴を記す。

a. イネ科 Gramineae 穎 イネ科

黄褐色で楕円形を呈す。長さ2.0~2.1mm、幅1.3~1.5mm。

b. ホタルイ属 Scirpus 果実 カヤツリグサ科

黒褐色で、やや光沢がある。広倒卵形を呈し、基部に針状の付属物がある。断面は両凸レンズ形で、表面には横方向の微細な隆起がある。長さ2.2~2.3mm、幅1.6~1.8mm。

c. カヤツリグサ科A Cyperaceae A 果実

茶褐色で倒卵形を呈す。断面は三角形である。長さ1.6mm、幅1.0mm。

d. カヤツリグサ科B Cyperaceae B 果実

茶褐色で狭倒卵形を呈す。断面は三角形である。長さ1.0~1.1mm、幅0.5~0.6mm。

e. カヤツリグサ科C Cyperaceae C 果実

黄褐色で狭倒卵形を呈す。基部には針状の付属物があり、断面は三角形である。長さ0.9~1.1mm、幅0.5~0.6mm。

f. カヤツリグサ科D Cyperaceae D 果実

黄褐色で倒卵形を呈す。断面は扁平である。長さ1.3~1.5mm、幅1.0mm。

g. カヤツリグサ科E Cyperaceae E 果実

黒褐色で倒卵形を呈し、断面は両凸レンズ形である。長さ1.4~1.5mm、幅1.0~1.1mm。

h. カヤツリグサ科F Cyperaceae F 果実

黄褐色で倒卵形を呈し、断面は三角形である。長さ0.6~0.7mm、幅0.4~0.5mm。

i. コナギ Monochoria vaginalis Presl var. plantaginea Solms-Laub. 種子

ミズアオイ科

淡褐色で楕円形を呈す。表面には縦方向に8~10本程度の隆起があり、その間には横方向に微細な隆起線がある。種皮は薄く透き通る。長さ0.9~1.0mm、幅0.4~0mm。

j. イヌコウジュ属 Mosla 果実 シソ科

茶褐色で球形を呈し、下端にヘソがある。表面には網目模様がある。径1.0mm。

4. 結果と考察

草本の種実141粒が検出された。カヤツリグサ科が多く、ホタルイ属、イネ科、コナギ、イヌコウジュ属が検出された。カヤツリグサ科の多くとホタルイ属、コナギは水田雑草の性格ももつ水湿地植物であり、堅穴状遺構（SZ1）自体ないし周囲の水田に生育していたと推定される。イヌコウジュ属はやや乾燥した畑地や畦などを好む草本であり、堅穴状遺構（SZ1）の周囲にやや乾燥したところも存在していたとみなされる。以上から堅穴状遺構（SZ1）の周辺は草本の優勢な水田や畑地などの人為的な環境が広がっていたとみなされ、樹木は極めて少なかったと推定される。

参考文献

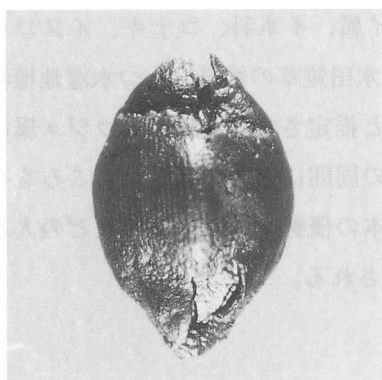
笠原安夫（1985）日本雑草図説，養賢堂，494 p.

表1 右葛ヶ迫遺跡における種実同定分析結果

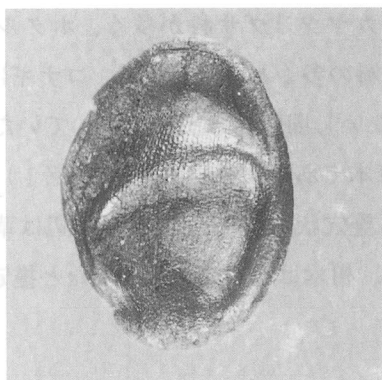
学名	分類群	和名	(300cc中) 部位	A区 堅穴状遺構(SZ1)
herb		草本		
Gramineae		イネ科	穎	2
<i>Scirpus</i>		ホタルイ属	果実	29
Cyperaceae A		カヤツリグサ科A	果実	3
Cyperaceae B		カヤツリグサ科B	果実	43
Cyperaceae C		カヤツリグサ科C	果実	27
Cyperaceae D		カヤツリグサ科D	果実	13
Cyperaceae E		カヤツリグサ科E	果実	9
Cyperaceae F		カヤツリグサ科F	果実	9
<i>Monochoria vaginalis Presl</i> <i>var. plantaginea Solms Laub.</i>		コナギ	種子	4
<i>Mosla</i>		イヌコウジュ属	果実	2
Total		合計		141

右葛ヶ迫遺跡出土種実

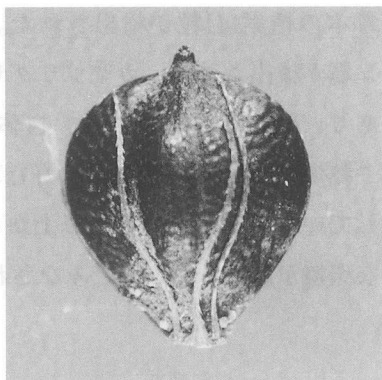
新石器時代



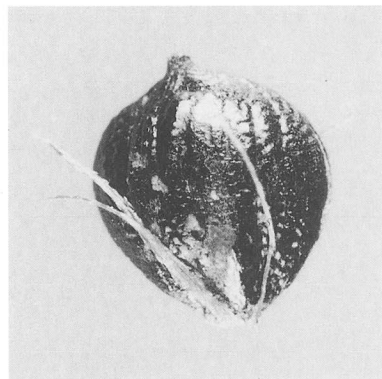
1 イネ科類 ——— 0.4mm



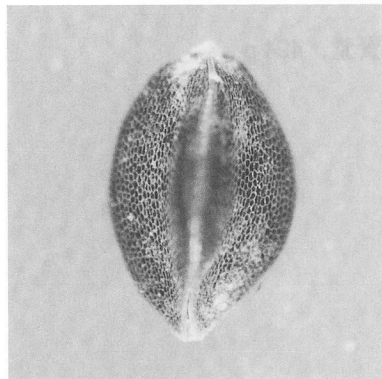
2 イネ科類 ——— 0.4mm



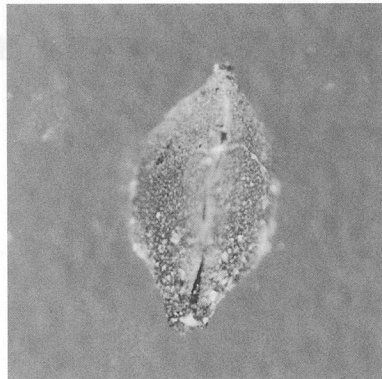
3 ホタルイ属果実 ——— 0.4mm



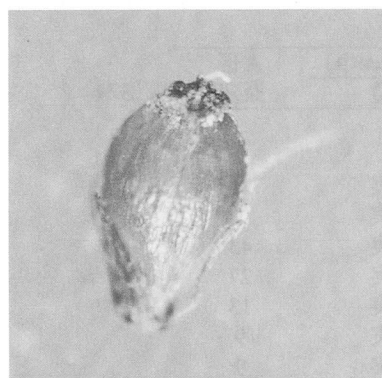
4 ホタルイ属果実 ——— 0.4mm



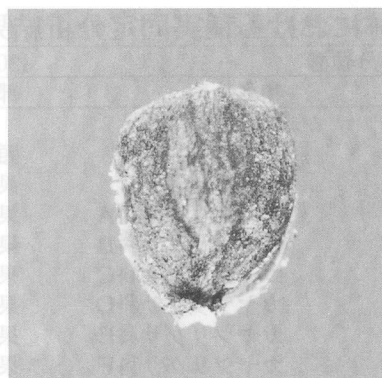
5 カヤツリグサ科A果実 ——— 0.2mm



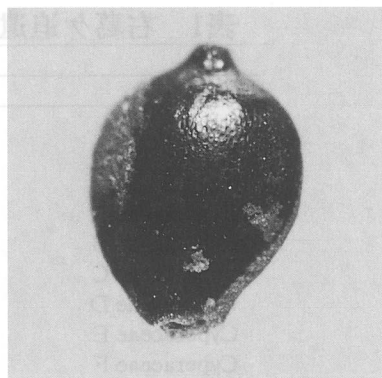
6 カヤツリグサ科B果実 ——— 0.2mm



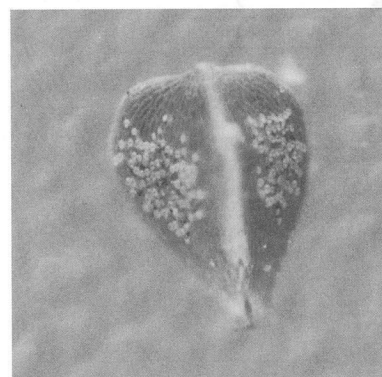
7 カヤツリグサ科C果実 ——— 0.2mm



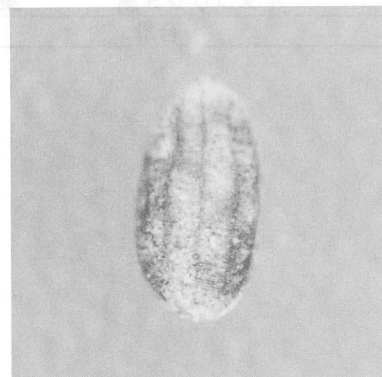
5 カヤツリグサ科D果実 ——— 0.2mm



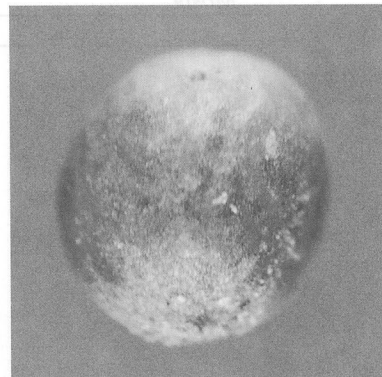
5 カヤツリグサ科E果実 ——— 0.2mm



10 カヤツリグサ科F果実 ——— 0.2mm



11 コナギ種子 ——— 0.2mm



12 イヌコウジュ属果実 ——— 0.2mm

第V章 まとめ

右葛ヶ迫遺跡では2カ年にわたる発掘調査の結果、縄文時代～近世までの遺構・遺物を数多く確認し、この地が古くから生活環境の場であったことが窺え、当時の人々の様子がわずかながら垣間見ることができた。以下、これら各時期の成果や問題点について時代をおって述べていきたい。

縄文時代

本遺跡では、縄文時代の遺構が竪穴住居跡2軒、集石遺構8基が確認されている。

そのうち集石遺構は、大きく3類に分類出来、比較的密集するタイプが多くみられる。その中でSI2の形態が配石状を呈し、掘り込みがあった可能性がある。また集石の時期については、遺構内出土土器や周辺の出土遺物より、SI4ではI類の深浦式が伴い、SI6・8では周辺で指宿式土器、SI7ではXV類の黒川式の小片が出土していることから、それらの時期に比定出来そうである。SI3では指宿土器が多く出土しているが、晩期の可能性のある底部片等がみられる。ただ、SI3自体がSC3によって半分以上破壊されており、その時点で混入した可能性も考えられる。

また縄文土器は22類に分けられ、そのうちI類～III類は前期末から中期初頭に位置づけられる土器群で、I類土器は微隆起状の突帯を巡らせる等の特徴より深浦式土器に比定される。

II類土器は貝殻条痕で器面調整を行い、貼付突帯を巡らせる特徴等より轟B式土器の範疇に捉えられていた土器であるが、器形や突帯の形状・文様等、従来言われている轟B式土器と異なる点がみられる。近年、上水流遺跡（鹿児島県金峰町）や桐木遺跡（鹿児島県末吉町）、本野遺跡（田野町）等で深浦式土器や船元II式に伴って確認されており、今後注目される。

IV類土器は、キャリパー状の器形や地文に縄文をもつ等の特徴より瀬戸内地方の船元系土器（中期前半）に併行するものと考えられる。ただ全体的に頸部のくびれが弱いことや内面上部の肥厚がないこと、35～38・40・41・45・46のように突帯文上に爪形文もしくはそれ以外に連続刺突を施すこと、41～44のように内面上部に縄文を施す特徴等から船元II式に併行するものと思われる。

V類土器は中期中葉の春日式土器に比定される。全体的にキャリパー状の器形が弱いものが多く、口縁形態が口縁端部を内湾させるものや直口するものがみられることや文様が口縁部に集約されること、太めの突帯が多い点等、春日式土器の中で新しい要素がみられる。中でもa類の52・53・54・55やb類の56・59は東和幸氏の言う轟木ヶ迫段階に相当するものと考えられ、またa類の48～51・b類の57・58は南宮島段階に相当するものと考えられる。

VI類土器は阿高系土器（中期後葉～後期初頭）に比定される。その中でa類は胴部まで文様が施されるのに対し、b類は口縁部に凹点を施す点や胴部上半に文様が集約される等、新しい要素がみられる。またc類については、胎土や凹線の太さ等の関連性がみられることからVI類に含めたが、凹線間に貝殻腹縁による連続刺突文を施されることや沈線文の一部が入組み状になること等、さらに新しい要素が含まれ、新段階に位置付けられる。

VII類土器は岩崎系土器（中期末～後期初頭）に比定される。そのうちVIa類は岩崎式の最終形とされているもので山ノ中遺跡（鹿児島県）出土のものに類似する。

VII類は2平行沈線を基本として文様を施す特徴から指宿式土器（後期前葉）と総称されている土器に相当する。出土量は他の土器群と比べて圧倒的な量を誇り、本遺跡の主体を占める。この土器は磨消縄文の影響により成立したものと考えられており、中でもb類157の沈線文が3本沈線化している点は福田K2式土器にみられる特徴であり、またa類108の口唇部に斜位の押圧刻みを施す点は彦崎K1式土器の中にも類例がみられ、b類154は波頂部下に縦位3列の連続刺突文を施す点は津雲A式土器でも頸部に縦位の条線文を施す例がある。c類の口縁部を肥厚させ、その上に沈線文や凹点文・連続刺突文等を施す一群は、中原遺跡（鹿児島県志布志町）でも類例（VB類）があり、波頂部下に円形の凹点文や円文、その両側に三角形や長方形等の区画文等を配するモチーフは縁帯文系土器にもみられることから、それらの影響を受けて成立したことが窺い知ることが出来る。

IX類の口唇部および口縁部の内面上部や上面に文様を施す一群は内面施文・上面施文土器と呼ばれ、市来式様式の成立期の松山式土器（後期前葉）と併行する位置付けをされている。

X類のうち、a類は市来式様式の最終段階の丸尾式土器（後期中葉）、c類は納曾系土器（後期中葉）と思われる。またd類は可愛遺跡や門川南遺跡等で確認され、磨消縄文土器等との共伴する例が多いこと等から後期初頭に位置付けられている。f類の磨消縄文土器は沈線の太さが比較的太いことや沈線間に認められる縄文の幅が広いことから後期初頭と考えられる。

XIV類～XXII類については晩期に位置付けられる。そのうちXIV類～XVII類が黒川式土器（晩期中葉）に比定され、堂込秀人氏の言う中様式～新様式に当てはめられる。なかでもXV類のb類では口縁部の立ち上がりが短くなり、a類より新しい要素がみられる。またXVI類やXVc類等の器形については同類の器形でXVII類（組織痕土器）やXVIII類（孔列土器）でみられることからこの時期に相当すると思われる。

XVIII類の孔列土器は朝鮮系無文土器との関連が指摘されているもので、時期的には黒川式土器の新段階から無刻目突帯文、刻目突帯文の時期まで残ることが各地の調査例により明らかになっており、今回の調査でも看取出来る結果となった。大半のものが未貫通で内面にコブ状の突起を有するものが多い傾向にあり、南九州でも多くみられる特徴の一つと言える。本来の孔列土器は内面から貫通・未貫通の刺突を行うもので、南九州に伝播する段階までにどのような影響を受け、長い時間をかけて根付いていったものか今後の検討課題であろう。

XIX類のうちa類及びb類の一部は口縁部の肥厚等の特徴から松添式土器に比定出来、次の刻目突帯文土器段階とを繋ぐ土器として知られ、堂込氏の言う黒川式の新様式に位置付けられる。今回確認されたものは突帯の形態にバリエーションがあり、その中でも時期差があるのかどうか資料の蓄積を待って検討する必要がある。c類は刻目突帯文土器（晩期末）である。胴部が屈曲し内傾もしくは直口するものが比較的多くみられ、刻目突帯は口縁部よりわずかに下がった位置に貼付けられるものがほとんどである。器面調整は貝殻条痕調整を施すものが主体を占める。またb類に分類した406や494・495等は無刻目の貼付突帯であるが器形や器面調整・胎土等、c類に関連性を求められ、同時期もしくは近い時期のものと考えられる。また浅鉢（XX類）や壺形土器（XXIa類）についても、橋本一丁目遺跡（福岡市）や黒土遺跡（都城市）、上中段遺跡（鹿児島県）でもc類と一括で出土しており、セット関係にあると考えられる。

（日高）

弥生時代

弥生時代の遺構・遺物は、中期前葉～後期初頭に属するものが出土している。

遺構は竪穴住居跡が3基（SA4・SA7・SA10）検出された。遺物からみると中期後葉～後期初頭に位置付けているが、平面形態についても、いびつな隅丸方形（SA4）、隅丸方形（SA7）、不定円形（SA10）とそれぞれ異なり、支柱穴の検出もされていない。また、遺物の出土量が少ないことや遺物が床面から浮いていること、他の時代の遺物（特に縄文土器）が多く混在していることなどから、時期を確定するにはやや不安が残る。立地が砂地であったため、遺構プランを明確にとらえることに困難を要し、縄文時代の遺物包含層に遺構が掘り込まれて遺物が流入したことに起因するものと思われる。

遺物については次のとおりである。

甕は中期前葉～中期中葉頃に属すると思われる下城式のもの（598・731～734・812）や口縁部に断面三角形や台形の貼付突帯をもつもの（599・735～738・813）が若干出土している。中期後葉から後期初頭に属するものが最も多く、中でも中期的様相の強いものは、外来系の589・747～749、後期的様相のものは在地系のいわゆる中溝式土器や中九州系の762などがみられる。589・747・748は西瀬戸内地域を中心とした瀬戸内系の凹線文土器で、749は口唇部のはね上がりに特徴がみられる北部九州系の甕である。SA7からは589の甕とセットで、同時期に属すると思われる瀬戸内系の鉢（590）も出土している。壺は住居から出土しているものではなく、包含層に出土がみられるが、量的には少ない。甕と同様、中期後葉～後期初頭に属するもの（741～746）が中心を占めている。741～743の口縁形態は瀬戸内地方の影響がみられる。776は小片であるため良好な資料とはいえないが、瀬戸内系の上東式壺の可能性はある。高坏は出土が少なく、包含層から出土した脚部の787は瀬戸内系（特に未貫通の三角形の透し穴と裾端部の特徴から備中〔岡山〕辺り）のもので後期に属すると思われる。

当遺跡の弥生時代は中期後葉から後期初頭を中心とするもので、土器においては特に瀬戸内地方の影響が目立つ。他に北部九州や中九州の要素をもつ土器も出土しており、広域的に他地域との交流を活発に行っていたことがうかがえる。

古墳時代

古墳時代の竪穴住居跡は8基（SA1～3・5・6・8・9・12）確認された。弥生時代の住居と同様、遺物が床面から浮いていること、他の時代の遺物が多く混在すること、遺構プラン確定に困難を要したことなどから時期確定に不安が残るものもあるが、幾つかの面から分類を行ってみる。

SA5は、古墳時代前期～中期の土器を出土する。隅丸方形プランを呈し、床面中央には屋内炉と考えられる焼砂がみられる。出土遺物は、甕、二重口縁壺、高坏、小型丸底埴などである。甕は丸底で、球胴形を呈し、内外面とも粗なハケ目調整がみられる。壺は、やや長胴気味の丸底の壺や他の出土土器よりも古い様相をもつ偏球胴形の二重口縁壺が出土している。小型丸底埴は口径に最大径をもち、底部は尖底を呈する。高坏は、坏部に明瞭な稜をもち、口縁部は直線的に外方へのびる。内外面ともミガキが施されている。遺構主軸は約40°西偏し、これはSA9と同一主軸であるが、SA9については出土遺物に良好な資料がないこと、遺構プランがいびつであることなどから同時期性を求めるには不足がある。

SA1・2・6・8・12は、古墳時代後期（6世紀後半）に属する同一期の土器を出土する。遺構形態は方形プランを主体とし、住居の床面積は約6.6㎡から26㎡の間にある。主軸は約35°西偏する一群

(SA 1・8・6・12) と約50° 西偏するSA 2 とに分けられる。遺物には次の特徴がある。

甕は長胴で平底を呈するものやバケツ状に胴部から口縁部がのび、底部はくびれて平底を呈するものが多く出土している。器面調整は、粘土紐痕を残し、仕上げに指や工具によるナデを行っている。底部に木の葉圧痕をもつものが多い。壺は、玉葱状の丸味のある胴部に、短い口頸部をもち、底部は凸レンズ状の厚みのある平底を呈するものがみられる。甕と同様、粘土紐痕が残る。甑は、バケツ状を呈し、底部に大きな単孔と、側面下部に1～2個の小さな穿孔をもつ。双手付のものともそうでないものがある。高坏は、坏部外面の稜が明瞭なものは少なく、脚部は太くなって開く。須恵器を出土しているのはSA 2 とSA 8 で、坏蓋などがみられる。須恵器の形態からみて住居の時期はTK43段階に併行するものと考えられる。

SA 3 は、弥生中期末～後期の土器がまとまって出土しており、古墳時代の土師器もわずかではあるが、図示した高坏や鉢（古墳時代前期）が出土している。また、炭化材による年代測定では5世紀前半の結果が出ているが、床面近くで6世紀後半に属する耳環が2点出土していることや遺構主軸がSA 2 と同じであることなどから当該期に属するものとして考えたい。

主柱穴や炉跡、竈が確認された住居は数基であるが、その中でもSA 1 とSA 6 については次のことが考えられる。SA 1 は竈、SA 6 は炉跡が北東壁中央に位置する。それぞれ主柱穴になると思われる柱穴は1本しか検出されていないが、その配置から南西側に入口があったことが推測される。また、当遺跡では埋甕炉の確認はされていない。

当遺跡の古墳時代は、須恵器が出現する前の段階の集落（SA 5）と空白期間において古墳時代後期（6世紀後半）の集落があったことがわかる。遺跡の北東約400mに青島村古墳が所在するが、5号墳の石室内より6世紀後半代の土師製の椀が出土していることから古墳造営に関わりをもった人々の集落としても想定され、集落と墓地のありかたを考える上での貴重な資料である。

古代の遺物について

古代の遺物が出土したのはD・E区で、土師器・須恵器・黒色土器・布痕土器がみられる。遺物のほとんどは明確な遺構に伴うものではなく、自然流路（谷）への流れ込みや、性格不明の竪穴状遺構に集積した形で出土している。

土師器甕はD区SE 8 から多く出土している。器形に若干の違いはみられるが、供伴する土師器坏の時期（9世紀中頃）に併行すると思われる。しかし、1110と1113については若干時期を遡る可能性もある。外面と口縁部内面がハケ状工具によるヨコナデ、内面が縦方向のケズリ調整を主体とする仕上げ技法が用いられている。口縁部から底部まで復元できたものはわずかであるが、口縁部が大きく開き、底部が丸底および丸底気味を呈する特徴をもつと思われる。SE 8 から出土する遺物は溝の壁面に多く集中しており、周囲から流れ込んだものと考えられる。周囲に集落の存在が窺えるが、今回の調査では確認されていない。甕の用途を日常雑器としてだけでなく、立地的条件から製塩などの煮沸器として使用したことも推測されるが、その出土量に疑問が残る。また、製塩にかかわる遺物として布痕土器があげられる。土器の機能は、製塩や焼塩、塩の運搬に使用されたものと考えられ、これも多く出土している。E区の竪穴状遺構（SZ 1）の下のSE 8 の西側壁面にその集中がみられたことから、E区から流れ込んだものと推測している。竪穴状遺構（SZ 1）の埋土に焼土や炭化物が確認されているが、製塩作業が行われた

ことを実証する遺構は検出されていない。

土師器は、9世紀中頃を中心としたものが出土している。直線的な体部をもち、底部はヘラ切りの後粗くナデ消している。高台をもつものは1点(1149)のみの出土である。法量では第Ⅲ章第2節で分類して記述を行ったが、口径が12~13.5cmと15.5~16.5cmのものに大きく二分できる。1135と1136は他と様相を異にする。1135は器高が若干高く、椀状を呈する。1136は体部が内湾気味に立ち上がり、内外面とも丁寧なナデ仕上げがみられる。

黒色土器は図示した2点のみの出土である。器種は坏で、内黒である。1150の推定口径は17cmとやや大きめである。

須恵器は、坏蓋・甕・壺などがみられるが出土量は非常に少ない。

木製品について

D区SE8から木製品が2点(1177・1178)出土している。

1177は長さ10.25cm、直径3.8cmで、丸木を削って作成していると思われる。形状から男性性器を模した可能性がある。両方にくびれをもち、両端を焼いて黒変させている。縄文時代の石棒などは子孫繁栄や豊穡を祈願したものと考えられており、今回の木製品においても古代の祭祀などで使用されたことが推測される。

1178は長さ13.5cm、幅4.0cm、厚さ0.4cmで、両面に格子目状の刻みをもつ、非常に薄いヘラ状の木製品である。用途不明である。

溝状遺構について

今回の調査で確認された溝状遺構は、人工的に構築されたA・B区のSE1~6、自然流路のD区のSE7・8とE区のSE1~4である。

まず、A・B区の溝状遺構であるが、SE6が北西から南東方向に走行し、それと直行してSE1~5が南西から北東方向に走行する。SE6の構築時期はテフラ分析の結果から15世紀後半を遡るものと推定しているが、この溝の走行方向は自然流路(谷)であるSE8(SE8の埋土中からも15世紀後半に降下したとされる文明軽石が検出されている)と並走するもので、この自然流路を意識して作られたと思われる。一方、SE1~5は谷(SE8)と直行するもので、南西から北東に傾斜する地形に沿って構築されている。いずれも遺構の性格は不明であるが、自然地形に沿って水の取り入れや排出を行ったものと考えられる。

砂丘地帯と丘陵地との間にある湿地帯を後背湿地と呼んでいる。ちょうどその部分に位置するのがSE8である。調査によって大きな谷のあった旧地形を確認できたが、当時と現在の地形のギャップには驚嘆するものがある。SE8にはたくさんの古代の土器が出土しているが、周辺には集落などの確認はされていない。SE7が検出された砂地は若干微高地を呈していたと思われ、そこに集落が存在していたとすれば後世の攪乱や削平を受け消滅している可能性も考えられる。

畝状遺構について

畝状遺構はE区で確認された。丘陵地裾部の緩傾斜地で、等高線に重なる方向に走行する数条の小溝状遺構群として検出した。植物珪酸体分析の結果からイネが栽培されていた可能性が考えられている。また、遺構埋土にテフラが混在していたため、遺構年代を推定する手掛りとなっている。

近年、畑跡や水田跡などの生産遺跡の調査が増加しているが、テフラの存在は貴重となっている。宮崎県の調査事例においても、火山灰が多く堆積する南部地域に確認例が集中している。

(久木田)

参考・引用文献(敬称略・順不同)

- 「上水流遺跡 第1次調査」『金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書』(9) 金峰町教育委員会 1998
- 「本野遺跡(縄文時代遺物編)」『田野町文化財報告書』第32集 宮崎県宮崎郡田野町教育委員会 1999
- 桑畑光博「南九州における縄文時代前期末から中期前葉の土器について」『鹿児島考古』第27号 鹿児島県考古学会 1993
- 東 和幸「春日式土器の型式組列」『鹿児島考古』第23号 鹿児島県考古学会 1989
- 東 和幸「鹿児島県における縄文中期の様相」『南九州縄文通信』No.5 南九州縄文研究会 1991
- 東 和幸「春日式土器と並木式土器・阿高式土器」『南九州縄文通信』No.8 南九州縄文研究会 1994
- 「天神河内第1遺跡」『大淀川右岸農業水利事業に国営天神ダム建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』宮崎県教育委員会 1991
- 「中原遺跡」『志布志町埋蔵文化財調査報告書』(9) 鹿児島県曾於郡志布志町教育委員会 1985
- 「草野貝塚」『鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書』(9) 鹿児島市教育委員会 1988
- 松永幸男「土器様式変化の一類型 -縄文時代後期の南東九州地方の事例として-」『横山浩一先生退官記念論文集I 生産と流通の考古学』横山浩一先生退官記念事業会 1989
- 「丸野第2遺跡」『田野町文化財調査報告書』第11集 田野町教育委員会 1990
- 「鹿児島県桜島町 武貝塚発掘調査研究報告書」『奈良大学考古学研究室調査報告書』奈良大学文学部考古学研究室 1998
- 前迫亮一「異系統土器文化の一接点 -南九州における縄文時代後期中葉の一樣相：丸尾式土器の提唱-」『南九州縄文通信』No.6 南九州縄文研究会 1992
- 「門川南町遺跡」『一般国道10号線門川拡幅南町地区事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』宮崎県教育委員会 1996
- 金丸武司「宮崎県内における縁帯文成立期以前の土器について」宮崎縄文研究会発表資料 1997
- 堂込秀人「南九州縄文晩期土器の再検討 -入佐式と黒川式の細分-」『鹿児島考古』第30号 鹿児島県考古学会 1997
- 「久良々遺跡 ほか」『一般国道3号線筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告書』第2集 福岡県教育委員会 1995
- 「福岡市西区橋本一丁目田遺跡ほか」『福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告』5 福岡市教育委員会 1998
- 「黒土遺跡」『都城市文化財調査報告書』第28集 都城市教育委員会 1994
- 「上中段遺跡ほか」『末吉町埋蔵文化財発掘調査報告書』(4) 鹿児島県末吉町教育委員会 1986
- 「上蘭遺跡F地区」『新富町文化財調査報告書』第18集 宮崎県新富町教育委員会 1995
- 「浄土江遺跡」『宮崎市文化財調査報告書』第16集 宮崎市教育委員会 1981
- 『宮崎県埋蔵文化財調査報告書』第39集 右葛ヶ迫遺跡 宮崎県教育委員会 平成8年
- 「大町遺跡」『宮崎市文化財調査報告書』第33集 宮崎市教育委員会 1998
- 「余り田遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第1集 宮崎県埋蔵文化財センター 1997
- 田崎博之「日本における石器から鉄器への転換形態の研究」『IV九州系の土器からみた凹線文系土器の時間位置』1998

版 图



右葛ヶ迫遺跡全景② (北西より)



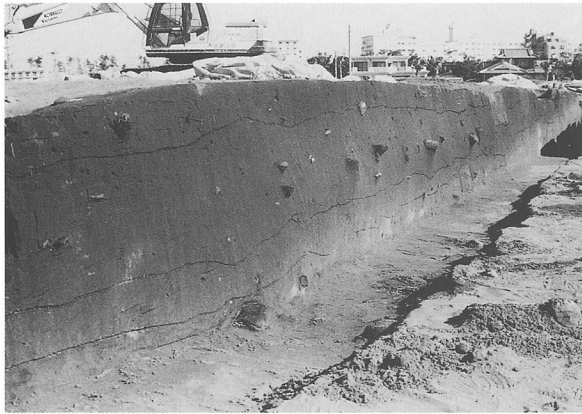
A区全景 (北東より)



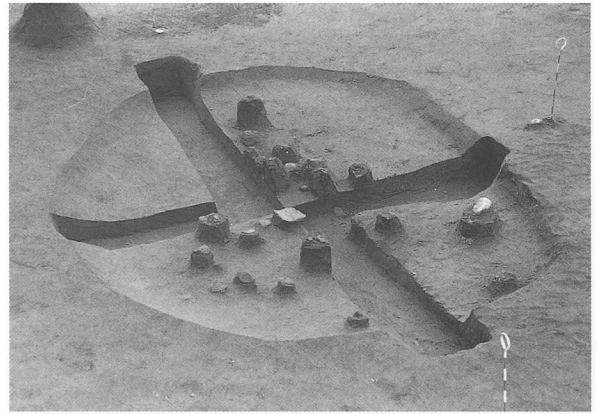
(0) 土器 B区 全景① 版白+基古



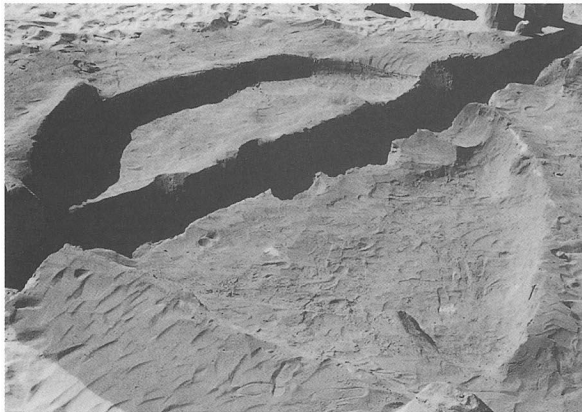
B区全景② (北より)



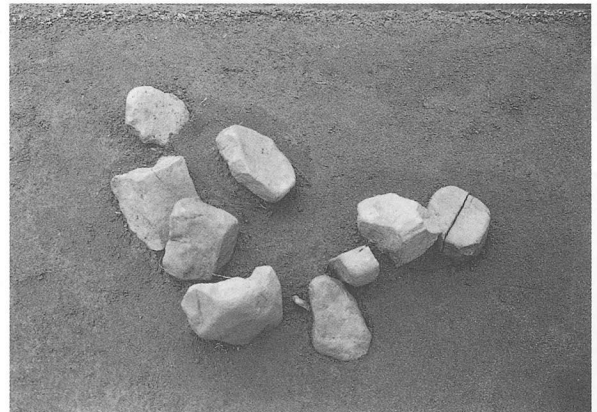
右葛ヶ迫遺跡B区土層



SA 11 (北より)



SA 13 (北西より)



SI 1 (北より)



SI 2 (南より)



SI 3 (北より)



SI 4 (北西より)



SI 6 (北より)